

千歳市

しゅくばい がわ お の
祝梅川小野遺跡(1)

うめ かわ
梅川 1 遺跡(1)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

しゅくばい がわ お の
祝梅川小野遺跡(1)

うめ かわ
梅川 1 遺跡(1)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



VH-2・3



VH-15・17



VH-5 HF-1



VP-15 盤状粘土塊



VP-57 珪藻土



VH-6 II群b-2類の土器



VP-39 IV群b-1類の土器



VFC-1



梅川1遺跡 調査状況



梅川1遺跡 VF-1



梅川1遺跡 V群b類土器出土状況



II群土器



IV群土器

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部が行う道央圏連絡道路建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成19・20年度に委託を受けて実施した、千歳市祝梅川小野遺跡と梅川1遺跡の埋蔵文化財発掘調査のうち、第Ⅱ黒色土層（当報告書呼称ではV層あるいは包含層）についての報告書である。第Ⅰ黒色土層については次年度以降に報告を予定している。
2. 報告内容は、祝梅川小野遺跡の平成19年度調査範囲（7,630㎡）および平成20年度調査範囲（10,267㎡）、梅川1遺跡の平成20年度調査範囲（893㎡）、計18,790㎡の遺構と遺物である。
3. 調査は第1調査部第3調査課が担当した。
4. 本書は、鈴木 信、菊池慈人、影浦 寛、芝田直人、阿部明義、山中文雄、酒井秀治が執筆し、文末に執筆者を示した。編集は芝田が担当した。
5. 遺物の整理は、土器を芝田、石器等を酒井が担当した。
6. 現地調査での写真撮影、室内での写真撮影・整理は菊池が担当した。
7. 放射性炭素年代測定については、(株)加速器分析研究所に依頼した。
8. 胎土分析については、(株)第四紀地質研究所に依頼した。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。

国土交通省北海道開発局札幌開発建設部用地課、同部千歳道路事務所、千歳市教育委員会、千歳市埋蔵文化財センター

赤石慎三、秋山洋司、天方博章、石井 淳、石橋孝夫、稲垣和幸、乾 哲也、上野秀一、上屋真一、大谷敏三、大林千春、大沼忠春、長田佳宏、小野哲也、小野寺聡、葛西智義、柏木大延、川内谷修、工藤 肇、工藤義衛、小針大志、神田朋広、佐藤一志、仙庭伸久、高倉 純、高橋 理、田中 亮、田村俊之、豊田宏良、中岡利泰、長町章弘、奈良智法、野月寿彦、野村 崇、羽賀憲二、平野 祐、藤井誠二、松田淳子、松谷純一、森 秀之、森岡健治、守屋豊人（五十音順・敬称略）

記号等の説明

1. 遺構の表記には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付けた。先頭のローマ数字「V」は、第Ⅱ黒色土層（V層）から検出されたことを表す。
VH：住居跡 HF：住居にともなう焼土 HP：住居にともなう土坑・柱穴
VP：土坑 VSP：小土坑、VF：焼土 VS：集石 VFC：剥片集中
2. 遺構図等には真北を示す方位印を付した。図の天方向は、N-77° 50' -Wである。遺構平面図の「+」は調査区または小調査区ラインの交点で、傍らの名称記号は右下の調査区を表す。また、小黑丸とその下の数字およびセクションレベルは標高（単位m）である。
3. 遺構図の記号は、以下のことを表す。また、付された数字は掲載番号を示し、正字体は土器、斜字体は石器等を表す。
●：土器 ▲：剥片石器 ■：礫石器 △：剥片 □：礫・礫片 ☆：土・石製品
4. 掲載した遺構・遺物の図は基本的に以下の縮尺に統一した。ただし、遺構位置図、地形図、遺物出土状況図などは任意の縮尺であるため、各図にはスケールを付けてある。
遺構 1：40 復元土器 1：3 土器拓本 1：3 剥片石器 1：2
磨製石器 1：2 礫石器 1：3 土製品 1：2 石製品 1：2/1：3
5. 遺構の規模は、「長軸の上端×下端/短軸の上端×下端/確認面からの最大深」（単位m）で示している。
6. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・・・）、遺構内の層序についてはアラビア数字（1、2、3・・・）を使用した。
7. 土層の色調は『新版標準土色帖29版』（小山・竹原2007）に準じた。
8. 火山灰は『北海道の火山灰』（北海道火山命名委員会1982）に準じ、以下の略号を用いた。
樽前山火山灰c層：T a - c 恵庭岳火山灰a層：E n - a
9. 遺物図右下の太ゴチックアラビア数字は掲載番号であり、これに後続する小文字アルファベット（a、b、c・・・）は同一個体を示す。
10. 復元土器の「⊕」は上面観を模式的に表したもので、十字の垂直線は下端が前面側—上端が裏面側を、十字の水平線は左端が左面側—右端が右面側を示す。「⊕」の直下の図は「⊕」に太線で示した弧の範囲の文様・器面調整を図化表現している。太線は転写範囲を表し、「⊕」の外面に太線がある場合は外面の情報、「⊕」の内側に太線がある場合は内面の情報を表現している。
11. 復元土器の断面図上方に「▼」「▽」が付されている場合、正面図に「▼」「▽」が付されている部位の断面を表す。
12. 石器・土製品・石製品の大きさは、最大長・最大幅・最大厚（単位cm）で示した。破損しているものについては現存最大値を（ ）、不明なものは「—」で示した。
13. 石器の実測図中でたき痕は「V-V」、すり痕は「└→┘」で範囲を示した。また、被熱部分をドットのスクリーン・トーンで示した。
14. 文中において「北埋調報」としているものは、財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書の略である。

目 次

口 絵

例 言

記号等の説明

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

I 緒 言

- 1 調査要項 1
- 2 調査にいたる経緯 1
- 3 調査の経過 2

II 調査の方法

- 1 調査範囲 4
- 2 掘削など 5
- 3 測量と記録 5
- 4 資料整理 6
- 5 保管 7
- 6 遺物の分類 7

III 遺跡の環境

- 1 位置 9
- 2 周辺の遺跡 9
- 3 地層 12

IV 祝梅川小野遺跡

- 1 遺構
 - (1)概要 13
 - (2)住居跡 13
 - (3)土坑 62
 - (4)Tピット 90
 - (5)小ピット 103
 - (6)焼土 103
 - (7)集石 110
 - (8)剥片集中 110
- 2 遺構出土の遺物
 - (1)土器 113
 - (2)土製品 120
 - (3)石器等 146

3 包含層出土の遺物

- (1)土器 162
- (2)土製品 170
- (3)石器等 224

祝梅川小野遺跡一覧表 249

V 梅川1遺跡

- 1 遺構
 - (1)概要 285
 - (2)焼土 285
- 2 遺構出土の遺物
 - (1)土器 289
 - (2)石器等 289
- 3 包含層出土の遺物
 - (1)土器 290
 - (2)石器等 293

梅川1遺跡一覧表 295

VI 自然科学的分析

- 1 放射性炭素年代測定結果について 297
- 2 祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析 303

引用参考文献 328

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

II 調査の方法		図IV-1-22 VH-6 遺物出土位置図	39
図II-1 発掘区の設定	4	図IV-1-23 VH-7	41
III 遺跡の環境		図IV-1-24 VH-7・HF-1・HP-1~8 土層断面、HF-1 遺物出土状況図	42
図III-1 遺跡の位置と周辺の遺跡	10	図IV-1-25 VH-8	43
図III-2 遺跡の位置と調査範囲	11	図IV-1-26 VH-9	45
図III-3 土層柱状模式図	12	図IV-1-27 VH-10	46
IV 祝梅川小野遺跡		図IV-1-28 VH-10土層断面	47
図IV-1-1 遺構位置図(全体)	15	図IV-1-29 VH-10・HF-1・2、 HP-1~17土層断面	48
図IV-1-2 遺構位置図(南側)	17	図IV-1-30 VH-11	50
図IV-1-3 遺構位置図(中央)	18	図IV-1-31 VH-12	51
図IV-1-4 遺構位置図(北側)	19	図IV-1-32 VH-13	52
図IV-1-5 VH-1	20	図IV-1-33 VH-14	54
図IV-1-6 VH-1土層断面	21	図IV-1-34 VH-15	55
図IV-1-7 VH-1・HF-1~3、 HP-1~18土層断面	22	図IV-1-35 VH-15土層断面	56
図IV-1-8 VH-1遺物出土位置図	23	図IV-1-36 VH-15横断面	57
図IV-1-9 VH-2	24	図IV-1-37 VH-16	58
図IV-1-10 VH-2土層断面	25	図IV-1-38 VH-17	59
図IV-1-11 VH-2・HF-1、 HP-1~22・24土層断面	26	図IV-1-39 VH-17土層断面	60
図IV-1-12 VH-2遺物出土位置図	27	図IV-1-40 VH-17・HP-2~23土層断面	61
図IV-1-13 VH-3	29	図IV-1-41 VP-1~3	63
図IV-1-14 VH-3土層断面	30	図IV-1-42 VP-4・6・8	64
図IV-1-15 VH-3・HF-1~3、 HP-1~24土層断面	31	図IV-1-43 VP-10~12・14	66
図IV-1-16 VH-4	33	図IV-1-44 VP-13・15~17・19	68
図IV-1-17 VH-4土層断面	34	図IV-1-45 VP-18・20~23	70
図IV-1-18 VH-5	35	図IV-1-46 VP-24・25・29~32	71
図IV-1-19 VH-5・HF-1	36	図IV-1-47 VP-33~38	73
図IV-1-20 VH-6	37	図IV-1-48 VP-39~41	75
図IV-1-21 VH-6・ HP-1~33土層断面	38	図IV-1-49 VP-42~45・47	77
		図IV-1-50 VP-46・48~51	79
		図IV-1-51 VP-52~57	81
		図IV-1-52 VP-57(2)	82
		図IV-1-53 VP-58~60	83

図IV-1-54	VP-61~63・65	85	図IV-2-17	遺構の土器(17)	137
図IV-1-55	VP-66~72	87	図IV-2-18	遺構の土器(18)	138
図IV-1-56	VP-73~78	89	図IV-2-19	遺構の土器(19)	139
図IV-1-57	VTP-1	90	図IV-2-20	遺構の土器(20)	140
図IV-1-58	VTP-2・10	91	図IV-2-21	遺構の土器(21)	141
図IV-1-59	VTP-3・4	92	図IV-2-22	遺構の土器(22)	142
図IV-1-60	VTP-5・6	93	図IV-2-23	遺構の土製品(1)	143
図IV-1-61	VTP-7・8	95	図IV-2-24	遺構の土製品(2)	144
図IV-1-62	VTP-9・11	96	図IV-2-25	遺構の土製品(3)	145
図IV-1-63	VTP-12・13、VP-64	98	図IV-2-26	遺構の石器(1)	147
図IV-1-64	VTP-14~16	99	図IV-2-27	遺構の石器(2)	148
図IV-1-65	VTP-17・18・21	101	図IV-2-28	遺構の石器(3)	149
図IV-1-66	VTP-19・20	102	図IV-2-29	遺構の石器(4)	150
図IV-1-67	VSP-1~13	104	図IV-2-30	遺構の石器(5)	151
図IV-1-68	VSP-14~19・21~30	105	図IV-2-31	遺構の石器(6)	152
図IV-1-69	VSP-31~40	106	図IV-2-32	遺構の石器(7)	153
図IV-1-70	VF-1~7・9	107	図IV-2-33	遺構の石器(8)	155
図IV-1-71	VF-13~19	109	図IV-2-34	遺構の石器(9)	156
図IV-1-72	VS-1~4	111	図IV-2-35	遺構の石器(10)	157
図IV-1-73	VS-5・6、VFC-1	112	図IV-2-36	遺構の石器(11)	159
図IV-2-1	遺構の土器(1)	121	図IV-2-37	遺構の石器(12)	160
図IV-2-2	遺構の土器(2)	122	図IV-2-38	遺構の石器(13)	161
図IV-2-3	遺構の土器(3)	123	図IV-3-1	包含層の土器(1)	171
図IV-2-4	遺構の土器(4)	124	図IV-3-2	包含層の土器(2)	172
図IV-2-5	遺構の土器(5)	125	図IV-3-3	包含層の土器(3)	173
図IV-2-6	遺構の土器(6)	126	図IV-3-4	包含層の土器(4)	174
図IV-2-7	遺構の土器(7)	127	図IV-3-5	包含層の土器(5)	175
図IV-2-8	遺構の土器(8)	128	図IV-3-6	包含層の土器(6)	176
図IV-2-9	遺構の土器(9)	129	図IV-3-7	包含層の土器(7)	177
図IV-2-10	遺構の土器(10)	130	図IV-3-8	包含層の土器(8)	178
図IV-2-11	遺構の土器(11)	131	図IV-3-9	包含層の土器(9)	179
図IV-2-12	遺構の土器(12)	132	図IV-3-10	包含層の土器(10)	180
図IV-2-13	遺構の土器(13)	133	図IV-3-11	包含層の土器(11)	181
図IV-2-14	遺構の土器(14)	134	図IV-3-12	包含層の土器(12)	182
図IV-2-15	遺構の土器(15)	135	図IV-3-13	包含層の土器(13)	183
図IV-2-16	遺構の土器(16)	136	図IV-3-14	包含層の土器(14)	184

図IV-3-15	包含層の土器(15)	185
図IV-3-16	包含層の土器(16)	186
図IV-3-17	包含層の土器(17)	187
図IV-3-18	包含層の土器(18)	188
図IV-3-19	包含層の土器(19)	189
図IV-3-20	包含層の土器(20)	190
図IV-3-21	包含層の土器(21)	191
図IV-3-22	包含層の土器(22)	192
図IV-3-23	包含層の土器(23)	193
図IV-3-24	包含層の土器(24)	194
図IV-3-25	包含層の土器(25)	195
図IV-3-26	包含層の土器(26)	196
図IV-3-27	包含層の土器(27)	197
図IV-3-28	包含層の土器(28)	198
図IV-3-29	包含層の土器(29)	199
図IV-3-30	包含層の土器(30)	200
図IV-3-31	包含層の土器(31)	201
図IV-3-32	包含層の土器(32)	202
図IV-3-33	包含層の土器(33)	203
図IV-3-34	包含層の土器(34)	204
図IV-3-35	包含層の土器(35)	205
図IV-3-36	包含層の土器(36)	206
図IV-3-37	包含層の土器(37)	207
図IV-3-38	包含層の土器(38)	208
図IV-3-39	包含層の土器(39)	209
図IV-3-40	包含層の土器(40)	210
図IV-3-41	包含層の土器(41)	211
図IV-3-42	包含層の土器(42)	212
図IV-3-43	包含層の土器(43)	213
図IV-3-44	包含層の土器(44)	214
図IV-3-45	包含層の土器(45)	215
図IV-3-46	包含層の土製品	216
図IV-3-47	土器の分布(1)	217
図IV-3-48	土器の分布(2)	219
図IV-3-49	土器の分布(3)	220
図IV-3-50	土器の分布(4)	221

図IV-3-51	土器の分布(5)	222
図IV-3-52	土器の分布(6)	223
図IV-3-53	包含層の石器(1)	225
図IV-3-54	包含層の石器(2)	226
図IV-3-55	包含層の石器(3)	227
図IV-3-56	包含層の石器(4)	229
図IV-3-57	包含層の石器(5)	230
図IV-3-58	包含層の石器(6)	231
図IV-3-59	包含層の石器(7)	232
図IV-3-60	包含層の石器(8)	233
図IV-3-61	包含層の石器(9)	235
図IV-3-62	包含層の石器(10)	236
図IV-3-63	包含層の石製品(1)	237
図IV-3-64	包含層の石製品(2)	238
図IV-3-65	石器の分布(1)	239
図IV-3-66	石器の分布(2)	241
図IV-3-67	石器の分布(3)	242
図IV-3-68	石器の分布(4)	243
図IV-3-69	石器の分布(5)	244
図IV-3-70	石器の分布(6)	245
図IV-3-71	石器の分布(7)	246
図IV-3-72	石器の分布(8)	247
図IV-3-73	石器の分布(9)	248

V 梅川1遺跡

図V-1-1	遺構位置図	285
図V-1-2	V F-1~4・9	287
図V-1-3	V F-5~8	288
図V-2-1	遺構の土器	289
図V-2-2	遺構の石器	290
図V-3-1	包含層の土器(1)	291
図V-3-2	包含層の土器(2)	292
図V-3-3	包含層の石器	294

VI 自然科学分析

図VI-2-1 対象試料(1)	305
図VI-2-2 対象試料(2)	306
図VI-2-3 三角ダイアグラム位置分類図	318
図VI-2-4 菱形ダイアグラム位置分類図	318
図VI-2-5 Mo-Mi-Hb三角ダイアグラム	318

図VI-2-6 Mo-Ch,Mi-Hb菱形ダイアグラム	318
図VI-2-7 Qt-Pl図	319
図VI-2-8 $SiO_2-Al_2O_3$ 図	319
図VI-2-9 $Fe_2O_3-TiO_2$ 図	319
図VI-2-10 K_2O-CaO 図	319

表目次

I 緒言

表I-1 祝梅川小野遺跡 年度別検出遺構数一覧	3
表I-2 祝梅川小野遺跡 出土土器等点数一覧	3
表I-3 祝梅川小野遺跡 出土石器等点数一覧	3
表I-4 梅川I遺跡 出土土器等点数一覧	3
表I-5 梅川I遺跡 出土石器等点数一覧	3

IV 祝梅川小野遺跡

表1 検出遺構規模一覧	249
表2 遺構出土遺物一覧	254
表3 遺構出土土器等一覧	261
表4 遺構出土石器等一覧	262
表5 遺構出土掲載土器一覧	263
表6 遺構出土掲載土製品一覧	268
表7 遺構出土掲載石器等一覧	268
表8-1 包含層出土掲載復元土器一覧	270
表8-2 包含層出土掲載土器一覧 II群a類	272
表8-3 包含層出土掲載土器一覧 II群b類	272
表8-4 包含層出土掲載土器一覧 III群a類	274
表8-5 包含層出土掲載土器一覧 III群b類	274
表8-6 包含層出土掲載土器一覧 IV群a類	275
表8-7 包含層出土掲載土器一覧 IV群b類	275
表8-8 包含層出土掲載土器一覧 IV群c類	278
表8-9 包含層出土掲載土器一覧 V群b類	279

表8-10 包含層出土掲載土器一覧 V群c類	280
表9 包含層出土掲載土製品一覧	280
表10 包含層出土掲載石器等一覧	280
表11 土壌フローテーション成果一覧	284

V 梅川I遺跡

表1 検出遺構規模一覧	295
表2 遺構出土遺物一覧	295
表3 遺構出土掲載土器一覧	295
表4 遺構出土掲載石器一覧	295
表5 包含層出土掲載土器一覧	296
表6 包含層出土掲載石器一覧	296
表7 土壌フローテーション成果一覧	296

VI 自然科学的分析

表VI-1-1 放射性炭素年代測定試料一覧	297
表VI-2-1 胎土分析依頼試料一覧(1)	303
表VI-2-2 胎土分析依頼試料一覧(2)	304
表VI-2-3 胎土性状表(1)	311
表VI-2-4 胎土性状表(2)	312
表VI-2-5 化学分析表(1)	313
表VI-2-6 化学分析表(2)	314
表VI-2-7 タイプ分類表	315
表VI-2-8 組成分類表(1)	316
表VI-2-9 組成分類表(2)	317

図版目次

<視梅川小野遺跡>

図版1	調査状況
図版2	住居跡(1)
図版3	住居跡(2)
図版4	住居跡(3)
図版5	住居跡(4)
図版6	住居跡(5)
図版7	住居跡(6)
図版8	住居跡(7)
図版9	住居跡(8)
図版10	住居跡(9)
図版11	住居跡(10)
図版12	住居跡(11)
図版13	住居跡(12)
図版14	住居跡(13)
図版15	住居跡(14)
図版16	住居跡(15)
図版17	住居跡(16)
図版18	土坑(1)
図版19	土坑(2)
図版20	土坑(3)
図版21	Tピット(1)
図版22	Tピット(2)
図版23	小ピット
図版24	焼土・剥片集中・集石
図版25	包含層遺物出土状況
図版26	遺構の土器(1)
図版27	遺構の土器(2)
図版28	遺構の土器(3)
図版29	遺構の土器(4)
図版30	遺構の土器(5)
図版31	遺構の土器(6)
図版32	遺構の土器(7)
図版33	遺構の土器(8)
図版34	遺構の土器(9)
図版35	遺構の土器(10)
図版36	遺構の土器(11)
図版37	遺構の土器(12)
図版38	遺構の土器(13)
図版39	遺構の土器(14)
図版40	遺構の土製品(1)
図版41	遺構の土製品(2)
図版42	包含層の土器(1)
図版43	包含層の土器(2)
図版44	包含層の土器(3)
図版45	包含層の土器(4)
図版46	包含層の土器(5)
図版47	包含層の土器(6)

図版48	包含層の土器(7)
図版49	包含層の土器(8)
図版50	包含層の土器(9)
図版51	包含層の土器(10)
図版52	包含層の土器(11)
図版53	包含層の土器(12)
図版54	包含層の土器(13)
図版55	包含層の土器(14)
図版56	包含層の土器(15)
図版57	包含層の土器(16)
図版58	包含層の土器(17)
図版59	包含層の土器(18)
図版60	包含層の土器(19)
図版61	包含層の土器(20)
図版62	包含層の土器(21)
図版63	包含層の土器(22)
図版64	包含層の土器(23)
図版65	包含層の土器(24)
図版66	包含層の土器(25)
図版67	包含層の土器(26)
図版68	包含層の土器(27)
図版69	包含層の土器(28)
図版70	包含層の土器(29)
図版71	包含層の土器(30)
図版72	包含層の土器(31)
図版73	包含層の土器(32)
図版74	包含層の土器(33)
図版75	包含層の土器(34)
図版76	包含層の土器(35)
図版77	包含層の土器(36)
図版78	包含層の土製品
図版79	遺構の石器(1)
図版80	遺構の石器(2)
図版81	遺構の石器(3)
図版82	遺構の石器(4)
図版83	遺構の石器(5)
図版84	遺構の石器(6)
図版85	遺構の石器(7)
図版86	包含層の石器(1)
図版87	包含層の石器(2)
図版88	包含層の石器(3)
図版89	包含層の石器(4)
図版90	包含層の石器(5)
図版91	包含層の石器(6)
図版92	包含層の石製品
<梅川1遺跡>	
図版93	梅川1遺跡の遺物(1)
図版94	梅川1遺跡の遺物(2)

I 緒言

1 調査要項

事業名	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査（平成21年度まで） 道央圏連絡道路新千歳空港関連工用地内埋蔵文化財発掘調査（平成22年度整理作業） 道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工用地内埋蔵文化財発掘調査（平成23年度整理作業）
事業委託者	国土交通省北海道開発局札幌開発建設部
事業受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	祝梅川小野遺跡（北海道教育委員会登録番号：A-03-48） 梅川1遺跡（北海道教育委員会登録番号：A-03-56）
所在地	北海道千歳市祝梅485-2ほか：祝梅川小野遺跡 北海道千歳市祝梅498-3：梅川1遺跡
調査期間	平成19年5月7日～平成19年3月31日（発掘期間5月7日～10月31日） 平成20年5月7日～平成20年3月31日（発掘期間5月7日～10月31日） 平成21年4月1日～平成24年3月30日：整理期間
調査面積	17,897㎡：祝梅川小野遺跡 893㎡：梅川1遺跡
平成19年度調査体制	第1調査部 部長 越田賢一郎 第1調査部第2調査課 課長 遠藤香澄（発掘担当者） 第1調査部第2調査課 主査 菊池慈人（発掘担当者） 第1調査部第2調査課 主任 芝田直人 第1調査部第2調査課 主任 酒井秀治 第1調査部第2調査課 囑託 山田和史（発掘担当者） 第1調査部第4調査課 主任 阿部明義
平成20年度調査体制	第1調査部 部長 越田賢一郎 第1調査部第3調査課 課長 鈴木 信（発掘担当者） 第1調査部第3調査課 主査 菊池慈人（発掘担当者） 第1調査部第3調査課 主任 影浦 覚 第1調査部第3調査課 主任 芝田直人 第1調査部第3調査課 主任 山中文雄 第1調査部第3調査課 主任 酒井秀治

2 調査にいたる経緯

札幌開発建設部が計画・実施している「道央圏連絡道路(一般国道337号)；千歳市～小樽市を連結する延長約80kmの地域高規格道路」事業は、平成元(1989)年に事業化され、そのうち「新千歳空港関連」事業が本調査の原因となる。平成2年12月に札幌開発建設部は、千歳市教育委員会を經由して、北海道教育委員会あてに国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台～中央までの路線内における事前協議書を提出した。平成3年6月に北海道教育委員会は路線内の遺跡所在確認調査を行い、同年7

月に周知8か所・未登載4か所(対象面積299,000㎡)について範囲確認調査の必要を札幌開発建設部に回答した。

その後、平成7(1995)年5月に事業名変更等のため再び事前協議書の提出があった。事業名は「一般国道337号新千歳空港関連工事」、事業面積828,000㎡となる。この包蔵地については現状保存が望ましいが、やむをえない場合は記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、北海道教育委員会より札幌開発建設部に伝えられた。札幌開発建設部は工事計画の変更は困難と判断した。

以上の経緯から、平成19年2月に北海道教育委員会は財団法人北海道埋蔵文化財センターに祝梅川小野遺跡の発掘調査(12,310㎡)を指示し、3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査を受諾し、調査計画を立案した。同年4月に札幌開発建設部と委託契約を交わした上で、5月～10月まで発掘調査し、工事計画の変更により7,630㎡(4,680㎡減)を終了した。平成20年2月に北海道教育委員会は財団法人北海道埋蔵文化財センターに祝梅川小野遺跡の発掘調査(6,630㎡)を指示し、3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査を受諾し、調査計画を立案した。同年4月に札幌開発建設部と委託契約を交わした上で、5月～10月まで発掘調査した。遺跡範囲の拡大変更により10,267㎡(3,637㎡増)を完了した。両年合わせて最終調査面積は17,897㎡となった。

梅川1遺跡については、平成20年2月に北海道教育委員会が財団法人北海道埋蔵文化財センターに発掘調査(780㎡)を指示し、3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査を受諾し、調査計画を立案した。同年4月に札幌開発建設部と委託契約を交わした上で、5月～10月まで発掘調査した。遺跡範囲の拡大変更により893㎡(113㎡増)を完了した。

3 調査の経過

(1) 発掘経過

平成19年度 5月9日；開所式、5月11～17日；Ⅴ層25%調査、5月14日；Ⅲ層25%調査、5月18日以降；Ⅲ・Ⅴ層遺構調査(住居・土坑・焼土を検出)、10月24日；Ⅲ層遺構調査終了、10月26日；Ⅴ層遺構調査終了、10月29日～11月1日；撤収作業・越年準備

平成20年度 5月9日；開所式、5月13日以降；Ⅲ層遺構調査(住居・土坑を検出)、5月15～30日；調査区南半の鋼矢板打設、6月2～12日；調査区南半の排水準備工・表土剥ぎ、6月9日；調査区南半のⅢ・Ⅴ層25%調査、6月21日；調査区北半の鋼矢板打設、6月23日以降；調査区南半のⅢ・Ⅴ層遺構調査、7月11～30日；排水準備工・表土剥ぎ、7月13～15日サミットによる作業休止、7月29日調査区北半のⅢ・Ⅴ層25%調査、8月8日以降調査区北半のⅢ・Ⅴ層遺構調査、9月3日；調査区南半の調査終了、10月23日；調査区北半の調査終了、10月24日～29日；撤収作業

(2) 整理経過

平成19年度 出土遺物の破片接合・遺物復元・遺構素図作成・遺物図作成を行なう。並行して報告書『梅川4遺跡(1)』(北埋調報253集)を刊行した。

平成20年度 土器破片接合・石器接合・遺構素図作成・遺物図作成・微細遺物の選別。

平成21年度 遺物復元・遺構素図作成・遺物図作成・微細遺物の選別。並行して報告書『梅川4遺跡(2)』(北埋調報269集)を刊行した。

平成22年度 遺構素図作成・遺物図作成・原稿執筆、微細遺物の選別・原稿執筆。

平成23年度 遺構図作成・写真撮影・原稿執筆、報告書『祝梅川小野遺跡(1)・梅川1遺跡(1)』(北埋調報285集)を刊行した。

(鈴木)

表 I-1 祝梅川小野遺跡 年度別検出遺構数一覧

調査年度	調査面積 (m ²)	遺 構						
		住居跡 (VH)	土坑 (VP)	Tピット (VTP)	小ピット (VSP)	焼土 (VF)	割片集中 (VFC)	集石 (VS)
平成19年度	7,630	12	44	6	32	8	0	0
平成20年度	10,267	5	28	15	7	7	1	6
計	17,897	17	72	21	39	15	1	6

表 I-2 祝梅川小野遺跡 出土土器等点数一覧

	分 類													土 製 品	総 計
	Ⅱ群 a類	Ⅱ群 b類	Ⅲ群 a類	Ⅲ群 b類	Ⅳ群 a類	Ⅳ群 b類	Ⅳ群 c類	V群 b類	V群 c類	Ⅲ群 不明	Ⅳ群 不明	V群 不明	不明		
遺 構	18	2,892	408	172	1,589	780	114	0	0	3	3	0	1	357	6,337
包含層	553	14,601	1,311	3,646	1,358	30,175	11,648	387	1,566	11	1,241	3	21	436	66,957
計	571	17,493	1,719	3,818	2,947	30,955	11,762	387	1,566	14	1,244	3	22	793	73,294

表 I-3 祝梅川小野遺跡 出土石器等点数一覧

	分 類																	土 製 品	総 計										
	細石刃	石 鏃	石 鏃	石 鏃・ナイフ	つまみ付きナイフ	両面磨製石器	Rフレイク	Uフレイク	石 核	割 片	石 弁	石 の み	すり石	北海道式石冠	た た き 石	礫 石	矢筈研磨器			石 鏃	台 石	石 皿	石 鏃	磨り切り残片	加工痕ある礫	原 石	棒状原石	礫・礫片	
遺 構	0	91	9	19	37	11	50	17	4	56,428	53	2	18	82	24	37	0	1	15	101	8	0	74	5	0	1,172	1	58,260	
包含層	13	918	120	169	319	227	49	364	218	130	40,300	579	20	166	669	387	435	1	12	58	202	62	19	432	96	1	5,982	29	51,967
計	13	1,009	129	188	356	238	49	414	235	134	96,728	632	22	184	742	411	472	1	13	73	303	70	19	506	101	1	7,154	30	110,227

表 I-4 梅川1遺跡 出土土器等点数一覧

	分 類						土 製 品	総 計
	Ⅲ群 b類	Ⅳ群 b類	Ⅳ群 c類	V群 b類	V群 c類			
遺 構	0	0	0	242	21	95	358	
包含層	256	59	4	1,466	0	11	1,796	
計	256	59	4	1,708	21	106	2,154	

表 I-5 梅川1遺跡 出土石器等点数一覧

	分 類													土 製 品	総 計			
	石 鏃	つまみ付きナイフ	スクレイパー	楔形石器	Rフレイク	Uフレイク	石 核	割 片	石 弁	すり石	北海道式石冠	た た き 石	礫 石			石 皿	加工痕ある礫	原 石
遺 構	3	0	1	0	0	0	0	3,579	0	0	0	0	0	0	0	0	19	3,602
包含層	15	1	11	1	12	12	2	542	6	1	2	4	1	2	3	1	19	635
計	18	1	12	1	12	12	2	4,121	6	1	2	4	1	2	3	1	38	4,237

Ⅱ 調査の方法

1 調査範囲

(1) 発掘区の設定

a 方格組みおよび座標

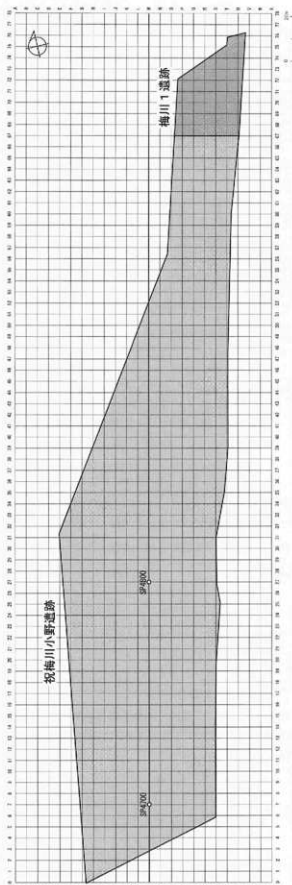
発掘必要区域は「道央圏連絡道路（一般国道337号）」内であるため、発掘区の設定は以下のように行った（図Ⅱ-1）。

まず、調査対象遺跡に当たる計画路線のうちSP4400（梅川4遺跡内）～SP5348.492（梅川2遺跡内）が直線であることからこれを基線とし、くわえて、梅川4遺跡・祝梅川小野・梅川1遺跡が同系の座標に入るように基線に対して平行・直交する方格を組み、平成19年度には方格設定の原点として点間100mのSP4700（調査方格名称M7）・SP4800（調査方格名称M27）を選定した。平成20年度はこれを踏襲している。

方格間隔は、方格杭打設の経費節減、1グリッド（発掘区）あたりの投入人員数・作業員の班構成、遺構内に含まれてしまう方格杭の低減、調査面積累計把握の容易さを考慮して5mに設定した。それぞれの区画線にアルファベット（東西方向）と数字（南北方向）を与え、グリッドの呼称は、方眼の南西角で交差する区画線を読む。さらに、5m方眼を2.5m四方に分割して、反時計回りに南西角から「a」・「b」・「c」・「d」と呼ぶ小発掘区（小グリッド）を設置し、調査の便宜を図った。

平成19年度の調査着手に当たっては株式会社総合測量設計に委託し、平成20年度の調査着手に当たっては株式会社田中測量に委託し、平成19年度は、3級基準点2か所の測量を行い、20m間隔の基準杭を14か所設置し座標値と標高を得た。平成20年度は鋼欠板打設などの準備工があったため複数回にわたり39か所設置し座標値と標高を得た。これを基本杭として5m方眼杭の打設を行った。

なお、調査に必要な5m方格杭は、その都度自ら打設することがあった。



図Ⅱ-1 発掘区の設定

上記方格の原点平面直角座標（平面直角座標系第XⅡ系）は図Ⅱ-1中の2点SP4690・SP4790にあたる。

M5(SP4690) : X=-129,595.445、Y=-45,721.772

北緯42° 49' 55"・東経141° 41' 26"

M25(SP4790) : X=-129,497.984、Y=-45,699.534

北緯42° 49' 58"・東経141° 41' 27"

b 水準点

平成19年度に用いた水準点は以下である。

M5 : 13.116m M10 : 13.919m M15 : 13.869m M20 : 14.122m M25 : 14.025m

平成20年度に用いた水準点は以下である。

L11 : 13.262m N29 : 13.584m R45 : 10.134m S49 : 10.649m S61 : 9.964m S73 : 8.660m

2 掘削など

人力掘削作業は主に移植ゴテ・ねじり鎌を使用して行った。遺構・遺物の検出状況に応じて竹べらや竹串を使用して遺構・遺物を傷つけないように掘削を行った。精査・清掃の際には前記のほかに炉ボウキ・ブラシ等を用いた。また、移植ゴテでは掘ることが困難な場所や遺構・遺物の見られない範囲、攪乱坑等ではスコップ等を併用した。

遺構は火山灰土壌に包埋されているため、降雨による流水・乾燥により崩壊が起こりやすい。そのため、適度にじょうろや噴霧器を用いて散水を行い、ベニヤ板・ブルーシートなどをかけるなど降雨・乾燥に配慮を行って調査を進めた。黒色腐植土は水を含むと滑りやすく危険をともなった。そのため、排土道や通路に踏み板や麻袋やまき砂（遺跡内の細粒火山灰を利用）を敷いて転倒の防止に努めた。

人力掘削方針は、上面での精査、第Ⅰ黒色土層はアイヌ文化期・糠文文化期の遺構・遺物の確認のため深度3cm、それ以降は深度5cm単位で掘削し、第Ⅱ黒色土層は深度5cm単位で掘削した。なお、状況に応じて深度3cmと深度5cmを適宜用いた場合がある。

3 測量と記録

(1) 測量・図化

委託設置した基準杭をもとに5m方格の各交点に木杭を設置し、平面測量の基準とした。水準測量は自動レベルと1mm目盛のアルミスタッフを用いて方格杭に基準杭を与点とする標高を入れ、方格杭と対象の比高を直接観測した。平面測量は方格杭を基準としての手測りによる。

遺構・遺物の詳細な出土位置と範囲を記録することにより、その接合関係を把握し、遺構の形成順序を把握するため下記のような方法を用いて遺物の検出範囲と出土位置を記録することとした。

実測は1mm方眼のA4版セクションフィルムに基本的に20分の1スケールで記入した。出土状況の詳細図を必要としたときは10分の1スケールで行った。 (鈴木)

(2) 現場での撮影

a 撮影方法

発掘現場での撮影は、6×7サイズカメラと35mmサイズカメラを使用し、デジタルカメラで補助記録を撮った。記録保存のため同一カットを同じ条件（シャッタースピード・露出）で複数コマ撮影し

1セットとした。なお、絞りを替えてさらに撮影したことがある。撮影は遺構・遺物の出土状況などを行った。また、進行状況の確認となる定点撮影も行った。撮影に際しては、各被写体の撮影方向・出土位置・層位など必要な情報を入れることを考慮した。ブレ・ボケなどを防止する為に、全ての撮影は三脚・レリーズを用いて行った。

b 撮影機材・撮影データ

撮影機材・フィルムは下記を使用した。フィルム(フジネオパンアクロス100-120・フジRDPⅢ120)の使用頻度や収納スペースの観点から、ほとんどを6×7判(Mamiya RZ67PROⅡ)で行なうこととした。スライドは必要に応じて6×7判リバーサルフィルムより作成した。現場での撮影データ(カットNo・撮影日・被写体名・被写体詳細または出土層位・撮影方向・フィルム種類・撮影者)は撮影者が野帳に記入し、記録とデジタルカメラによる撮影の統合を行い写真台帳とした。(菊池)

(3) 出土品の収集

掘り出し遺物についての取り上げ方法は、点取り上げと一括上げがある。一括上げとは5m方眼・層別である。土壌の取り上げは遺物の取り上げと同じ方法で行った。ただし、すべて範囲を記録した一括上げである。土壌に含まれる、多量の小剥片などは、土壌ごとポリ袋に採取し、その後の整理作業で水篩選別方法により取り出している。(鈴木)

4 資料整理

(1) 図面等

遺構などの原因は訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合はその個所が確認できるように原因に書き込んでいる。その後、原因から1mm方眼の方眼紙に鉛筆(芯径0.5mm)をもちいて作成した。素図をスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト(Adobe Illustrator CS3)により補正・加工し版下を作成した。

(2) 出土品

a 掘り出し遺物

一次整理:掘り出された土器・石器等は、野外作業と平行して現地で水洗・乾燥・遺物台帳の作成・遺物カードの添付・注記作業を行った。水洗はボンドブラシや歯ブラシなどを使用して遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は新聞紙等を敷いた乾燥かごに遺物を入れて、遺物乾燥小屋の室内で行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。水洗・乾燥の終了した遺物は、収集の単位ごとに遺物名と点数を決定したうえで遺物番号を与え、遺物台帳に登録した

遺物台帳は、土器・土製品と石器等とに分けて作成している。B5判の様式を印刷して手作業で記入し、グリッド別に全遺物を登録した台帳を作成した。台帳には出土グリッドまたは遺構のほか遺物番号・取り上げ日・層位・遺物名・分類・材質(石器等に限る)・点数・その他を記入した。台帳登録の終わった遺物は、台帳と同一の内容を記入した遺物カードとともに遺物番号ごとにチェック付ポリ袋に納めた。

注記は、手書きによって行った。注記対象は、土器片が微細なものを除く大多数、石器等が微細なものである。注記できなかった遺物は遺物番号ごとにポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。

注記内容は、遺構については、遺跡名の略号「オノ」「ウ1」、出土遺構名の略号「例えばP」と遺構番号「アラビア数字」、層位名「ローマ数字」、遺物番号「アラビア数字」を記入した。組み合わせ表記順は「例えばオノ」+「P:第Ⅰ黒色土層→UP、第Ⅱ黒色土層→LP」+「遺構番号」+層位名」

+「遺物番号」である。包含層については、遺跡名の略号「例えばウ1」、出土方格南北方向「アルファベット」と東西方向「アラビア数字」、層位名「ローマ数字」、遺物番号「アラビア数字」を記入した。組み合わせ表記順は「例えばウ1」+「層位名」+「遺物番号」である。

二次整理：一次整理の終了した遺物を埋蔵文化財センターに搬入し、分類・材質の確認、接合などを行った。遺物の整理と平行して遺物台帳の修正・コンピューターへの入力を進めた。整理終了後、原則として各遺物と遺物カードを同封したチャック付ポリ袋に戻し、出土方格南北方向「アルファベット」と出土層ごとに遺物番号順に整頓し、プラスチックコンテナに収納した。

立体復元は、遺物台帳と破片の照合→接合関係表記入→土器接合→樹脂充填の手順を取った。土器拓本は破片個体について行い、断面は人手による原寸実測、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。土器実測は立体復元について行い、人手による原寸実測、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。石器実測は人手による原寸実測、原寸素図をもとに墨入れを行った。(芝田)

(3) 写真

室内撮影は、6×7版カメラ・4×5版カメラ・ストロボを用いて撮影を行った。俯瞰撮影は無影撮影台を用い、遺物集合写真など立面撮りは、撮影台に遺物が乗り切らない時は、背景紙を床に直に垂らして撮影した。フィルム現像はカラーリバーサルフィルムを外注し、モノクロフィルムに関しては、自動現像機での自家処理となっている。モノクロ写真の焼き付けは自家処理しており、写真図版用の焼付けや密着焼きを行なっている。フィルムには1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。(菊池)

5 保管

今回の報告に関する図面等・写真・出土遺物は2012年3月現在、道立北海道埋蔵文化財センターで保管している。図面等は全てA2版図面ファイルに調査年度・北埋調報番号・遺跡名をつけて収納している。写真アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。出土遺物に関しては、土器片や石器等はコンテナに収納する。コンテナには調査年度・北埋調報番号・遺跡名・遺物名・分類・収納番号を記したラベルを貼り、収蔵庫に保管し、今後の活用に備える。(鈴木)

6 遺物の分類

(1) 土器等

土器は縄文時代早期に属するものをI群とし、以下前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群とした。続縄文時代のものはVI群、弥文文化期のものはVII群である。また、a・b類に二分したものはa類が前半、b類が後半を意味する。同様にa・b・c類に三分したものはa類が前葉、b類が中葉、c類が後葉である。さらに細分を要する場合は、アラビア数字の枝番号を付した。なお、今回の調査ではI群、VI群、VII群は出土していない。

II群 縄文時代前期に属する道央の土器群

- a類 厚手で縄文の施された丸底・尖底の土器群
 - a-1類 美沢3式、美々7式、綱文式に相当するもの。
 - a-2類 静内中野式に相当するもの。

- b類 円筒土器下層式とこれに並行する土器群
 - b-1類 植苗式に相当するもの。
 - b-2類 大麻V式に相当するもの。
 - b-3類 円筒土器下層a～d式に相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する道央の土器群

- a類 円筒土器上層a式・b式、萩ヶ岡1・2式に相当するもの。
- b類 円筒土器上層式に後続する土器群。
 - b-1類 天神山式に相当するもの。
 - b-2類 柏木川式に相当するもの。
 - b-3類 北筒式（トコロ6類）に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する道央の土器群

- a類 余市系土器群とこれに並行する前葉の土器群。
 - a-1類 伊達山式、小野模式に相当するもの。
 - a-2類 タブコフ式に相当するもの。
 - a-3類 手稲砂山式、入江式に相当するもの。
- b類 磨消縄文が施された中葉の土器群。
 - b-1類 ウサクマイC式に相当するもの。
 - b-2類 手稲式に相当するもの。
 - b-3類 蕨淵式に相当するもの。
 - b-4類 エリモB式に相当するもの。
- c類 突瘤文、貼瘤文、爪形文が施された後葉の土器群。
 - c-1類 堂林式に相当するもの。
 - c-2類 「三ツ谷式」並行と考えられるもの。
 - c-3類 御殿山式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する道央の土器群

- a類 大洞B式、大洞B-C式とこれに並行する在地の土器群。東三川I式など。
 - b類 大洞C₁式、大洞C₂式とこれに並行する在地の土器群。浜中大曲式、美々3式など。
 - c類 大洞A式、大洞A'式とこれに並行する在地の土器群。タンネトウシ式、氷川式など。
- このほか、再生土製円盤、焼成粘土塊、盤状粘土塊を土製品に分類した。 (芝田)

(2) 石器等

分類は器種を基本とした。各器種は剥片石器群、礫石器群に大別される。

剥片石器群

石鏃、石槍、ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、石核、Rフレイク、Uフレイク、剥片

礫石器群

石斧、擦り切り残片、石のみ、たたき石、台石、すり石、石皿、石鏝、砥石、石錘、加工痕のある礫、礫・礫片

上記以外の石製遺物については石製品として分類した。

石製品

珪石製石製品、黒曜石製石製品、玉、垂飾、有孔石製品、オロシガネ状石製品、棍棒形石器 (酒井)

Ⅲ 遺跡の環境

1 位置

(1) 所在

祝梅川小野遺跡は千歳市祝梅485-2ほか、梅川1遺跡は千歳市祝梅498-3に所在する。千歳市は北海道の西部、石狩地方の南端を占め、北は恵庭市、南は苫小牧市に接している。両遺跡は千歳市街東南隅に位置する。また、祝梅川小野遺跡は祝梅川上流部右岸にあり、梅川1遺跡は梅川下流部左岸にある。祝梅川は遺跡の500m下流で梅川と合流し、3,500m下流で千歳川と合流する（図Ⅲ-1）。

千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図に記載された祝梅川小野遺跡は100m四方の規模であったが、平成18年に行われた範囲確認調査により下流側を含めた遺跡へと拡大した。梅川1遺跡は平成19年に行われた範囲確認調査により、千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図に記載された範囲が南方へ拡大した。

(2) 地名

遺跡名の「祝梅」はアイヌ語地名に当て字したもので、この地名は少なくとも19世紀後葉まで遡る。アイヌ語地名については幾つかの解説がある。長見義三は「sukup-pay：成長した-イラクサ、または別の語解の可能性あり」「ちとせ地名散歩」（長見1976年）と解している。榎原正文は「sukup-hay-us-nay：成長する-イラクサ-群生する-川」「データベース・アイヌ語地名3」（榎原2002年）と推定している。「梅川」のアイヌ語地名は存在しないが、長見義三によれば「sino-oman-sukupay：本当に-行く-シュクバイ」「ちとせ地名散歩」（長見1976年）であり、祝梅川は源頭部が冷泉であることから「nam-sukupay：冷たい-シュクバイ」と解している。

(3) 地形

遺跡は石狩平野と勇払平野に挟まれた低平な美々台地の東北縁にあり、地質構造分類では石狩低地帯に属する。遺跡がある溜れ沢は第四紀更新世末葉の支笏火砕流堆積物が浸食を受けて形成された地形であり、支笏火砕流堆積物の上には恵庭a降下軽石、樽前c降下軽石・岩片、樽前a降下軽石が降下堆積して現地表形を造る。

2 周辺の遺跡

祝梅川水系にある遺跡は左岸に4か所・右岸に10か所あり、梅川水系にある遺跡は左岸に2か所・右岸に2か所ある（図Ⅲ-1）。このうち、祝梅川遺跡・祝梅川矢島遺跡・祝梅堅穴遺跡・祝梅川上田遺跡・梅川3遺跡について千歳市教育委員会が発掘調査・報告を行っている。平成18年度には北海道埋蔵文化財センターが梅川4遺跡・祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡の発掘調査・報告を行った。以下、今回の報告と関係する第Ⅱ黒色土の遺構について時代別に概要を記す。

縄文・前期：堅穴住居2軒・土坑12基（梅川3）

縄文・中期：堅穴住居2軒（祝梅川山田）、堅穴住居1軒（梅川4・2003年）

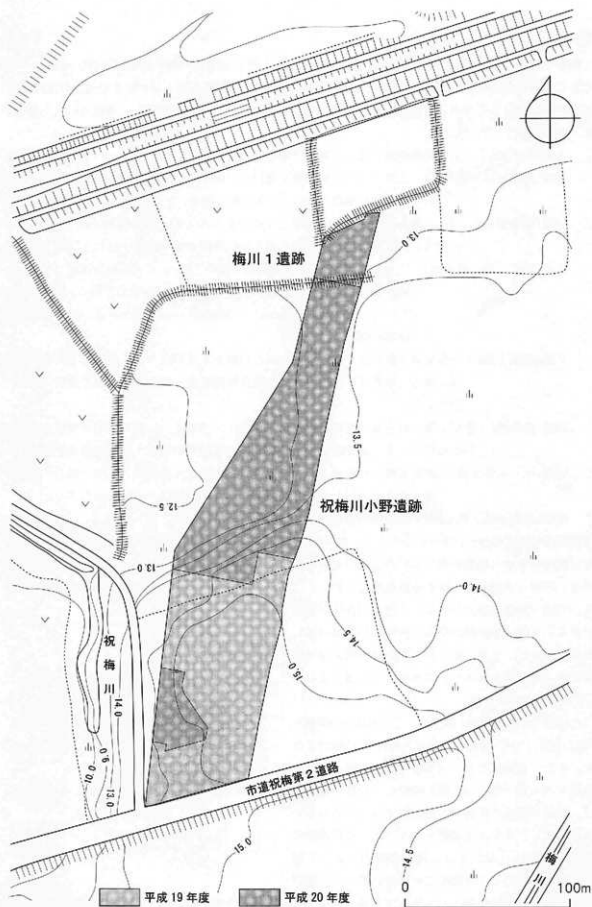
縄文・後期：堅穴住居4軒・土坑1基（梅川3）、土器竈1基・土坑3基（梅川4・千歳市教委2003年）

縄文・晩期・第Ⅱ黒色土層：土坑7基（梅川3）



この図は国土地理院の数値地図25000（地図画像）『札幌』を使用したものである。

図Ⅲ-1 遺跡の位置と周辺の遺跡



図III-2 遺跡の位置と調査範囲

3 地層

確認した台地上の標準的な地層は表土層～恵庭 a 降下軽石層下位の鈍い橙色(7.5YR6/4)ローム層である。報告対象とした地層は第Ⅱ黒色土層(V層)～恵庭 a 降下軽石層上部にある暗褐色(7.5YR3/3)ローム層(VI層)までである。調査対象の土層は呼称を設けローマ数字で表記し、遺構内の人為堆積物はアラビア数字で表記した。

I層(表土層)：工業用地等造成に関わる客土・畑の耕作土

II層(樽前 a 降下軽石層)：元文 4 (1739)年旧暦 7 月 14 日に降下、軽石・火山灰が堆積。3～4 の降下単位が確認できる。上部は畑の耕作によって削られる。略称 Ta-a。

III層(腐植土層)：樽前 c 降下軽石・岩片を母材とする黒色シルト質。第 I 黒色土層(略称 I B)に相当し、近世アイヌ文化期～縄文時代晩期後葉の遺構・遺物を包含する。

IV層(樽前 c 降下軽石層)：上位から樽前 c₁ 降下軽石層(略称 Ta-c₁)・灰褐色砂質ローム層・樽前 c₂ 降下岩片・岩滓層(略称 Ta-c₂)に細分される。Ta-c₁ と Ta-c₂ 間には厚さ数 cm の灰褐色砂質ローム層がある。縄文時代晩期後葉に降下。

V層(腐植土層)：恵庭 a 降下軽石層上部のローム層を母材とする黒色シルト質。第Ⅱ・Ⅲ黒色土層に相当(略称 II B・III B)、縄文時代晩期後葉～縄文時代早期の遺構・遺物を包含する。

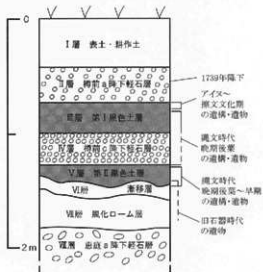
VI層(漸移層)：恵庭 a 降下軽石層上部の暗褐色ローム質土・樽前 d₁ 降下軽石・恵庭 a 降下軽石を母材とする。縄文時代早期～後期旧石器時代の遺構・遺物を包含する。

VII層(ローム質土層)：恵庭 a 降下軽石層上部の暗褐色ローム質土・樽前 d₁ 降下軽石・恵庭 a 降下軽石を母材とする。後期旧石器時代の遺構・遺物を包含する。

VIII層(恵庭 a 降下軽石層)：後期旧石器時代前半に降下。略称 En-a。

低湿部は沢状地形の谷部分に当たるため水の営力によって、層厚が増すこと・還元土壌化すること・未分解の草本の有機物が混じるため土質が泥炭化することが生じる。II層・V層の層厚は著しく増幅する。IV層は水位の上下による酸化還元が著しく、固結が起こり、土色の赤褐色・灰青化が明瞭である。VI層・VII層は還元が著しく土色の灰青化が明瞭である。V層は未分解の草本の有機物が多量に混じり泥炭化する。また、泥炭の下部には砂質土の堆積が認められる部分があり、これを「V砂層」または「VS層」と呼称した。

台地部では木本植物の吸水による土中铁分の凝集＝「擬似焼土」が、風倒木痕にともない多数検出された。また、台地部で Ta-c 層が Ta-c₁ 層・灰褐色砂質ローム層・Ta-c₂ 層が明瞭に三分される状況は、2006年調査の祝梅川上田遺跡では目視されている。ただし、キウス 4 遺跡・ユカンボシ C 15 遺跡の標高 6.5m 以下においては、流水の営力によって層厚が増幅するので、IV層中の灰褐色砂質ローム層が泥炭質の黒色腐植土層として視認できる。(鈴木)



図Ⅲ-3 土層柱状模式図

IV 祝梅川小野遺跡

1 遺構

(1) 概要

祝梅川小野遺跡のV層より検出された遺構は、住居跡17軒、土坑73基、Tピット21基、小ピット40基、焼土19か所、剥片集中1か所、礫集中6か所である。これらの大部分は、祝梅川の旧河道を望む高位(標高13~14m)・低位の段丘上(標高10~11m)とこれに続く北~西向き緩斜面上に立地する。

住居跡の時期は、縄文時代前期前半1軒、前期後半8軒、中期後半1軒、後期前葉2軒、後期中葉5軒である。前期前半の住居跡(VH-13)は、調査範囲中央のやや急な斜面上に単独で掘り込まれている。前期後半の住居跡(VH-2~4・6・8・10・15・17)は、調査範囲南側の高位の段丘~緩斜面上に立地する。これらは床面に掘り込みを伴う炉跡や大型の土坑が設けられているなどの特徴があり、大麻V式土器・円筒下層d式土器が出土している。中期後半の住居跡(VH-1)は調査範囲南東隅で検出され、床面にベンチ状構造が見られる。後期前葉の住居跡(VH-5・7)は、タブコブ式の土器炉を伴うが、明瞭な掘り込みは確認されなかった。後期中葉の住居跡は、調査範囲南側の西向きの緩斜面上(VH-9・11・12・16)と調査範囲北側の低位の段丘から続く沓原(VH-14)に立地する。VH-11・12は、炉跡と柱穴のみが確認されたもので、隣接する梅川4遺跡でも類似する住居跡が検出されている(北埋調報269)。VH-14からは手稲式土器の一括資料が出土した。

土坑は、時期が特定できる遺物が坑底部などから出土したものは少ないが、概ね住居跡の分布と一致すると考えられる。調査範囲中央の北向き斜面上で、前期後半の植苗式土器を伴う土坑が4基(VP-23・57・59・61)検出された。これらは覆土の堆積状況や遺物出土状況から、墓の可能性がある。VP-57の坑底部からは、板状の珪藻土が出土している。調査範囲南東側の高位の段丘上で検出されたVP-1・15・17・20・21からは、いわゆる「サツマアゲ状土製品」(北埋調報116)と称される盤状粘土塊が出土した。同様の遺物は周辺の住居跡VH-15・17からも出土しており、前期後半の大麻V式期の所産と考えられる。調査範囲南西側の緩斜面上では、ウサクマイC式(VP-39)、臈澗式(VP-41)、堂林式(VP-30)など後期中~後葉の土器を伴う土坑が検出されている。

Tピットは、周辺の遺構の時期から、中期前半~後期初頭に構築されたと推測される。すなわち、前期後半の住居が廃絶されてから、後期前葉の住居が営まれるまでの間である。形態は楕円形と長楕円形のものがある。楕円形ものは、緩斜面上のほぼ同じ標高上に4ないし5基が並列する例(VTP-5・6・11・12・13とVTP-14・15・16・20)が見られる。長楕円形ものは、やや急な斜面上段と下段に2基が並列(VTP-2・10とVTP-7・8)あるいは重複(VTP-3・4)する例が見られる。逆茂木痕と考えられる坑底面の小ピットは楕円形のものに多い。

なお、遺構番号VP-5・7・9・26・27・28、VF-8・10~12は、調査の進捗により、住居跡の付属遺構や、風倒木などの攪乱と判断されたため、欠番となった。(芝田)

(2) 住居跡

VH-1 (図IV-1-5~8/表1~5・7・11/図版2)

確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた整穴住居跡。VI層上面で、V層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。全体の約1/2は調査範囲外である。調査範囲東側の境界壁面を長軸とし、これに直行する短軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立

ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

覆土 1～3層はV層を起源とする腐植土。2層には掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入している。4・5層は腐植土とロームの混合で、床面直上に堆積していた。6層はいわゆる三角堆積した壁際の腐植土。いずれも自然堆積である。

形態 東側約1/2が調査範囲外にあるため平面形は不明であるが、調査部分から、ほぼ円形と推測される。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。北東側の壁の一部は木根による攪乱を受けていた。床面は壁際から1～2mの範囲に平坦なベンチ状構造が見られ、中央部よりも1段高くなっている。このベンチ状構造は壁際のローム(VI層)を高めに掘り残したもので、土盛りなどで整形したものである。床面中央部も平坦であり、平面形は楕円形と推測される。

付属遺構 HF-1～3：床面中央部に3か所の炉跡が並んで検出された。いずれも一部は調査範囲外であるが、平面形は楕円形と推測される。HF-1は住居床面のほぼ中央に位置し、最も規模が大きい。HF-2・3はHF-1よりやや北側へ離れた位置に近接して位置する。これらは上部に炭化材を多量に伴い、下部の床面は非常に強く被熱していた。HF-1の周辺からは、磁石や石斧剥片、黒曜石製の剥片などが出土している。

HP-1～18：住居跡の内外から小土坑が18基検出された。このうちHP-1・4・9・10はベンチから床面中央へ降りる段差に、HP-2・3・5～8・12は床面中央の平坦部に、HP-11・17・18はベンチの平坦部に、HP-13～16は住居の掘り込みの外側に掘り込まれていた。これらは住居の中心(HF-1～3)から間隔を空けて同心円状に設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形もしくは楕円形を呈する。深さは検出面より10～20cmで、掘り込みが垂直なのが大半である。HP-11・16は住居の中心へ向かって強く内傾する。

遺物出土状況 遺物は北側のベンチ部分と床面中央部のHF-1周辺より多く出土している。また、南側の壁際からは頁岩製の剥片集中が4か所検出された。土器はⅢ群b-3類(図Ⅳ-2-19-125～127)が出土している。石器等は、石鎌・石槍(図Ⅳ-2-26-2・4・5)・つまみ付ナイフ片・石斧片・石のみ(8)・たたき石(9)・磁石片・剥片・礫などが出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代中期末葉である。

(芝田)

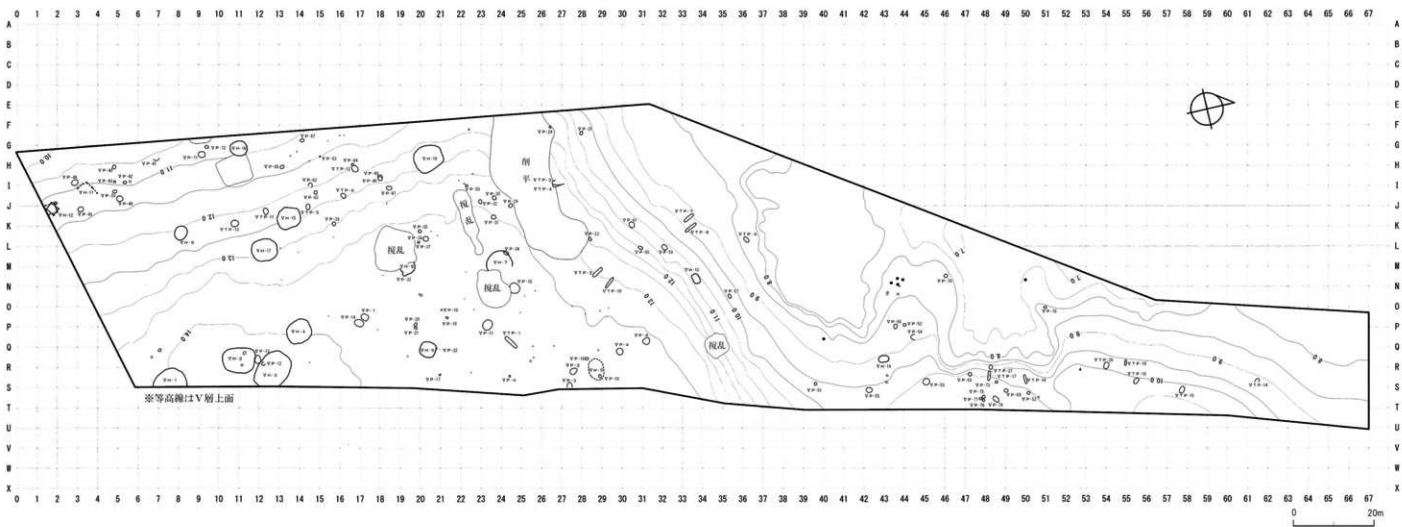
VH-2(図Ⅳ-1-9～12/表1～7/図版3)

確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた竪穴住居跡。V層の調査中、堆積状況の確認のため、北海道教育委員会による試掘坑を精査したところ、土層断面に掘り込みの一部が見られた。その後、土層観察用の土手を残して周囲を掘り下げると、VI層上面で黒色土が楕円形に落ち込んでおり、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

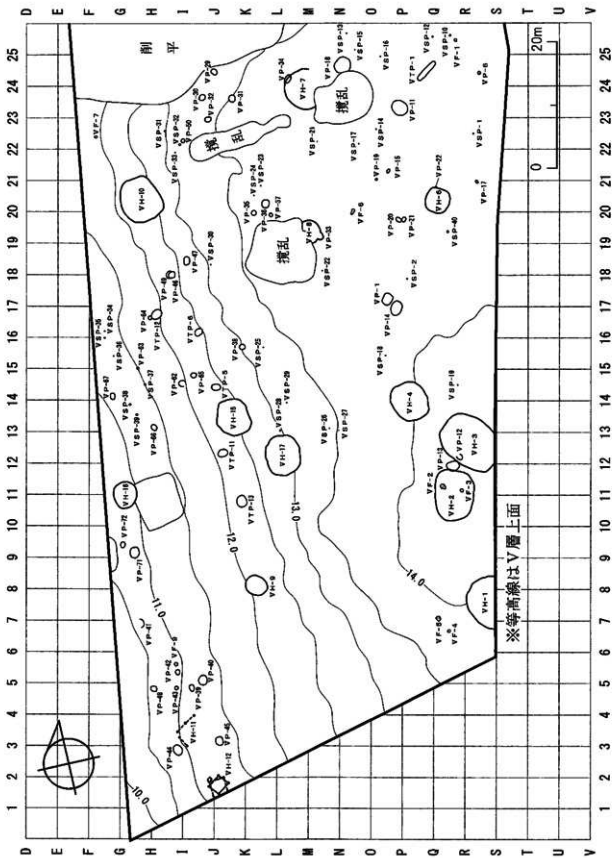
覆土 1・2層はV層が落ち込んだ腐植土。2層には掘り上げ土の流れ込みと考えられるEn-a降下軽石が混入している。3～5層は腐植土とロームの混合で、壁際から床面直上にかけて堆積していた。5層は床面中央部にのみ堆積していた。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は北側がやや広がった楕円形。壁面は明瞭で、内傾する。床面は中央へ向かってごく緩く傾斜している。北側の壁の一部はVP-13により壊されている。床面より焼土1か所(HF-1)、土坑3基(HP-1・2・23)、小土坑16基(HP-3～16・20・21・24)、掘り込みの外側から小土坑4基(HP-17～19・22)が検出された。

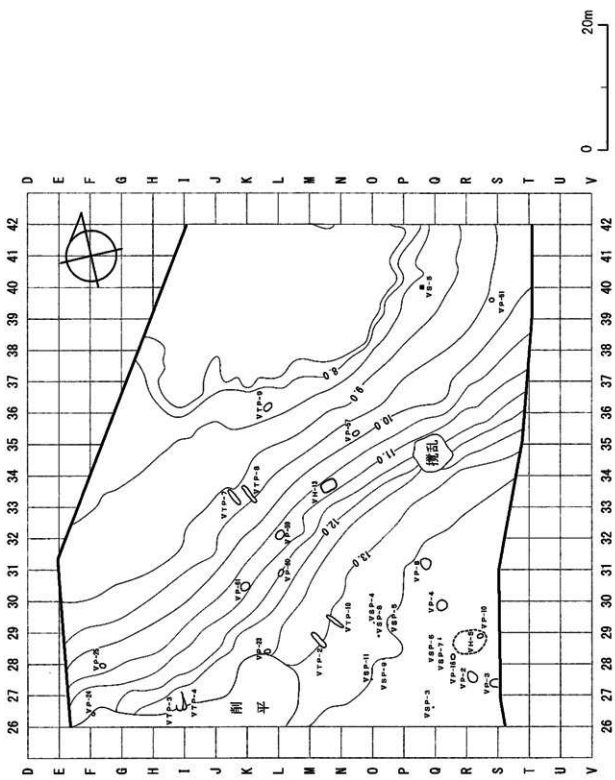
付属遺構 HF-1・HP-1：HF-1は床面中央よりやや南側に位置する、HP-1の内部に設けられた炉である。HP-1は平面形が楕円形で、南東側の一部が外側へ突き出ている。床面を約15



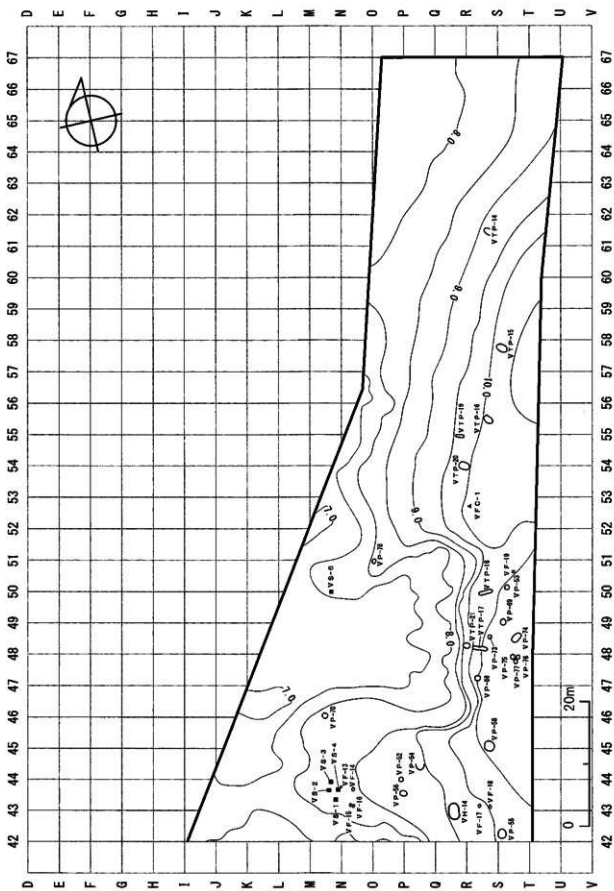
図IV-1-1 遺構位置図(全体)



図IV-1-2 遺構位置図(南側)

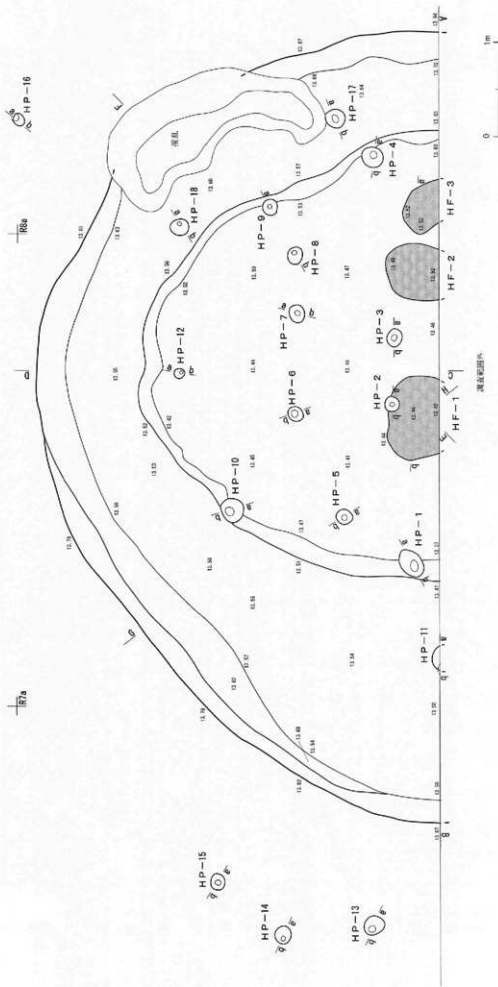


圖IV-1-3 遺構位置圖 (中央)

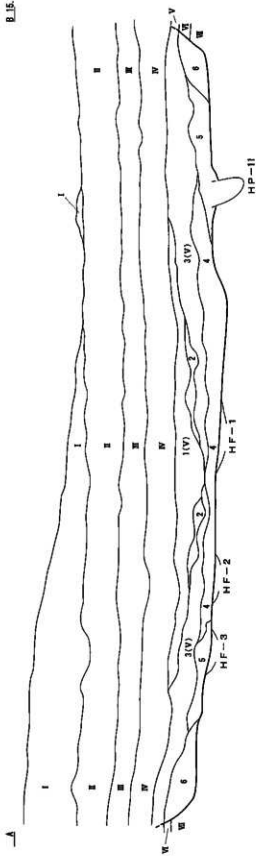


図IV-1-4 遺構位置図(北側)

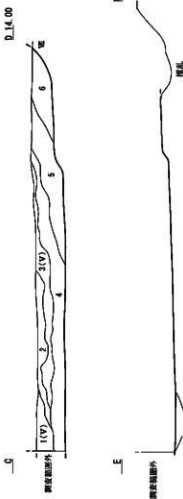
VH-1



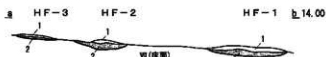
圖IV-1-5 VH-1



- VH-1
- 1 10T81.7/1/黒色土 しまり弱 粘性中 V層土の厚み込み Er-a(φ10mm以下) 多量混じる
 - 2 10T81.7/1/黒色土~10T84/4/褐色土 しまり弱 粘性強 V層土主体 Er-aロームが状況に固じる 振り上げ土の混れ込み Er-a(φ10mm以下)少量混じる
 - 3 10T82/1/黒色土 しまり弱 粘性強 V層土の厚み込み Er-a(φ10mm以下)少量混じる
 - 4 10T83/2/黒褐色土~10T83/3/暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム Er-a(φ30mm以下)多量混じる
 - 5 10T83/3/暗褐色土 しまり強 粘性強 腐植土+ローム(腐敗) Er-a(φ30mm以下)多量混じる
 - 6 10T82/2/黒褐色土~10T83/4/暗褐色土 しまり弱 粘性中 腐植土+ローム Er-a(φ20mm以下)多量混じる



図IV-1-6 VH-1土層断面



HF-1・2・3

- 1 10YR3/3暗褐色土～5YR5/8弱赤褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 腐土が現状に属する 炭化物多量混じる
 2 5YR5/8橙褐色土(床面が被熱している) しまり強 粘性中 弊にEn-a(φ35mm以下)の酸化が著しい



HP-1

- 1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強
 腐植土主体 En-a(φ25mm以下)多量混じる



HP-2

- 1 10YR2/3黒色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ16mm以下)多量混じる



HP-3

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ20mm以下)多量混じる



HP-4

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ20mm以下)混じる



HP-5

- 1 10YR2/1黒色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ15mm以下)少量混じる



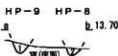
HP-6

- 1 10YR2/1黒色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ20mm以下)多量混じる



HP-7

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ16mm以下)多量混じる



HP-9

- 1 10YR2/1黒色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ15mm以下)少量混じる
 2 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性強
 腐植土主体 ローア En-a(φ15mm以下)少量混じる



HP-10

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中
 腐植土主体 En-a(φ10mm以下)少量混じる



HP-11

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強
 腐植土主体 ローア En-a(φ10mm以下)少量混じる
 やわらかくふかふか



HP-12

- 1 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性強
 腐植土+ローア En-a(φ15mm以下)多量混じる



HP-13

- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性中
 腐植土主体 ローア少量混じる
 2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
 腐植土+ローア(底状)



HP-14

- 1 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性中
 腐植土主体 ローア少量混じる



HP-15

- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性中
 腐植土主体 ローア少量混じる



HP-16

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中
 腐植土主体 ローア En-a(φ10mm以下)少量混じる



HP-17

- 1 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中
 腐植土+ローア En-a(φ10mm以下)少量混じる

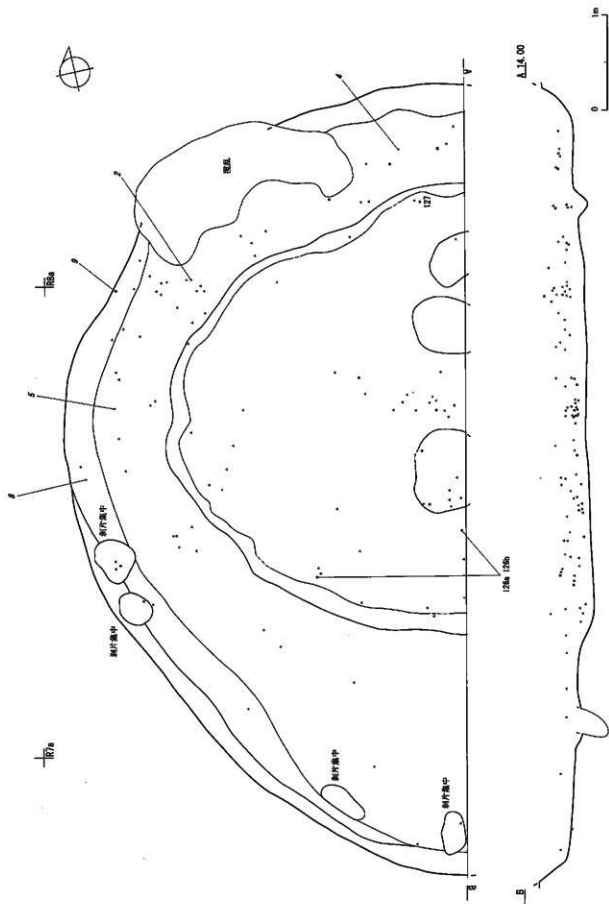


HP-18

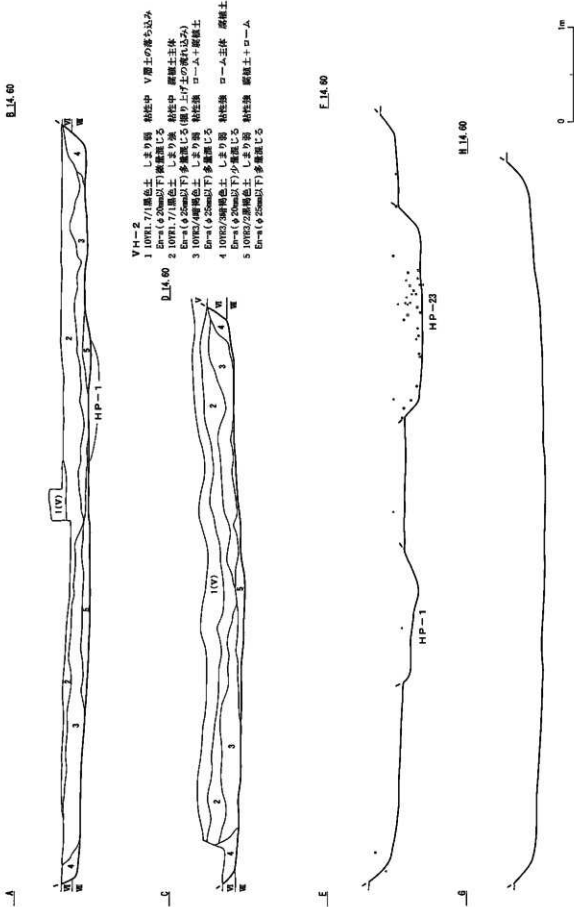
- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性強
 腐植土主体 En-a(φ10mm以下)多量混じる



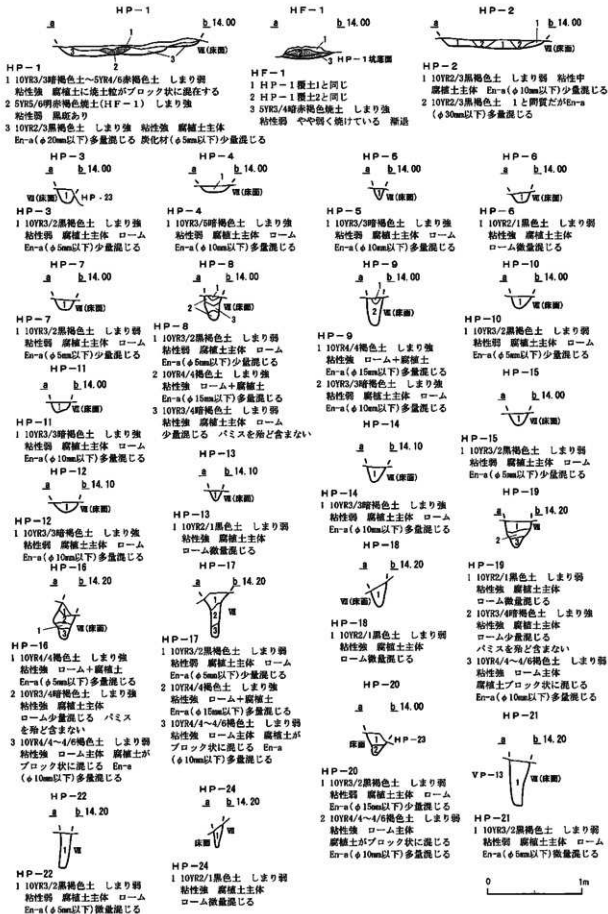
図IV-1-7 VH-1・HF-1～3、HP-1～18土層断面



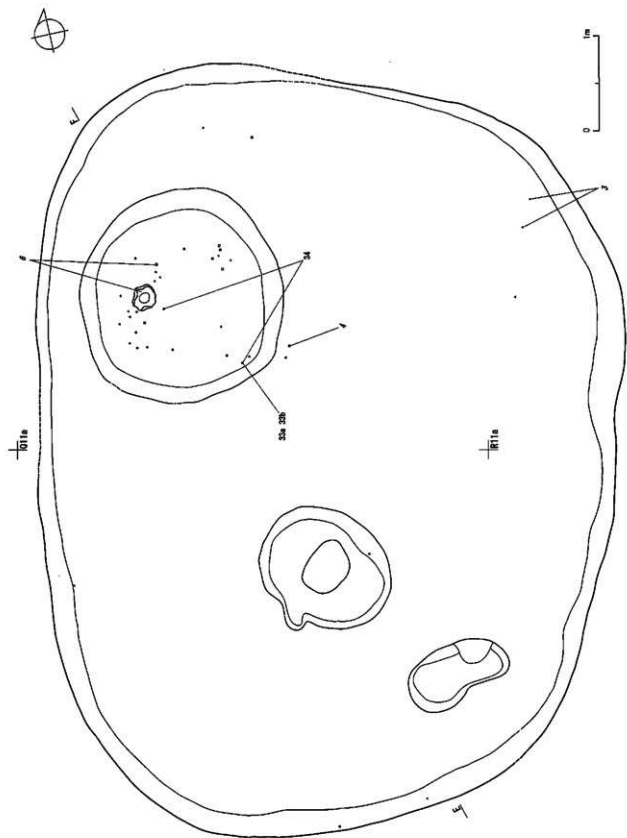
図IV-1-8 V H-1遺物出土位置図



図IV-1-10 VH-2土層断面



図IV-1-11 VH-2・HF-1、HP-1～22・土層断面



図IV-1-12 V H-2遺物出土位置図

cm掘り下げた後、火床を小さくするため坑底面に土を貼って整形している。HF-1は、この貼り土(HP-1の覆土3層)が被熱したもので、上部に焼土粒を多く含む腐植土(HP-1の覆土1層)の分布が認められた。この腐植土層は炉の使用に伴う自然堆積と考えられる。

HP-2:床面南側で検出された、浅い土坑。平面形は不整な楕円形を呈する。坑底面はほぼ平坦であるが、西側の一部が掘り残されて高くなっている。用途は不明である。

HP-23:床面北側で検出された、やや大型の土坑。平面形は円形を呈する。壁面は明瞭で、内傾ぎみに掘り込まれている。坑底面は平坦である。VH-2の覆土3層が坑底部まで落ち込んでおり、新旧関係が確認されなかったことから、住居の付属遺構と判断した。用途は不明である。坑底部より採取した炭化材を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、暦年較正年代で4,537±37yrBPという数値が得られた。詳細はVI章第1節を参照されたい。

HP-3~22・24:これらは住居跡の外内之間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形や楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲しており、住居の中心に向かって強く内傾するものはない。深さは、床面やVII層上面より15cm以下の浅いもの(HP-3~7・10~15)と、15~50cmのやや深いもの(HP-8・9・16~22・24)がある。掘り込みの深いものは床面の縁辺部(壁際)や屋外に多い。HP-3・20はHP-23の掘り込みの縁辺に位置する。HP-6~11はHF-1・HP-1の周囲を巡るような配置になっている。HP-17~19・22は、掘り込みの南側外でまとまって検出された。

遺物出土状況 床面全体では壁際でフレイク・チップが集中して出土したほかは、非常に希薄であった。HP-23の坑底部からは石皿(図IV-2-27-6)、近接する床面から北海道式石冠(4)が出土している。このほか、土器等はII群b-2類(図IV-2-13-33~35)・III群b-3類(図IV-2-6-16)・再生土製円盤(図IV-2-23-1)、石器等は、石斧(図IV-2-27-3)・すり石(4)・砥石・石皿(6)・剥片・礫が出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代前期末葉である。

(芝田)

VH-3 (図IV-1-13~15/表1~5・7/図版4)

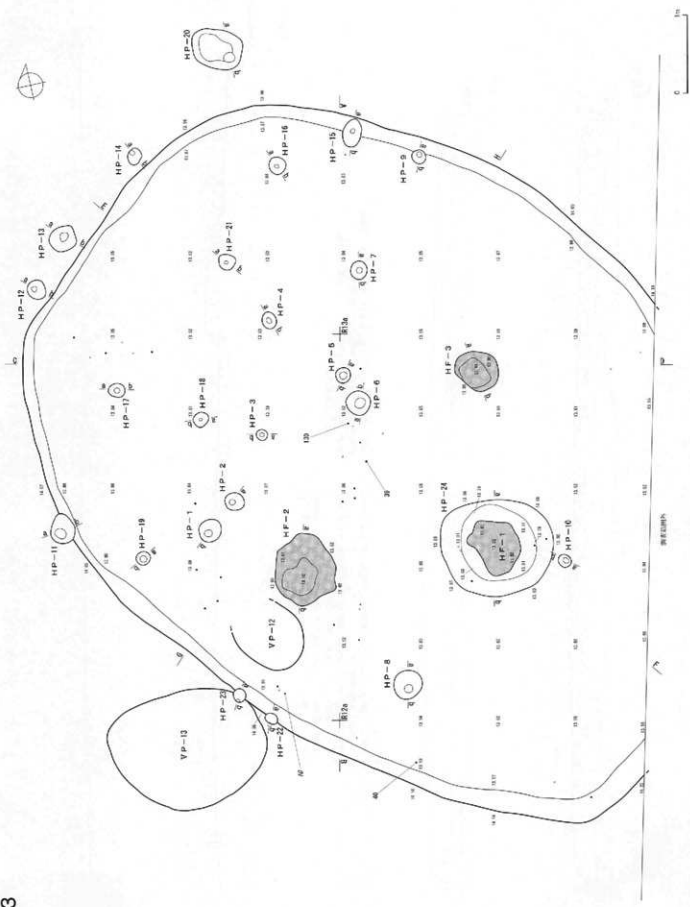
確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた竪穴住居跡。V層の調査中、遺物が密集して出土した部分があり、土層観察用の土手を残して周囲のV層土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。南東側の一部は調査範囲外である。

覆土 1・2層はV層が落ち込んだ腐植土。2層には掘り上げ土の流れ込みと考えられるEn-a降下軽石が混入しており、特に中央部に多い。3~5層は腐植土とロームの混合で、壁際から床面直上にかけて堆積していた。5層は北側のみ疎らに分布する。いずれも自然堆積である。

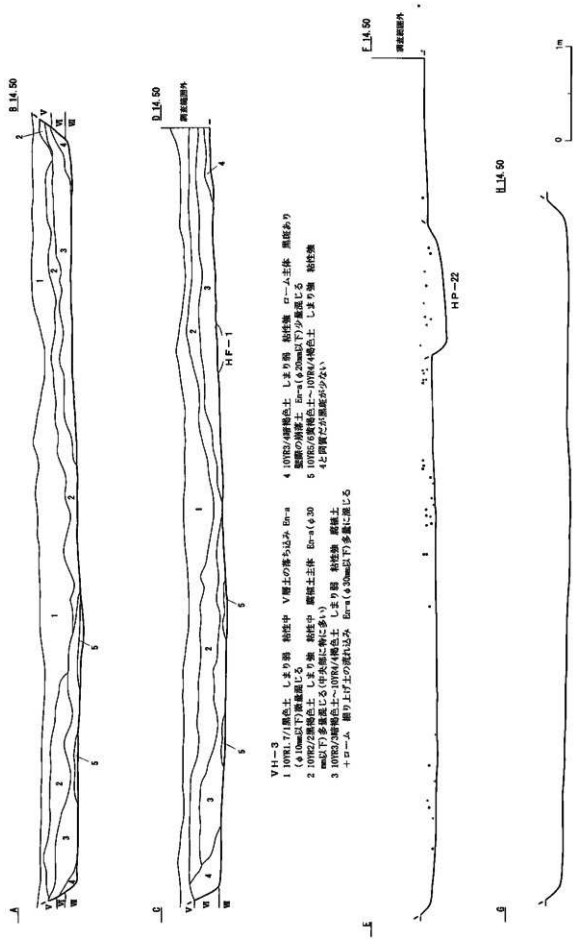
形態 平面形は楕円形。壁面は明瞭で、内傾する。床面はほぼ平坦である。西側でVP-13と接するが、掘り込みに重複は見られない。ただし、この住居の柱穴HP-23がVP-13を掘り込んでいることから、VH-3が新しい。また、西側の覆土~床面がVP-12に壊されている。床面より焼土3か所(HF-1~3)、土坑1基(HP-24)、小土坑16基(HP-1~10・15~19・21)、掘り込みの外側から小土坑7基(HP-11~14・20・22・23)が検出された。

付属遺構 HF-1・HP-24:HF-1は床面中央よりやや南側に位置する、HP-24の内部に設けられた炉である。HP-24は平面形が楕円形、断面は皿形である。HF-1は、この浅いくぼみ(HP-24の坑底面)が焼けたものである。上部に焼土粒・炭化材・黒曜石のフレイク・チップを多く含む腐植土(HP-24の覆土1・3層)が堆積していた。

VH-3

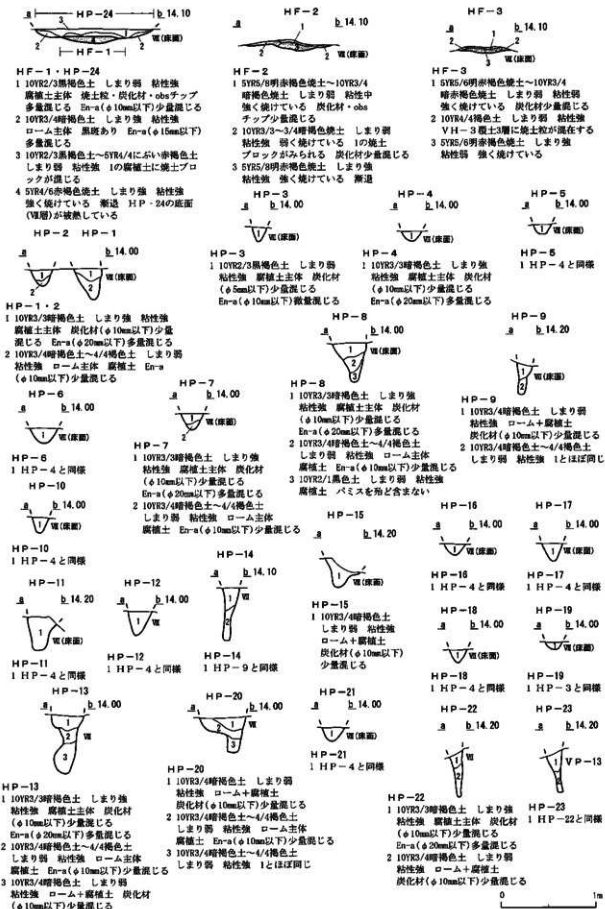


図IV-1-13 VH-3



- VH-3
 1 10YR1.7/1 褐色土 しまり弱 粘性中 V層土の落ち込み En-a (φ10mm以下) 厚風化する
 2 10YR2/2 暗褐色土 しまり強 粘性中 腐植土主体 En-a (φ30mm以下) 多風化する (中外面に特に多い)
 3 10YR3/3 暗褐色土 ~ 10YR4/4 褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土 + ロー-A 掘り上げ土の混れ込み En-a (φ30mm以下) 多量に混じる
- 4 10YR3/4 暗褐色土 しまり弱 粘性強 ロー-A主体 風化あり 腐植の崩落土 En-a (φ20mm以下) 少量混じる
 5 10YR5/6 黄褐色土 ~ 10YR6/4 褐色土 しまり強 粘性強 4と同質だが風化が少ない

図IV-1-14 VH-3土層断面



図IV-1-15 Vh-3・Hf-1~3、Hp-1~24土層断面

HF-2：HF-1より約2m離れた、西側の床面に設けられた炉。HF-1よりもやや規模が小さいが、強く焼けている。副次的な用途をもつ炉として、継続的に使用されたと考えられる。

HF-3：HF-1より約2m離れた、東側の床面に設けられた炉。HF-1・2よりも規模が小さいが、強く焼けている。副次的な用途をもつ炉として、継続的に使用されたと考えられる。

HP-1～23：これらは住居跡の内外に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形や楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲しており、住居の中心に向かって強く内傾するものはない。深さは、床面やⅦ層上面より15cm以下の浅いもの（HP-2～7・16～19・21）と、15～50cmのやや深いもの（HP-1・8・9・11～15・20・22・23）がある。掘り込みの深いものは床面の縁辺部（壁際）や屋外に多い。HP-20は坑口部が大きく広がっており、外側へ柱が倒れた可能性がある。

遺物出土状況 床面より疎らに遺物が出土した。土器は、Ⅱ群b-1・2類（図Ⅳ-2-13-36～40）・Ⅲ群b-3類（図Ⅳ-2-19-128～130）、石器等は、石槍（図Ⅳ-2-28-4）・石錐片・つまみ付きナイフ（10）・石斧片・北海道式石冠片・剥片・礫などが出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代前期末葉である。（芝田）

VH-4（図Ⅳ-1-16・17／表1～5・7／図版5）

確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた竪穴住居跡。Ⅵ層上面で、Ⅴ層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。長軸および短軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はⅤ層中と推測される。

覆土 1・2層はⅤ層を起源とする腐植土。2層にはEn-a降下軽石が多量に混入している。3層はローム主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられる。4層は腐植土とロームの混合で、床面直上に堆積していた。5層はいわゆる三角堆積した壁際の腐植土。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は北西側が少し突き出した不整形円形。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、中央部と北側が若干低い。床面より焼土1か所（HF-1）、土坑2基（HP-3・4）、小土坑1基（HP-1）、掘り込みの外側から小土坑1基（HP-2）が検出された。

付属遺構 HF-1・HP-4：HF-1は床面中央よりやや南側に位置する、HP-4の内部に設けられた炉である。HP-4は平面形が不整形な楕円形、断面は皿形である。HF-1は、この浅いくぼみ（HP-4の坑底面）が焼けたものである。上部に焼土粒・炭化材・黒曜石製の剥片を多く含む腐植土（HP-4の覆土1層）が堆積していた。

HP-1：南東側の床面で検出された小土坑で、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形を呈する。掘り込みは垂直で、深さは床面より約10cmである。

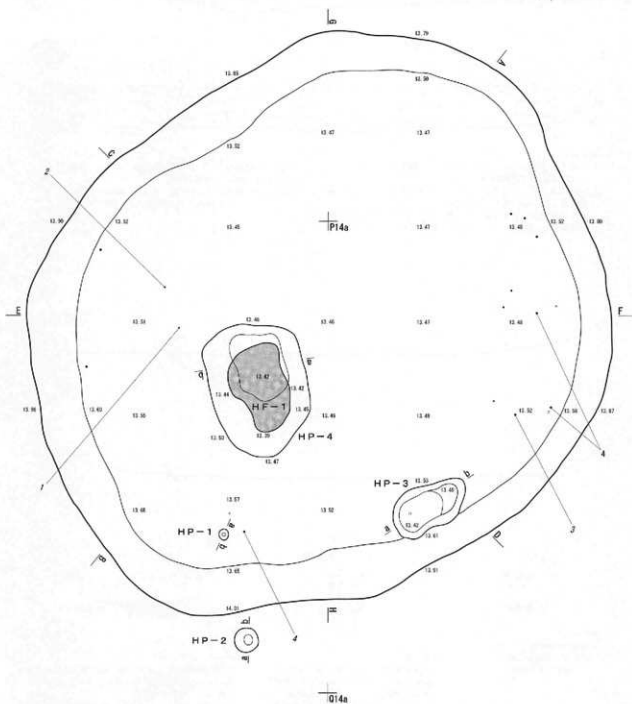
HP-2：住居の南東側外で検出された小土坑で、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形を呈する。掘り込みは先端が細く、断面がわずかに湾曲する。深さはⅦ層上面より約60cmである。

HP-3：床面西側の壁際に検出された、浅い土坑。平面形は不整形な楕円形を呈する。坑底部は段が見られ、南側の一部が少し低い。覆土はVH-4の覆土5層と同じである。用途は不明。

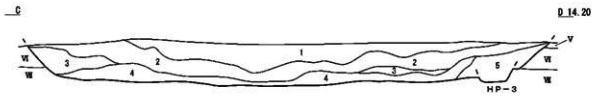
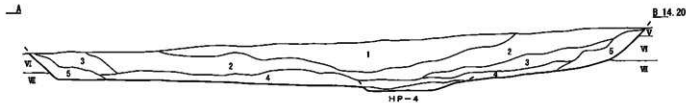
遺物出土状況 全体的に出土遺物は少ないが、西側の床面でややまとまりが見られる。土器は、Ⅱ群b-1～3類（図Ⅳ-2-4-4、13-41～49）・Ⅲ群b-3類（図Ⅳ-2-19-131）・Ⅳ群a-2類（図Ⅳ-2-19-134）、石器等は、つまみ付きナイフ（図Ⅳ-2-28-1・2）・スクレイパー（3）・石斧片・砥石（4）・剥片・礫などが出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代前期末葉である。（芝田）

VH-4



図IV-1-16 VH-4



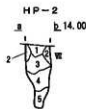
VH-4

- | | |
|---|---|
| 1 10YR1/7/1黒色土 しまり強 粘性中 V層土の落ち込み
En-a(φ20mm以下)少量混じる | 4 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性強 ローム+腐植土
En-a(φ20mm以下)少量混じる |
| 2 10YR2/1黒色土 しまり強 粘性中 V層土主体 En-a(φ30mm以下)
多量混じる 掘り上げ土の流れ込み | 5 10YR2/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ロームバミス(φ30mm以下)少量混じる 壁際の崩落土 |
| 3 10YR4/4褐色土 しまり強 粘性強 ローム主体 En-a(φ30mm以下)
多量混じる 腐植土ブロックあり 掘り上げ土の流れ込み | |



HP-1

- 1 10YR2/3暗褐色土 しまり弱
粘性強 腐植土主体 ローム
(φ5mm以下)少量混じる



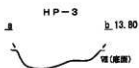
HP-2

- 1 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中
腐植土主体 Ta-d(φ15mm以下)少量混じる
- 2 10YR4/6褐色土 しまり弱 粘性強
ローム主体 En-a(φ10mm以下)多量混じる
- 3 10YR2/3暗褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 ローム少量混じる
- 4 10YR4/4褐色土 しまり弱 粘性強
ローム主体 腐植土少量混じる
- 5 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 En-a(φ10mm以下)少量混じる



HP-4 + HF-1

- 1 10YR2/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
HF-1の壁土粒が多量に混在する obsアツプが
少量出土 HP-4覆土
- 2 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(φ10mm以下)少量混じる HP-4覆土
- 3 5YR4/6赤褐色土 しまり弱 粘性中 HP-4
の坑底面が強く被熱している 構造

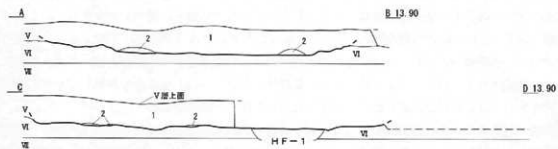
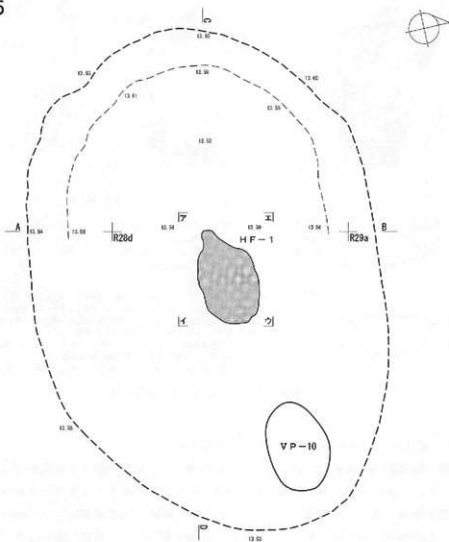


HP-3



図IV-1-17 VH-4土層断面

VH-5

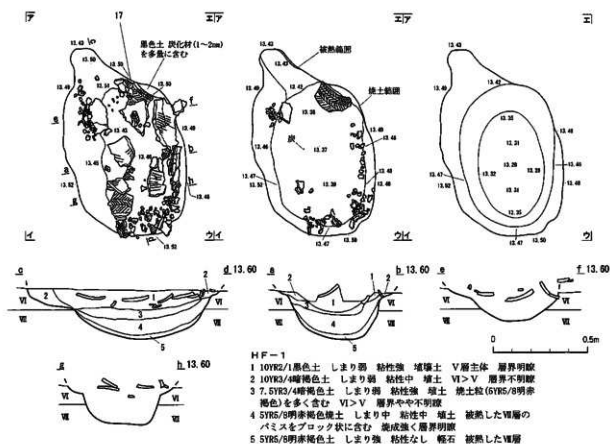


VH-5

- 1 10YR2/1黒色土 しまり割 粘性強 壤土 V層の自然堆積土
 2 10YR3/3暗褐色土 しまり割 粘性強 壤土 V>VI 自然堆積土?

0 1m

図IV-1-18 VH-5



- HF-1
- 1 10YR2/1黒色土 しまり器 粘性強 埴土 V層主体 層界明瞭
 - 2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性中 埴土 VI>V 層界不明瞭
 - 3 7.5YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 埴土 埴土粒(5YR5/8明赤褐色)を多く含む VI>V 層界やや不明瞭
 - 4 5YR5/8明赤褐色土 しまり中 粘性中 埴土 被熱したV層のバミスブロック状に含む 炭化強く層界明瞭
 - 5 5YR5/8明赤褐色土 しまり強 粘性なし 軽石 被熱したV層

図4-1-19 VH-5・HF-1

VH-5 (図4-1-18・19/表1~5・11/図版6)

確認・調査 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で土器片を伴う黒色土の落ち込みを検出した。土器片の多くが破断面を上直立しており、黒色土に炭化材が多く含まれていたことから、土器囲炉と判断した(HF-1)。HF-1から東側(R28調査区)はV層の調査が終了していたため、Q28調査区の東境(Rライン)断面で土層を観察した。明瞭な掘り込み・床面は確認されなかったが、HF-1を中心としてV層土がごく浅くくぼんでいたことから、住居跡と認定した。

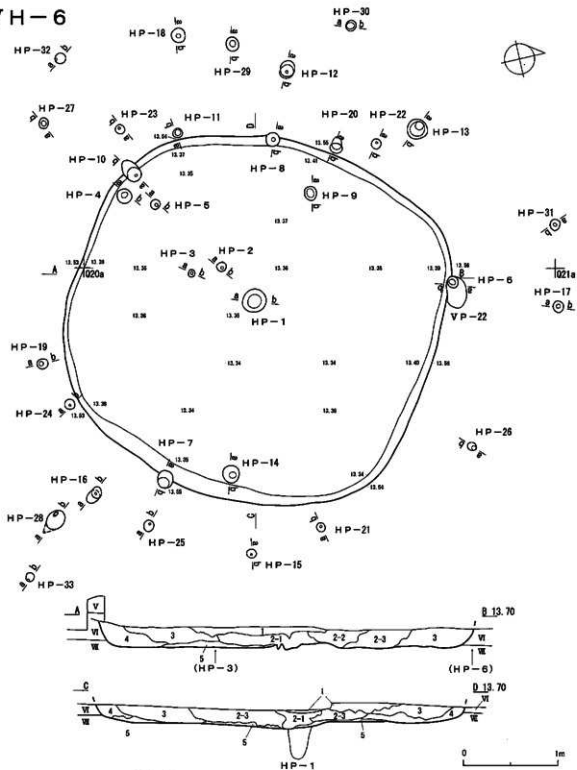
覆土 1・2層ともV層の自然堆積と考えられるが、下部のVI層との層境がやや乱れている。
形態 HF-1より東側を確認前に削平してしまったため、全体の平面形は不明である。西側の調査部分から、不整形円形であった可能性がある。HF-1の構築面から、V層下位~VI層上位が床面だったと推測される。HF-1より約2m東に位置するVP-10は、坑底面が被熱しており、住居の建て替えもしくは炉の移設以前に使用されていた古い炉跡の可能性はある。

付属遺構 HF-1：深さ約30cmの不整形な掘り込みの内部に構築された土器囲炉。IV群a-2類土器が炉材として使用されている(図4-2-7-17、19-135・136)。口縁~胴部の大型破片と細片が細長い「コの字」状に配置され、西側が開く。炉内部は炭化材を多量に含む黒色土が堆積し、その下部から強く被熱した焼土層が検出された。また、掘り込みの周縁部および底面のVI~VII層でも被熱範囲が認められた。

遺物出土状況 覆土中からII群b類・IV群a-2類土器、剥片、礫が破らに出土した。HF-1からは炉材のIV群a-2類土器のほか、黒曜石製の石鏃・剥片が出土している。

時期 HF-1に使用されている土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。(芝田)

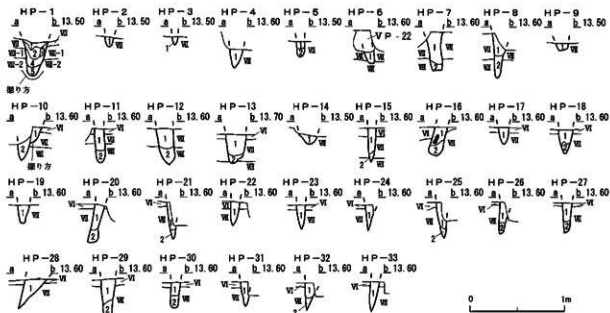
VH-6



VH-5

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性強 壤土 V層主体 E_r-a(φ1~20mm)とT_r-d(φ1~15mm)をまばらに含む 層界は不明瞭
- 2 3枚に分層できるが層界は不明瞭で漸移的
- 2-1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性強 VI>V 壤土
- 2-2 10YR4/6褐色土 壤土 しまり強 粘性弱 VI層主体
- 2-3 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性弱 壤土 VI層主体
- 3 10YR4/4褐色土 しまり強 粘性弱 壤土 VI>V
- 4 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 壤土 VI>V 層界はやや明瞭
- 5 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中 壤土 V>VI 層界は明瞭

図IV-1-20 VH-6



HP-1

- 1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性强 埴土 V>VI
Ta-d($\phi 1\sim 5mm$) En-a($\phi 1\sim 10mm$)をまばらに含む
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性强 埴壤土 V層主体
VI層のローム質土をまばらに含む
- 3 10YR5/6黄褐色土 しまり強 粘性强 埴壤土 VI層主体
En-a($\phi 1\sim 30mm$)をブロック状に含む
- 4 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性强 埴壤土 VI>V
Ta-d($\phi 1\sim 5mm$) En-a($\phi 1\sim 10mm$)を多く含む
- 5 10YR4/6褐色土 しまり強 粘性强 埴壤土 VI>VI>V
En-a($\phi 1\sim 30mm$)をブロック状に含む

HP-2

- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性强 埴土 V層主体

HP-3

- 1 HP-2と同様

HP-4

- 1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性强 埴土 V>VI
Ta-d($\phi 1\sim 5mm$) En-a($\phi 1\sim 10mm$)をまばらに含む

HP-5

- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性强 埴土 V層主体
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性强 埴壤土 V層主体
VI層のローム質土をまばらに含む

HP-6

- 1 HP-2と同様

HP-7

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 埴土
VI層主体 層界は漸変 Ta-d($\phi 1\sim 3mm$)をごくわずかに含む
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性强 埴土 V>VI
Ta-d($\phi 1\sim 5mm$) En-a($\phi 1\sim 10mm$)をまばらに含む

HP-8

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 埴土
VI層主体 層界は漸変 Ta-d($\phi 1\sim 3mm$)をごくわずかに含む
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性强 埴壤土 V層主体
VI層のローム質土をまばらに含む

HP-9

- 1 HP-4と同様

HP-10

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 埴土
VI層主体 層界は漸変 Ta-d($\phi 1\sim 3mm$)をごくわずかに含む
- 2 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性强 埴土 V層主体

HP-11

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 埴土
VI層主体 層界は漸変 Ta-d($\phi 1\sim 3mm$)をごくわずかに含む
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性强 埴壤土 V層主体
VI層のローム質土を多く含む

HP-12

- 1 HP-10と同様

HP-13

- 1 HP-7と同様

HP-14

- 1 HP-4と同様

HP-15

- 1 HP-10と同様

HP-16

- 1 HP-7と同様

HP-17

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし
埴土 VI層主体 層界は漸変
Ta-d($\phi 1\sim 3mm$)をごくわずかに含む

HP-18

- 1 HP-7と同様

HP-19

- 1 HP-17と同様

HP-20

- 1 HP-7と同様

HP-21

- 1 HP-10と同様

HP-22

- 1 HP-17と同様

HP-23

- 1 HP-17と同様

HP-24

- 1 HP-17と同様

HP-25

- 1 HP-10と同様

HP-26

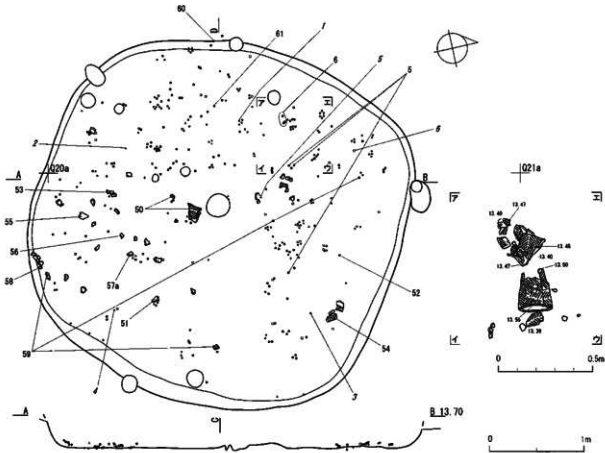
- 1 HP-10と同様

HP-27

- 1 HP-8と同様



図IV-1-21 V H-6・HP-1～33土層断面



図IV-1-22 V H-6 遺物出土位置図

V H-6 (図IV-1-20~22/表1~5・7・11/図版7)

確認・調査 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で暗褐色～褐色土の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を十字に設定し、トレンチ調査を行ったところ、土層断面で平坦な床面と壁の立ち上がりを確認した。掘り込み面はV層下位～VI層上位と考えられる。

覆土 1・2層は竪穴中央部、3・4層は壁際、5層は床面直上に堆積する。いずれも自然堆積で、V～VII層を起源とする。

形態 平面形は隅丸方形。床面は平坦で、全体に硬化面が認められる。壁面はやや急角度で立ち上がる。炉跡は検出されなかった。掘り込みの内外で柱穴33基を検出した。

付属遺構 HP-1～34：掘り込みの内部および壁際で9基（HP-1～5・8～10・14）、外部で24基（HP-6・7・11～13・15～33）を検出した。床面では、中央にHP-1、長軸上にHP-9・14が位置する。外部の柱穴は周囲をめぐるように位置する。竪穴内及び壁際の柱穴は垂直に近く、竪穴外のは外踏ん張りとなる傾向がある。柱穴先端は尖るものが多く、丸または角状のものは少ない。HP-1の覆土より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定（AMS法）を行ったところ、暦年較正年代で4,489±35yrBPという数値が得られた（VI章第1節参照）。

遺物出土状態 床面からほぼ完形のII群b-2類土器が検出しの状態で2個体出土した（図IV-2-4-5・6）。ほかにII群b-2・3類の破片（図IV-2-14-50～62）、石鏃（図IV-2-28-1～2）、石錐（4）、石斧片、北海道式石冠片、砥石片（6）、石皿片、剥片、礫などが出土した。

時期 床面出土土器から、縄文時代前期後半と考えられる。

（芝田）

VH-7 (図IV-1-23・24/表1~5・7・11/図版8)

確認・調査 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で土器片を伴う黒色土の落ち込みを検出した。土器片が弧状に折り重なっており、黒色土に炭化材が多く含まれていたことから土器囲炉と判断した(HF-1)。HF-1を中心に土層観察用の土手を十字に設定し、トレンチ調査を行った。土層断面では明瞭な掘り込みは確認されなかったが、V層土がごく浅くぼんでいたため住居跡と認定した。

覆土 1・2層とも自然堆積層と考えられるが、下部のVI層との層境がやや乱れている。

形態 東側の約1/3が攪乱により失われているため、全体の平面形は不明だが、西側の調査部分から、不整楕円形の可能性がある。HF-1の構築面から、VI層上位が床面だったと推測される。

付属遺構 HF-1：深さ約40cmの不整形な掘り込みの内部に構築された土器囲炉。IV群a-2類土器が炉材として使用されている(図IV-2-8-18、19-137)。土器片を貼り付けるための浅い凹みを作り出すため、掘り込みの下部は埋め戻されている。口縁~胴部の大型破片と細片が、器外面を内側に向けて「コの字」状に配置され、西側が開く。炉内部は炭化材を多量に含む黒色土が堆積し、その下部から薄い焼土層が検出された。焼土が小規模であることから、掻き出しが行われたと考えられる。炉内より採取した炭化物2点を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、暦年較正年代で3,490±31yrBP、3,528±31yrBPという数値が得られた(VI章第1節参照)。

HP-1~8：浅いくぼみの内部で1基(HP-5)、外部で7基(HP-1~4・7・8)の柱穴を検出した。HP-3のみHF-1方向へ内傾するが、他は断面が垂直である。先端形状は角形(HP-1・2)、丸形(HP-4・6・8)、尖るもの(HP-3・5・7)がある。

遺物出土状況 床面付近よりII群b類土器、IV群a-2類土器、剥片、礫が疎らに出土した。また、覆土中よりII群b類土器、石鏃(図IV-2-29-1)、つまみ付きナイフ(2・3)、北海道式石冠、剥片、礫が出土している。

時期 HF-1に使用されている土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。(芝田)

VH-8 (図IV-1-25/表1~5・7・11/図版9)

確認・調査 調査範囲南側の平坦面に位置する。南西側の約1/2が攪乱のため削平されている。V層の調査において暗褐色土の落ち込みを確認した。攪乱部分を除去して土層断面を観察し、竪穴住居跡と認定した。

覆土 1~4層はV層を起源とする腐植土の流れ込みによる自然堆積である。5~8層はローム主体であり屋根葺き土の可能性もある。

形態 南西側の約1/2が削平されているが、残存する東側から推定すると平面形は楕円形、床面は平坦であり浅皿状である。

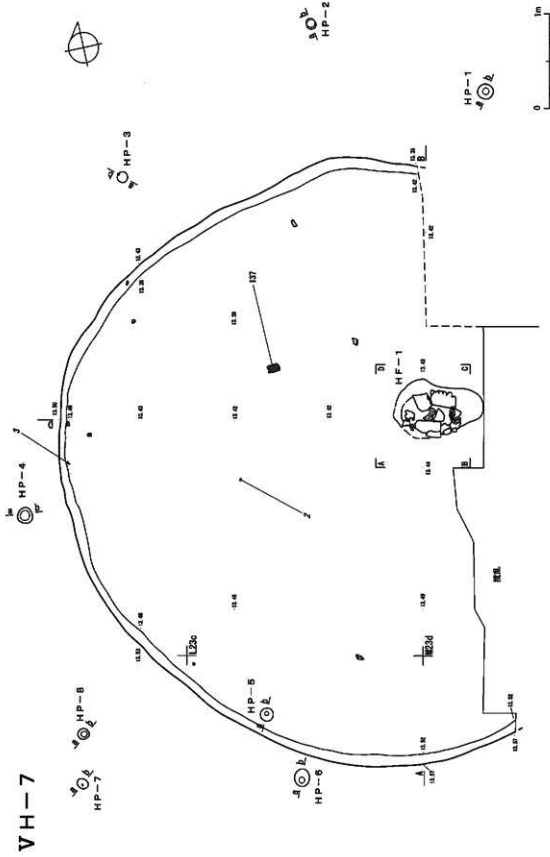
付属遺構 HF-1：炉は床面中心よりやや南側に位置し、被熱は弱く若干赤褐色に変化している程度であり、厚さは約6cmである。

HP-1・2：柱穴は中央部と北東の壁際に位置する。平面は円形で深さは約20cmの小柱穴である。

貼り床：床面中央東寄りに長軸約1.4m、短軸約1.2mの貼り床を確認した。

遺物出土状況 覆土よりII群b-1類土器(図IV-2-4-63・64)、石鏃、ナイフ(図IV-2-29-1)、剥片、礫が出土している。床面からはつまみ付きナイフ(2)、砥石片が出土している。

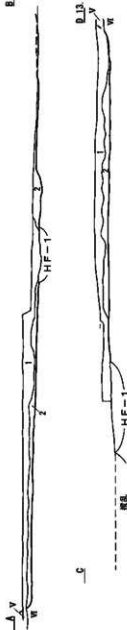
時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)



9

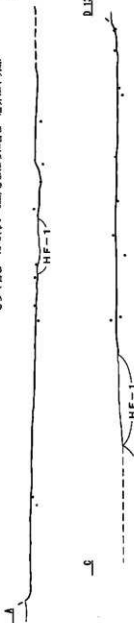
圖IV-1-23 VH-7

0.13.70



VH-7
 1 10VEZ/1黒色土 しまり中 粘性強 埴土 V層主体 E₀-m(φ1~5mm)
 Tr-d(φ1~3mm)をまばらに含む 層界は不明瞭
 2 10VEZ/2黄褐色土 しまり中 粘性強 埴土 V層主体 E₀-m(φ1~10mm)
 を多く含む Tr-d(φ1~3mm)をまばらに含む 層界は不明瞭

0.13.70



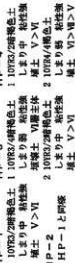
HP-1 HP-2 HP-3 HP-4



HP-5 HP-6 HP-7 HP-8



HP-9



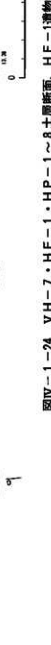
HP-5 HP-7
 1 HP-1と同様 1 HP-2と同様
 HP-6 HP-8
 1 HP-2と同様 1 HP-1と同様

0.13.50



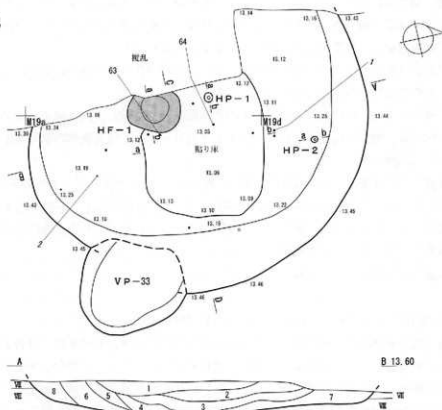
HF-1
 1 10VEZ/3黄褐色土 しまり弱 粘性強
 埴土 VI>V 腐化層(φ1~3mm)を多く含む
 2 10VEZ/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 埴土 VI>V
 3 10VEZ/1黒色土 しまり弱 粘性強 V層主体
 4 STRA/8赤褐色土 しまり弱 粘性強

0.5m



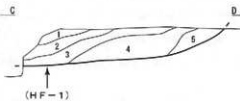
図IV-1-24 VH-7・HF-1・HP-1~8土層断面、HF-1遺物出土状況図

VH-8



VH-8

- | | | | | | | | |
|---------------|------|-----|--------|------------------|------|-----|--------|
| 1 10YR3/3暗褐色土 | しまり中 | 粘性中 | En-a少量 | 5 10YR4/3にぶい黄褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a多量 |
| 2 10YR4/4褐色土 | しまり中 | 粘性中 | En-a少量 | 6 10YR5/4暗褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a少量 |
| 3 10YR3/1黒褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a少量 | 7 10YR4/3にぶい黄褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a多量 |
| 4 10YR3/4暗褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a少量 | 8 10YR5/6黄褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a少量 |



- 貼り床**
- 1 2.5Y橙オリーブ褐色土
 しまり強 | 粘性中 | En-a多量 | 炭化物少量 |



- HF-1**
- 1 10YR2/2黒褐色土
 しまり強 | 粘性中 | En-a多量 |

D 13.60 VH-8

- | | | | |
|------------------|------|-----|--------|
| 1 10YR3/3暗褐色土 | しまり中 | 粘性中 | En-a少量 |
| 2 10YR4/4褐色土 | しまり中 | 粘性中 | En-a少量 |
| 3 10YR3/1黒褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a少量 |
| 4 10YR4/3にぶい黄褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a多量 |
| 5 10YR5/6黄褐色土 | しまり強 | 粘性中 | En-a少量 |



- HP-1**
- 1 10YR2/2黒褐色土
 しまり強 | 粘性中 | En-a少量 |



- HP-2**
- 1 2.5Y橙オリーブ褐色土
 しまり強 | 粘性中 | En-a少量 |



図IV-1-25 VH-8

VH-9 (図IV-1-26/表1~5・7/図版10)

確認・調査 調査範囲南側の緩斜面に位置する。V層調査中に黒色土の落ち込みを検出した。東西と南北にベルトを設定し掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭な壁の立ち上がりを確認した。

覆土 V層を起源とする腐植土の流れ込みによる自然堆積である。

形態 平面形は楕円形であり、床は平坦である。壁は北西側でやや急に、他は緩く立ち上がる。南東側では一度やや急に立ち上がってから緩く立ち上がる。

付属遺構 HF-1: 炉は床面ほぼ中央に東西を長軸として位置し、厚さ約4cmである。

HP-1~10: 壁、壁際に位置する小柱穴である。HP-4~7は北東側の壁に集中しており、入り口等の施設の可能性がある。

遺物出土状況 土器は覆土よりⅡ群b類、Ⅲ群a類・b-3類(図IV-2-19-132・133)、Ⅳ群a-2類(図IV-2-19-134)、Ⅳ群b-1類(図IV-2-20-139・140)・c類が出土しており、石器は石鏃(図IV-2-29-1)、石槍(2)、石斧(3)、Uフレイク、剥片、礫が出土している。床面よりⅣ群b類の土器、Uフレイクが出土している。

時期 床面出土の土器から縄文時代後期中葉である。(菊池)

VH-10 (図IV-1-27~29/表1~5・7・11/図版11)

確認・調査 調査範囲西側の緩斜面上に掘り込まれた竈穴住居跡。V層下位~VI層上面で、黒色土の落ち込みとして検出した。長軸および短軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

覆土 1・2層はV層を起源とする腐植土。2層にはEn-a降下軽石が多量に混入している。3層はロームと腐植土の混合で、掘り上げ土の流れ込みと考えられる。4層は床面直上のロームで固くしまっている。5層は壁際の崩落土で、東側の掘り込みが深い部分(HP-4の周辺)ではしまりが見られた。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は南側がやや広がった隅丸方形。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。床面は西側へ傾斜しており、比高差は約30cmある。覆土4層は床面中央~南西側に偏って分布していることから、床面の高さを調整するための貼り床であったと考えられる。床面より焼土2か所(HF-1・2)、土坑7基(HP-1~4・8~10)、小土坑10基(HP-5~7・11~17)が検出された。住居の掘り込みの外側から付属遺構が確認されなかった。

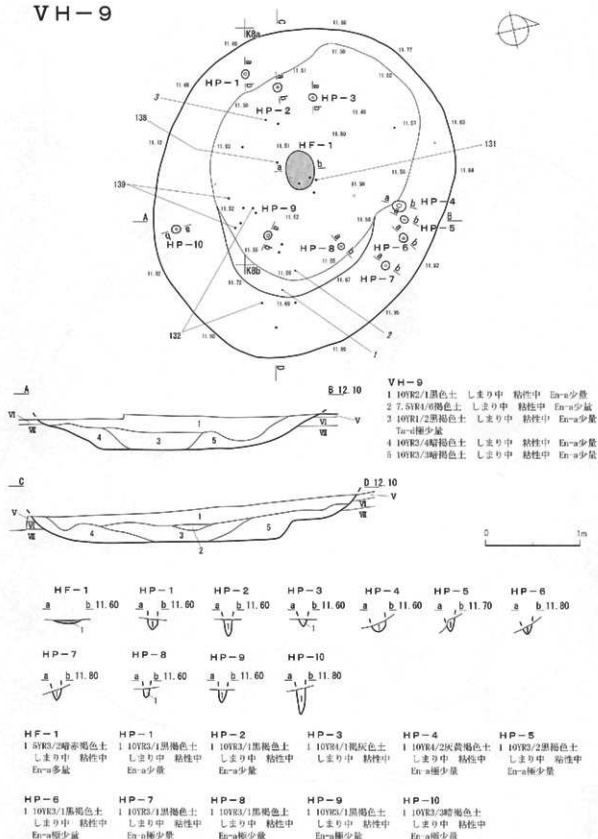
付属遺構 HF-1: 床面中央よりやや北側で検出された炉。平面形は不整な楕円形を呈する。断面はレンズ状で、強く焼けている。火焼面はやくぼんでおり、固くしまっている。

HF-2: HF-1より西側へ約1m離れた床面に設けられた、小規模な炉である。平面形は楕円形。HF-1と同じく、火焼面は周囲よりやくぼんでいる。木根による攪乱を受ける。

HP-1~4・8~10: いずれも床面の壁際付近で検出された。長径1m以上の大型のもの(HP-1・2・4)は南側、長径50~60cmのやや小型のもの(HP-3・8~10)は北~西側に分布する。平面形は不整な楕円形で、断面は浅い皿形を呈する。掘り込みは床面より20cm以下のものが大半である。HP-1・2・4・8の内部には、住居の覆土2・3・5層が流れ込んでいる。HP-2・3およびHP-8・9は重複しており、それぞれHP-3、HP-9が新しい。

HP-5~7・11~17: これらは住居跡の床面に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形もしくは楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲しており、住居の中心に向かって強く内傾するものはない。深さは、床面より15cm以下の浅い

VH-9



図IV-1-26 VH-9

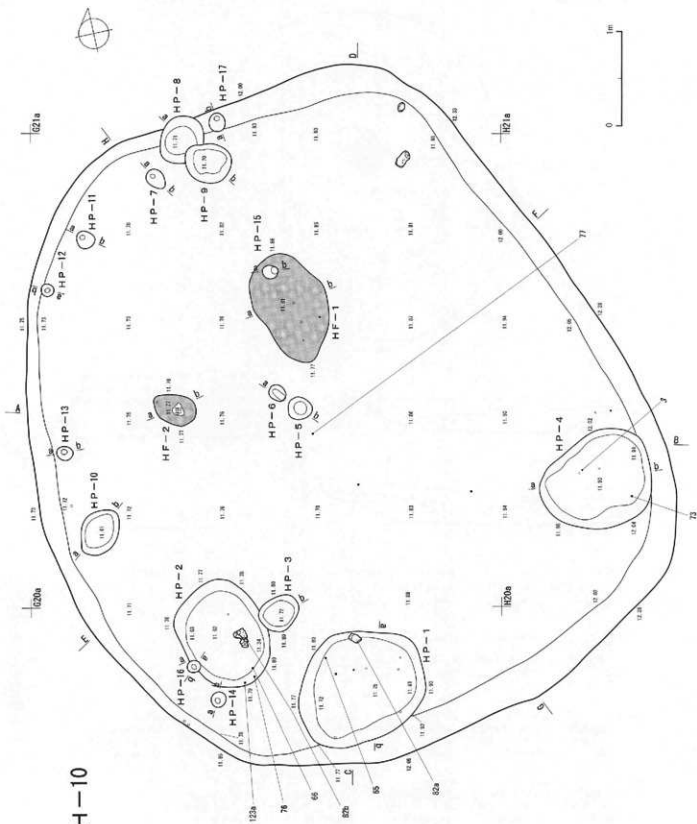
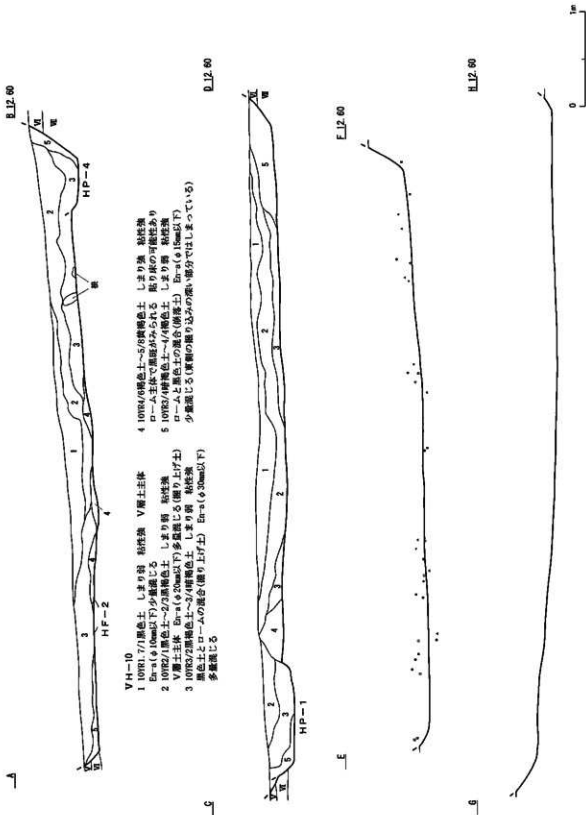
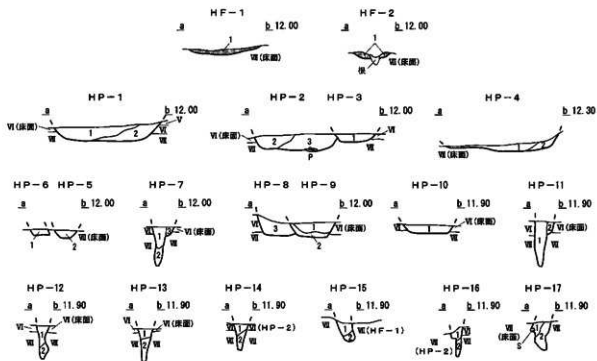


图 IV-1-27 VH-10



図IV-1-28 VH-10土層断面



HF-1

1 5YR4/8明赤褐色土→10YR2/3暗褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土中に堆土が斑状に混在する 炭化材(φ10mm以下)少量混
じる 薪炭 火焼面はやや固くしまっている

HF-2

1 5YR4/6赤褐色土→10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土中に堆土が斑状に混在する 炭化材(φ5mm以下)微量混
じる 薪炭 周囲より固めて、被熱している

HP-1

1 10YR3/2黒褐色土→3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
黒色土とロームの混合(摺り上げ土) En-a(φ30mm以下)多量混じる
2 10YR3/4暗褐色土→4/4褐色土 しまり弱 粘性強 ロームと
黒色土の混合(粘着土) En-a(φ15mm以下)少量混じる

HP-2・3

1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/1黒色土→2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 V層土主体
En-a(φ20mm以下)多量混じる(摺り上げ土)
3 10YR3/2黒褐色土→3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 黒色土と
ロームの混合(摺り上げ土) En-a(φ30mm以下)多量混じる

HP-4

HP-1と同様

HP-6・5

1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土 En-a(φ20mm以下)
多量混じる
2 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土 En-a(φ5mm以下)
少量混じる

HP-7

1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土
2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土 En-a(φ10mm以下)
少量混じる
3 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム
柱の摺り方か

HP-8・9

1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)多量混じる
2 10YR3/4暗褐色土 しまり強 粘性強 腐植土+ローム En-a
(φ10mm以下)多量混じる
3 10YR2/1黒色土→2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 V層土主体
En-a(φ20mm以下)多量混じる(摺り上げ土)

HP-10

1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)多量混じる

HP-11

1 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 炭化材
(φ5mm以下)微量混じる
2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 ローム+腐植土
柱の摺り方か

HP-12

1 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ローム少量混じる
2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ロームブロックあり

HP-13

1 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム

HP-14

1 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ローム少量混じる

HP-15

1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体(III層土?)
Ta-c(φ5mm以下)少量混じる
2 10YR2/1黒色土→6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性弱
腐植土+En-a U S Pの可能性あり

HP-16

1 10YR2/3黒褐色土→3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土+ローム En-a(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)微量混じる

HP-17

1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ15mm以下)多量混じる

0 1m

図4-1-29 VH-10・HF-1・2、HP-1~17土層断面

もの（HP-5・6）と、30～50cmのやや深いもの（HP-7・11～17）がある。掘り込みの深いものは床面の縁辺部（壁際）に多い。HP-15はHF-1を掘り込んでおり、覆土にTa-c降下軽石が少量混入することから、Ⅲ層中の遺構（ⅢSP）の可能性はある。

遺物出土状況 HF-1・2、HP-1・2・4などの付属遺構より遺物が多く出土した。これ以外の床面出土の遺物は、疎らに分布する。土器は、Ⅱ群a類・Ⅱ群b-1～3類（図IV-2-4-7・8、15-65～82）・Ⅲ群a類（図IV-2-18-123）・Ⅳ群a類、石器等は、つまみ付きナイフ・石斧・砥石・台石・剥片・鏝が出土している。

時期 床面よりⅡ群b類土器が多く出土していることから、縄文時代前期末葉である。（芝田）

VH-11（図IV-1-30/表1～5・7・11/図版12）

確認・調査 標高10.6～11.0m、祝梅川右岸肩部にあたる緩斜面上に立地する。包含層調査において、焼土および柱穴とみられる円形の黒色土を検出した。竪穴住居跡を想定して調査したが、発掘区境などの土層観察では壁面の立ち上がりは確認できなかった。Ⅵ層上面まで掘り下げ、半截により柱穴確認を行った。その結果、全体の形状・柱穴配置は不明瞭ながら、炉と柱穴等で構成される住居跡と推定した。

覆土 焼土と柱穴の周辺からは覆土と推定できる堆積土は確認されなかった。

形態 平面形は不明。床面付近より焼土2か所（HF-1・2）、粘土・炭化物分布域1か所、柱穴等12基（HP-1～12）を検出した。

付属遺構 HF-1・2：住居跡の中心部から南東寄りに位置する炉。試掘坑によりそれぞれ欠損するが、平面形はどちらもほぼ楕円形である。HF-1は断面レンズ状の被熱層で、Ⅵ層近くに及んでいる。軽石表面も赤色に被熱している。上面は黒色土混じりで、炭化物を少量含んでいる。HF-2は風倒木の影響があり、黒色土上に被熱層がある。HF-2の東側に5～6cmの厚さをもった粘土ブロックがあり、周辺に炭化物が広がっている。この炭化物を試料として放射性炭素年代測定（AMS法）を行ったところ、暦年較正年代で3,407±32yrBPという数値が得られた（Ⅵ章第1節参照）。

HP-1～12：径20～25cm、深さ20cm前後の柱穴が多い。HP-10・1・7とHP-6・5は柱穴間距離がそれぞれ1.8～1.9mで柱穴ラインが直角になることから、住居跡の主柱穴を構成する可能性がある。焼土付近の柱穴HP-2・12は深い柱穴で、しまりのない黒色土の覆土である。HP-3は浅い楕円形の土坑。出入口等にかかわる可能性がある。

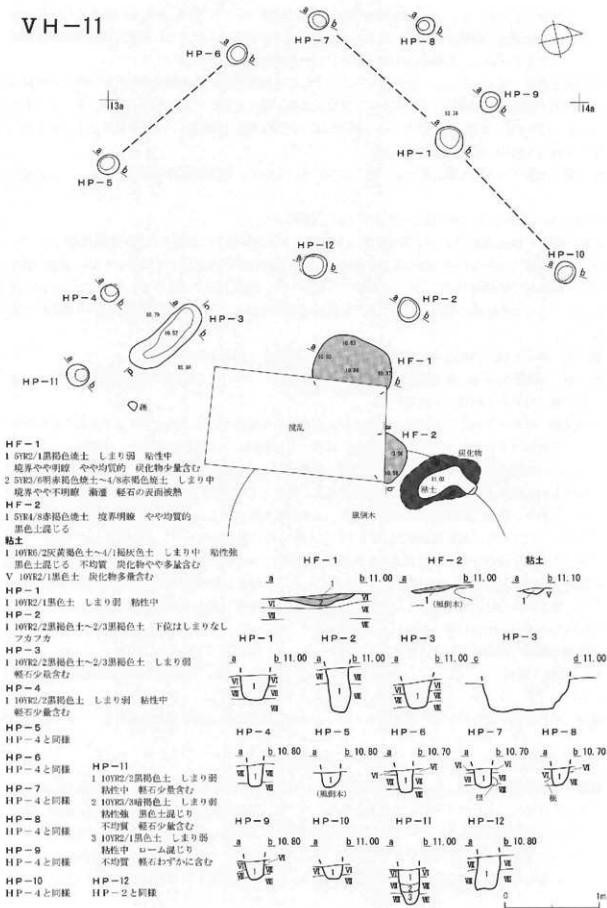
遺物出土状況 床面付近およびHF-1、HP-2より、Ⅳ群b-1類土器（図IV-2-20-141・142）、石鏝（図IV-2-30-1）、両面調整石器（2）、台石片（3）石皿片（4）、剥片等が出土している。

時期：出土遺物や構造がVH-12に類似することから、縄文時代後期中葉と思われる。（阿部）

VH-12（図IV-1-31/表1～5・7・11/図版13）

確認・調査 標高10.7～11.0m、祝梅川右岸肩部にあたる緩斜面上に立地する。包含層調査において、焼土および柱穴とみられる円形の黒色土を検出した。竪穴住居跡を想定して調査したが、南側の調査区境および北側の発掘区境などの土層観察では壁面の立ち上がりは確認できなかった。Ⅵ層上面まで掘り下げ、半截により柱穴確認を行った結果、炉と4本主柱穴・その他の柱穴・土坑で構成される住居跡と認定した。柱穴の配置や覆土の堆積状況から、柱穴を埋め戻した上、建て替えが行われたと推定される。

VH-11



図IV-1-30 VH-11

なお同様の住居跡は、当遺跡と市道祝梅川第2道路を挟んで隣接する梅川4遺跡で検出されている(北埋調報269集『千歳市梅川4遺跡(2)』VH-1・VH-2)。

覆土 南側の調査区境の土層断面から、En-a降下軽石を含む黒色～暗褐色土の堆積を確認した。
形態 平面形は不明。床面付近より焼土1か所(HF-1)、柱穴5基(HP-1～3・6・7)、土坑2基(HP-4・5)を検出した。

付属遺構 HF-1 VI層上面で検出した。平面形は楕円形で、住居跡の中心部から北寄りに位置する。断面レンズ状の被熱層はVII層に及んでいる。軽石表面も赤色に被熱している。

HP-1～3・6・7 径25～30cm、検出面からの深さ30～40cmと規格性がある。主柱穴は4本で、①HP-1・2・7・推定調査区外柱穴1基、②HP-6・3・推定調査区外柱穴2基、の組み合わせである。これらの柱穴の配列は概ね正方形である。柱穴の覆土は、前者がやや明るくしまっており、後者が暗くしまりのない土壌である。覆土の状況から前者が古く後者が新しいとみられる。柱穴間距離は後者の場合で2.35m×2.00mほどである。

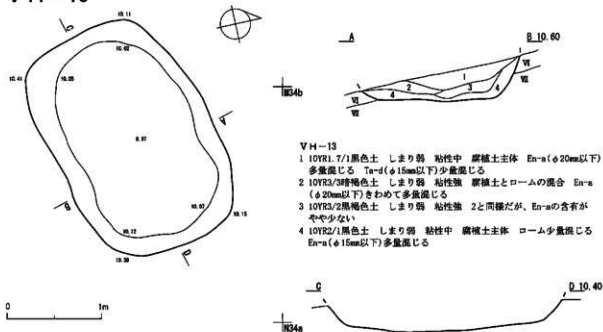
HP-4・5 長径1m前後の楕円形のやや深い土坑。住居の時期とは異なる可能性があるが、関連するものとして掲載した。HP-4は柱穴間ラインの内側、HP-5は外側にある。

遺物出土状況 床面付近よりIV群b-1類土器(図IV-2-20-143～146・148)、台石、礫が出土した。また、住居跡東側のHP-5付近から、粘土が盛られた(土器の内部に詰められた)IV群b-1類土器の深鉢約1/4個体(図IV-2-19-147)のほか、つまみ付きナイフ(図IV-2-30-1)、たたき石、剥片が出土した。HP-6付近のくぼみから礫がややまとまって出土した。

時期: 出土遺物から、縄文時代後期中葉である。

(阿部)

VH-13



図IV-1-32 VH-13

VH-13 (図IV-1-32/表1~5/図版14)

確認・調査 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に掘り込まれた小型の竪穴住居跡。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。東側を半載して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

覆土 1層はV層を起源とする腐植土。2・3層はロームと腐植土の混合。4層は床面直上の腐植土。2~4層にはEn-a降下軽石が多量に混入している。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は隅丸長方形。壁面は明瞭で、南側の掘り込みが深い。斜面上で床面を平坦に調整するため考えられる。付属遺構は確認されなかった。千歳市美々5遺跡、同キウス5遺跡B地区では、やはり斜面上で類似する形態の縄文時代前期前半の竪穴住居群が検出されている。

遺物出土状況 覆土中よりII群a-1類土器が出土した。

時期 立地と形態、出土遺物から、縄文時代前期前半である。(芝田)

VH-14 (図IV-1-33/表1~5・7・11/図版14)

確認・調査 V層上面で楕円形のくぼみを確認した。その周囲をV層下位まで掘り下げたところ、くぼみの長軸・短軸に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、竪穴式住居跡として調査した。

覆土 覆土は自然堆積とみられ、2層では炭化木片が混じる。

形態 平面形は上端・下端とも楕円形であるが、下端の短軸東側は内にやや入り込む。床面は皿状で緩やかに立ち上がる。

付属遺構 炉跡や柱穴は認められなかった。

遺物出土状況 遺物は覆土から土器364点、石器等1,826点が出土した。覆土中では遺物等が集中する部分が見られ、北東壁付近では割れたIV群b-2類土器が内向きに重ね合わせられた状態で出土した(図IV-2-11-23~25)。土器の大半はIV群b-2類(図IV-2-20-149~155)である。また南壁付近では、緑色泥岩のフレイク等の集中、住居の中央よりやや北東側では黒曜石のフレイク・チップの集中がある。この他、En-a降下軽石の集中が2か所にある。

時期 床面近くでの遺物出土状況から縄文時代後期中葉である。(山中)

VH-15 (図IV-1-34~36/表1~7・11/図版15)

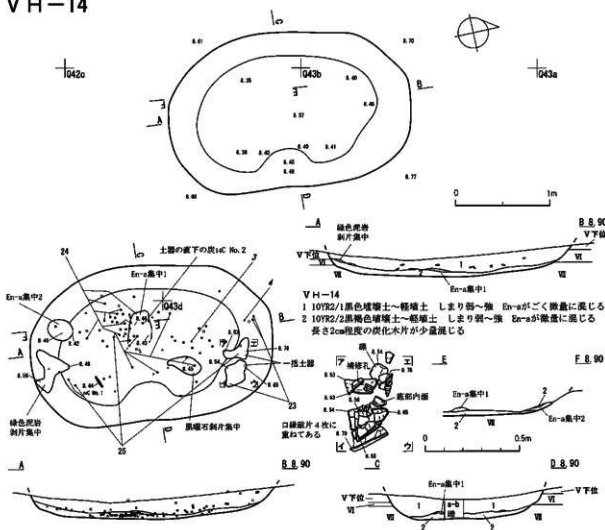
確認・調査 J13付近のV層を調査中に、En-a降下軽石を多く含む直径5m程の円形の黒色土の拡がりを確認した。周辺を精査した後、竪穴住居跡の可能性を考慮し、堆積状況・下端・壁面確認のために十字にベルト(a-b-c-d)を設定し、竪穴内の調査を開始した。調査を進めて土層断面を確認したところ、黒褐色土・暗褐色土を最下層覆土とする竪穴住居跡と判断した。

形態 平面形は上端・下端ともに隅丸の五角形である。床面には2.6×2.2mの隅丸長方形で深さ0.1m程の掘りこみがあり、ベンチ状になっている。床面は平坦で立ち上がりは明瞭であり、壁は緩やかに上方へ立ち上がる。

覆土 8層に分層した。En-a降下軽石が含まれることから、掘り揚げ土が流れ込んだものと考えられる。

付属遺構 ベンチ内の床面に焼土(HF-1)があり、地床炉と考えられる。焼土土壌をフローテーション処理し、微量の炭化材を検出した。東側には楕円形で長軸1.1m、床面からの深さ0.1mの土坑(HP-1)が付属している。柱穴を12基検出した。HP-2~5は主柱穴とみられ、柱はほぼ垂直に立って

VH-14

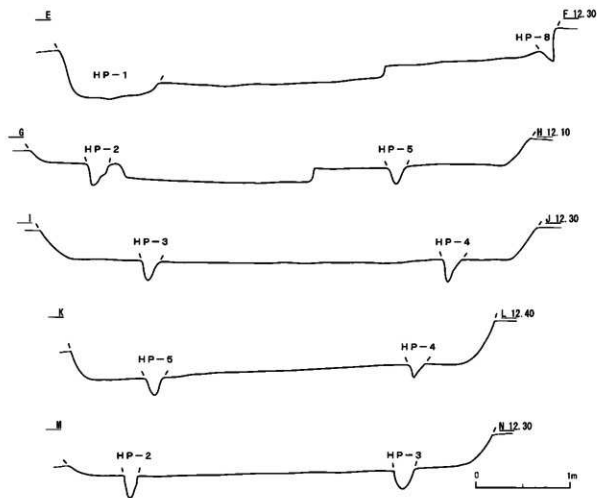


図IV-1-33 VH-14

いたと考えられる。HP-6~13は壁柱穴とみられ、竪穴住居跡の中央方向に向かって傾斜する。
 遺物出土状況 覆土から土器片437点、石器等786点が出土した。土器片は90%がⅡ群b-2・3類(図IV-2-5-9・10、16-83~94)である。床面直上に当たる覆土4層よりⅡ群b-2類3個体が出土したが、このうち2個体は酸化による凝固が著しく、復元には至らなかった。土製品は粘土塊(図IV-2-23-2・3)が出土した。石器等は石鏃(図IV-2-31-1・2)、つまみ付きナイフ(3~6)、スクレイパー(7・8)、石斧(9)、すり石(10・11)、石錘片(12)、剥片、礫等が出土している。

時期 伴出土器から縄文時代前期後半である。

(酒井)



図IV-1-36 V H-15横断面

V H-16 (図IV-1-37/表1・5・7・11/図版16)

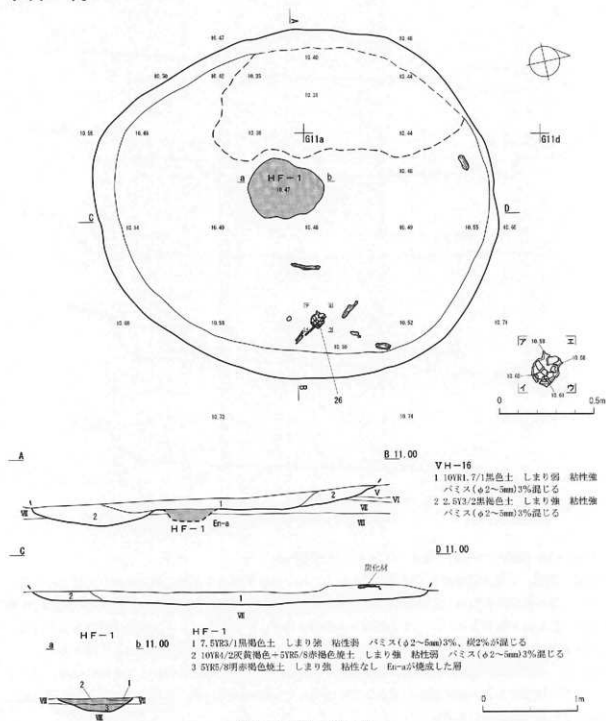
確認・調査 V層下部を掘り下げていたところ、En-a降下軽石を多量に含んだ掘り上げ土とみなされる土壌が広範囲に現れた。住居跡の存在を想定し、周囲を精査したところ、径4mほどの円形の黒色土の拡がりが出された。立地は東側から西側に向けて下る緩斜面で、住居跡の確認面上で標高の推移を見ていくと、径に相当する4mで標高が25cm下っており、その斜度はおよそ7度である。

覆土 土層観察の結果、覆土は2層に分層された。覆土2はV層とVI層からなる流れ込み。覆土1はV層の堆積である。確認面から床面までの層厚は10~20cmと浅いが、本来の掘り込み面と確認面とは、それほど差がないと考えられる。

形態 平面形はほぼ円形である。床面は平坦であるが、西側が一部、皿状の窪みを呈している。標高の低い側であり、調査中も雨天の翌日など泥水が若干溜まっていたことから、床面の全体が冠水しないために設けた窪みであるかもしれない。床面は全体的にVII層内であるが、皿状に一段低く窪んだところはVIII層(En-a降下軽石)であり、VII層に比して水はけが良い。

付属遺構 床面中央部では炉と考えられる焼土が検出された。層厚14cmでVII層にまで達しているが、灰・骨片等は肉眼では確認されなかった。上面で微量の炭が検出されたが、住居の床面および覆土内で散発的に炭化材等の炭が検出されているため、この炭が炉に直接ともなうものかはわからない。

VH-16



図IV-1-37 VH-16

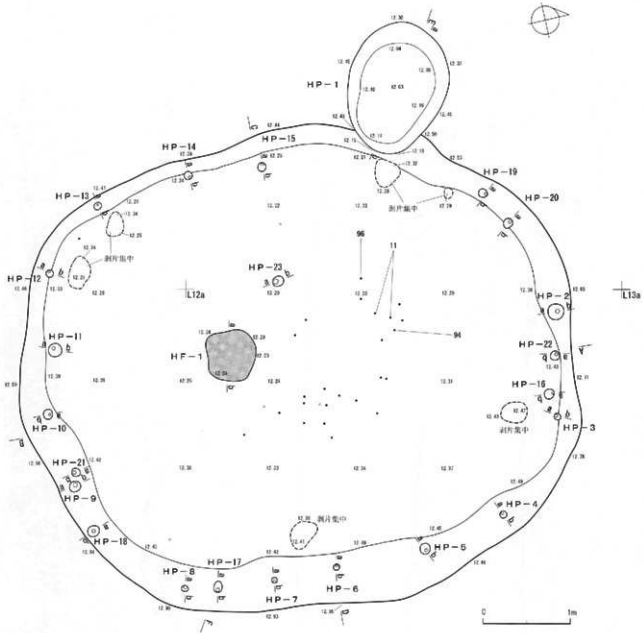
床面および住居壁の周辺で、柱穴確認を行い、数十か所に及ぶ半制作業を試みたが、柱穴と判断できるものは1か所も見出されなかった。

遺物出土状況 遺物は、床面・覆土から土器片83点、石器等82点が出土した。床面よりIV群b-2類(手桶式)の甕(図IV-2-11-26)、覆土中よりIV群c-1類(堂林式)の鉢(図IV-2-12-28)・注口(図IV-2-12-29)・口縁部片(図IV-22-186)が出土した。

時期 床面上の土器から、縄文時代後期中葉と考えられる。

(影浦)

VH-17

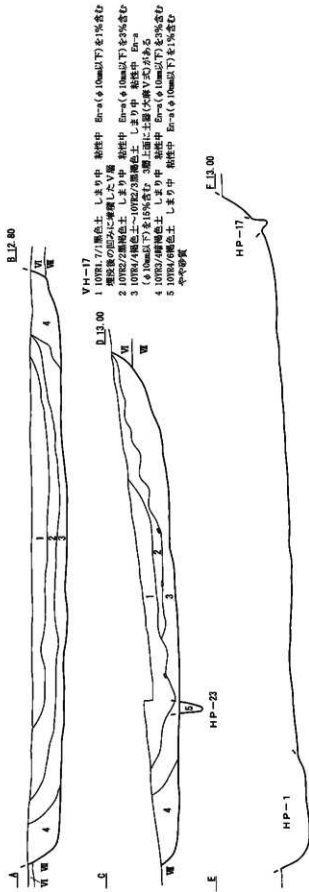


図IV-1-38 VH-17

VH-17 (図IV-1-38~40/表1~7・11/図版17)

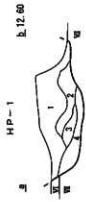
確認・調査 K・L11・12区付近のV層を調査中に、En-a降下軽石を多く含む長径6m程の楕円形の黒色土の拡がりを確認した。周辺を精査した後、竪穴住居跡の可能性を考慮し、堆積状況・下端・壁面確認のために十字にベルト(a-b・c-d)を設定し、竪穴内の調査を開始した。調査を進めて断面を確認したところ、黒褐色土・暗褐色土を最下層覆土とする竪穴住居跡と判断した。

覆土 4層に分層した。En-a降下軽石が含まれることから、掘り揚げ土が流れ込んだものと考えられる。
形態 下端平面形は不整な隅丸長方形、床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。



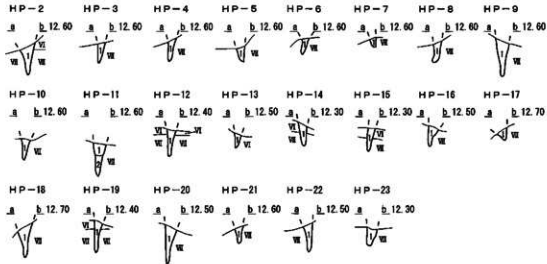
- VH-17**
- 1 10B1/7/黒色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)を1%含む 埋戻後の凹みに埋戻したV層
 - 2 10B2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)を3%含む
 - 3 10B4/4褐色土～10B2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)を15%含む 3層上面に土層(穴状V式)がある
 - 4 10B3/3黒褐色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)を3%含む
 - 5 10B4/6褐色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)を1%含む 平均砂質

- HF-1**
- 1 10B5/5明褐色土 しまり弱 粘性なし
- VH-17の表面で流かれた地味砂 堆積面では酸化層が少量見られる



- HP-1**
- 1 10B4/4褐色土～10B2/2黒褐色土主体 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)が5%混じる メインセクション4層と同じ
 - 2 10B2/2黒褐色土～10B4/6褐色土主体 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)が5%混じる
 - 3 10B2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)が3%混じる
 - 4 10B3/3黒褐色土 しまり中 粘性中 Er-a(φ10mm以下)が15%混じる

図IV-1-39 VH-17土層断面



HP-2 I 10YR4/6褐色土 En-aを1%含む	しまり強 粘性中	HP-9 I 10YR3/4暗褐色土	しまり中 粘性中	HP-17 HP-2と同様
HP-3 I 10YR4/6褐色土 En-aを微量に含む	しまり中 粘性中 やや砂質	HP-10 I 10YR4/6褐色土 En-aを5%含む	しまり強 粘性中	HP-18 HP-16と同様
HP-4 I 10YR4/6褐色土 やや砂質	しまり中 粘性中	HP-11 I 10YR3/4暗褐色土 En-aを1%含む	しまり中 粘性中	HP-19 HP-4と同様
HP-5 HP-4と同様		HP-12 I 10YR3/4暗褐色土	しまり中 粘性中	HP-20 HP-18と同様
HP-6 I 10YR4/6褐色土 En-aを3%含む	しまり強 粘性中	HP-13 I 10YR4/6褐色土	しまり強 粘性中	HP-21 I 10YR3/4暗褐色土 En-aを3%含む
HP-7 HP-4と同様		HP-14 HP-6と同様		HP-22 HP-9と同様
HP-8 I 10YR4/6褐色土 やや砂質 根?	しまり弱 粘性中	HP-15 HP-13と同様		HP-23 I 10YR4/6褐色土 En-aを1%含む やや砂質
		HP-16 I 10YR4/6褐色土	しまり弱 粘性中 やや砂質	

図IV-1-40 VH-17・HP-2～23土層断面

付属遺構 床面中央部南側に焼土（HF-1）があり、地床炉と考えられる。焼土土壌をフローテーション処理し、微量の炭化材を検出した。北東側には楕円形で長軸1.5m、床面からの深さ0.18m・確認面からの深さ0.47mの土坑（HP-1）が付属している。壁際には黒曜石や頁岩の剥片集中が6か所確認されている。柱穴を22基検出している。HP-23を除く21基は壁面付近に作られ、柱はほぼ垂直に立っていたと考えられる。柱の間隔は0.2～1.3m、平均0.85mである。

遺物出土状況 遺物は、覆土中から土器660点、石器等5,757点、焼成粘土塊58点、計6,475点が出土した。土器は、Ⅱ群b-1～3類（図IV-2-5-11、16-95～99）・Ⅲ群a類（図IV-2-18-124）、土製品は盤状粘土塊（図IV-2-23-4～7）、石器等は、石鏃（図IV-2-33-1～4）、つまみ付きナイフ（5～9）、スクレイパー（10・11）、石斧片（12）、剥片、礫などが出土した。

時期 伴出土器から縄文時代前期後半である。

（酒井）

(3) 土坑

VP-1 (図IV-1-41/表1~7・11/図版18)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は不整な楕円形を呈する。掘り込みの角度はやや急である。坑底面は平坦でVII層上位まで達する。覆土1層は腐植土とロームの混合で、埋め戻しによるものと考えられる。覆土2層はローム主体で、壁際の崩落土。北側の坑底面で5×20cmの範囲で赤褐色土がまとまっていた。覆土上~中位よりII群b-2類土器(図IV-2-16-100~104)、盤状粘土塊(図IV-2-23-8)、石鏝片(図IV-2-34-1)、石錐(2)、つまみ付きナイフ(3)、すり石、北海道式石冠片、砥石、石皿、台石、剥片、礫などが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(芝田)

VP-2 (図IV-1-41/表1~4・7)

特徴 調査範囲中央東端の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は卵形で坑底面は平坦、壁は北側で開き、他ではやや急に立ち上がる。覆土はV層の流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土からIII群b類の土器、砥石(図IV-2-34-1)、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半である。(菊池)

VP-3 (図IV-1-41/表1~2・4)

特徴 調査範囲中央東端の平坦面に掘り込まれた土坑で範囲外に続く。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形と推定され、坑底面は平坦で壁はやや開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土から剥片、北海道式石冠、加工痕のある礫が出土している。

時期 出土遺物、周辺の遺構から縄文時代中期と推定される。(菊池)

VP-4 (図IV-1-42/表1~4)

特徴 調査範囲東側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形はほぼ円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土からII群b類の土器、剥片、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-6 (図IV-1-42/表1~4)

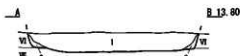
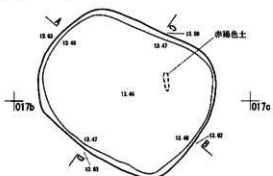
特徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形を呈する。掘り込みは南側がやや急角度、北側が緩やかである。断面は浅い皿状で、坑底面はほぼ平坦。覆土1・2層は腐植土とロームの混合で、堅くしまっており、埋め戻しによるものと考えられる。坑口上面から覆土中位にかけて北海道式石冠、礫片が出土した。このうち礫片は、南西側の土坑周辺で同一石材(泥岩)のものが出土している。

時期 不明。(芝田)

VP-8 (図IV-1-42/表1~5)

特徴 調査範囲東側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形はおにぎり形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層と掘り上げ土の流れ込みで

VP-1



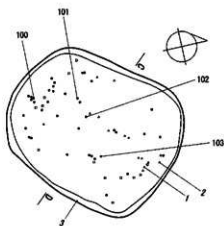
VP-1

1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性強 埴土

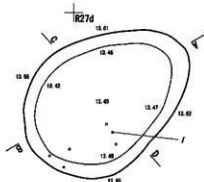
V>VI En-a(φ1~20mm)がまばらに散じる

2 10YR4/4褐色土 しまり強 粘性弱 埴土

VI層主体 En-a(φ10mm以下)がこくまばらに散じる



VP-2



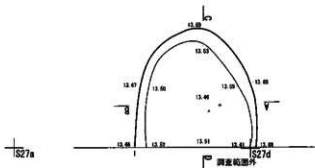
VP-2

1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性強 En-aごく少量含む

2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 En-a少量含む



VP-3



VP-3

1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性強 En-aごく少量含む

2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 En-a少量含む

3 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 En-aごく少量含む



0 1m

図IV-1-41 VP-1~3

ある。遺物は覆土より、Ⅱ群b-1・2類(図IV-2-5-12、16-105・106)、剥片、礫が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-10(図IV-1-43/表1)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で暗褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。坑底～壁面下部には長軸上に細長く伸びる被熱範囲が確認された。これは坑底面から約5cmの厚さでE_n-a降下軽石が部分的に赤色化していたもので、VII層のローム全体が被熱した焼土ではない。焼土下部の漸移層が残存したものと推測される。覆土はロームと腐植土の混合で、ローム・ブロックが見られることから、埋め戻しによるものと考えられる。遺物は出土していない。VP-10より約2m西にVH-5の土器囲炉(HF-1)があり、形状・規模・長軸方向が非常によく類似している。VP-10は、VH-5の建て替え、または炉の移設により廃棄された古い炉の可能性が高い。覆土中より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、暦年校正年代で3,523±31yrBPという数値が得られた(VI章第1節参照)。これはVH-5と同型式のIV群a-2類土器を炉材として使用している、VH-7の土器囲炉(HF-1)の年代値(3,490±31yrBP・3,528±31yrBP)と近似している。

時期 周辺の類似する遺構の時期から、縄文時代後期前葉の可能性がある。(芝田)

VP-11(図IV-1-43/表1~5・7)

特徴 調査範囲東側のほぼ中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は北東側でやや急、他では開いて立ち上がる。覆土の1・2層は自然堆積、3層は埋め戻し、4・5層は崩落である。遺物は覆土からⅡ群a類・b類、石鏃(図IV-2-34-1)、つまみ付きナイフ(2)、剥片、礫、坑底からはⅡ群b-2類(図IV-2-5-13、17-107)、剥片、加工痕のある礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-12(図IV-1-43/表1~2)

特徴 VH-3の南側壁際で検出された土坑。VH-3の廃絶後、覆土中より掘り込まれている。平面形は楕円形で、坑底面は北側がやや高い。また、北側の一部はVH-3の調査トレンチにより削平されている。覆土は1層がV層起源の腐植土、2層がVH-3からの崩落土である。遺物は覆土中よりⅡ群b類土器、坑底面より剥片1点が出土した。性格は不明である。

時期 VH-3との新旧関係から、縄文時代中期前半である。(芝田)

VP-13(図IV-1-44/表1~2・4)

特徴 調査範囲南側の平坦面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。VH-2とVH-3の中間に位置しており、VH-2の壁の一部を壊している。平面形は不整楕円形、坑底面は北西側がやや高い。覆土は1・2層がV層起源の腐植土、3層が壁面からの崩落土で、いずれも自然堆積である。南東側の覆土1層下部に灰集中(層厚3cm以下)を確認した。遺物は覆土中より石鏃(図IV-2-34-1)、石斧(2)、剥片、礫が出土した。性格は不明である。

時期 VH-2との新旧関係から、縄文時代中期前半である。(芝田)

VP-14 (図IV-1-43/表1~5・7)

特徴 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は、II群b-2類土器(図IV-2-17-108)、石鏝(図IV-2-34-1)、Rフレイク、剥片、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-15 (図IV-1-44/表1~4・6・7/図版18)

特徴 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は南北側でやや急、東西側でやや開いて立ち上がる。覆土の暗褐色土は埋め戻しである。遺物は覆土から石鏝(図IV-2-34-1)、北海道式石冠、礫が出土し、坑底からは盤状粘土塊(図IV-2-24-9~13)が出土している。

時期 他遺構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。(菊池)

VP-16 (図IV-1-44/表1~5)

特徴 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土の暗褐色土は埋め戻しである。遺物は、II群b-2類の土器(図IV-2-17-109)、北海道式石冠が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-17 (図IV-1-44/表1~4・6/図版18)

特徴 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は丸底、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の暗褐色土は埋め戻しである。遺物は覆土から北海道式石冠、坑底からは盤状粘土塊(図IV-2-25-14~17)が出土している。

時期 他遺構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。(菊池)

VP-18 (図IV-1-45/表1~4・7)

特徴 調査範囲ほぼ中央の平坦面に浅く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。一部攪乱により削平されている。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層と掘り上げ土の流れ込みである。遺物は覆土から石斧(図IV-2-34-1)、加工痕のある礫、礫が出土し、坑底からはII群b類の土器、剥片が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-19 (図IV-1-44/表1~3)

特徴 調査範囲南東の平坦面に掘り込まれた土坑。VII層上面で黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面は丸底、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の1層は埋め戻し、2層は崩落である。遺物は覆土からII群b類の土器が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-20 (図IV-1-45/表1~3/図版18)

特徴 調査範囲南東の平坦面に掘り込まれた土坑。Ⅶ層上面で黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の1層は埋め戻し、2層は崩落である。遺物は坑底より粘土塊が出土している。

時期 他遺構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。(菊池)

VP-21 (図IV-1-45/表1~3・6/図版19)

特徴 調査範囲南東の平坦面に掘り込まれた土坑。Ⅶ層上面で黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土の黄褐色土は埋め戻しである。遺物は坑底より盤状粘土塊(図IV-2-25-18)が出土している。

時期 他遺構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。(菊池)

VP-22 (図IV-1-45/表1~4)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VH-6壁面の調査中、土層断面で柱穴HP-6を壊し、におい黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は不整楕円形を呈する。坑底面には凹凸が見られる。覆土は汚れたロームを主体とし、堅くしまっていることから、埋め戻しによるものと考えられる。覆土中から焼成粘土塊1点が出土した。

時期 VH-6との新旧関係から、縄文時代前期後半以降と考えられる。(芝田)

VP-23 (図IV-1-45/表1~3・5/図版19)

特徴 調査範囲やや東側の緩斜面に掘り込まれた土坑。Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はⅤ層の流れ込みである。遺物は、覆土よりⅡ群b-1類(図IV-2-6-14)が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-24 (図IV-1-46/表1~5・7/図版19)

特徴 調査範囲西端中央の緩斜面に掘り込まれた土坑。Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面はほぼ平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土はⅤ層の流れ込みである。遺物は、Ⅱ群b-1類土器(図IV-2-17-110・111)、石皿片(図IV-2-34-1・2)、礫が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-25 (図IV-1-46/表1)

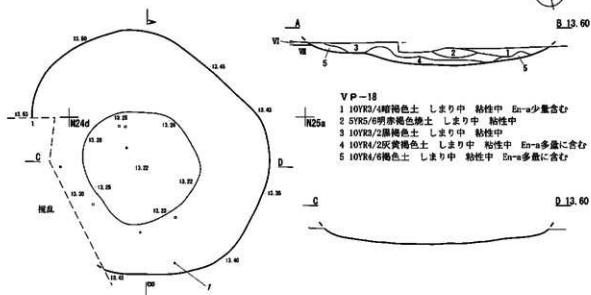
特徴 調査範囲西端中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。Ⅶ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はⅤ層の流れ込み、2~5層は掘り上げ土の埋め戻し、6層は崩落である。遺物は出土していない。

時期 特定できないが周囲の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。(菊池)

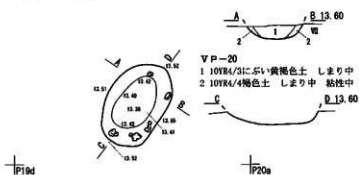
VP-29 (図IV-1-46/表1~5・7)

特徴 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。Ⅴ層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はⅤ層の流れ込み、

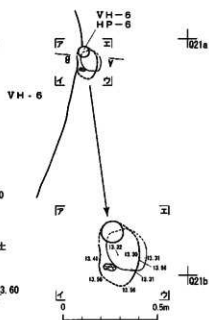
VP-18



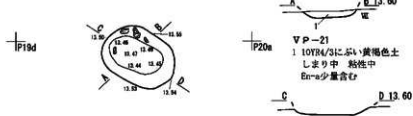
VP-20



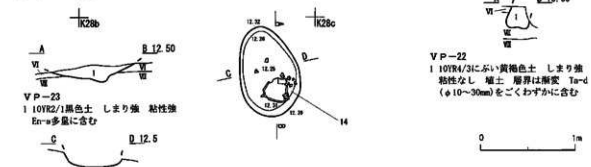
VP-22



VP-21



VP-23



図IV-1-45 VP-18・20~23



図IV-1-46 VP-24・25・29~32

2～7層は掘り上げ土の埋め戻し、8層は崩落である。遺物は、覆土からⅡ群b-2・3類(図Ⅳ-2-17-112～114)、Ⅳ群a類・c類の土器、剥片が出土し、坑底からはつまみ付きナイフ(図Ⅳ-2-35-1)が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期後葉である。(菊池)

VP-30(図Ⅳ-1-46/表1～3・5)

特徴 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はⅤ層の流れ込み、2～5層は掘り上げ土の埋め戻し、6層は崩落である。遺物は覆土からⅢ群b類、Ⅳ群c類の土器が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期後葉である。(菊池)

VP-31(図Ⅳ-1-46/表1～2・4)

特徴 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形はほぼ円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はⅤ層の流れ込み、2～6層は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は覆土から礫が出土している。

時期 特定できないが周囲の遺構・遺物から縄文時代後期の可能性がある。(菊池)

VP-32(図Ⅳ-1-46/表1～3・5)

特徴 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。Ⅵ層上面で褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は急に立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は、覆土からⅡ群b-2類土器(図Ⅳ-2-17-115)が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-33(図Ⅳ-1-47/表1～2・4)

特徴 調査範囲西側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VH-8に切られている。Ⅵ層調査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土はⅤ層の流れ込みである。遺物は坑底から礫が出土している。

時期 周辺の遺物とVH-8に切られていることから縄文時代前期と推定される。(菊池)

VP-34(図Ⅳ-1-47/表1～3・5)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。Ⅶ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みはやや緩やかで、坑底面には凹凸が見られる。覆土は、1・2層がⅤ層起源の腐植土、3・4層が壁面からの崩落土で、いずれも自然堆積。掘り込み面はⅤ層中と考えられる。遺物は覆土中よりⅡ群b類土器、Ⅳ群土器、剥片が出土した。南側のVH-7とⅤ層中で重複していたと推測されるが、新旧関係は不明である。

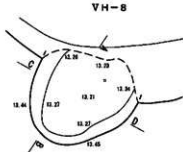
時期 不明。(芝田)

VP-35(図Ⅳ-1-47/表1～2・4/図版19)

特徴 調査範囲南側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。Ⅵ層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面は平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。

VP-33

I19a



I19b

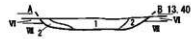
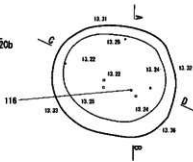


VP-33
1 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中
En-aが少量混じる



VP-36

I20b

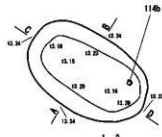


VP-36
1 10YR3/2黒褐色土 しまり中 粘性中
En-aが多量に混じる
2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
En-aが多量に混じる



VP-34

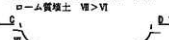
I24a



I24b

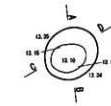


VP-34
1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強
増土 V層主体
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強
増土 VI層主体
3 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
増土 VI>VII
4 10YR4/6褐色土 しまり強 粘性中
ローム質増土 VII>VI

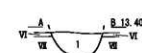


VP-37

I20b



I20a

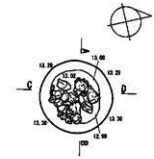


VP-37
1 10YR3/2黒褐色土 しまり強
粘性中 En-aが多量に混じる



VP-35

I20a

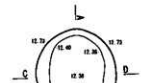


VP-35
1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
En-aが少量混じる
2 10YR3/2黒褐色土 しまり中 粘性中
En-aが多量に混じる Te-dがごく少量混じる

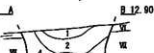


VP-38

I15c



I15d



VP-38
1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
En-aが少量混じる
2 10YR3/2暗褐色土 しまり中 粘性中
En-aが多量に混じる
3 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中
En-aが少量混じる
4 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
En-aが多量に混じる

図IV-1-47 VP-33~38

遺物は坑底から砥石、石皿、台石、加工痕のある礫、礫が出土している。

時期 特定できないが周辺の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。(菊池)

VP-36 (図IV-1-47/表1~5)

特徴 調査範囲南側中央の平坦面に浅く掘り込まれた土坑。VI層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土は掘り上げ土の流れ込みである。遺物は、II群b-2類土器(図IV-2-17-116)、III群土器、加工痕のある礫、礫が出土している。

時期 坑底の出土遺物から縄文時代中期である。(菊池)

VP-37 (図IV-1-47/表1)

特徴 調査範囲南側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は出土していない。

時期 特定できないが周辺の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。(菊池)

VP-38 (図IV-1-47/表1)

特徴 調査範囲南西側端の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形はほぼ円形で坑底面は平坦、壁は急に立ち上がる。覆土1層はV層の流れ込み、2~4層は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は出土していない。

時期 特定できないが周辺の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。(菊池)

VP-39 (図IV-1-48/表1~5/図版19)

特徴 VI層上面で検出した。平面形は概ね楕円形、断面形状が碗形である。覆土は2層に分層した。下層はやや明るい土壌で、一部焼土ブロックと見られる赤色部分や炭化物が少量含まれていた。この炭化物を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、暦年較正年代で $3,344 \pm 30$ yr BPという数値が得られた。詳細はVI章第1節を参照されたい。また、大型破片が多い個体土器が覆土下位~坑底でまとまって出土した。ウサクマイC式の深鉢形土器(図IV-2-9-19)である。

時期 縄文時代後期中葉である。(阿部)

VP-40 (図IV-1-48/表1~5)

特徴 調査範囲南西側端の緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面はほぼ平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の1~3層はV層の流れ込み、4・5層は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は、IV群b-1類土器(図IV-2-21-156~158)、Rフレイク、剥片が出土した。

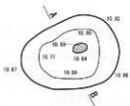
時期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

VP-41 (図IV-1-48/表1~5・7・11/図版19)

特徴 調査範囲南西側端の緩斜面上に立地する。據文文化期の堅穴住居跡(III H-3)に壊されている。平面形は楕円形と推定され、坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。遺物は、覆土からIV群b-1・3類土器(図IV-2-12-27、21-159~165)、石鎌、Rフレイク、石斧(図IV-2-35-

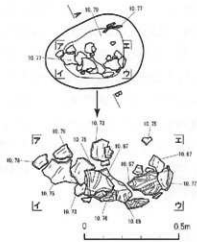
VP-39

15a

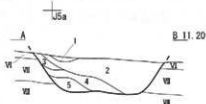
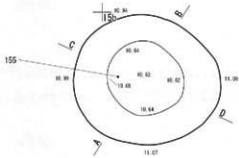


VP-39

- 1 10YR1/7/黒色土 しまり中 粘性强 V層相当
軽石わずかに含む
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性强 VI層相当 均質的
炭化物少量含む 軽石わずかに含む



VP-40

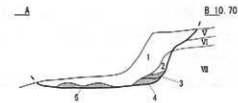
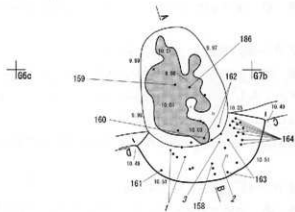


VP-40

- 1 7.5YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性强
- 2 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性强 En-aが少量混じる
- 3 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性强
- 4 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり中 粘性强
En-aが多量に混じる
- 5 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性强 En-aが少量混じる

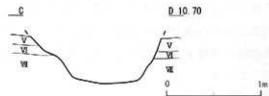


VP-41



VP-41

- 1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性强
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性强
- 3 5YR5/6暗赤褐色土 しまり中 粘性强 En-aが少量混じる
- 4 5YR5/6暗赤褐色土 しまり中 粘性强 En-aが少量混じる
- 5 7.5YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性强



図IV-1-48 VP-39~41

1)、たつき石(2)、剥片、礫、石製品(玉)(3)、坑底からはIV群c-1類土器(図IV-22-187)が出土している。坑底に明赤褐色土が撒かれており、また出土遺物から土坑墓の可能性が高い。

時期 坑底の出土遺物から縄文時代後期後葉である。(菊池)

VP-42(図IV-1-49/表1~5/図版20)

特徴 VI層上面で検出した。平面形は縦楕円形。坑底はVII層中に達し、やや丸みを帯びる。覆土は3層に分層した。1層は黒色土を主体とした自然堆積土である。2層は壁面付近から坑底上位に分布し、やや明るい土壌が堆積している。焼土とみられる赤色部分やブロック状の粘土を少量含む。また焼土の上からウサクマイC式の深鉢形土器の大型破片が2点出土した(図IV-2-11-21)。3層は坑底付近の軽石混じりの薄層である。このほか覆土中よりIV群b-1類土器(図IV-21-166)が出土している。覆土中より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、暦年校正年代で $3,218 \pm 31\text{yrBP}$ という数値が得られた(VI章第1節参照)。

時期 縄文時代後期中葉である。(阿部)

VP-43(図IV-1-49/表1)

特徴 VI層上面で検出した。平面形は円形。坑底はVII層上面付近で、ほぼ平坦である。壁面の立ち上がりは垂直に近い。覆土は単層で、黒色土の自然堆積層。

時期 周辺の出土遺物などから、縄文時代後期中葉とみられる。(阿部)

VP-44(図IV-1-49/表1~3)

特徴 VI層上面で検出した、大型の土坑。平面形は楕円形。坑底はVII層上面付近に達し、おおむね平坦である。壁面はゆるやかに立ち上がる。覆土は上層が黒色の均質的な自然堆積土で、下層は軽石混じりのやや明るい土壌である。

時期 周辺の出土遺物などから、縄文時代後期中葉とみられる。(阿部)

VP-45(図IV-1-49/表1~5)

特徴 VI層上面で検出した、大型の土坑。平面形は楕円形。坑底はVII層上面付近に達し、おおむね平坦。壁面は緩やかに立ち上がる。東側は木根の影響を受けている。覆土は上層が黒色の均質的な自然堆積土で、下層は軽石混じりのやや明るい土壌。坑底付近からIV群b-1類土器(図IV-21-167~169)が出土した。

時期 出土遺物などから、縄文時代後期中葉とみられる。(阿部)

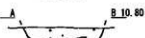
VP-46(図IV-1-50/表1)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。V層下位~VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は不整形を呈する。掘り込みは緩やかで、断面は半円状。坑底面は平坦ではなく、北西側へ向かって低くなる。覆土は、いずれも自然堆積である。1~4層がV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。5・6層がV~VII層からの崩落土で、壁際~坑底部に堆積する。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は出土していない。北西側でVP-49を壊している。

時期 不明。(芝田)

VP-42

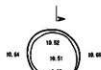
115c



VP-42

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
V層相当 軽石わずかに含む 均質的
2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
VI層相当 軽石少量含む やや不均質
3 5YR4/8赤褐色焼土~5YR2/4暗暗赤褐色焼土
しまり弱 黒色土が不均質に混じる
115d 4 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強
V+VI 黒色土・ロームがやや不均質に混じる

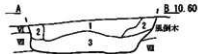
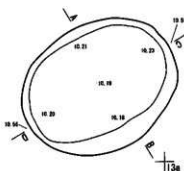
VP-43



VP-43

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
V層相当 軽石わずかに含む 均質的

VP-44

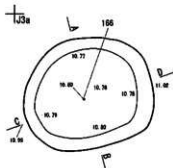


VP-44

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中 V>VI 軽石10%以下含む 均質的
2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 VI>VII 軽石少量含む 均質的
3 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 VI+VII 径のやや大きな軽石
10~20%含む 均質的



VP-45



113d



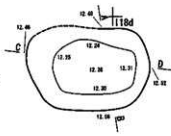
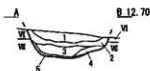
VP-45

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中 V層相当 軽石10%以下含む 均質的
2 10YR2/3黒褐色土~10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 VI+VII
ローム粒・軽石が不均質に混じる
3 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 V層相当 軽石少量含む



VP-47

1118a



VP-47

- 1 10YR2/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 埴土 V>VI
2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性強 埴土 VI>V
3 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性強 埴土 V+VI
4 10YR3/4暗褐色土 しまり強 粘性中 埴土 VI>V>VII
5 10YR4/6褐色土 しまり強 粘性弱 埴土 VII>VI>V



図IV-1-49 VP-42~45・47

VP-47 (図IV-1-49/表1~3・5)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みは緩やかで、坑底面は平坦。覆土は、いずれも自然堆積である。1~3層がV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。4・5層がV~VII層からの崩落土で、壁際~坑底部に堆積する。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は、覆土中よりII群b-2類土器(図IV-2-17-117)が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(芝田)

VP-48 (図IV-1-50/表1~5・7)

特 徴 調査範囲南西側端の緩斜面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で、坑底面はほぼ平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-21-170・171)、石皿片(図IV-2-35-1)が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

VP-49 (図IV-1-50/表1)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。V層下位~VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みはやや急で、坑底面は北東側が低い。覆土は、いずれも自然堆積である。1層はV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。2・3層はロームと腐植土の混合、4・5層はV~VII層からの崩落土である。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は出土していない。南東側でVP-46に壊されている。

時 期 不明。(芝田)

VP-50 (図IV-1-50/表1~5/図版20)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形を呈する。掘り込みは緩やかで、坑底面は平坦である。覆土は、いずれも自然堆積である。1~3層はV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。4層はV~VII層からの崩落土である。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は、覆土中よりII群b-1・2類土器(図IV-2-6-15、17-118)、北海道式石冠、剥片が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(芝田)

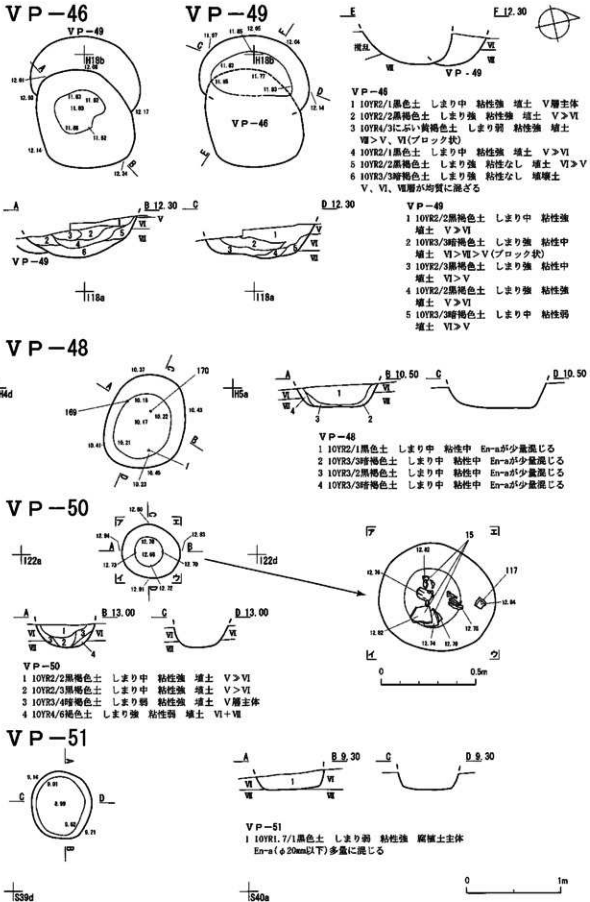
VP-51 (図IV-1-50/表1)

特 徴 祝梅川旧河道の湾曲部分に面する緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形で、坑底面はほぼ平坦である。覆土は自然堆積で、V層起源の腐植土に掘り上げ土の可能性があるEn-a降下軽石が多量に混入する。遺物は出土していない。

時 期 周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代後期中葉と推測される。(芝田)

VP-52 (図IV-1-51/表1~5)

特 徴 VI~VII層で、黒色土の円形の広がりを確認した。広がり中央部に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、土坑と判断して引き続き坑内を調査した。平面形は上端・下端とも円形、坑底は平坦、立ち上がりはやや外傾する。構築面はV層とみられ、覆土は1・2層とも埋め戻しの可



図IV-1-50 VP-46・48~51

能性がある。遺物は、覆土からIV群 a-2 類土器 (図IV-2-19-138)、Uフレイクが出土した。
時期 覆土中の遺物やV層での遺物出土状況から、縄文時代後期と推測される。(山中)

VP-53 (図IV-1-51/表1)

特徴 VII層上面で検出した。土層観察の結果、覆土は5層に分層した。坑底はVII層内に及ぶ。壁は急角度である。遺物は出土していない。

時期 不明である。(影浦)

VP-54 (図IV-1-51/表1~5)

特徴 調査範囲北側中央の緩斜面に浅く掘り込まれた土坑。V層の包含層調査時に北側約1/2を削平した。平面形は楕円形と推定され坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群 b-1 類土器 (図IV-21-172)、剥片が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

VP-55 (図IV-1-51/表1~5・7)

特徴 調査範囲やや北側中央の緩斜面に浅く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群 b-1 類土器 (図IV-21-173)、石鏃 (図IV-2-35-1)、石のみ (2) が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

VP-56 (図IV-1-51/表1~5)

特徴 調査範囲やや北側中央の緩斜面に浅く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群 b-1 類土器 (図IV-21-174)、石鏃、多量の黒曜石剥片、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

VP-57 (図IV-1-51・52/表1~3・5/図版20)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形で、坑底面は東側がやや低い。覆土は自然堆積で、V層起源の腐植土である。北東側の坑底面から壁面に沿ってめくれ上がるような状態で、板状の灰白色物質が出土した。蛍光X線分析の結果ではSiO₂100%であり、珪藻土の一種と考えられる。覆土中よりII群 b-1 類土器が1個体出土した (図IV-2-1-1)。これに類似する珪藻土は旧河道内 (河床) からも出土している (図IV-1-52)。周辺の出土遺物より、縄文時代後期中葉に河道内へ廃棄されたと推測される。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半である。(芝田)

VP-58 (図IV-1-53/表1~5)

特徴 VII層で黒色土の円形の広がりを確認した。広がり中央部に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、土坑と判断して引き続き坑内を調査した。平面形は上端・下端とも楕円形、坑底は概ね平坦、壁は垂直直みである。構築面はV層とみられ、覆土は埋め戻しの可能性がある。遺

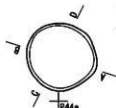
VP-52

1044b



VP-52

- 10YR2/1黒色埴土 しまり弱〜強
En-aがごく微量に混じる
- 10YR2/1黒色軽硬土 しまり弱
粘性中〜強(1より粘性が強い)
En-aが微量に混じる



0.850

VP-53

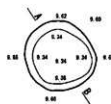
1550a

A 0.10.00



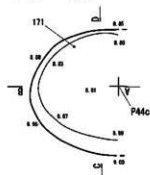
VP-53

- 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性中
En-a7%混じる
- 10YR1.7/1黒色土 しまり強 粘性強
En-a3%混じる
- 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性中
En-a3%混じる
- 10YR1.7/1黒色土 しまり強 粘性強
En-a3%混じる ほとんど2と同じであるが、微妙に明るい
- 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性中
En-a10%混じる



1550b

VP-54



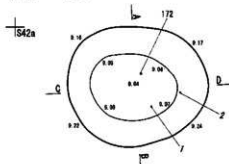
VP-54

- 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
En-aが少量混じる



1044d 0.9.00

VP-55



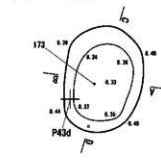
VP-55

- 5YR3/1黒褐色土 しまり中 粘性中
- 5YR4/6赤褐色土 しまり中 粘性中
- 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
En-aが少量混じる



1542b 0.9.30

VP-56



VP-56

- 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
En-aが少量混じる



1542c 0.8.80

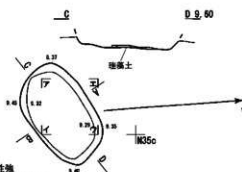
VP-57



1N35b

VP-57

- 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 En-a(φ30mm以下)多量に混じる



1N35c

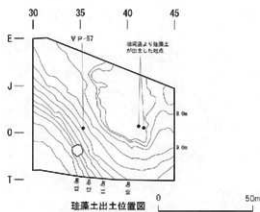
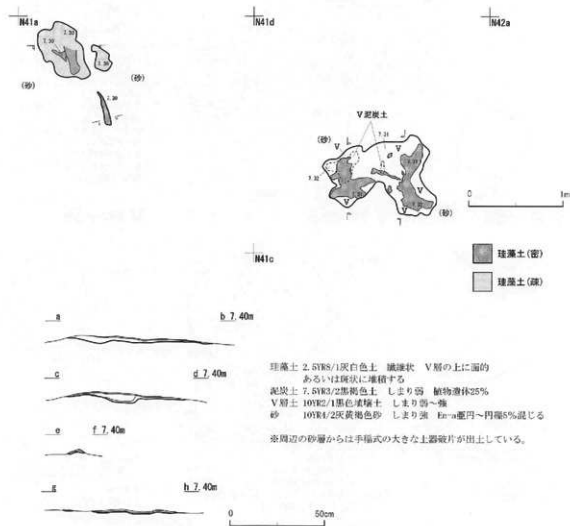


腐植土出土状況

0 0.5m 1m

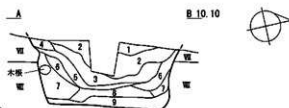
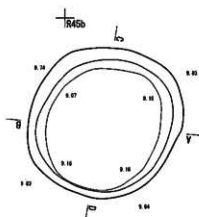
図IV-1-51 VP-52~57

旧河床珪藻土出土状況



図IV-1-52 V P-57(2)

VP-58



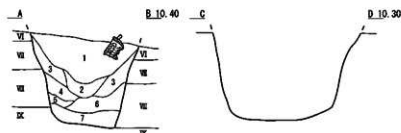
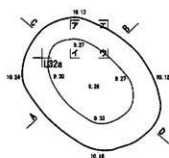
VP-58

- 1 10YR2/1黒色埴埴土 しまり強 En-aが少量混じる
- 2 10YR2/1黒色埴埴土 しまり強 En-aがごく微量に混じる
- 3 10YR2/1黒色埴埴土 しまり強 En-aがやや多量に混じる
- 4 10YR4/2灰黄褐色埴埴土 しまり強 En-aが少量混じる
- 5 10YR2/1黒色埴埴土 しまり強 En-aが微量に混じる
- 6 10YR4/2灰黄褐色埴埴土 しまり強 En-aがやや多量に混じる
- 7 10YR4/6褐色砂礫 しまり弱～強 En-a主体
- 8 10YR2/1黒色埴埴土 しまり強 En-aが多量に混じる
- 9 10YR3/1黒褐色砂質埴埴土と10YR4/6褐色砂礫(En-a主体)の互層 しまり弱～強

C D.10.10



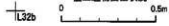
VP-59



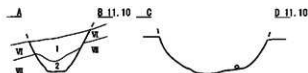
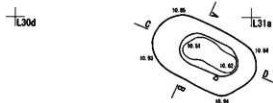
VP-59

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性强 腐植土主体 En-a(φ25mm以下)多量
Te-d(φ10mm以下)少量混じる 植苗式土器1個体出土(流れ込み)
- 2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性强 腐植土主体 ローム少量混じる
En-a(φ20mm以下)多量に混じる
- 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり弱 粘性强 ロームとパミスの混合 黒斑あり
(ロームがやや多い) ねっとりしている
- 4 10YR3/1黒褐色土 しまり弱 粘性强 ロームと腐植土の混合 En-a(φ25mm以下)
多量に混じる
- 5 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性强 腐植土・ローム・パミスの混合
(ロームがやや多い) ねっとりしている
- 6 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性强 5と同じ(腐植土がやや多い) ねっとりしている
- 7 2.5Y2/1黒色土 しまり弱 粘性强 5と同じ(パミスがやや多い) ねっとりしている

遺土遺物出土状況



VP-60



VP-60

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性强 腐植土主体
En-a, Te-d(φ10mm以下)多量に混じる ねっとりしている
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性强 1と同質だがTe-dが
やや多い ねっとりしている



図IV-1-53 VP-58~60

物は覆土からⅣ群b-2類土器(図Ⅳ-22-175・176)、剥片が出土した。

時期 覆土中の遺物やⅤ層での遺物出土状況から、縄文時代後期と推測される。(山中)

VP-59(図Ⅳ-1-53/表1~5/図版20)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みはほぼ垂直で、坑底面は北西側がやや低い。壁面の下部はⅦ層で、もろく崩れやすい。覆土は上部の1・2層がⅤ層起源の腐植土で、自然堆積。覆土3~7層は、腐植土・ローム・En-a降下軽石の混合で、埋め戻しによるものと推測される。覆土1層からⅡ群b-1類土器1個体が出土した(図Ⅳ-2-2-2)。覆土の堆積状況から墓の可能性はある。

時期 近隣のVP-61と形状・覆土が類似することから、縄文時代前期後半である。(芝田)

VP-60(図Ⅳ-1-53/表1~2・4)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みは緩やかに内傾し、坑底面には凹凸がある。覆土は自然堆積で、Ⅴ層起源の腐植土である。遺物は礫・剥片が出土した。用途は不明。

時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半である。(芝田)

VP-61(図Ⅳ-1-54/表1~5・7/図版20)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みの下部はほぼ垂直であるが、東側に段が見られる。坑底面はほぼ平坦である。南側の壁の上部は攪乱により壊されている。覆土は上部の1・2層がⅤ層起源の腐植土で、自然堆積。覆土3・4層は、腐植土・ローム・En-a降下軽石の混合で、埋め戻しによるものと推測される。坑底部(覆土4層)からⅡ群b-1類土器1個体(図Ⅳ-2-3-3)と石皿1点(図Ⅳ-2-37-1)が出土した。土器は底部の一部を欠くことから、この土坑を埋め戻す際に、予め割って投げ入れられたと推測される。覆土の堆積および遺物の出土状況から墓の可能性はある。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半である。(芝田)

VP-62(図Ⅳ-1-54/表1~5)

特徴 Ⅴ層を調査中に、Ⅵ層上面においてⅢP-73に南東側の一部を削平された黒色土の楕円形の拡がりを確認した。東側を半截したところ、底面と壁面を確認した。底面は皿状で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は、覆土からⅡ群b-1類土器(図Ⅳ-2-17-119)、すり石、礫が出土している。

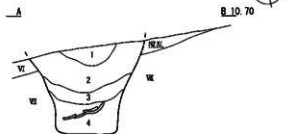
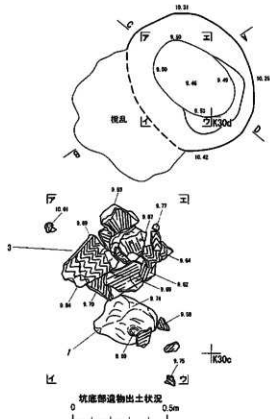
時期 遺物や周囲の状況から縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

VP-63(図Ⅳ-1-54/表1~4・7)

特徴 Ⅴ層下部で扁平礫が縦位に2枚重なった状態で現われ、Ⅵ層上面で範囲を確認した。土層観察の結果、覆土は2層に分層した。木根跡等の自然の窪みに礫を縦位に埋め込んだ可能性も考えられ、人為的な埋め戻しであるか、自然堆積かは判然としない。遺構の性格も定かではない。礫は台石で、素材は砂岩である。重量は東側が3,416g(図Ⅳ-2-36-1)、西側が5,700g(2)である。遺物は覆土からⅡ群b類・Ⅳ群a類土器、台石、剥片が出土した。

時期 不明である。(影浦)

VP-61

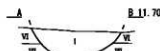
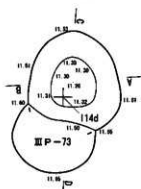


VP-61

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体
En-a, Ta-d(ϕ 20mm以下)が混じる
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ローム少量混じる En-a(ϕ 25mm以下)が多量に混じる
- 3 10YR2/2黄褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土とロームの混合
En-a(ϕ 10mm以下)が多量に混じる 埋の戻し土
- 4 10YR4/3褐色土~3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 3とはほぼ同質だが、ロームがやや多い ねっとりしている 埋の戻し土



VP-62

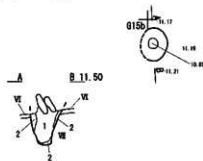


VP-62

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
明黄褐色En-a(ϕ 5~10mm)を少量(3%)含む



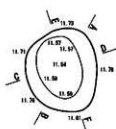
VP-63



VP-63

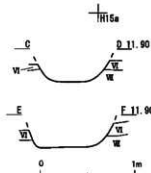
- 1 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性強
En-a(ϕ 5~10mm)15%混じる
- 2 2.5Y3/2黄褐色土 しまり強 粘性強
En-a(ϕ 5~10mm)10%混じる

VP-65



VP-65

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
明黄褐色En-a(ϕ 5~10mm)少量(1%)含む
- 2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中
明黄褐色En-a(ϕ 5~10mm)少量(1%)含む



図IV-1-54 VP-61~63・65

VP-64 (図IV-1-63/表1~4・7)

特徴 VTP-12と共にⅧ層上面で検出した。平面形はいびつな円形を呈する。坑底面は平坦である。土層観察の結果、覆土は3層に分層した。覆土2・3は流れ込み様の堆積を示していたが、覆土1と2の間に加工痕のある礫(図IV-2-36-1)が出土したことから、埋め戻しの可能性もある。覆土1はV層の堆積であろう。北東壁がVTP-12の掘開によって失われている。遺物は、上述の1点のほか、覆土からⅡ群b類・Ⅲ群b類・Ⅳ群b類土器、礫が出土している。

時期 不明である。

(影浦)

VP-65 (図IV-1-54/表1)

特徴 VI層上面において黒色土の円形の拡がりを確認した。東側を半截したところ、底面と壁面を確認した。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。

時期 周囲の状況から縄文時代前期後半と考えられる。

(酒井)

VP-66 (図IV-1-55/表1~2・4)

特徴 VI層上面で検出した。覆土は1層で、V層主体の流れ込みと考えられる。坑底面は平坦で、壁は急角度である。遺物は覆土から礫、剥片が出土している。

時期 不明である。

(影浦)

VP-67 (図IV-1-55/表1~5)

特徴 VI層上面で検出した。覆土は1層で、V層主体の流れ込みと考えられる。坑底面は平坦で、壁は急角度である。遺物は、覆土からⅣ群a類土器、Ⅳ群b-2類土器(図IV-22-177)、剥片が出土した。

時期 不明である。

(影浦)

VP-68 (図IV-1-55/表1)

特徴 Ⅷ層上面で検出した。覆土は1層。壁は急角度で、坑底はⅧ層内に及ぶ。遺物は出土していない。

時期 不明である。

(影浦)

VP-69 (図IV-1-55/表1~3・5)

特徴 Ⅷ層上面で検出した。覆土は1層。坑底面は中央部が皿状に浅く窪み、Ⅷ層内に及ぶ。壁は急角度である。遺物は、覆土からⅣ群b-1類土器(図IV-22-178)が出土している。

時期 不明である。

(影浦)

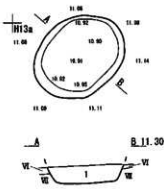
VP-70 (図IV-1-55/表1)

特徴 Ⅷ層で黒色土の円形の拡がりを確認した。拡がりの中央部に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、土坑と判断した。平面形は上端・下端とも円形、坑底は平坦、立ち上がりは外傾する。構築面はV層とみられ、覆土は埋め戻しの可能性がある。遺物は出土していない。

時期 V層での遺物出土状況から、縄文時代後期のものと推測される。

(山中)

VP-66

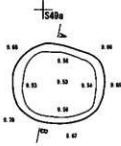


VP-66

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり強 粘性強
- Ⅱ 黒主体 En-a2%混じる

IH13a

VP-69



S49b

B.10.00

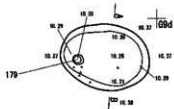


VP-69

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a7%混じる

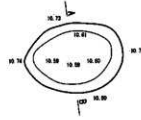
VP-72

IG9a



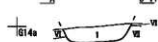
VP-67

IF14b



IF14a

B.11.00

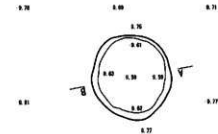


VP-67

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり強 粘性強
- Ⅱ 黒主体 En-a(φ2~5mm)2%混じる

VP-68

IR47a



IR47b

B.10.00



VP-68

- 1 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性中 En-a10%混じる

VP-70



VF-70

- 1 10YR2/1黒色堆積土 しまり弱~強 粘性中~強 VIの境がごく少量、En-aがやや多量に混じる

B.8.00



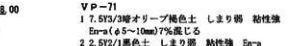
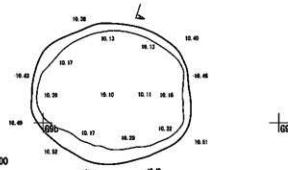
IS49a

B.10.00



VP-70

VP-71



VP-71

- 1 7.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ5~10mm)7%混じる
- 2 2.5Y2/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ5~10mm)20%混じる
- 3 2.5Y4/4オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ5~10mm)5%混じる
- 4 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性強 En-a(φ5~10mm)30%混じる

VP-72

- 1 2.5Y3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ2~5mm)5%混じる
- 2 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ2~5mm)5%混じる

0 1m

図IV-1-55 VP-66~72

VP-71 (図IV-1-55/表1~5)

特徴 VP-72と共にⅦ層上面で検出した。覆土は4層に分層した。いずれも流れ込みと考えられる。覆土4層は掘り上げ土が流れ込んだものかもしれない。坑底面はⅦ層内で、中央部がわずかに低く皿状を呈している。壁は比較的急角度に立ち上がる。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-22-179)、剥片が出土している。

時期 不明である。(影浦)

VP-72 (図IV-1-55/表1~5)

特徴 VP-71と共にⅦ層上面で検出した。覆土は2層。平面形は楕円形。坑底面はⅦ層内で、中央部がわずかに低く皿状を呈する。南東の壁際で、IV群b-2類土器の底部片(図IV-22-180)が内面を上向きにした状態で出土し、その周囲から黒曜石のRフレイク・剥片が出土した。仮に人為的に埋納したものであれば、覆土については埋め戻しの可能性も考えられる。このほか覆土中より緑色泥岩の剥片も出土した。

時期 縄文時代後期中葉の可能性がある。(影浦)

VP-73 (図IV-1-56/表1)

特徴 Ⅶ層上面で検出した。覆土は1層。坑底面は中央部が皿状に浅く窪み、Ⅶ層内に及ぶ。壁は急角度である。遺物は出土していない。

時期 不明である。(影浦)

VP-74 (図IV-1-56/表1~3・5/図版20)

特徴 祝梅川旧河道から東へ内湾する入江を見下ろす段丘上に立地する。Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形。坑底面は広く平坦。南東側の一部を鋼矢板によって壊されている。覆土はⅤ層の腐植土で、自然堆積。覆土中よりIV群b-2類土器(図IV-2-11-22、22-181)が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉である。(芝田)

VP-75~77 (図IV-1-56/表1)

特徴 Ⅶ層上面において、長径0.7m内外の小型土坑が3基近接して検出された。確認面から坑底面の深さは10~15cm、いずれもⅦ層上面を坑底面とする。覆土は2層で、流れ込みと考えられる。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。規模や特徴から、これらは同時のものと考えられる。

時期 不明である。(影浦)

VP-78 (図IV-1-56/表1~2・4・7)

特徴 祝梅川旧河道から東へ内湾する入江を望む段丘上に立地する。Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。掘り込みは垂直で、坑底面は平坦である。覆土は大部分がⅤ層起源の腐植土で、自然堆積。坑底部より石皿1点(図IV-2-37-1)が出土した。

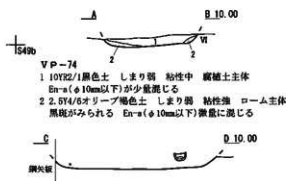
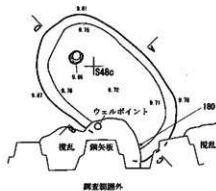
時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代後期中葉である。(芝田)

VP-73



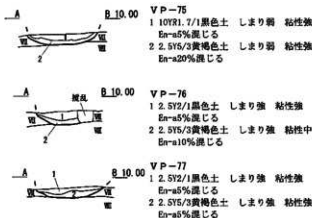
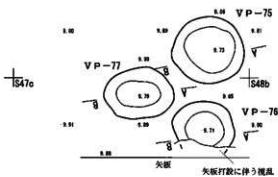
VP-73
1 2.5Y2/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ3%)混じる

VP-74



VP-74
1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体
En-a(φ10mm以下)が少量混じる
2 2.5Y4/6オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体
黒斑がみられる En-a(φ10mm以下)少量に混じる

VP-75・76・77

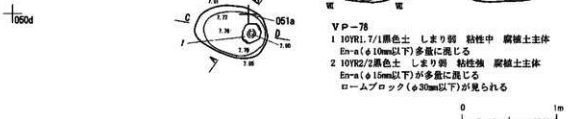


VP-75
1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強
En-a5%混じる
2 2.5Y5/3黄褐色土 しまり弱 粘性強
En-a20%混じる

VP-76
1 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性強
En-a5%混じる
2 2.5Y5/3黄褐色土 しまり強 粘性中
En-a10%混じる

VP-77
1 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性強
En-a5%混じる
2 2.5Y5/3黄褐色土 しまり強 粘性中
En-a5%混じる

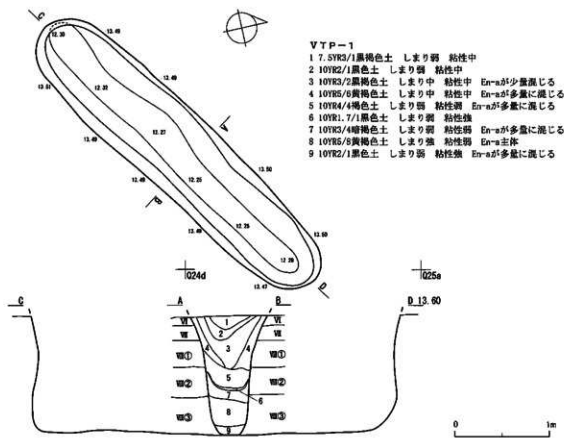
VP-78



VP-78
1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体
En-a(φ10mm以下)多量に混じる
2 10YR2/2黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(φ15mm以下)が多量に混じる
ロームブロック(φ30mm以下)が見られる

図IV-1-56 VP-73~78

VTP-1



VTP-1

- 1 7.5VR3/1黒褐色土 しまり弱 粘性中
- 2 10TR2/1黒色土 しまり強 粘性中
- 3 10TR3/2黒褐色土 しまり中 粘性中 En-aが少量混じる
- 4 10TR5/6黄褐色土 しまり中 粘性中 En-aが多量に混じる
- 5 10TR4/4褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 6 10TR1/7/1黒色土 しまり弱 粘性強
- 7 10TR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 8 10TR5/5黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体
- 9 10TR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-aが多量に混じる

図IV-1-57 VTP-1

(4) Tピット

VTP-1 (図IV-1-57/表1~2・3/図版21)

特徴 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は溝状で坑底面は平坦、壁は長軸、短軸共に垂直に立ち上がる。覆土の1~3層はV層の流れ込み、4~9層は崩落である。遺物は覆土から剥片が出土している。

時期 縄文時代中期と推定される。

(菊池)

VTP-2 (図IV-1-58/表1~2・3/図版21)

特徴 調査範囲ほぼ中央の平坦面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は溝状で坑底面は平坦、壁は長軸はオーバーハングして立ち上がり、短軸は垂直に立ち上がる。覆土の1~3層はV層の流れ込み、4~9層は崩落である。遺物は覆土から礫が出土している。

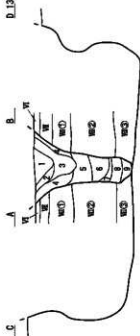
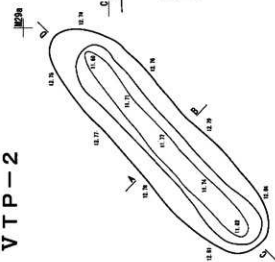
時期 縄文時代中期と推定される。

(菊池)

VTP-3・4 (図IV-1-59/表1)

特徴 調査範囲西側中央の急斜面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。VTP-3がVTP-4を壊しており、さらに試掘坑により壊されている。共に平面形は溝状で坑底面は波打っている。壁はVTP-3は垂直に立ち上がり、VTP-4は長軸は開きぎみに、短軸は垂直に立ち

VTP-2

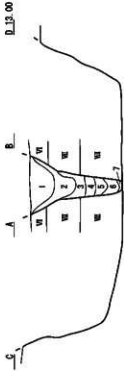
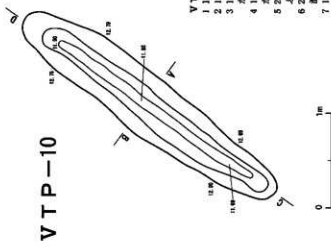


D.13.00

VTP-2

1. 7.59E2/1黒色土 しまり弱 粘液中 Er=δがごく少量混じる
2. 10784/2にたい黄褐色土 しまり弱 粘液中 Er=δがごく少量混じる
3. 10784/3にたい黄褐色土 しまり弱 粘液中 Er=δがごく少量混じる
4. 10784/4にたい黄褐色土 しまり弱 粘液中 Er=δが多量に混じる
5. 10784/4褐色土 しまり弱 粘液中 Er=δが多量に混じる
6. 10785/6黄褐色土 しまり弱 粘液中 Er=δが多量に混じる
7. 10785/6黄褐色土 しまり弱 粘液中 Er=δ主体 黒色土混入
8. 10782/1黒色土 しまり強 粘性强
9. 10785/6黄褐色土 しまり強 粘性强 Er=δ主体 黒色土混入

VTP-10

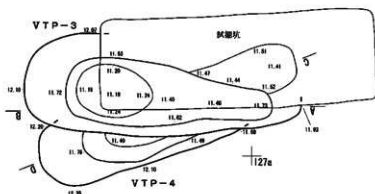


D.13.00

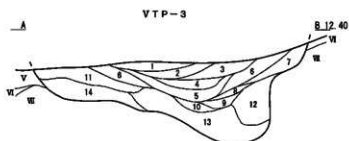
VTP-10

1. 10781/7/1黒色土 しまり弱 粘性强 腐植土主体 Er=δ(φ15cm以下)が少量混じる
2. 10782/2黄褐色土 しまり弱 粘性强 腐植土とロームの混合 Er=δ(φ10cm以下)が混じる
3. 10784/4褐色土 しまり弱 粘性强 ローム主体 腐植土が少量混じる Er=δ(φ10cm以下)が多量に混じる
4. 10782/7/1黒色土 しまり弱 粘性强 腐植土主体 ロームが少量混じる Er=δ(φ20cm以下)が多量に混じる
5. 2.59F/3砂リープ褐色土 しまり弱 粘性强 ロームとバミスの混合 腐植土が少量混じる
6. 2.59F/6黄褐色土 しまり弱 粘性强 Er=δ(φ10cm以下)主体 腐植土 ロームがブロック状に混じる もろく崩れやすい
7. 10781/7/1黒色土 しまり弱 粘性强 腐植土主体 Er=δ(φ10cm以下)がきわめて多量に混じる おっとりしている

図IV-1-58 VTP-2・10



127d



VTP-3

- 1 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
- 2 2.5Y3/1黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが少量、Ta-dが多量に混じる
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量、Ta-dが少量混じる
- 4 2.5Y5/4黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 5 2.5Y3/1黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが少量、Ta-dが多量に混じる
- 6 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
- 7 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 8 10YR5/8黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体
- 9 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
- 10 2.5Y3/1黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
- 11 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
- 12 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体
- 13 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体 黒色土少量混入
- 14 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体



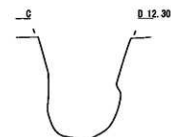
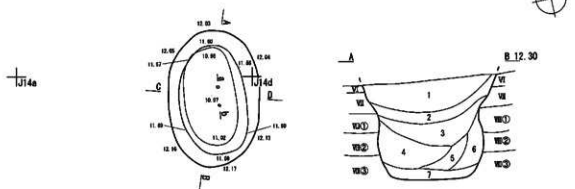
VTP-4

- 1 2.5Y3/1黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量、Ta-dが少量混じる
- 2 2.5Y5/6黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 4 2.5Y3/1黒褐色土 しまり強 粘性中 En-a、Ta-dが少量混じる
- 5 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体
- 7 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる 黒色土混入
- 8 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
- 9 2.5Y3/2黒褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる

0 1m

図IV-1-59 VTP-3・4

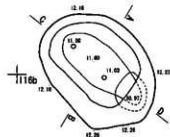
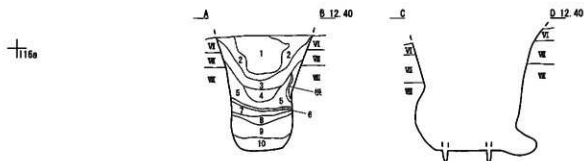
VTP-5



VTP-5

- 1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中 En-a少量、Ta-dごく少量混じる
- 2 10YR3/2黒褐色土 しまり中 粘性強 En-aが少量混じる
- 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり中 粘性強 En-aが多量に混じる
- 4 2.5Y5/6黄褐色土 しまり弱 粘性弱 En-a主体
- 5 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 En-aが多量に混じる
- 6 2.5Y5/6黄褐色土 しまり弱 粘性弱 En-a主体
- 7 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性強

VTP-6



VTP-6

- 1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 V層土主体 En-a(ϕ 15mm以下)が多量に混じる
ロームブロックあり 盛り上げ土の沈れ込みと考えられる
- 2 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 V層土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が少量混じる
ロームブロックなし
- 3 10YR2/2黒褐色土~4/4褐色土 しまり弱 粘性強 V+VI En-a(ϕ 10mm以下)が多量に混じる
鑿跡の崩壊土(盛り上げ土を含む)
- 4 10YR2/3黒褐色土~3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームとバミスが
少量混入する ねっとりしている
- 5 10YR4/6褐色土~5/8黄褐色土 しまり弱 粘性強 VII+VIII 腐植土が少量混入する
鑿跡の崩壊土
- 6 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が少量混じる
ねっとりしている
- 7 10YR5/8黄褐色土 しまり弱 粘性なし En-a(ϕ 20mm以下)主体 腐植土微量に混じる
もろく崩れやすい
- 8 10YR2/3暗褐色土~5/6黄褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 5mm以下)
が少量混じる ねっとりしている
- 9 10YR5/8黄褐色土~6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性なし En-a(ϕ 15mm以下)が混じる
非常にもろい
- 10 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 5mm以下)が少量混じる
ねっとりしている

0 1m

図IV-1-60 VTP-5・6

上がる。覆土は共に上層の黒褐色土はV層の流れ込み、以下の層は崩落である。遺物は出土していない。

時期 共に縄文時代中期と推定される。(菊池)

VTP-5 (図IV-1-60/表1)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は小判形で坑底面はほぼ平坦、壁は長軸・短軸ともにオーバーハングぎみに立ち上がる。覆土の1・2層はV層の流れ込み、3～7層は崩落である。遺物は出土していない。

時期 縄文時代中期と推定される。(菊池)

VTP-6 (図IV-1-60/表1/図版21)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。坑底部は長軸の両端がオーバーハングしており、標高の高い東側が特に大きい。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。坑底面に逆茂木痕が2基検出された。垂直に掘り込まれており、先端は丸みを帯びる。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-7 (図IV-1-61/表1～4/図版21)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は長楕円形を呈する。坑底部は溝状で、中央部がやや高い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。約2m東側にVTP-8があり、長軸方向がほぼ一致し、形状がよく類似することから、同時期に掘り込まれたものと推測される。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-8 (図IV-1-61/表1～5/図版22)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は長楕円形を呈する。坑底部は溝状で、長軸の両端がオーバーハングする。坑底面は概ね平坦であるが、中央部に凹凸がある。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。VTP-7は、長軸方向がほぼ一致し、形状がよく類似することから、同時期に掘り込まれたものと推測される。覆土中よりII群a-1類土器が出土した(図IV-2-13-32)。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

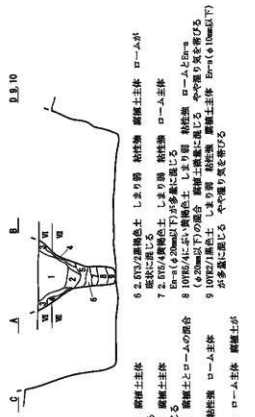
VTP-9 (図IV-1-62/表1/図版22)

特徴 祝梅川旧河道を望む低位の段丘上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形を呈する。坑底面は幅広く、ほぼ平坦である。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。坑底面に逆茂木痕が5基(SP-1～5)検出された。いずれも垂直に掘り込まれており、SP-1・5は先端が尖る。特に配列は見られない。

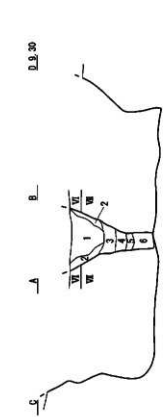
時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-10 (図IV-1-58/表1～5/図版22)

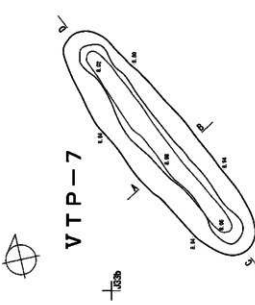
特徴 祝梅川旧河道を望む高位の段丘の縁辺に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出



- VTP-7
- 107R1/7/1黒色土、しまり跡、粘性土、腐植土主体、ロームが底状に覆じる。
 - 107R3/2黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土主体、ローム、Er-a(φ10mm以下)が少量覆じる。
 - 107R3/3黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土とロームの混合、Er-a(φ10mm以下)が少量覆じる。
 - 107R4/3/1黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土が少量覆じる。
 - 107R3/4黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土が少量に覆じる。
 - 107R2/2黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土主体、ロームが底状に覆じる。
 - Er-a(φ20mm以下)が多量に覆じる。
 - 107R5/4) におい、黒褐色土、しまり跡、粘性土、ロームとEr-a(φ20mm以下)の混合、腐植土微量に覆じる。やや湿り気を持つ。
 - 107R2/1黒色土、しまり跡、粘性土、腐植土主体、Er-a(φ10mm以下)が多量に覆じる。やや湿り気を持つ。

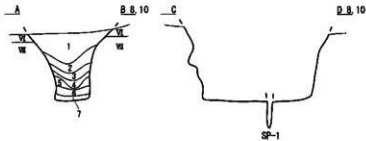
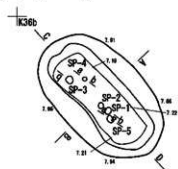


- VTP-8
- 107R1/7/1黒色土、しまり跡、粘性土、腐植土主体、Er-a、Te-d(φ10mm以下)が少量覆じる。
 - 107R4/3/1黒褐色土、しまり跡、粘性土、ローム主体、腐植土が底状に覆じる。
 - 2.574/3/1黒褐色土、しまり跡、粘性土、ロームと腐植土の混合、Er-a(φ15mm以下)が多量に覆じる。
 - 107R2/2黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土主体、ローム、Er-a(φ10mm以下)が底状に覆じる。
 - 2.573/2黒褐色土、しまり跡、粘性土、ロームと腐植土の混合、Er-a(φ20mm以下)が多量に覆じる。湿り気を持つ。
 - 2.573/1黒褐色土、しまり跡、粘性土、腐植土、ロームブロック覆じる。Er-a(φ20mm以下)が多量に覆じる。湿り気を持つ。



図IV-1-61 VTP-7・8

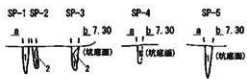
VTP-9



VTP-9

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 20mm以下)が多量に混じる
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームとEn-a(ϕ 20mm以下)がブロック状に混じる
- 3 10YR7/2にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土が斑状に混じる
- 4 10YR3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームとEn-a(ϕ 10mm以下)がブロック状に混じる 盛り気を含む
- 5 10YR6/2灰黄褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土が斑状に混じる 盛り気を含む
- 6 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームがマナ状に混在する 盛り気を含む
- 7 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 20mm以下)が多量に混じる 盛り気を含む

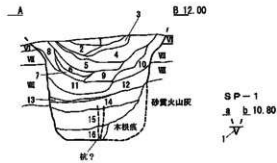
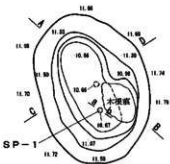
1.36a



- SP-1
1 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土 ねっとりしている
- SP-2
1 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土 ねっとりしている
2 2.5Y6/3にぶい黄色土 しまり弱 粘性強 ローム ねっとりしている
- SP-3
SP-2と同様
- SP-4
SP-1と同様
- SP-5
SP-1と同様

VTP-11

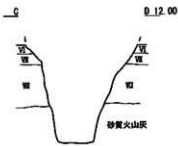
1.12a



VTP-11

- 1 2.5Y4/2暗灰黄色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)7%混じる 他の遺構の盛り上げ土か?
 - 2 5YR6/9褐色土 しまり強 粘性弱 En-a(ϕ 2~5mm)7%混じる 擬似焼土 他の遺構の盛り上げ土か?
 - 3 1+2 しまり強 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)3%混じる
 - 4 10YR3/1黒褐色土 しまり強 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)5%混じる
 - 5 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)10%混じる
 - 6 2.5Y3/3暗オリーブ灰色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)1%混じる
 - 7 2.5Y3/3暗オリーブ灰色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)40%混じる
 - 8 2.5Y4/4オリーブ褐色土 しまり強 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)5%混じる
 - 9 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)5%混じる
 - 10 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)3%混じる
 - 11 10YR1.7/1黒色土+En-a しまり弱 粘性強 1:1 斑状に混じる En-a50%
 - 12 10YR7/9黄褐色土 しまり弱 粘性強 En-a主体 増高土層
 - 13 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(ϕ 2~5mm)10%混じる
 - 14 10YR7/9黄褐色土 しまり弱 粘性強 En-a主体 12と同様
 - 15 2.5Y4/6オリーブ褐色土 しまり弱 粘性中 En-a主体40%混じる やや砂質
 - 16 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-aがわずかに混じる
- SP-1
1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強

1.12b



図IV-1-62 VTP-9・11

した。平面形は長楕円形を呈する。坑底部は細い溝状で、同じ長楕円形タイプのTP-7・8よりも幅が狭い。坑底面は南側が少し高い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。約3m西側のTP-2と並列しており、同時期に掘り込まれたものと推測される。遺物は、覆土中よりII群b-1類土器(図IV-2-18-120)が出土したが、流れ込みによるもので、遺構には伴わない。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VT P-11 (図IV-1-62/表1~4)

特徴 VI層上面で確認した。平面形は小判形。壁面上部は緩やかに開口する。坑底面は平坦で、壁面のオーバーハングは認められない。一部が木根によって破壊されている。杭跡を2か所検出した。いずれも覆土15の上面から確認されたものであるが、1つは坑底面直上で消失、もう1つの杭穴も坑底面で径7cm、深さ7cmと非常に浅いものであった。このことから覆土15の堆積後に、打設したものと考えられる。土層観察の結果、覆土は16層に分層した。覆土11・12・14・15はV層(E_n-a降下軽石)主体であることから崩落土と考えられる。覆土9・10・13・16は流れ込み、4・5はV層の堆積。覆土1~3は他の遺構の掘り上げ土の可能性が考えられる。覆土の堆積状況と併せて整理すると、杭なしで使用→覆土16流れ込み→覆土15崩落→坑底面の整地・杭の打設→覆土14崩落→覆土13流れ込み→覆土12、覆土11崩落→覆土10、覆土9流れ込みという埋没過程が想定される(覆土6~8については流れ込みか、他の遺構の掘り上げ土か判別できない)。

時期 不明。(影浦)

VT P-12 (図IV-1-63/表1)

特徴 VP-64と共にVI層上面で確認した。平面形は小判形。壁面上部は緩やかに開口する。坑底面は平坦で、長軸の一端のみがオーバーハングする。杭跡を2か所検出した。オーバーハング部分において検出した杭跡は坑底面で直径5cm、深さ8cm、坑底面中央で検出した杭跡は直径5cm、深さ4cmといずれも非常に浅い。覆土は8層。覆土4・7は崩落土と考えられる。覆土2・3・5・8は流れ込み、覆土1はV層土である。覆土6がTピットの最下層のような堆積状況を示していることから勘案すると、これらの杭は覆土7の堆積後に打設した可能性が高いと考えられる。覆土の堆積状況と併せて整理すると、杭なしで使用→覆土8流れ込み→覆土7崩落→坑底面の整地・杭の打設→覆土6、覆土5流れ込み→覆土4崩落→覆土3、覆土2流れ込み→覆土1V層堆積という埋没過程が想定される。同時に確認したVP-64の北東壁を破壊していることから、VP-64の埋没後に掘開したものである。

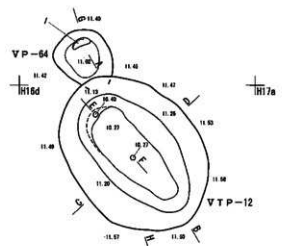
時期 不明。(影浦)

VT P-13 (図IV-1-63/表1~3)

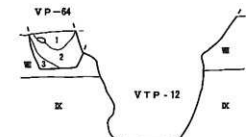
特徴 VI層上面で確認した。平面形は上部が円形、中部から坑底にかけては小判形である。坑底面は長軸方向に緩く湾曲し、長軸の両端壁が、ややオーバーハングしている。坑底からは杭跡を1か所検出した。杭跡は坑底面で直径4.5cm、深さ16cmである。覆土は7層。覆土6はVI層(E_n-a降下軽石)主体であることから崩落土と考えられる。覆土2~5・7は流れ込み、覆土1はV層の堆積である。遺物は、覆土中よりII群b類土器が出土している。

時期 不明。(影浦)

VTP-12・VP-64

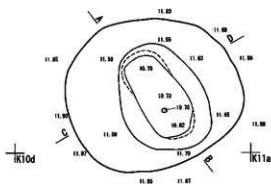


11.60 11.57 11.53 11.48 11.42 11.38 11.32 11.28 11.22 11.18 11.12 11.06 11.00 10.94 10.88 10.82 10.76 10.70 10.64 10.58 10.52 10.46 10.40 10.34 10.28 10.22 10.16 10.10 10.04 09.98 09.92 09.86 09.80 09.74 09.68 09.62 09.56 09.50 09.44 09.38 09.32 09.26 09.20 09.14 09.08 09.02 08.96 08.90 08.84 08.78 08.72 08.66 08.60 08.54 08.48 08.42 08.36 08.30 08.24 08.18 08.12 08.06 08.00 07.94 07.88 07.82 07.76 07.70 07.64 07.58 07.52 07.46 07.40 07.34 07.28 07.22 07.16 07.10 07.04 06.98 06.92 06.86 06.80 06.74 06.68 06.62 06.56 06.50 06.44 06.38 06.32 06.26 06.20 06.14 06.08 06.02 05.96 05.90 05.84 05.78 05.72 05.66 05.60 05.54 05.48 05.42 05.36 05.30 05.24 05.18 05.12 05.06 05.00 04.94 04.88 04.82 04.76 04.70 04.64 04.58 04.52 04.46 04.40 04.34 04.28 04.22 04.16 04.10 04.04 03.98 03.92 03.86 03.80 03.74 03.68 03.62 03.56 03.50 03.44 03.38 03.32 03.26 03.20 03.14 03.08 03.02 02.96 02.90 02.84 02.78 02.72 02.66 02.60 02.54 02.48 02.42 02.36 02.30 02.24 02.18 02.12 02.06 02.00 01.94 01.88 01.82 01.76 01.70 01.64 01.58 01.52 01.46 01.40 01.34 01.28 01.22 01.16 01.10 01.04 00.98 00.92 00.86 00.80 00.74 00.68 00.62 00.56 00.50 00.44 00.38 00.32 00.26 00.20 00.14 00.08 00.02 0 0.06 0.12 0.18 0.24 0.30 0.36 0.42 0.48 0.54 0.60 0.66 0.72 0.78 0.84 0.90 0.96 1.02 1.08 1.14 1.20 1.26 1.32 1.38 1.44 1.50 1.56 1.62 1.68 1.74 1.80 1.86 1.92 1.98 2.04 2.10 2.16 2.22 2.28 2.34 2.40 2.46 2.52 2.58 2.64 2.70 2.76 2.82 2.88 2.94 3.00 3.06 3.12 3.18 3.24 3.30 3.36 3.42 3.48 3.54 3.60 3.66 3.72 3.78 3.84 3.90 3.96 4.02 4.08 4.14 4.20 4.26 4.32 4.38 4.44 4.50 4.56 4.62 4.68 4.74 4.80 4.86 4.92 4.98 5.04 5.10 5.16 5.22 5.28 5.34 5.40 5.46 5.52 5.58 5.64 5.70 5.76 5.82 5.88 5.94 6.00 6.06 6.12 6.18 6.24 6.30 6.36 6.42 6.48 6.54 6.60 6.66 6.72 6.78 6.84 6.90 6.96 7.02 7.08 7.14 7.20 7.26 7.32 7.38 7.44 7.50 7.56 7.62 7.68 7.74 7.80 7.86 7.92 7.98 8.04 8.10 8.16 8.22 8.28 8.34 8.40 8.46 8.52 8.58 8.64 8.70 8.76 8.82 8.88 8.94 9.00 9.06 9.12 9.18 9.24 9.30 9.36 9.42 9.48 9.54 9.60 9.66 9.72 9.78 9.84 9.90 9.96 10.02 10.08 10.14 10.20 10.26 10.32 10.38 10.44 10.50 10.56 10.62 10.68 10.74 10.80 10.86 10.92 10.98 11.04 11.10 11.16 11.22 11.28 11.34 11.40 11.46 11.52 11.58 11.64 11.70 11.76 11.82 11.88 11.94 12.00



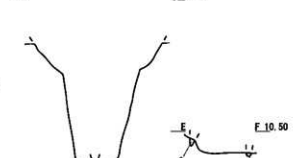
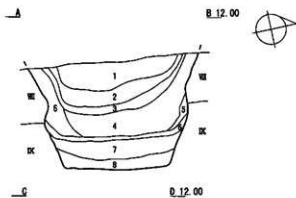
- VP-64**
- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ2~5mm)5%混じる
 - 2 2.5Y3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 En-a15%混じる
 - 3 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 En-a30%混じる

VTP-13



11.80 11.70 11.60 11.50 11.40 11.30 11.20 11.10 11.00 10.90 10.80 10.70 10.60 10.50 10.40 10.30 10.20 10.10 10.00 09.90 09.80 09.70 09.60 09.50 09.40 09.30 09.20 09.10 09.00 08.90 08.80 08.70 08.60 08.50 08.40 08.30 08.20 08.10 08.00 07.90 07.80 07.70 07.60 07.50 07.40 07.30 07.20 07.10 07.00 06.90 06.80 06.70 06.60 06.50 06.40 06.30 06.20 06.10 06.00 05.90 05.80 05.70 05.60 05.50 05.40 05.30 05.20 05.10 05.00 04.90 04.80 04.70 04.60 04.50 04.40 04.30 04.20 04.10 04.00 03.90 03.80 03.70 03.60 03.50 03.40 03.30 03.20 03.10 03.00 02.90 02.80 02.70 02.60 02.50 02.40 02.30 02.20 02.10 02.00 01.90 01.80 01.70 01.60 01.50 01.40 01.30 01.20 01.10 01.00 00.90 00.80 00.70 00.60 00.50 00.40 00.30 00.20 00.10 0 0.06 0.12 0.18 0.24 0.30 0.36 0.42 0.48 0.54 0.60 0.66 0.72 0.78 0.84 0.90 0.96 1.02 1.08 1.14 1.20 1.26 1.32 1.38 1.44 1.50 1.56 1.62 1.68 1.74 1.80 1.86 1.92 1.98 2.04 2.10 2.16 2.22 2.28 2.34 2.40 2.46 2.52 2.58 2.64 2.70 2.76 2.82 2.88 2.94 3.00 3.06 3.12 3.18 3.24 3.30 3.36 3.42 3.48 3.54 3.60 3.66 3.72 3.78 3.84 3.90 3.96 4.02 4.08 4.14 4.20 4.26 4.32 4.38 4.44 4.50 4.56 4.62 4.68 4.74 4.80 4.86 4.92 4.98 5.04 5.10 5.16 5.22 5.28 5.34 5.40 5.46 5.52 5.58 5.64 5.70 5.76 5.82 5.88 5.94 6.00 6.06 6.12 6.18 6.24 6.30 6.36 6.42 6.48 6.54 6.60 6.66 6.72 6.78 6.84 6.90 6.96 7.02 7.08 7.14 7.20 7.26 7.32 7.38 7.44 7.50 7.56 7.62 7.68 7.74 7.80 7.86 7.92 7.98 8.04 8.10 8.16 8.22 8.28 8.34 8.40 8.46 8.52 8.58 8.64 8.70 8.76 8.82 8.88 8.94 9.00 9.06 9.12 9.18 9.24 9.30 9.36 9.42 9.48 9.54 9.60 9.66 9.72 9.78 9.84 9.90 9.96 10.02 10.08 10.14 10.20 10.26 10.32 10.38 10.44 10.50 10.56 10.62 10.68 10.74 10.80 10.86 10.92 10.98 11.04 11.10 11.16 11.22 11.28 11.34 11.40 11.46 11.52 11.58 11.64 11.70 11.76 11.82 11.88 11.94 12.00

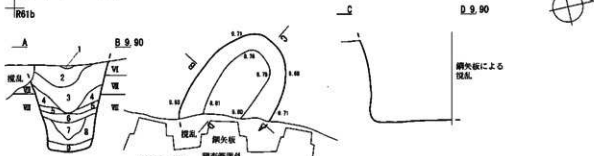
- VTP-13**
- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 V層主体 En-a(φ2~5mm)2%混じる
 - 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ2~5mm)15%混じる
 - 3 2.5Y3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ2~5mm)2%混じる
 - 4 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a(φ2~5mm)25%混じる
 - 5 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 V層主体 En-a(φ2~5mm)1%混じる
 - 6 2.5Y7/8黄色土 しまり弱 粘性強 ブロック状に散れる En-aベース 腐落土層 10YR1.7/1黒色土30%腐状に混じる
 - 7 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 V層土主体 En-a(φ2~5mm)2%混じる



- VTP-12**
- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり強 粘性強 En-a(φ2~5mm)7%混じる
 - 2 2.5Y2/1黒色土 しまり強 粘性強 En-a(φ2~5mm)7%混じる
 - 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり強 粘性強 En-a(φ2~5mm)7%混じる
 - 4 10YR7/8黄褐色土~1.7/1黒色土 6:4 しまり強 粘性強 En-a 60%混じる 腐落土
 - 5 2.5Y4/3オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 10YR1.7/1黒色土 20%混じる
 - 6 2.5Y2/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a10%混じる
 - 7 10YR5/6黄褐色土 しまり弱 粘性強 黒色土40%混じる
 - 8 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 En-a2%混じる

図IV-1-63 VTP-12・13, VP-64

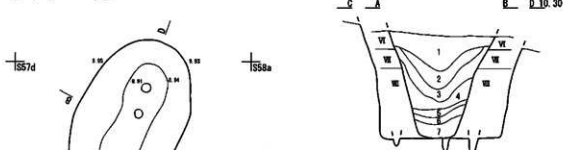
VTP-14



VTP-14 調査範囲外

- 1 7.5YR5/8明褐色土 しまり弱 粘性強 いわゆる「擬似地土」と呼ばれる酸化土層
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が多量に混じる
- 3 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 5mm以下)が少量混じる
- 4 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土がブロック状に混じる
- 5 2.5Y6/6明黄褐色土 しまり弱 粘性弱 En-a主体 腐植土少量混じる
- 6 7.5YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 15mm以下)多量に混じる
- 7 10YR3/4暗褐色土~2.5Y6/6黄褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土が微量に混じる
- 8 2.5Y6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性なし En-a主体 腐植土が微量に混じる
- 9 7.5YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が微量に混じる

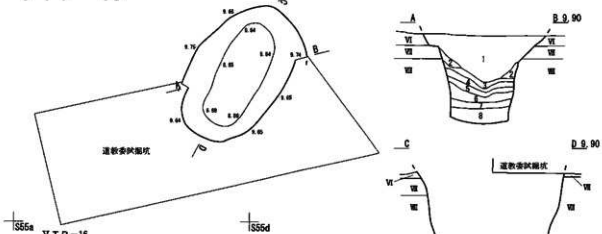
VTP-15



VTP-15

- 1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 En-a(ϕ 15mm以下)が混じる
- 2 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 1と同質だがEn-aがやや多い
- 3 2.5Y3/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 ロームとEn-aの混合 黒斑が見られる
- 4 2.5Y6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性なし En-a主体 腐植土少量混じる
- 5 2.5Y3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 5mm以下)が多量に混じる
- 6 2.5Y6/6黄褐色土 しまり弱 粘性弱 En-a主体 ローム、腐植土が少量混じる
- 7 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が少量混じる

VTP-16



VTP-16

- 1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 En-a(ϕ 15mm以下)が多量に混じる
- 2 2.5Y6/6明黄褐色土 しまり弱 粘性強 ロームとEn-aの混合 腐植土ブロックあり
- 3 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が少量混じる
- 4 2.5Y6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性なし En-a主体 腐植土が微量に混じる
- 5 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 5mm以下)が多量に混じる
- 6 2.5Y6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性なし En-a主体 腐植土が少量混じる
- 7 7.5YR4/4褐色土~2/1黒色土 しまり強 粘性弱 ロームとEn-aの混合 酸化により固くなっている 8の腐植土が少量混じる
- 8 7.5YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 25mm以下)が少量混じる ねっとりしている

図IV-1-64 VTP-14~16

VTP-14 (図IV-1-64/表1)

特 徴 祝梅川および梅川の旧河道が合流する地点へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。南側の約1/4は鋼矢板の打設による攪乱で壊されている。平面形は楕円形と推測される。坑底部は幅広で、南東側がやや高い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-15 (図IV-1-64/表1～3/図版22)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる北西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形で、坑底面は平坦である。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。坑底面より逆茂木痕が3基検出された。これらは垂直に掘り込まれており、長軸方向に直列している。北側から南側へ次第に浅くなる。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-16 (図IV-1-64/表1～4)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。東側の上部は北海道教育委員会の試掘坑によって壊されている。平面形は楕円形で、掘り込みはほぼ垂直である。坑底面は幅広で、北西側が少し低い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。覆土下部は酸化により固く赤化している。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-17 (図IV-1-65/表1)

特 徴 VI層上面で確認した。平面形は長楕円形。坑底面はほぼ平坦である。坑跡は検出していない。壁面上部は、長軸両端が絶壁であるが、他は緩やかに開口する。壁面下部は全体的にオーバーハングしている。土層観察の結果、覆土は5層に分層した。覆土4は崩落土。覆土2・3・5は流れ込み。覆土1はV層の堆積である。

時 期 不明。(影浦)

VTP-18 (図IV-1-65/表1)

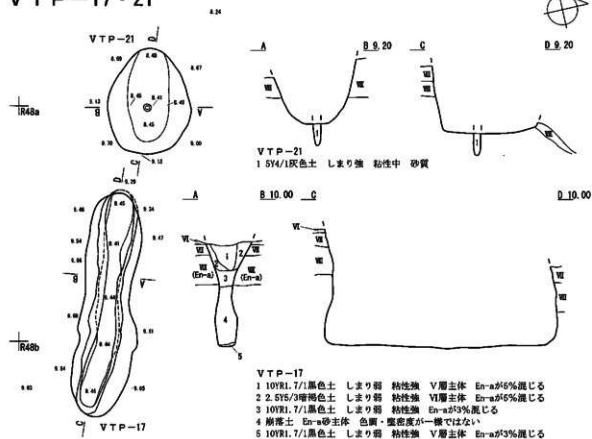
特 徴 VI層上面で確認した。平面形は長楕円形。坑底面は短軸方向で丸みを持ち、長軸方向では緩やかに傾斜する。坑跡は検出していない。壁面上部は、長軸両端が絶壁であるが、他は緩やかに開口する。壁面下部は全体的にオーバーハングしている。土層観察の結果、覆土は6層に分層した。覆土6は崩落土。覆土2～5は流れ込みである。流れ込みのうち、覆土3は粘性が非常に強く、覆土4・5は半ば液状化している状態であった。また、覆土4は擬似焼土化し、鮮やかな明赤褐色を呈していた。覆土3と4の間に空洞があるが、この空洞に一定期間水が溜まっていた可能性が考えられる。覆土1はV層の堆積である。

時 期 不明。(影浦)

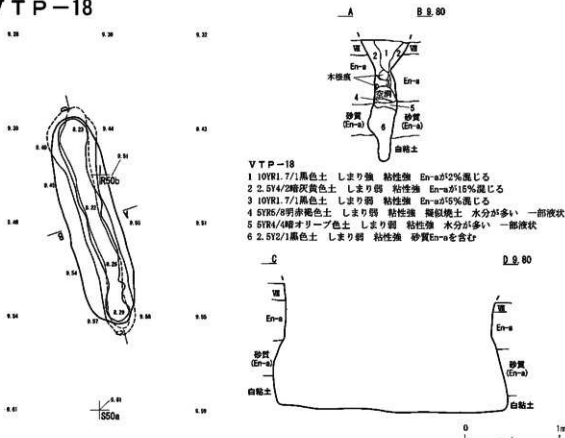
VTP-19 (図IV-1-66/表1)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検

VTP-17・21



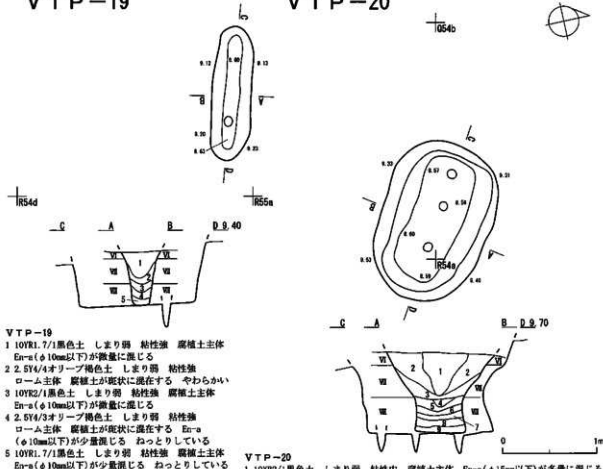
VTP-18



図IV-1-65 VTP-17・18・21

VTP-19

VTP-20



VTP-19

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(ϕ 10mm以下)が微量に混じる
- 2 5Y4/4オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強
ローム主体 腐植土が斑状に混在する やわらかい
- 3 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(ϕ 10mm以下)が微量に混じる
- 4 5Y4/3オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強
ローム主体 腐植土が斑状に混在する En-a
(ϕ 10mm以下)が少量混じる ねっとりしている
- 5 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(ϕ 10mm以下)が少量混じる ねっとりしている

VTP-20

- 1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 En-a(ϕ 15mm以下)が多量に混じる
- 2 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 En-a(ϕ 10mm以下)が少量混じる
- 3 5Y4/4~4/6オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土が斑状に混在する 下部に酸化による腐植層あり
- 4 2.5Y2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームが微量に混じる En-a
(ϕ 10mm以下)が少量混じる
- 5 2.5Y4/2暗灰黄色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土が少量混じる やわらかい
- 6 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 20mm以下)が多量に混じる
ねっとりしている
- 7 2.5Y6/4にぶい黄色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 腐植土が微量に混じる
やわらかい
- 8 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり弱 粘性強 ロームとEn-aの混合 腐植土が
少量混じる 下部に酸化による腐植層あり もろい
- 9 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a(ϕ 20mm以下)が多量に混
じる ねっとりしている

図IV-1-66 VTP-19・20

出した。平面形は長楕円形で、掘り込みはほぼ垂直である。坑底面は溝状で、北西側が少し低い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。壁面よりの崩落土は比較的少ない。覆土下部は酸化により固く赤化している。坑底面の東側より逆茂木痕が1検出された。坑底面より約20cm垂直に打ち込まれている。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。

(芝田)

VTP-20 (図IV-1-66/表1)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形。壁面上部の崩落が著しいが、本来の掘り込みは垂直であったと推測される。

坑底面は幅広く、平坦である。覆土は自然堆積で上部がⅤ層士の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。覆土下部は酸化により固く赤化している。坑底面より逆茂木炭が3基検出された。長軸方向に直列する。いずれも深さは同じで約20cm垂直に打ち込まれている。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。(芝田)

VTP-21 (図Ⅳ-1-65/表1)

特徴 VTP-17と近接してⅤ層の上面で確認した。河川跡の段丘崖上に位置しており、水の営力で壁の上部は斜めに開削されている。覆土が黒色土1層のみで、堅密度がスポンジ状に軟らかかったため、当初は遺構と想定しなかった。覆土を全て掘削したところ、坑底面に杭跡を検出したためTピットであると判断した。10YR1.7/1の黒色土で、非常に軟らかく、粘性のある覆土で、軽石等の混入は認められなかった。おそらく水の営力で、壁の一部が開削された際に、遺構内の覆土も一度全て流失し、その後、二次的に黒色土が流れ込んだものであろう。平面形は小判形。坑底面は緩やかに丸みを持ち、壁と坑底面の境は判然としない。坑底からは杭跡1か所を検出した。坑底面で直径8cm、深さ24cmである。杭穴の覆土は5Y4/1灰色であり、河川による流失を免れた本来の覆土と考えられる。

時期 不明。(影浦)

(5) 小ピット

VSP-1~40 (図Ⅳ-1-67~69/表1~5/図版23)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘上から祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上にかけて、径30cm未満の小土坑が疎らに検出された。これらの大部分は断面が柱穴状であるが、周辺で検出された縄文時代前期後半～後期中葉の住居跡からは離れており、付属する遺構(外柱穴)ではないと考えられる。また、2~3基がやや近接する例は見られるが、複数基が円形や方形の配列を成すことはない。検出面がⅥ～Ⅶ層中であることから、周辺のⅤ層中に検出できなかった小土坑が存在し、これらとともに掘立柱建物を構成していた可能性がある。VSP-1は坑口部から剥片・礫が出土している。このほか、VSP-2はⅡ群b類土器(図Ⅳ-2-18-121・122)、VSP-25はⅡ群a類土器(図Ⅳ-2-13-31)が覆土中より出土した。坑底部の形状は尖るものが多いが、角形(VSP-9・19・28)や丸みを帯びる(VSP-32・34)ものもある。VSP-30は、柱を埋設した際の掘方と考えられる掘り込みを周縁部に伴っている。

時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半～後期後葉と推測される。(芝田)

(6) 焼土

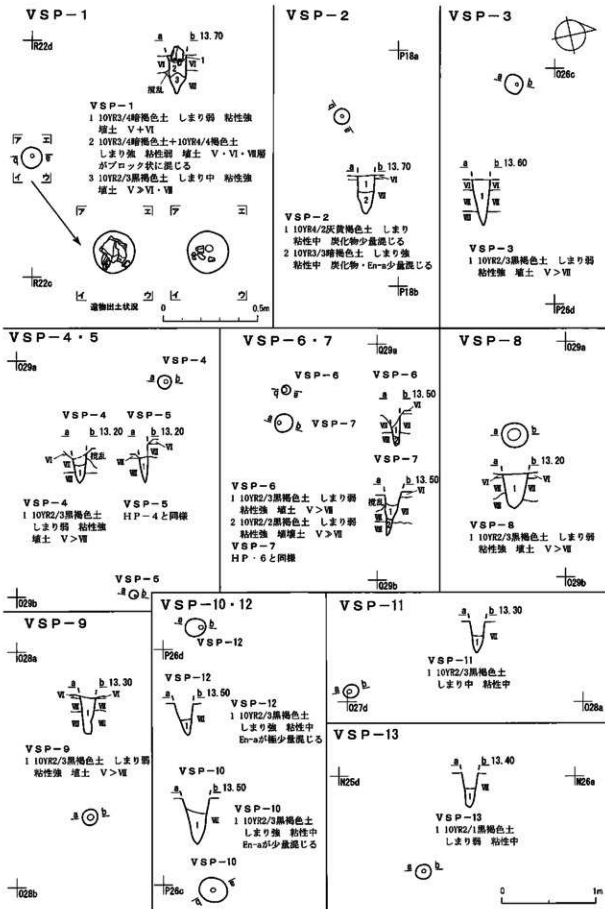
VF-1 (図Ⅳ-1-70/表1~2・4)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘上に立地する。検出面はⅤ層下位。平面形は不整形円形。断面はレンズ状で強く焼けている。Ⅴ～Ⅵ層との層界が明瞭であること、焼成が均質であることから、二次堆積あるいは「擬似焼土」(北理調報253)の可能性がある。焼土上面より礫が出土している。

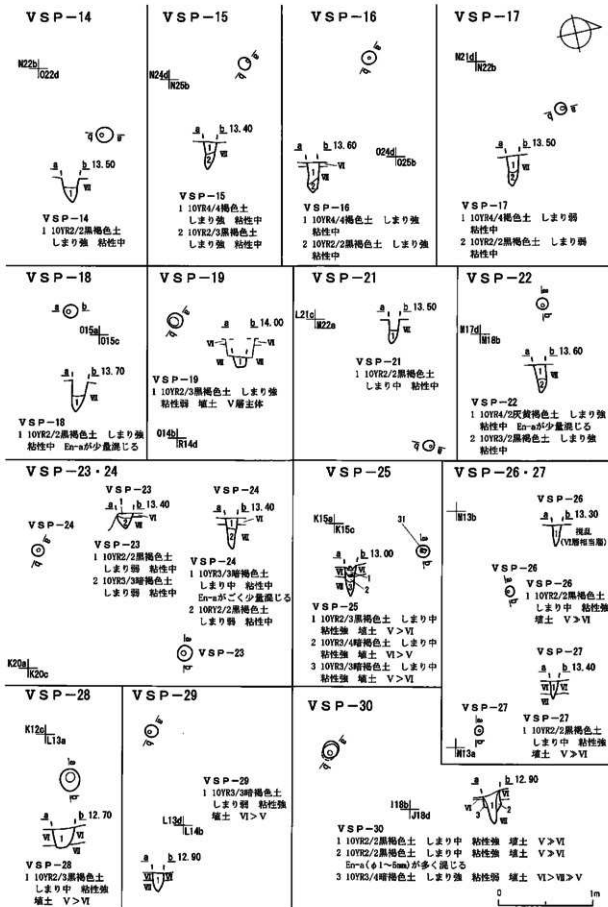
時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半と推測される。(芝田)

VF-2 (図Ⅳ-1-70/表1~5/図版24)

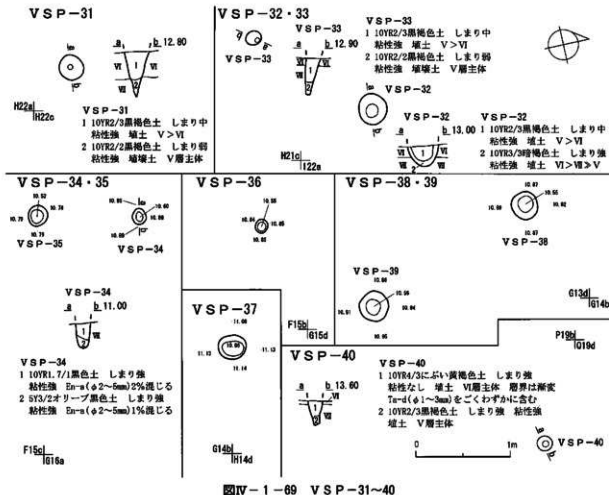
特徴 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はⅤH-2の覆土中であるが、ほぼⅤ層中位に相当する。直下に住居跡床面の土坑HP-23があり、これが埋没する際の凹みを利用して形成



図IV-1-67 VSP-1～13



図IV-1-68 VSP-14~19・21~30



図IV-1-69 VSP-31~40

されたと考えられる。平面形は不整楕円形。断面はレンズ状で強く焼けている。

時期 焼土上面で出土した遺物から、縄文時代中期末葉と推測される。

(芝田)

VF-3 (図IV-1-70/表1~5)

特徴 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はVH-2の覆土中であるが、ほぼV層中位に相当する。平面形は円形。断面はレンズ状で強く焼けている。焼土上面からⅢ群b類土器、石斧、剥片が出土している。立地が共通するVF-2と同時期のものと考えられる。

時期 焼土上面で出土した遺物から、縄文時代中期末葉と推測される。

(芝田)

VF-4 (図IV-1-70/表1)

特徴 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はV層下位である。平面形は円形で、北側の一部が木根による攪乱を受ける。断面はレンズ状で、中央部が強く焼けている。

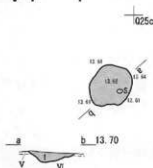
時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半と推測される。

(芝田)

VF-5 (図IV-1-70/表1)

特徴 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はV層下位である。平面形は不整円形。断面はレンズ状で、中央部が強く焼けている。

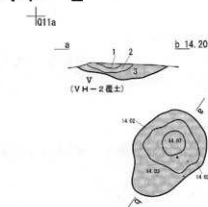
VF-1



VF-1

1 5YR4/8赤褐色焼土 しまり中
粘性弱 層は明確 壁は均質だが底面ほど強い

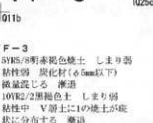
VF-2



VF-2

1 10YR2/2黒褐色土～5YR5/8明赤褐色土
しまり弱 粘性中
V層土に明るい焼土が斑状に分布する
2 5YR5/8明赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
層り上げ土(VH-2)と考えられる
E₁ (φ20mm以下)が混在する
3 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中
V層土に暗い焼土が斑状に分布する

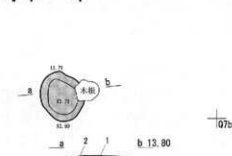
VF-3



VF-3

1 5YR5/8明赤褐色焼土 しまり弱
粘性弱 炭化材(φ5mm以下)
微量混じる 漸進
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱
粘性中 V層土に1の焼土が斑
状に分布する 漸進

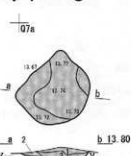
VF-4



VF-4

1 5YR5/6明赤褐色焼土～10YR3/3暗褐色焼土
しまり弱 粘性弱
斑状にV層土が残存する 炭化材(φ5mm
以下)微量に混じる
2 10YR2/2黒褐色土～5YR4/4い赤褐色土
しまり弱 粘性強 V層土に焼土が斑状に
混在する
3 5YR5/8明赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
4 5YR3/3暗赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱

VF-5



VF-5

1 5YR5/6明赤褐色焼土～10YR3/2黒褐色焼土
しまり弱 粘性弱 斑状にV層土が残存する
2 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強
V層土に1の焼土が点在する
3 5YR5/8明赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
炭化材(φ5mm以下)微量混じる
4 5YR3/4暗赤褐色焼土 しまり弱 粘性中
V層土に斑状に残存する

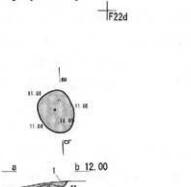
VF-6



VF-6

1 5YR5/6明赤褐色焼土 しまり中 粘性中
2 7.5YR3/4暗褐色焼土 しまり中 粘性中

VF-7



VF-7

1 7.5YR3/2黒褐色焼土 しまり中 粘性中
2 5YR4/6赤褐色焼土 しまり中 粘性中

VF-9



VF-9

1 5YR4/8赤褐色焼土～5YR3/6暗赤褐色焼土
壁厚やや不明瞭 漸進 黒褐色土混じり
やや不均質



N20a



F22c



I5d

0 1m

時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半と推測される。(芝田)

VF-6 (図IV-1-70/表1・11/図版24)

特徴 調査範囲やや南側中央の平坦面に位置する。明褐色土と暗褐色土に分層される。

時期 周辺の遺構より縄文時代後期の可能性がある。(菊池)

VF-7 (図IV-1-70/表1・2・4)

特徴 調査範囲やや南西側端の緩斜面に位置する。黒褐色土と赤褐色土に分層される。遺物は焼土より石皿、隙が出土している。

時期 周辺の遺構より縄文時代前期の可能性がある。(菊池)

VF-9 (図IV-1-70/表1/図版24)

特徴 V層で検出した。VI層上位にかけて被熱している。平面形は円形。赤色部分は中心部から周囲へ漸進している。周辺からは縄文時代後期中葉の土器などが出土している。

時期 縄文時代後期中葉と推測される。(阿部)

VF-13~16 (図IV-1-71/表1~4・7・11)

特徴 V層で赤みを帯びた土の円形の拡がりを4か所確認した。断面を観察すると、いずれも凸レンズ状で周囲のV層より硬いことから、焼土と判断した。VF-13のすぐ西側では台石(図IV-2-38-1)が出土した。VF-13・14をフローテーション処理したところ、炭化材のほかに堅果やブドウ種子が検出された。

時期 V層での遺物出土状況から、縄文時代後期と推測される。(山中)

VF-17 (図IV-1-71/表1~3・5)

特徴 VI層で赤みを帯びた土の円形の拡がりを確認した。断面を観察すると皿状で周囲のVI層より硬いことから、焼土と判断した。今回の調査範囲ではVI層から遺物が出土していないので、V層から掘り込まれた住居跡の炉であるかもしれない。後述するVF-18の間には炭化木片が散らばっており、VI層を床面とした竪穴が存在した可能性がある。焼土の周囲で柱穴を探したところ、それらしき穴を4か所確認したが、柱穴であるかは不明である。なお、本焼土より約10cm上位にも赤色土の拡がりがあったが、平面形が整わず断面も波打つことから、焼土ではなく鉄分の集積等によるものと考えられる。遺物は焼土上からIV群b-1類の土器片4点(図IV-2-3-3)が出土した。

時期 焼土上で出土した土器片等から、縄文時代後期中葉であろう。(山中)

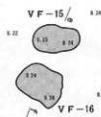
VF-18 (図IV-1-71/表1~5)

特徴 VI層で黒褐色土の楕円形の拡がりを確認した。黒褐色土上には炭化木片が散らばる。拡がりの中央部に試掘坑を設けて堆積状況等を観察したところ、風倒木痕であることが判明した。続いて、風倒木痕のくぼみに堆積した黒褐色土を除去すると、赤みを帯びた土の拡がりが現れた。色調がVF-17に似ることから焼土と判断したが、VF-17に比べ斑で、周囲のVI層より軟らかいことから、くぼみ内で形成されたものではないと推測される。遺物はIV群b-2類土器(図IV-22-182)が出土した。

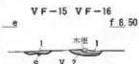
時期 周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期中葉、VF-17と同じ頃であろう。(山中)

VF-13~16

N43a



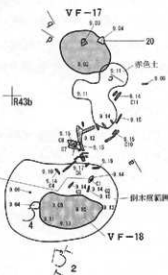
N43b



VF-17・18



T 3



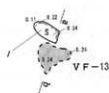
S43a

VF-19

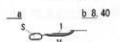
S50c



N43d



VF-13



VF-13

1 7.5YR5/4にぶい褐色焼土 しまり強

VF-14

c d. 8.50



VF-14

1 10YR2/1黒色軽焼土 しまり弱~強

1mm程度の焼土粒が混じる

2 7.5YR4/3褐色焼土 しまり強

3 7.5YR4/2赤褐色焼土 しまり強

N43c

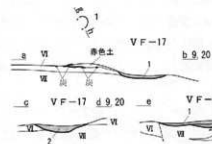
VF-15
1 7.5YR4/3褐色焼土 しまり強

VF-16

1 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質壤土 しまり強 粘りの強い部分あり

2 7.5YR4/3褐色焼土 しまり強

N44b



VF-17

1 7.5YR2/1黒色土 しまり弱 埴壤土 炭化木片混じる

2 5YR4/4にぶい赤褐色焼土 しまり強 粘性強 長さ2cm以下

下の炭化木片が少量混じる

赤色土 7.5YR5/8明褐色土 しまり強 粘性弱 砂質埴壤土

VF-18

1 10YR2/1黒色土 しまり弱~強 埴壤土 炭化木片が上面

にあり

2 5YR4/4にぶい赤褐色焼土 しまり弱~強 粘性強 VF-17

と異なり、赤化部分が底である

1

1 10YR2/1黒色土 しまり弱~強 埴壤土

En-aごく微量に混じる 炭化木片が上面にあり

2

1 10YR2/1黒色土 しまり弱~強 埴壤土

En-aごく微量に混じる

3

1 10YR2/1黒色土 しまり弱~強 埴壤土

ⅤⅤが微量、En-aごく微量に混じる

a

b. 9.80



VF-19

1 5YR5/6明赤褐色焼土 しまり強

S51b

図IV-1-71 VF-13~19

V F-19 (図IV-1-71/表1)

特徴 VI層で赤みを帯びた土の円形の拡がりを確認した。断面を観察すると凸レンズ状で周囲のVI層より硬いことから、焼土と判断した。今回の調査範囲ではVI層から遺物が出土していないので、V層から掘り込まれた住居跡の炉であるかもしれない。焼土の周囲で柱穴を探したが、確認はできなかった。

時期 V層での遺物出土状況から、縄文時代後期中葉頃の可能性がある。(山中)

(7) 集石

V S-1~4 (図IV-1-72/表1/図版24)

特徴 V層で礫のまとまる部分を4か所確認し、礫集中として調査した。礫は割れているものが大半で、なかには熱を受けて赤色化したとみられるものもある。V S-4は礫片が楕円形にまとめられ、その中心に大型の礫が置かれている。いずれもまとまりの下部に掘り込みは認められなかった。なおVI層で長径約1.2mのくぼみを確認したが、堆積状況等から人為的な掘り込みではない。このくぼみのため、V S-4は西側にやや傾いている。V S-1・2よりIV群b-2類土器(図IV-22-183・184)が出土した。

時期 礫に混じて出土した土器から、縄文時代後期中葉頃と推測される。(山中)

V S-5 (図IV-1-73/表1~4)

特徴 VI層で黒色土の円形の拡がりを確認した。黒色土中からは礫片がまとめて出土したので、礫集中として調査した。土層断面の観察では掘り込みは確認できなかったので、V層がややくぼんでいた部分に礫片が集められたものと推測される。IV群b-2類土器(図IV-22-185)が出土した。

時期 礫に混じて出土した土器等から、縄文時代後期中葉頃と推測される。(山中)

V S-6 (図IV-1-73/表1~2・4・7/図版24)

特徴 V層の下部において礫のまとまりを検出した。検出した礫を実測・撮影後、中央部に試掘坑を設定し掘開したが、集石の下に掘り込みは確認できなかった。出土した点数は86点である。石材は砂岩製のものが最も多い。破片を接合したところ、すり石(図IV-2-38-1)と石皿(2)が復元された。

時期 不明。(影浦)

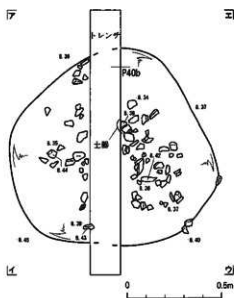
(8) 剥片集中

V F C-1 (図IV-1-73/表1~2・4/図版24)

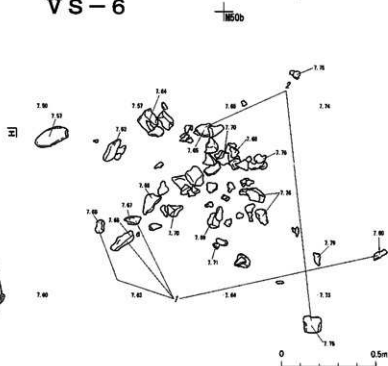
特徴 V層を調査中に、頁岩の剥片が長さ0.18m・幅0.09m程の範囲に60点集まった状態で検出した。総重量は502.5g、1点の平均は8.4gである。周囲を精査したが、土坑等の掘り込みは確認できなかった。剥片は検出状況からみて、袋状のものに入れられていたと考えられる。同一母岩と思われたことから接合を試みたが、数点が接合しただけであった。

時期 周囲の状況から縄文時代前期と考えられる。(酒井)

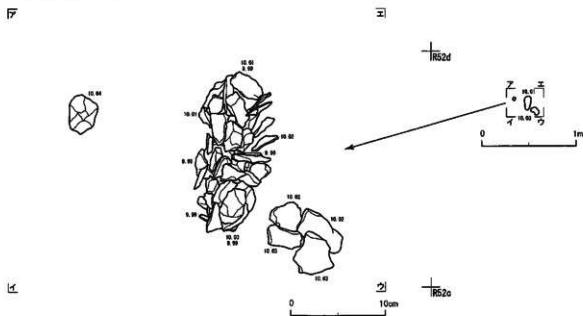
VS-5



VS-6



VFC-1



図IV-1-73 VS-5・6、VFC-1

2 遺構出土の遺物

(1) 土器

①住居跡

VH-1 (図IV-19-125~127/表5/図版36)

125~127はⅢ群b-3類で、北筒式。いずれも胴部片。125・127は結束第2種の羽状縄文、126はRの燃糸文が疎らに施される。126は器面に凹凸が見られる。

VH-2 (図IV-2-6-16、13-33~35/表5/図版29・32)

16はⅢ群b-3類で、北筒式。口縁~底部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴部が膨らむ器形。底部は平底。口縁部の4か所に山形突起を有し、縦位の貼付帯を取り付けている。器外面および口縁部内面にL R斜走縄文。口縁部には竹管状施文具による押し引き列2条、その直下に棒状施文具による円形刺突列1条が巡る。口唇上にも押し引き列が施される。また、胴上部には押し引き列によりやや不整な鋸歯状文が描かれる。焼成は良好。胎土は砂礫を少量含む。33~35はⅡ群b-2類で、大麻V式。33a・bは口縁部。R L斜走縄文の地文に、縄側面圧痕が1条横走する。端面と内面にも回転縄文。34は胴部で、R L斜走縄文。35a・bは胴部・底部。外面~底面に疎らなL R斜走縄文。

VH-3 (図IV-2-13-36~40、19-128~130/表5/図版32・36)

36はⅡ群b-1類で、植苗式。口縁部片で、内外面に羽状縄文を施し、籬状の貼付帯を巡らす。37~40はⅡ群b-2類で、大麻V式。37・38は口縁部、39・40は胴部で、いずれも羽状縄文が施される。37は端面・内面にも羽状縄文(磨滅)、口唇直下に縄側面圧痕1条。128~130はⅢ群b-3類で、北筒式。128・129は口縁部片。半截竹管状施文具による刺突列が、端面と外面に施される。130は胴部片で、結束第2種羽状縄文を地文とし、竹管状施文具により鋸歯状の刺突列が施される。

VH-4 (図IV-2-4-4、13-41~49、19-131/表5/図版26・32・37)

41・42・47はⅡ群b-1類で、植苗式。41・42は口縁部、47は胴部で、いずれも内外面に羽状縄文。41は断面角形、42は断面三角の貼付帯が巡る。4・43~46・48はⅡ群b-2類で、大麻V式。4は口縁~胴中部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形で、一部内傾。端面~器外面にR LとL Rの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。口縁部に未貫通の円形刺突孔1か所。器内面には横ナデの調整痕が残る。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。43~46は口縁部、48は底部で、いずれも羽状縄文。44は縄側面圧痕1条。49はⅡ群b-3類で、円筒土器下層d式。49は胴部で、結節回転文。内面は磨かれている。131はⅢ群b-3類で、北筒式に相当する。山形突起を有する口縁部。口唇が肥厚し、断面が三角形を呈する。端面は、内傾。地文は羽状縄文で、内面にも施文される。半截竹管状施文具による刺突列が、端面に1条、口唇直下に3条、その直下に棒状施文具による円形刺突列(貫通していない)が1条巡る。

VH-5 (図IV-2-7-17、19-135・136/表5/図版29・37)

17・135・136はⅣ群a-2類で、タブコブ式。17は口縁~胴中部が復元された深鉢。口縁部には5か所の低い山形突起を有する。口縁部に幅広の肥厚帯、さらに口唇直下に籬状の貼付帯を1条取り付けている。山形突起の頂部から縦位の貼付帯が垂下する。端面にL R斜走縄文。器外面にR LとL Rの斜走縄文を交互に施し、羽状縄文を形成する。内面にもR L・L R縄文が疎らに施される。胎土は砂礫が多量に混入する。土器囲炉に使用されていたため、被熱により器面の剥落が著しい。135・136は、口縁部および胴部片。いずれも端面と内外面にR L斜走縄文を施す。136は口唇直下に縦位の貼付帯を取り付ける。

VH-6 (図IV-2-4-5・6、14-50~62/表5/図版27・33)

5・6・50~60はⅡ群b-2類で、大麻V式。5は口縁~胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は外傾。端面~器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面には横ナデの調整痕が残る。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は繊維が少量混入する。6は口縁~底部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、胴部がやや膨らむ器形。底部は上げ底で、底面の中央が凹む。口唇断面は角形。端面~底面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面には横ナデの調整痕が残る。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。50~57は口縁部、58・59は胴部、60は底部。50・51・54は、端面と内外面に羽状縄文が施されており、縄側面圧痕1条が巡る。51・54は端面にも縄側面圧痕。53は補修孔2か所が穿かれている。57は口唇が押し潰されたように外反する。61・62はⅡ群b-3類で、円筒土器下層d式。いずれもは胴部で、縦位の捺糸文。内面が磨かれている。

VH-7 (図IV-2-8-18、19-137/表5/図版29・37)

18・137はⅣ群a-2類で、タブコブ式。18は口縁~胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、推定5か所の縦位の貼付帯が垂下する(現存3か所)。端面にRL斜走縄文。器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、羽状縄文を形成する。内面にもRL・LR縄文が疎らに施される。胎土は砂礫が多量に混入する。土器囲炉に使用されていたため、被熱により器面の剥落が著しい。137は山形突起を有する口縁部片。端面と内外面にRL斜走縄文を施す。

VH-8 (図IV-2-14-63・64/表5/図版33)

63・64はⅡ群b-1類で、植苗式。63は口縁部で、端面と内外面に羽状縄文を施し、籬状の貼付帯が1条巡る。64は胴部で、内外面に無節Lの横~斜走縄文がやや粗雑に施される。

VH-9 (図IV-2-19-132~134、20-139・140/表5/図版37)

132・133はⅢ群b-3類で、北筒式に相当する。132は口縁部片で、半截竹管状施工具よる刺突列2条。133は胴部片で、捺糸Lの地文に沈線が上書きされる。内面が研磨されていることから、円筒下層d式の可能性もある。134はⅣ群a-2類で、タブコブ式に相当する。胴部片で、太い原体によるLR斜走縄文。139・140はⅣ群b-1類で、ウサクマイC式に相当する。139は口縁部片。RL斜走縄文の地文に、5条以上が1組となった細い沈線により山形あるいは鋸歯状の文様が描かれる。140は胴部片。LR斜走縄文の地文に、横走沈線2条が巡る。

VH-10 (図IV-2-4-7・8、15-65~82、18-123/表5/図版27・33・34・36)

65・78~80はⅡ群b-1類で、植苗式。65は口縁部、78~80は胴部で、いずれも外面に横位、内面に縦位の羽状縄文が施される。65には籬状の貼付帯。7・8・66~77・81はⅡ群b-2類で、大麻V式。7は口縁~胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形。端面~器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。口縁部内面にも羽状縄文。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。8は口縁~胴上部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面はやや急な外傾。端面~器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、羽状縄文を形成する。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。66~71は口縁部外面に縄側面圧痕が1ないし2条巡るもの。68は内面にも羽状縄文。82はⅡ群b-3類で、円筒土器下層d式。幅の狭い口縁部文様帯に横位の絡条体回転文、胴部には結束第2種の羽状縄文と単軸絡条体が多段に施される。123はⅢ群a類で、円筒土器上層b式。口縁~胴中部の破片で、口縁部が外反し、胴部がやや膨らむ器形と推測される。端面は外傾。器外面には結束第1種の羽状縄文が施される。端面~口唇直下は無文で、粘土紐が波状に取り付けられる。内面は磨かれている。

VH-11 (図IV-2-20-141・142/表5/図版37)

141・142はIV群b-1類で、ウサクマイC式。141は胴部片。LR斜走縄文の地文に、2条1組の沈線で曲線文様を描き、内部を磨り消している。142a～dは、深鉢の口縁部・胴部・底部の破片。口縁部は平縁で、口唇断面は角形。端面および器外面にLR斜走縄文が施される。口唇直下に横走沈線1条。胴部は、2条1組の沈線で対向する眼状の文様を描き、内部を磨り消している。底部は平底で、無文。

VH-12 (図IV-2-20-143～148/表5/図版37)

143～148はIV群b-1類で、ウサクマイC式。143は口縁部片で、外反する器形と推測される。口唇断面は角形。端面～外面にLR斜走縄文を施す。横走沈線が現存で5条が巡り、沈線間が磨り消された無文帯も見られる。144～147は胴部片。144・145はLR斜走縄文の地文に、斜位あるいは横位の沈線。146は沈線で区画された内部が磨り消される。いずれも内面が丁寧に調整されて、平滑になっている。147a・bは、口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形と推測される。器外面にRL斜走縄文を施す。口縁部との間には沈線で区画された無文帯が設けられている。胴上部は5条1組の沈線により連続するN字状文、胴中部は磨り消しの技法により屈曲文や上向きの矢印文が描かれる。148は口縁部片で、無文。

VH-14 (図IV-2-11-23～25、20-149～155/表5/図版30・38)

23～25・149～155はIV群b-2類で、手稲式。23は口縁～底部が復元された深鉢。口縁部は平縁。端面は丸みを帯びる。底部は平底。器外面にLR斜走縄文を施すが、胴下～底部は無文。口縁部に1条の横走沈線が巡り、それより上位の口唇直下は地文が磨り消され、無文帯としている。24は口縁～胴中部が復元された深鉢。波状口縁で、端面は丸みを帯びる。器外面にLR斜走縄文を施すが、口唇直下は無文。25は口縁～胴下部が復元された深鉢。波状口縁で、端面は丸みを帯びる。器外面にLR斜走縄文を施すが、口唇直下および胴下部は無文。口縁～胴上部には、連続する扁平なL字状沈線を多段に巡らす。いずれも焼成は良好で、砂礫を少量含む。149～154は口縁部片。149は波状口縁の突起部分で、内湾する。端面は丸みを帯びる。器外面にLR横走縄文を施す。横走沈線4条が巡り、縦位の短弧線が上書きされる。横走沈線より上位の口唇直下は無文。150は口唇直下の無文帯が削り取りにより薄身に成形され、段が作られている。地文はLR斜走縄文。横走沈線4条が巡り、縦位の短弧線が交互に上書きされる。横走沈線より下位も無文帯。151・153は平縁で、内湾する器形。横走沈線1条より上位の口唇直下はLR斜走縄文が磨り消され、無文帯。153は横走沈線に縦位の短弧線が上書きされる。152は、緩い波状口縁の小型土器。口唇直下は無文帯。横走沈線6条に縦位あるいは蛇行沈線が上書きされる。沈線の幅は狭い。154は波状口縁の突起部分。器外面にLR横走縄文を施すが、口唇直下は無文帯。内面に横ナデの調整痕。155は胴部片。地文を沈線で区画して内部を磨り消している。地文が羽状縄文であることから、堂林式の可能性もある。

VH-15 (図IV-2-5-9・10、16-83～94/表5/図版27・28・34)

9・10・83～91はII群b-2類で、大麻V式。9・10は口縁～胴中部が復元された深鉢。9は口縁部が平縁で、胴部がやや膨らむ器形。口唇断面は角形。端面～器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。10は口縁部が平縁で、口唇断面は外傾。器外面にRL斜走縄文を疎らに施す。焼成は良好ではなく、器面が剥落する。胎土は繊維が少量混入する。83～90は口縁部、91は底部。いずれも地文が羽状縄文で、83～85は端面、84・87は内面にも施文。83～85は縦側面圧痕が1条巡る。92～94はII群b-3類で、円筒土器下層d式。92は口縁部で、燃りの異なる2条1組の燃糸文が横走する。93・94は胴部で、単軸絡条体の回転文。

VH-16 (図IV-2-11-26、12-28・29、22-186/表5/図版31・39)

26はIV群b-2類で、手箱式。口縁～底部が復元された広口の壺。口縁および底部は無文で、胴部にLR斜走縄文を施す。焼成は良好で、砂礫を少量含む。28・29・186はIV群c-1類で、堂林式。28は口縁～胴部が復元された鉢。口縁部は平縁で、端面は水平～やや内傾。器外面にLR斜走縄文を施す。口縁部には1条のIO突瘤列が巡る。焼成は良好ではなく、器面の一部が剥落する。29a・bは同一個体で、注口土器の胴～底部。器外面には細い原体でLR斜走縄文が施される。注口部は斜め上向きで、先端を欠く。注口部の下端および胴部の張り出し部分には瘤状突起が貼り付けられる。また、注口部や瘤状突起を囲むように細い沈線で文様が描かれるが、構成は不明である。焼成は良好。胎土は砂礫が少量混入する。186a・bは口縁部片。端面は水平～丸みを帯びる。器外面にLR斜走縄文を施す。

VH-17 (図IV-2-5-11、16-95～99、18-124/表5/図版28・34・36)

11はII群b-2類で、大麻V式。口縁～胴上部が復元された深鉢。口縁部は平縁でやや外反し、胴部が膨らむ器形。端面は外傾。端面～器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、羽状縄文を形成する。口縁部内面にもRL斜走縄文。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。95～97はII群b-1類で、植苗式。95は口縁部、96は胴部で、内外面に羽状縄文。97は底部で、底面にも回転縄文。98・99はII群b-3類で、円筒土器下層d式。胴部片で、結節回転文。124はIII群a類で、円筒土器上層b式。口縁および胴中部片で、口縁部が外反し、胴部がやや膨らむ器形と推測される。端面は外傾。器外面には結束第1種の羽状縄文が施される。口縁部に粘土紐を山形あるいは波状に貼り付け、内部を馬蹄形疋痕文や組紐疋痕文で充填している。内面は磨かれている。

②土坑

VP-1 (図IV-2-16-100～104/表5/図版35)

100～104はII群b-2類で、大麻V式。100・101が口縁部、102～104が胴部で、いずれも羽状縄文。101・104は内面にも回転縄文。100は口唇直下に縄側面疋痕。100・102は補修孔が確認される。

VP-8 (図IV-2-5-12、16-105・106/表5/図版28・35)

12・105・106はII群b類。105はII群b-1類で、植苗式。胴部片で、外面は横位、内面は縦位の羽状縄文。12・106はII群b-2類で、大麻V式。12は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁でやや外反する。口唇断面は外傾。端面～器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面にも疎らな羽状縄文。口縁部には横位のLR縄側面疋痕2条が巡る。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は繊維が少量混入する。106は胴部片で、内外面に単軸絡条体の回転文。

VP-11 (図IV-2-5-13、17-107/表5/図版28・35)

13・107はII群b-2類で、大麻V式。13は胴中～底部が復元された深鉢。底部は上げ底ぎみで、底面の中央が凹む。器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面にも疎らな羽状縄文。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。107は口縁～胴中部。口唇断面が切り出し状を呈し、端面が広く外傾する。端面と外面には羽状縄文が施される。端面は縄側面疋痕2条が巡る。

VP-14 (図IV-2-17-108/表5/図版35)

108はII群b-2類で、大麻V式。口縁部で無文。爪による成形痕が残る。

VP-16 (図IV-2-17-109/表5/図版35)

109はII群b-2類で、大麻V式。胴部で、内外面に羽状縄文(磨滅)。

VP-23 (図IV-2-6-14/表5/図版28)

14はⅡ群b-1類で、植苗式。口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形。端面～器外面にRとLの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面にも縦位の羽状縄文が同一原体により施される。焼成は良好。胎土は砂礫・繊維に富む。

VP-24 (図IV-2-17-110・111/表5/図版35)

110・111はⅡ群b-1類で、植苗式。110は口縁部で、端面と内外面に斜走縄文(羽状縄文の一部か)。111は胴部で、羽状縄文(磨滅)。

VP-29 (図IV-2-17-112～114/表5/図版35)

112・113はⅡ群b-2類で、大麻V式。いずれも胴部で、112は羽状縄文、113はLR斜走縄文。114はⅡ群b-3類で、円筒土器下層d式。胴部で、結節回転文。内面が磨かれている。

VP-32 (図IV-2-17-115/表5/図版35)

115はⅡ群b-2類で、大麻V式。口縁～胴中部で、粗雑な羽状縄文。器面には凹凸がある。

VP-36 (図IV-2-17-116/表5/図版35)

116はⅡ群b-2類で、大麻V式。胴部で、内外面にLR斜走縄文。

VP-39 (図IV-2-9-19/表5/図版29)

19はⅣ群b-1類で、ウサクマイC式。口縁～底部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈し、端面は丸みを帯びる。底部は平底。端面～胴中部はLR縄が回転施文され、胴下～底部は無文。口唇直下には端面に沿って1条の緩い波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。この無文帯の上下で、連続するN字状文が、口縁部では屈曲する波状沈線、胴上部では斜位の鋸歯状沈線により、いずれも3～4条を単位として描かれる。胴中部は対向する渦巻文や鉤字文が2条1組の沈線により描かれ、その内部の地文はやや粗雑に磨り消されている。焼成は良好で、胎土は緻密である。

VP-40 (図IV-2-21-156～158/表5/図版38)

156～158はⅣ群b-1類で、ウサクマイC式。156は口縁部片。端面は丸みを帯びる。LR斜走縄文に、斜位・横位の沈線。157・158は胴部片。157はLR斜走縄文に、2条1組の沈線でV字状の文様を描き、内部を磨り消す。158は口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形と推測される。器外面にLR斜走縄文を施し、沈線で弧状または波状の文様を上書きする。

VP-41 (図IV-2-12-27、21-159～165、22-187/表5/図版31・38・39)

27・162～165はⅣ群b-3類で、純洞式。27は口縁～胴中部が復元された深鉢。平縁で、胴上部が膨らむ器形。器外面にLR斜走縄文。口縁部に1条の横走沈線が巡り、それより上位の口唇直下は無文帯で、竹管状施文具による刺突列を施す。口縁部と胴部の間には2条の横走沈線で区画された幅広の無文帯が設けている。この無文帯の下部は、口唇直下と同様に竹管状施文具による刺突列を施す。胴部には、全体の構成は不明であるが、沈線で区画された大振りの文様が磨り消しの技法によって描かれる。焼成は良好で、胎土は緻密である。162は胴部片。器外面にLR斜走縄文を施し、沈線で区画された無文帯が見られる。163は口縁部。端面は水平だが、やや丸みを帯びる。幅広の無文帯の下部は、削り取りにより胴部との間に段を作り出す。胴部にはLR斜走縄文。164は注口土器の胴部。胴部が強く張り出す器形と推定される。器外面にLR斜走縄文を施し、2条1組の沈線で屈曲する文様を描き、内部を磨り消す。底部との間に横走沈線1条。165は深鉢の口縁～胴中部。平縁で、胴部がやや括れる器形。端面は内傾する。器外面にLR斜走縄文。159～161はⅣ群b-1類で、ウサクマイC式。159・160は、いずれも波状口縁の頂部。器外面にLR斜走縄文。160は端面にも施文される。口縁に沿って、数

条を単位として緩い波状沈線が巡る。161は胴部片。LR斜走縄文(磨滅)に沈線で屈曲文を描く。187はIV群c-1類で、堂林式。小型の深鉢の口縁~胴上部。口縁部は平縁で、やや内湾する。口唇断面は角形。端面~外面には細い原体によるLR横~斜走縄文が施される。内面には横ナデの調整痕が残る。

VP-42 (図IV-2-11-21、21-166/表5/図版30・38)

21・166はIV群b-1類で、ウサクマイC式。21は口縁~胴中部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈し、端面は水平。端面~胴中部はLR縄が回転施文される。口縁部は端面に沿って5ないし6条1組の緩い波状沈線が巡る。口縁部と胴部間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。胴部はやや大振りなカギの手状文または屈曲文が2条1組の沈線により描かれ、その内部の地文はやや粗雑に磨り消されている。焼成は良好で、胎土は緻密である。166は口縁部片。端面~外面にLR斜走縄文。波状沈線が現存で3条巡る。

VP-45 (図IV-2-21-167~169/表5/図版38)

167~169はIV群b-1類で、ウサクマイC式。167・168は口縁部片。167は端面と外面にRL斜走縄文。横走沈線を縦位置の弧線と交互に連結する。168は波状口縁の頂部で、外面にLR斜走縄文。非常に細い沈線で、波状あるいは鋸歯状の文様が描かれる。169a・bは胴部片。LR斜走縄文の地文に沈線により曲線や扁平なN字文を上書きし、一部を磨り消している。

VP-47 (図IV-2-17-117/表5/図版35)

117はII群b-2類で、大麻V式。胴部で、LR横走縄文。

VP-48 (図IV-2-21-170・171/表5/図版39)

170・171はIV群b-1類で、ウサクマイC式。170は口縁部片。外面にLR斜走縄文。口唇直下に横走沈線2条。171は胴部片。2条1組の沈線で文様を描き、内部の地文をやや粗雑に磨り消す。

VP-50 (図IV-2-6-15、17-118/表5/図版28・35)

15はII群b-2類で、大麻V式。15は口縁~胴中部が復元された深鉢。口縁部は平縁。端面は水平。外面にLR斜走縄文。口縁部には横位のLR縄側面圧痕1条が巡り、これより上位の口唇直下は無文。焼成は良好。胎土は繊維が少量混入する。118はII群b-1類で、植苗式。胴部で、内外面に羽状縄文。

VP-52 (図IV-2-19-138/表5/図版37)

138はIV群a-2類で、タブコブ式。胴部片で、LR斜走縄文。

VP-54 (図IV-2-21-172/表5/図版39)

172はIV群b-1類で、ウサクマイC式。胴部片で、LR斜走縄文。沈線1条が確認される。

VP-55 (図IV-2-21-173/表5/図版39)

173はIV群b-1類で、ウサクマイC式。台付土器の底部。無文で、外面には条痕が横走する。

VP-56 (図IV-2-21-174/表5/図版39)

174はIV群b-1類で、ウサクマイC式。胴部片。外面にはRL斜走縄文が回転方向を変えて施される。細い沈線で区画された内部の地文が磨り消されている。

VP-57 (図IV-2-1-1/表5/図版26)

1はII群b-1類で、植苗式。口縁~胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形で、LR回転縄文。器外面に横位のRL+LR羽状縄文が多段に施される。口縁部には撞状の貼付帯1条が巡っており、これより上位の口唇直下は無文。貼付帯上にも羽状縄文が施される。器内面にも縦位の羽状縄文が同一原体により施される。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は砂礫・繊維に富む。

VP-58 (図IV-2-22-175・176/表5/図版39)

175・176はIV群b-2類で、手稲式。175は口縁部片で、波状口縁の頂部。口唇断面は丸い。器外

面にLR斜走縄文を施すが、口唇直下は無文である。口縁に沿って波状沈線6条が巡り、縦位の短弧線と交互に連結している。内面は磨かれて、平滑である。176は、深鉢の口縁～胴中部で、口唇を欠く。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。器外面にLR斜走縄文を施す。口縁部と胴部の間の括れた部分、胴中部には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。口縁部は横走または波状沈線を縦位の短弧線と交互に連結している。胴上部は沈線で波状や円弧状の文様を描き、内部の地文を磨り消している。

VP-59 (図IV-2-2-2/表5/図版26)

2はII群b-1類で、植苗式。口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面はやや外傾し、RL回転縄文。器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な縦位の羽状縄文を形成する。口縁部には指状の貼付帯1条が巡っており、貼付帯上にも羽状縄文が施される。器内面にも縦位の羽状縄文が同一原体により施される。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は砂礫・繊維に富む。

VP-61 (図IV-2-3-3/表5/図版26)

3はII群b-1類で、植苗式。口縁～底部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、口唇断面は角形。底部は少し外側へ張り出す。端面～底面には撚りの異なる無節の原体を交互に縦位回転し、羽状縄文を多段に施す。口縁部には指状の貼付帯1条が巡っており、貼付帯上には無節1縄文。器内面にも縦位の羽状縄文が同一原体により施される。焼成は良好。胎土は砂礫・繊維に富む。

VP-62 (図IV-2-17-119/表5/図版35)

119はII群b-1類で、植苗式。口縁部で、端面と内外面にLR斜走縄文。指状の貼付帯が巡る。

VP-67 (図IV-2-22-177/表5/図版39)

177はIV群b-2類で、手稲式。小型の深鉢の底部。平底で、底縁がやや張り出す。無文。

VP-69 (図IV-2-22-178/表5/図版39)

178a・bはIV群b-1類で、ウサクマイC式。深鉢の口縁～胴中部。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。端面は丸みを帯びる。外面はLR縄が回転施文される。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。口縁部では5条1組の沈線により鋸歯状文が描かれる。胴中部は対向する屈曲文が沈線により描かれ、その内部の地文は磨り消されている。

VP-71 (図IV-2-22-179/表5/図版39)

179a・bはIV群b-1類で、ウサクマイC式。深鉢の口縁部と底部。口縁部は緩やかな波状を呈すると推測される。端面～外面にLR斜走縄文。斜走沈線3条が確認される。底部は平底で、無文。

VP-72 (図IV-2-22-180/表5/図版39)

180はIV群b-2類で、手稲式。平底の底部。無文で、よく磨かれている。

VP-74 (図IV-2-11-22, 22-181/表5/図版30・39)

22・181はIV群b-2類で、手稲式。22は無文の底部。内外面ともに横ナデの調整痕が残る。焼成は良好で、胎土は緻密である。181は胴部片。地文はRL縦走縄文。横走沈線2条が確認される。

③Tピット

VT P-8 (図IV-2-13-32/表5/図版32)

32はII群a-1類で、網文式。丸底の底部片で、節の粗いRL横走縄文を深めに施す。

VT P-10 (図IV-2-18-120/表5/図版36)

120はII群b-1類で、植苗式。口縁部で、端面と内外面にRL斜走縄文。

④小ビット

VSP-2 (図IV-2-18-121・122/表5/図版36)

121・122はⅡ群b-2類で、大麻V式。いずれも胴部で、羽状縄文。内面には横位の条痕。

VSP-25 (図IV-2-13-31/表5/図版32)

31はⅡ群a-2類で、静内中野式。口縁部片で、太めのLR縄による斜走縄文を施す。

⑤焼土

VF-17 (図IV-2-10-20/表5/図版30)

20はIV群b-1類で、ウサクマイC式。口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈し、端面は水平。端面～胴上部はLR縄が回転施文され、胴中部は無文。口縁部は11ないし12条1組の沈線により連続する鋸歯状文が描かれる。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。胴上部は6条1組の沈線により連続するカギの手状文が描かれる。焼成は良好で、胎土は緻密である。

VF-18 (図IV-2-22-182/表5/図版39)

182はIV群b-2類で、手稲式。波状口縁の頂部。無文。

⑥礫集中

VS-1 (図IV-2-22-183/表5/図版39)

183はIV群b-2類で、手稲式。胴部片。器外面にLR斜走縄文。

VS-2 (図IV-2-22-184/表5/図版39)

184はIV群b-2類で、手稲式。胴部片。RL横走縄文が沈線で区画され、内部が磨り消される。

VS-5 (図IV-2-22-185/表5/図版39)

185はIV群b-2類で、手稲式。胴部片。器外面にやや粗いLR斜走縄文。(芝田)

(2) 土製品

VH-2 (図IV-2-23-1/表6/図版40)

1は再生土製円盤。Ⅲ群b-3類土器(ノダップⅡ式)の胴部片の周縁を打ち欠いて円盤状にしている。地文はLR横走縄文で、竹管状施文具による横向きの押し引き列が施される。

VH-15 (図IV-2-23-2・3/表6/図版40)

2・3は不定形の粘土塊。2は外面が暗褐色～褐色を呈し、固くしまり、ずしりとした重みがある。3は外面が黄褐色～明黄褐色を呈し、やわらかく、同じ大きさの土器片と比較して軽い。2は十分に熱を受けている(焼かれている)が、3は未焼成のまま自然乾燥、あるいは非常に低温で焼成された可能性がある。いずれも胎土は緻密で、細砂礫を少量含む。

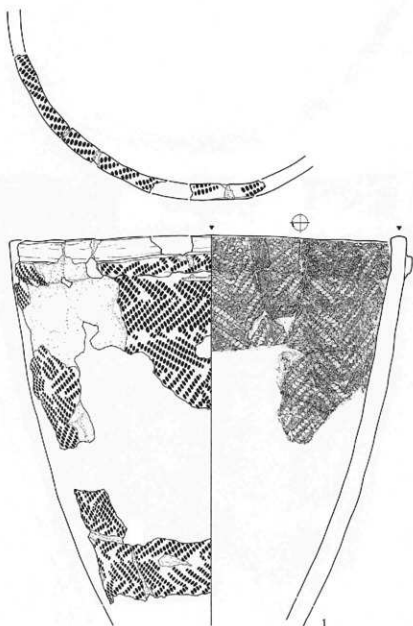
VH-17 (図IV-2-23-4～7/表6/図版40)

4～7は盤状粘土塊の破片。外面の色調や質感はVH-15出土の3と同じである。いわゆる「サツマアゲ状土製品」と称されるもの(北埋翼報116)によく類似する。破片の形状から、本来の大きさはほぼ同じであったと推測される。よって、これらは同時期に製作された可能性が高い。

VP-1 (図IV-2-23-8/表6/図版40)

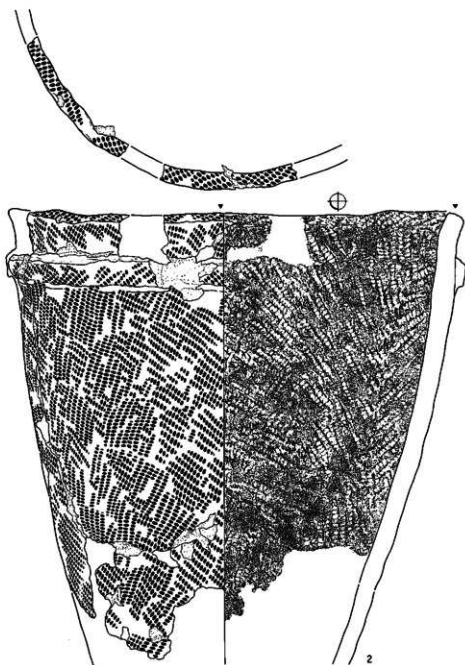
8は盤状粘土塊。形状はほぼ円形で、一部欠損する。外面には指で扁平に整形した痕跡が残る。

VP-57



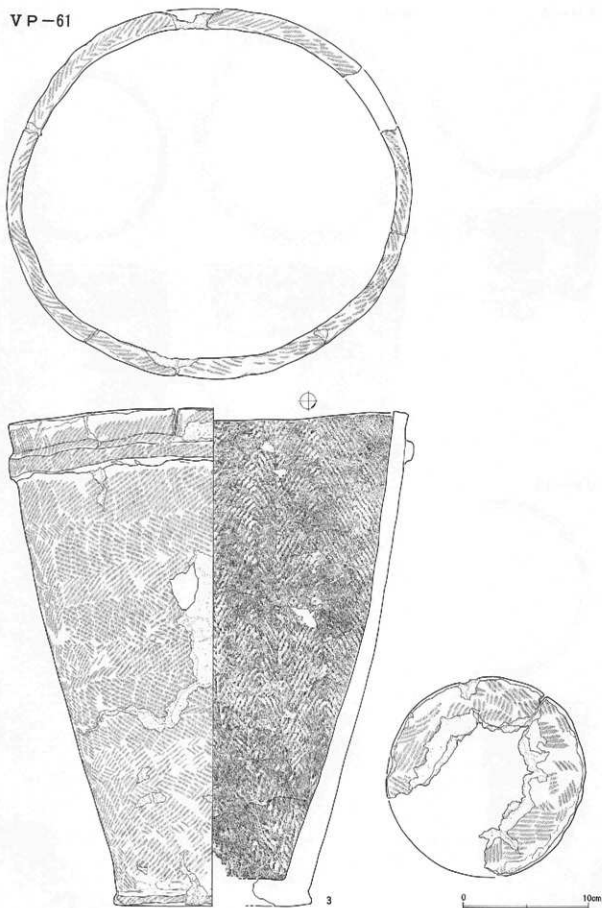
図IV-2-1 遺構の土器(1)

VP-59



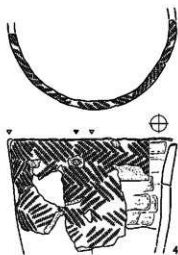
図IV-2-2 遺構の土器(2)

VP-61

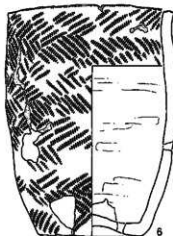
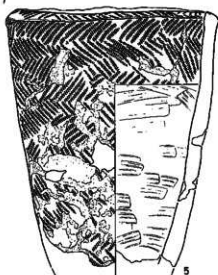


図IV-2-3 遺構の土器(3)

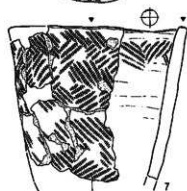
VH-4



VH-6

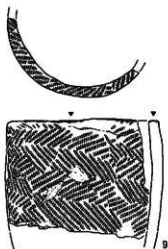


VH-10

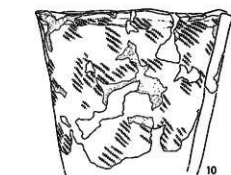


図IV-2-4 遺構の土器(4)

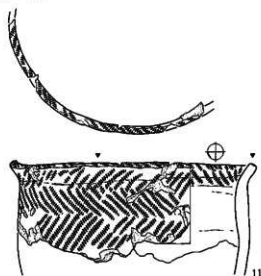
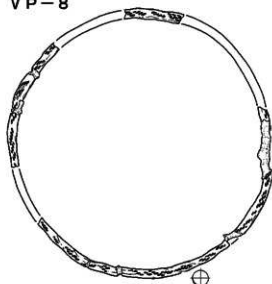
VH-15



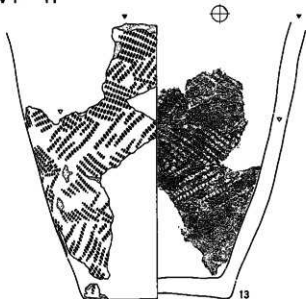
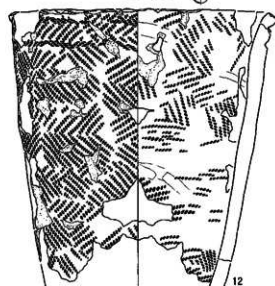
VH-17



VP-8

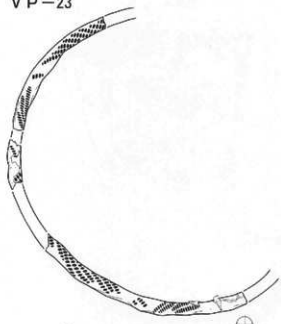


VP-11

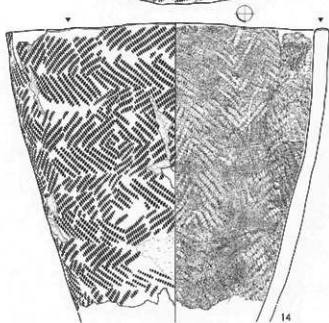
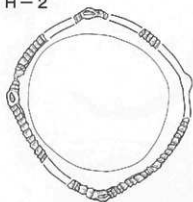


図IV-2-5 遺構の土器(5)

VP-23



VH-2



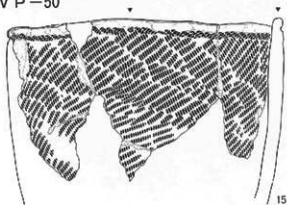
14



16



VP-50

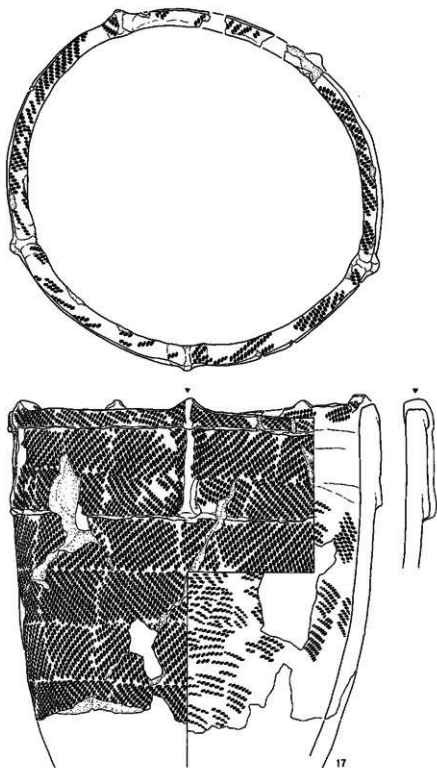


15

0 10cm

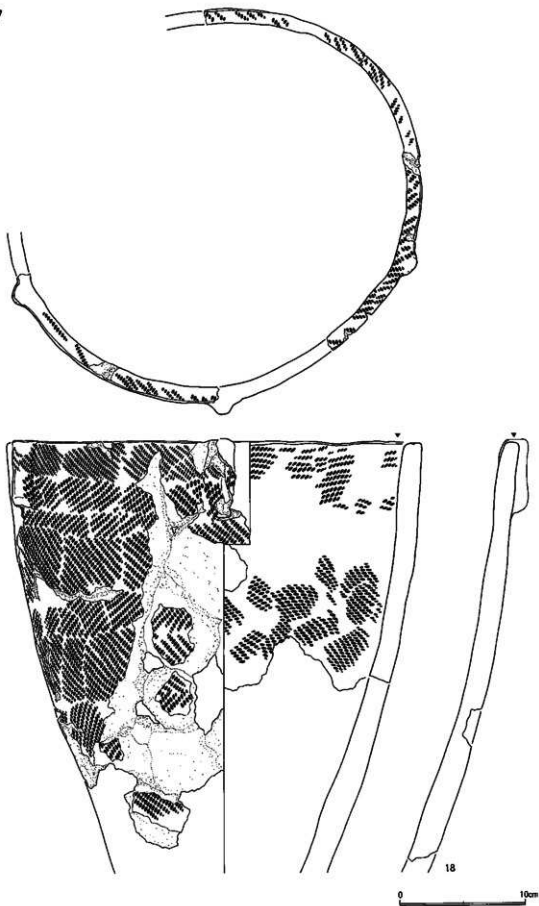
図IV-2-6 遺構の土器(6)

VH-5



図IV-2-7 遺構の土器(7)

VH-7



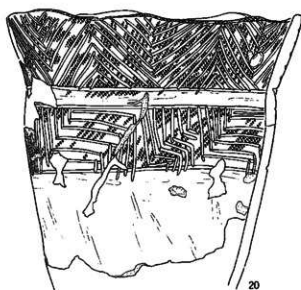
図IV-2-8 遺構の土器(8)

VP-39

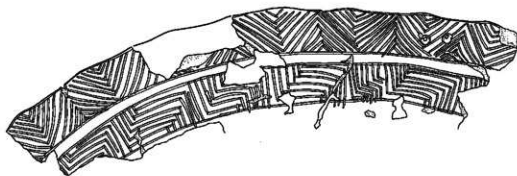


図IV-2-9 遺構の土器(9)

VF-17

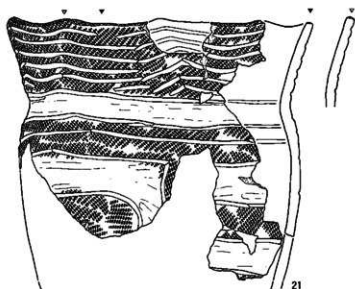


0 10cm



図IV-2-10 遺構の土器(10)

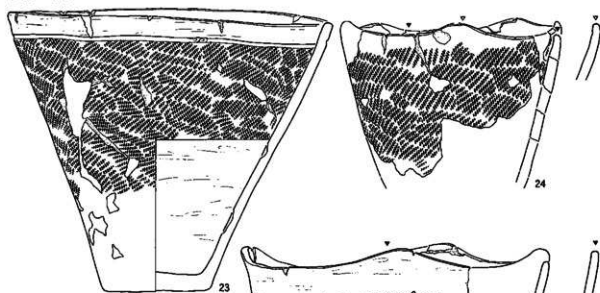
VP-42



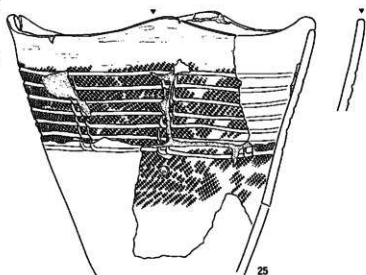
VP-74



VH-14



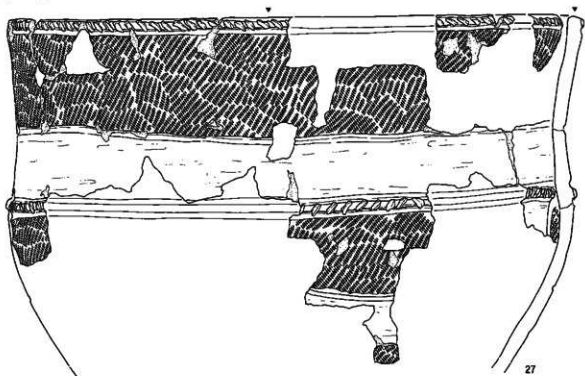
VH-16



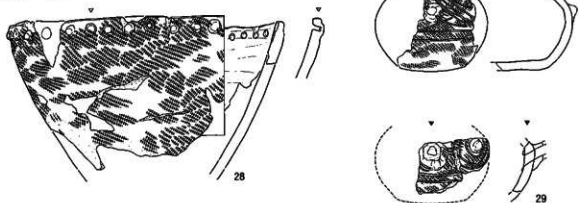
0 10cm

図IV-2-11 遺構の土器 (11)

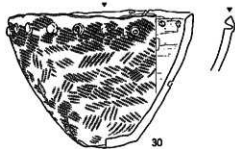
VP-41



VH-16

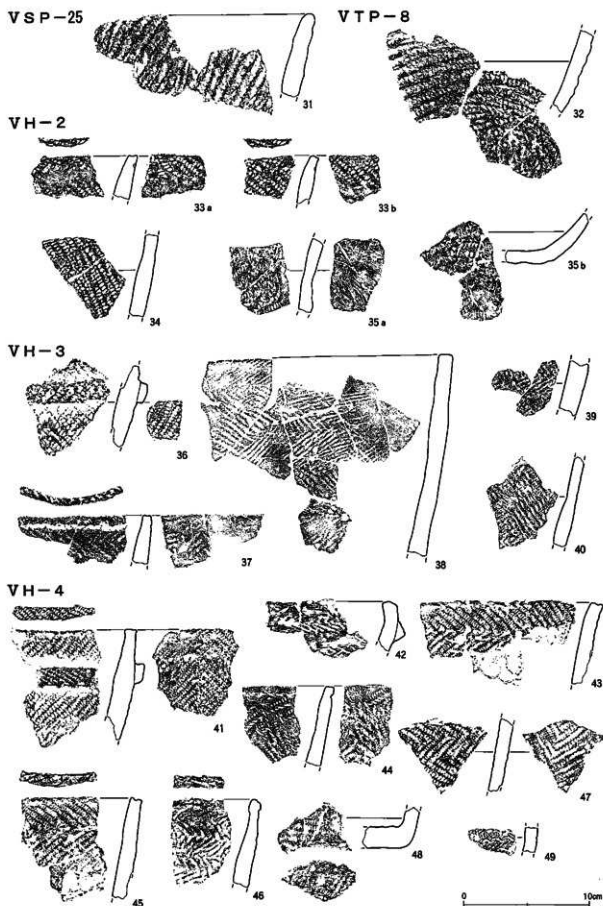


VP-30



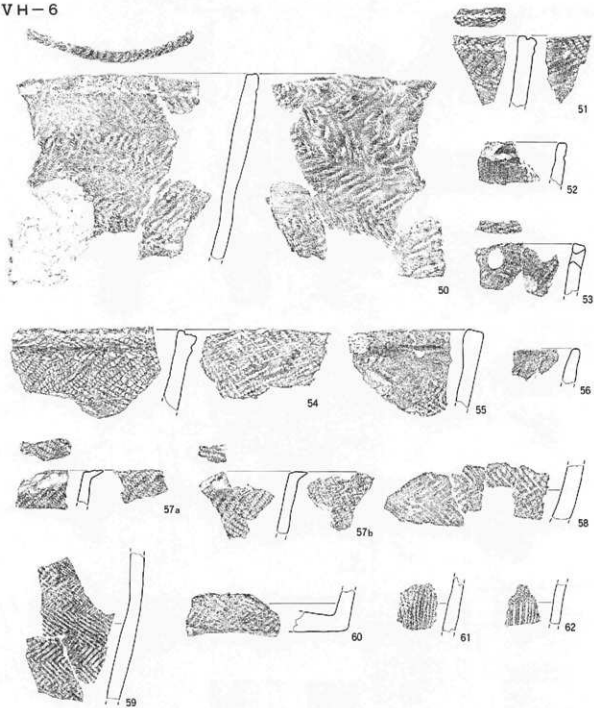
0 10cm

図IV-2-12 遺構の土器 (12)



図IV-2-13 遺構の土器 (13)

VH-6

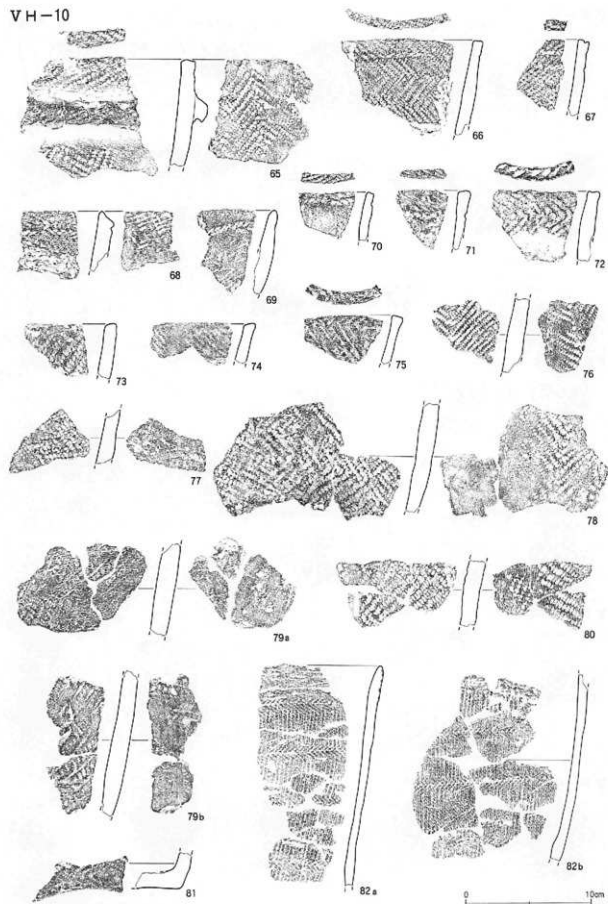


VH-8



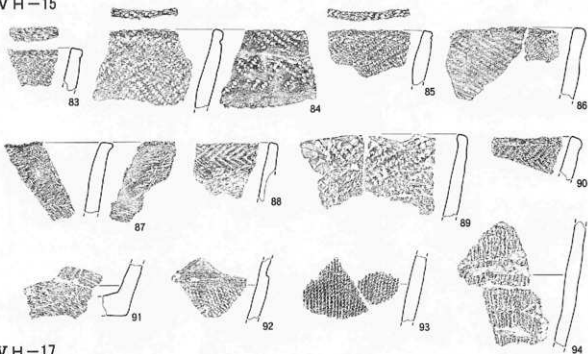
図IV-2-14 遺構の土器 (14)

VH-10

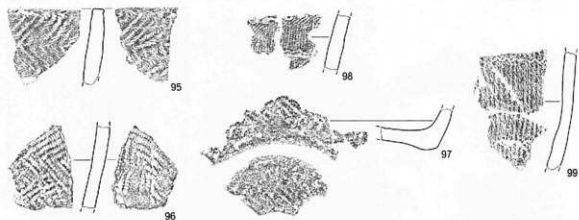


図IV-2-15 遺構の土器 (15)

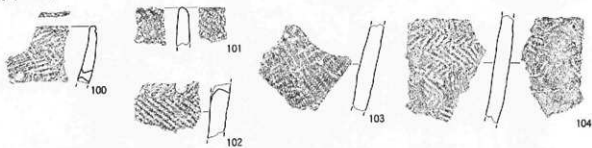
VH-15



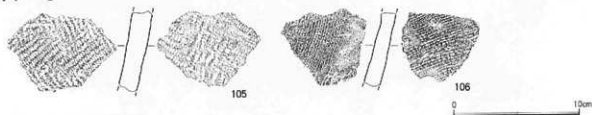
VH-17



VP-1



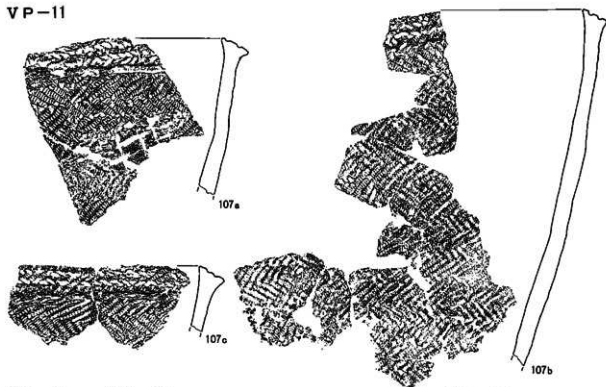
VP-8



0 10cm

図IV-2-16 遺構の土器 (16)

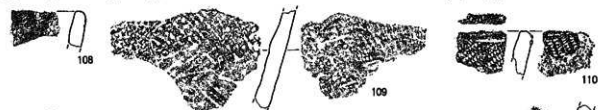
VP-11



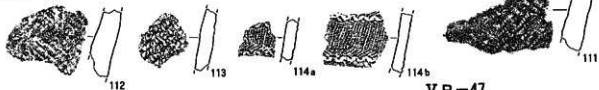
VP-14

VP-16

VP-24



VP-29

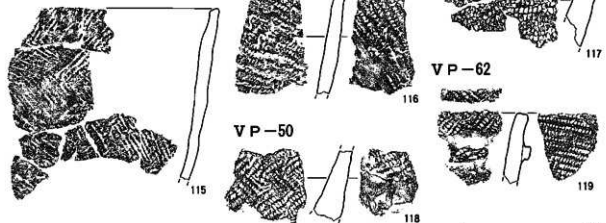


VP-47

VP-32

VP-36

VP-62



0 10cm

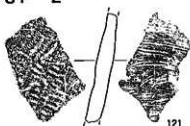
図IV-2-17 遺構の土器 (17)

VTP-10

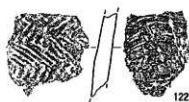


120

VSP-2

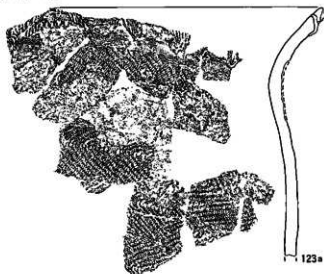


121



122

VH-10



123a



123b

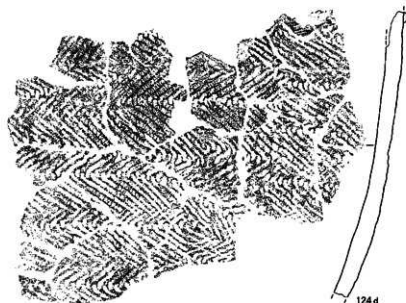
VH-17



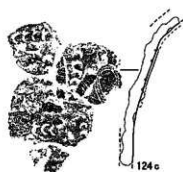
124a



124b



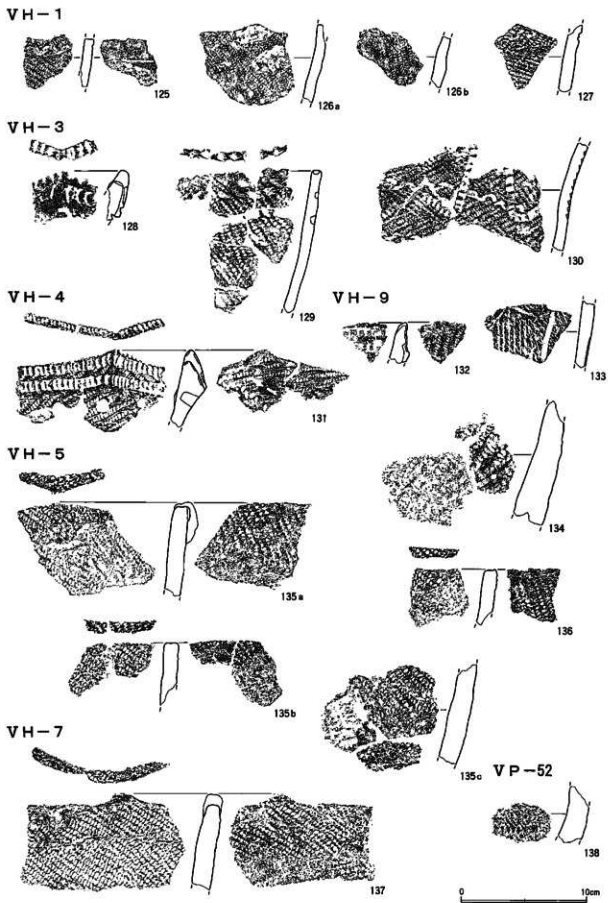
124d



124c

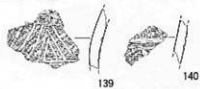
0 10cm

図IV-2-18 遺構の土器 (18)

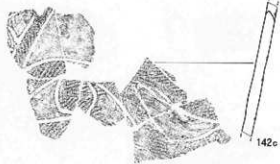


図IV-2-19 遺構の土器 (19)

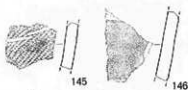
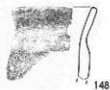
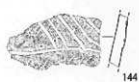
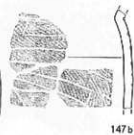
VH-9



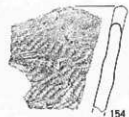
VH-11



VH-12

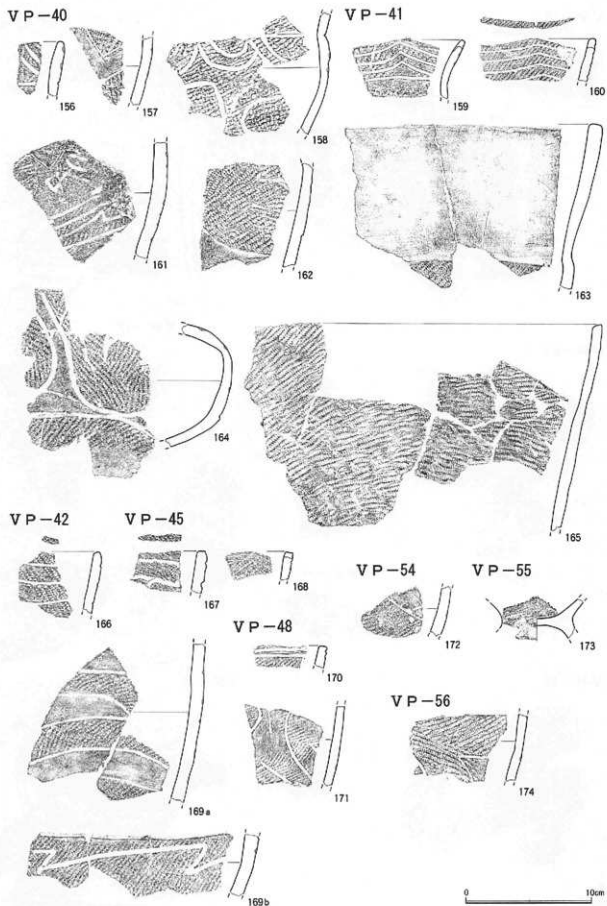


VH-14



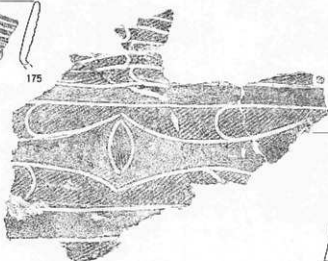
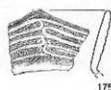
0 10cm

図IV-2-20 遺構の土器 (20)



図IV-2-21 遺構の土器 (21)

VP-58



VP-67



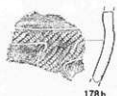
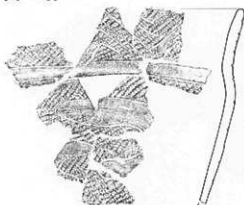
VP-71



VP-72



VP-69



VP-74



VF-18



VS-1



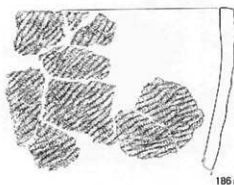
VS-2



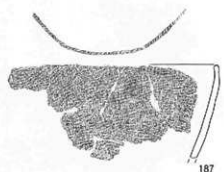
VS-5



VH-16

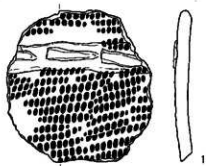


VP-41

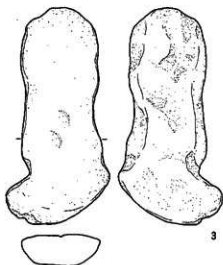
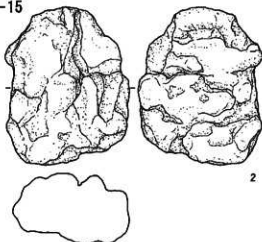


図IV-2-22 遺構の土器 (22)

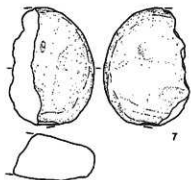
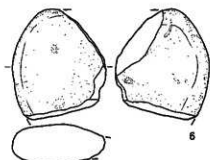
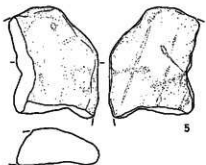
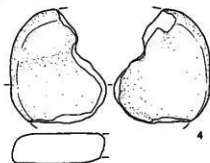
VH-2



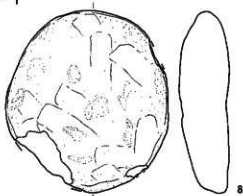
VH-15



VH-17

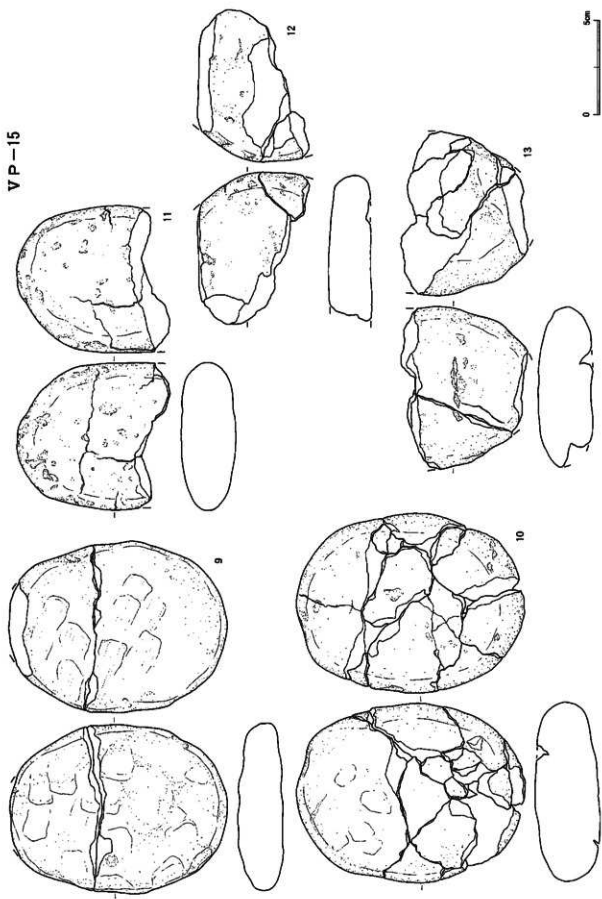


VP-1

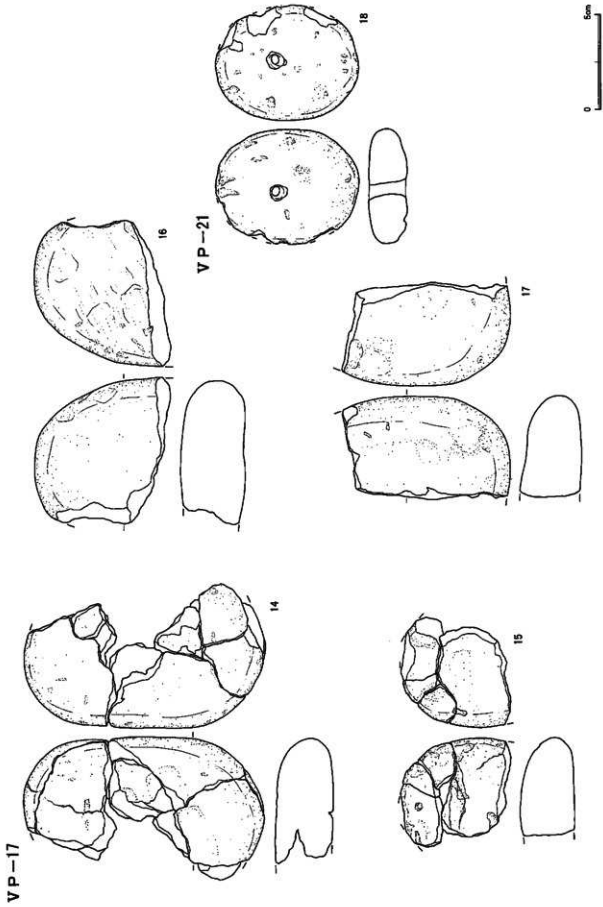


図IV-2-23 遺構の土製品(1)

VP-15



図IV-2-24 遺構の土製品(2)



図IV-2-25 遺構の土製品(3)

VP-15 (図IV-2-24-9~13/表6/図版40)

9~13は盤状粘土塊。形状は楕円形。VP-15からは粘土塊の破片が50点出土したが、微細で脆弱なものが大部分であった。このため、比較的狀態が良好であった9・10がほぼ完形、11~13が約1/2~1/3程度接合したのみである。完形品の大きさと破片の量から、10個体前後が土坑内部にあったと推測される。

VP-17 (図IV-2-25-14~17/表6/図版41)

14~17は盤状粘土塊。形状は楕円形。VP-17からは粘土塊の破片が122点出土したが、微細で脆弱なものが大部分で、14・15以外はほとんど接合しなかった。16・17は比較的大きめの破片。厚さはほぼ同じである。完形品の大きさと破片の量から、20個体前後が土坑内部にあったと推測される。

VP-21 (図IV-2-25-18/表6/図版41)

18は盤状粘土塊。形状は楕円形で、中央が穿孔されている。VP-21からは粘土塊の破片が6点出土したが、18のみが完形品。VP-1・15・17出土のものよりも小さい。これらの遺構や包含層より出土した盤状粘土塊、各時期の土器片を試料として胎土分析を行った(Ⅶ章第2節参照)。(芝田)

(3) 石器等

遺構からは剥片石器239点、剥片56,428点、礫石器415点、礫・礫片1,177点、石製品1点、合計58,261点が出土している。各遺構で出土した遺物は表2、器種別は表4に掲載している。ここでは掲載した石器等について、遺構ごとに述べる。

①住居跡

VH-1 (図IV-2-26-1~10/表7/図版79)

1は石鎌。三角形鎌平基。2~5は石槍。2は菱形。3~5は有茎鎌凸基。3・4は使用による再調整によって刃部が短くなったと推測される。5は基部を折損している。6・7はスクレイパー。剥片の側縁に刃部を作出したもの。8は石のみ。短冊形で円刃、片刃。全面を研磨で整形している。9はたたき石。円礫の周縁に敲打痕がある。10は石皿片。平坦な擦り痕がある。

VH-2 (図IV-2-27-1~6/表7/図版79)

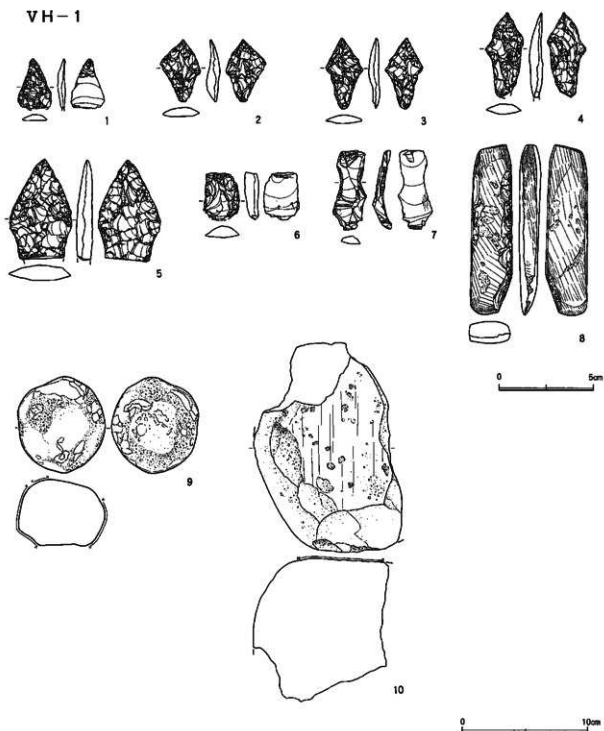
1は石鎌。基部が折損している有茎鎌とみられる。2はスクレイパー。剥片の側縁に刃部を作出している。3は石斧。短冊形で円刃、両刃。扁平礫を剥離によって成形した後、全面を研磨によって整形している。4・5は北海道式石冠。全面を敲打によって整形している。5は破片。6は石皿。両面ともに擦り面があり、2条の幅の広い凹みがある。背面は被熱しているが、凹みの部分には被熱痕が見られないことから、被熱後に使用されたと考えられる。

VH-3 (図IV-2-28-1~11/表7/図版80)

1~3は石鎌。1は有茎鎌凸基。2・3は有茎鎌平基。4~6は石槍。有茎で菱形になる。6は破片。7~9は石錐。7は棒状のもの。両端に機能部がある。8は縦長剥片の先端に機能部を作出したもの。9は両面を加工して機能部を作出している。10はつまみ付きナイフ。縦型で両面を加工している。つまみ部先端を折損後、再調整している。先端部にやや摩滅がみられる事から、石錐として再利用された可能性がある。11は石錐。敲打によって整形した後、縁部に直線的な刃部を作り出している。

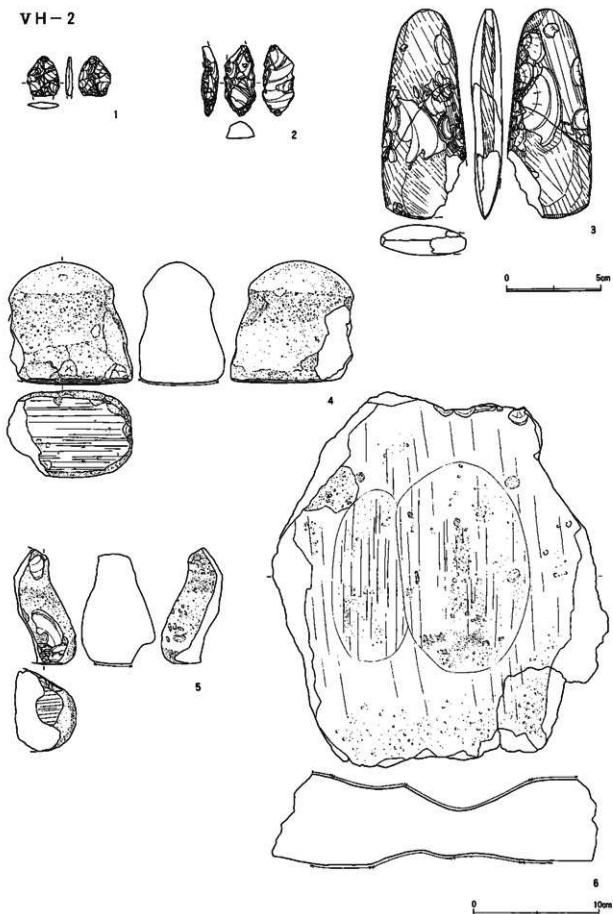
VH-4 (図IV-2-28-1~4/表7/図版80)

1・2はつまみ付きナイフ。縦型。1は片面周縁を加工している。2は片面全体を加工している。3はスクレイパー。剥片の周縁に刃部を作出したもの。4は砥石片。平坦な擦り面がある。背面には敲打による窪みがみられる。



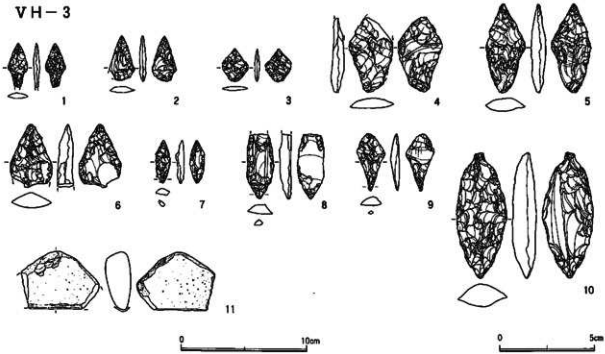
図IV-2-26 遺構の石器(1)

VH-2

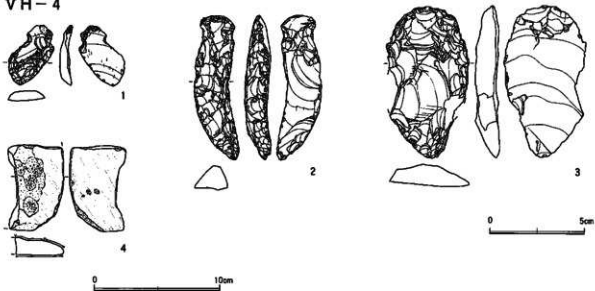


図IV-2-27 遺構の石器(2)

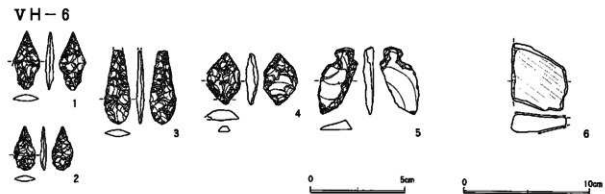
VH-3



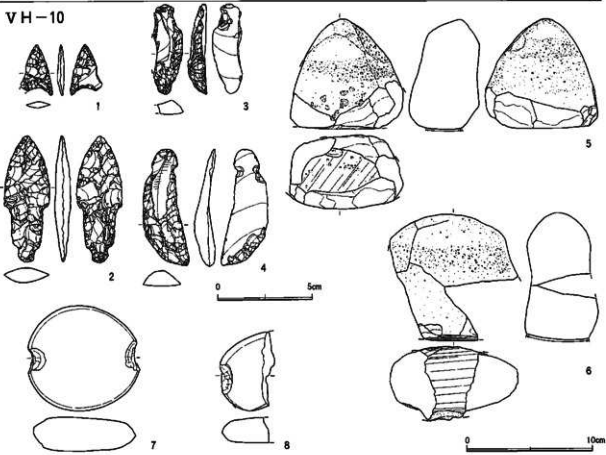
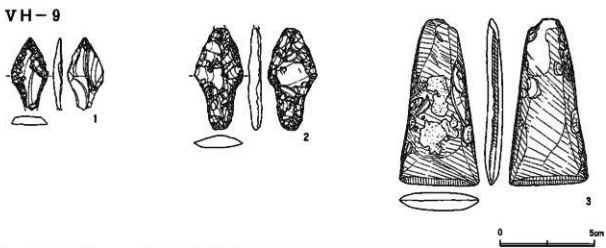
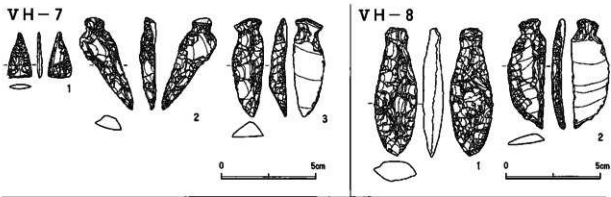
VH-4



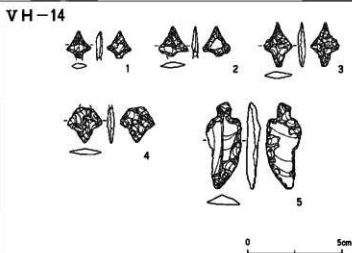
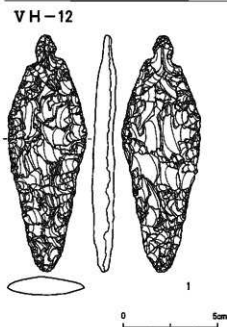
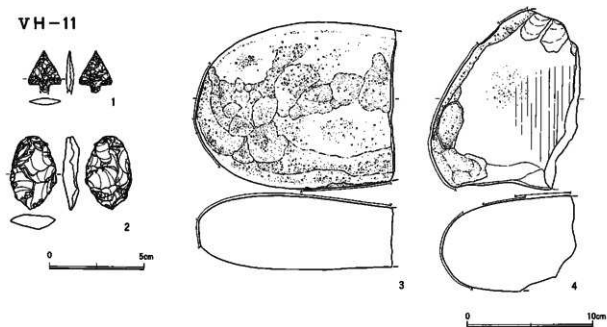
VH-6



図IV-2-28 遺構の石器(3)



図IV-2-29 遺構の石器(4)



図IV-2-30 遺構の石器(5)

VH-6 (図IV-2-28-1~6/表7/図版80)

1~3は石鏃。1は有茎鏃凸基。2・3は有茎鏃円基。4は石錐。剥片の側縁を加工して両端部に機能部を作出している。5はつまみ付きナイフ。縦型で片面周縁を加工しているもの。6は砥石片。腹背面に平坦な擦り面がある。

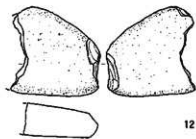
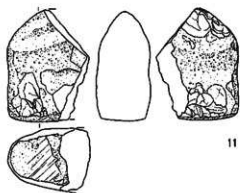
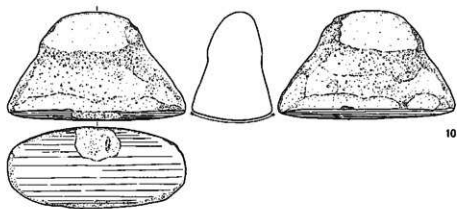
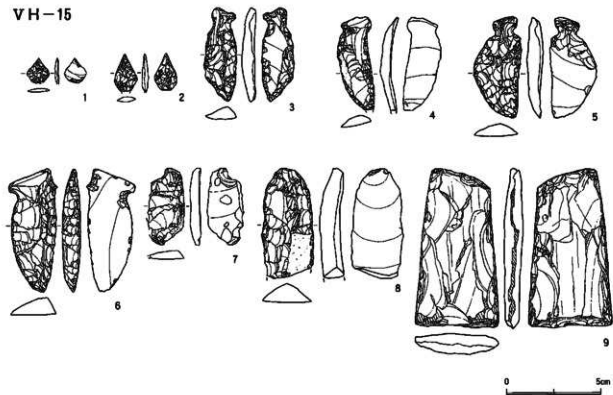
VH-7 (図IV-2-29-1~3/表7/図版80)

1は石鏃。三角形鏃平基。2・3はつまみ付きナイフ。縦型。2は両面を加工している。石錐として利用した可能性がある。3は片面全面を加工している。

VH-8 (図IV-2-29-1・2/表7/図版80)

1はナイフ。有茎。基部先端に原石面を残す。両面を二次加工して成形している。2はつまみ付きナイフ。縦型。片面全面を加工している。

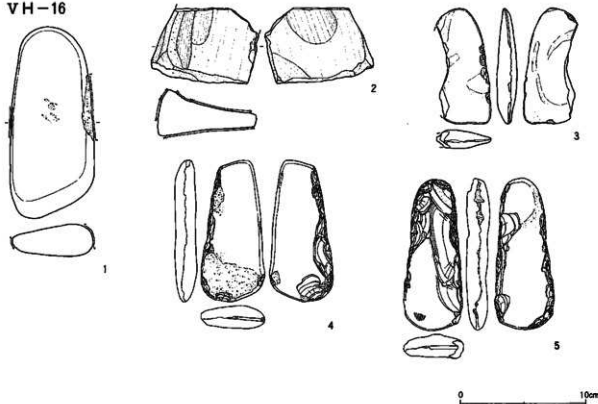
VH-15



0 10cm

図IV-2-31 遺構の石器(6)

VH-16



図IV-2-32 遺構の石器(7)

VH-9 (図IV-2-29-1~3/表7/図版80)

1は石鏃。有茎鏃凸基。片面周縁を加工して成形している。2は石槍。有茎凸基。両面を加工して成形している。腹面に素材剝離面を残す。3は石斧。形状は楕形で直刃、両刃。剝離による成形後、全面を研磨によって整形している。

VH-10 (図IV-2-29-1~8/表7/図版81)

1は石鏃。三角形鏃凹基。被熱している。2は石槍。有茎で基部の側縁が平行、先端につまみ状の突起が作り出されている。3・4はつまみ付きナイフ。縦型で片面全面を加工している。5・6はすり石で北海道式石冠。5は擦り面周縁を打ち欠いている。7・8は石錘。扁平礫の長軸両端に打ち欠きがある。扶入部の稜は磨耗により丸くなっている。

VH-11 (図IV-2-30-1~4/表7/図版81)

1は石鏃。有茎鏃平基。2は両面調整石器。3は石皿片。平坦面に擦り痕がある。周縁に敲打による整形が見られる。被熱している。4は台石片。平坦面と側縁に敲打痕がある。

VH-12 (図IV-2-30-1/表7/図版81)

1はつまみ付きナイフ。縦型で両面加工である。

VH-14 (図IV-2-30-1~5/表7/図版81)

1~4は石鏃。有茎鏃凸基。1~3は刃部が内湾する。5はつまみ付きナイフ。縦型で両面の周縁に加工がある。

VH-15 (図IV-2-31-1~12/表7/図版82)

1・2は石鏃。有茎鏃凹基。3~6はつまみ付きナイフ。縦型。3は両面を加工している。4~6は片面全面を加工している。7・8はスクレイパー。側縁に刃部を作り出したもの。7は被熱による

はじげがある。9は短冊形の石斧。刃部を折損している。剥離による成形後、側縁を研磨で整形している。10・11はすり石で北海道式石冠。11は破片。12は石鎌片。扁平礫の長軸端部に打ち欠きがある。扶入部の縁は磨耗により丸くなっている。

VH-16 (図IV-2-32-1~5/表7/図版81)

1はたたき石。扁平礫の両側縁と背部に敲打痕がある。2は砥石片。平坦な使用面が3面ある。3~5は加工痕のある礫。扁平礫を剥離によって整形している。4は敲打による整形も行っている。石斧の未成品と考えられる。

VH-17 (図IV-2-33-1~13/表7/図版82)

1~4は石鎌。1は三角形鎌平基。裏面はほとんど加工していないことから未成品と見られる。2~4は有茎鎌。2はやや尖り気味の円基。3は調整が粗く、未成品の可能性ある。5~9はつまみ付きナイフ。5~8は縦型のもの。5・6は片面のほぼ全面を加工している。7・8は片面の周縁を加工している。9は横型のもの。つまみ部と刃部のみ加工している。10・11はスクレイパー。12は石斧。短冊形で円刃、両刃。剥離によって成形後、全面を研磨している。13は加工痕のある礫。剥離痕が右側縁にある。石斧の未成品と考えられる。

②土坑

VP-1 (図IV-2-34-1~3/表7/図版83)

1は石鎌。有茎鎌円基。先端部を折損している。2は石錐。3はつまみ付きナイフ。縦型で片面を全面加工している。下端部は原石面を残す。

VP-2 (図IV-2-34-1/表7/図版83)

1は四面砥石。下半部を折損している。先端部にも擦り痕が見られる。全面を研磨によって整形した後、砥石として使用したと考えられる。

VP-11 (図IV-2-34-1~2/表7/図版83)

1は石鎌。有茎鎌凸基。2はつまみ付きナイフ。片面全面を加工している。

VP-13 (図IV-2-34-1~2/表7/図版83)

1は石鎌。三角形鎌平基。2は石斧。短冊形で円刃、両刃。剥離による成形後、研磨によって整形している。刃部先端は使用による剥離が見られる。

VP-14 (図IV-2-34-1/表7/図版83)

1は石鎌。有茎鎌円基。

VP-15 (図IV-2-34-1/表7/図版83)

1は石鎌。三角形鎌平基。被熱により表面が曇っている。

VP-18 (図IV-2-34-1/表7/図版83)

1は石斧。短冊形で円刃、両刃。剥離による成形後、全面を研磨によって整形している。

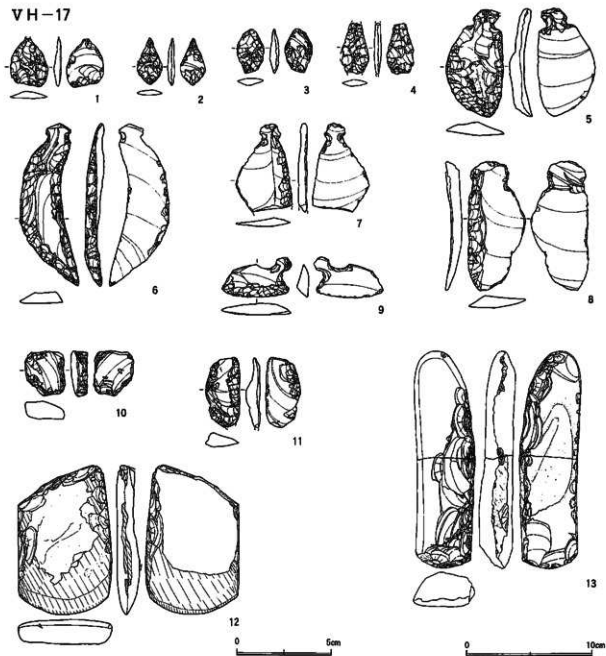
VP-24 (図IV-2-35-1・2/表7/図版83)

1・2は石皿片。礫の平坦面に広い擦り面があるもの。周縁を敲打によって整形している。1は礫の平坦面を敲打によって調整した後、平坦な擦り面を作り出している。腹面平坦面にも敲打痕がみられる。

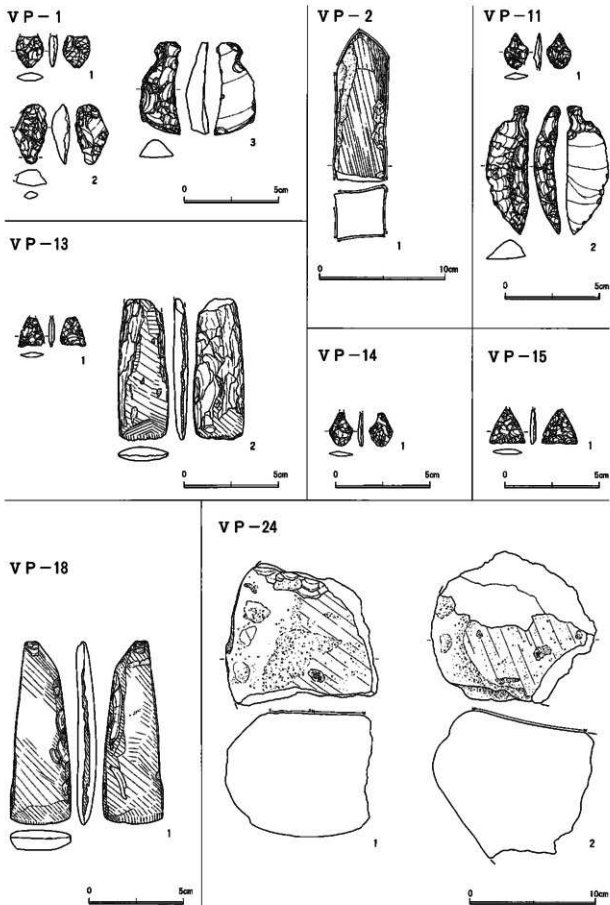
VP-29 (図IV-2-35-1・2/表7/図版83)

1はつまみ付きナイフ。縦型で両面加工のもの。2は石斧。短冊形で円刃、両刃。敲打痕の上から研磨されていることから、敲打によって調整された後に全面を研磨したと考えられる。基部先端部に原石面を残す。

VH-17

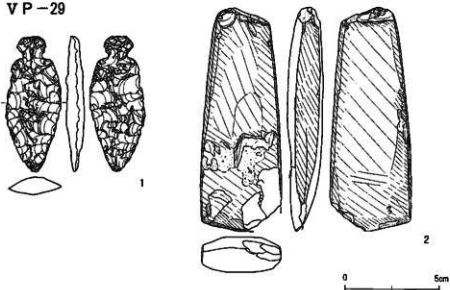


図IV-2-33 遺構の石器(8)

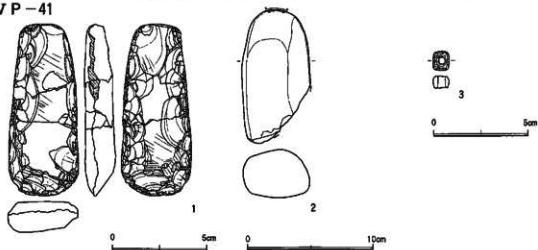


図IV-2-34 遺構の石器(9)

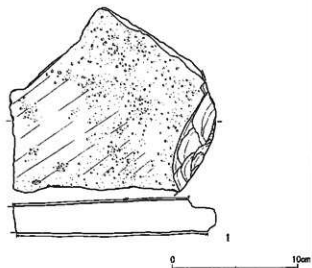
VP-29



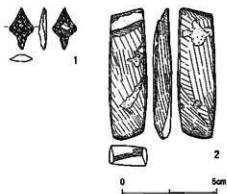
VP-41



VP-48



VP-55



図IV-2-35 遺構の石器 (10)

VP-41 (図IV-2-35-1~3/表7/図版83)

1は石斧。剥離による成形後、一部研磨によって整形している。刃部は研磨されていない。未成品と考えられる。2はたたき石。棒状礫の両端部に敲打痕がある。3は石製品。長方形の形状をした玉。短軸側から穿孔されている。穿孔痕は確認できない。穿孔の内部に縦方向の研磨痕がみられることから、孔の内面を磨いたと思われる。

VP-48 (図IV-2-35-1/表7/図版83)

1は石皿片。板状礫の表面を敲打によって調整し、両面に平坦な擦り面を形成している。被熱している。

VP-55 (図IV-2-35-1・2/表7/図版83)

1は石鎌。有茎鐵凸基。刃部が内湾する。2は石のみ。短冊形。全面を研磨によって整形している。刃部先端は研磨によって平坦に潰されている。刃部は約20°の角度で傾いている。基部側にも刃部が作出されている。直刃、片刃。

VP-61 (図IV-2-37-1/表7/図版85)

1は石皿。礫の平坦面を敲打によって調整し、擦り面を作り出している。中央部は長軸13.5cm、短軸8.0cm、最深部1.3cmほどの楕円形に窪んでいる。窪みには赤色顔料が薄く確認できる。

VP-63 (図IV-2-36-1・2/表7/図版84)

1・2は台石。扁平な楕円礫の平坦面の全面を敲打によって調整している。敲打痕の状況から、扁平礫の平坦面を敲打によって調整した後、中央付近を使用したと考えられる。

VP-64 (図IV-2-36-1/表7/図版84)

1は加工痕のある礫。礫の表面を剥離や敲打によって整形している。

VP-78 (図IV-2-37-1/表7/図版84)

1は石皿。礫の平坦面を利用して擦り面を作り出したもの。礫の周縁を打ち欠いて整形している。

③焼土

VF-13 (図IV-2-38-1/表7/図版85)

1は台石。棒状礫の平坦面と端部に敲打痕が確認できる。

VF-14 (図IV-2-38-1/表7/図版85)

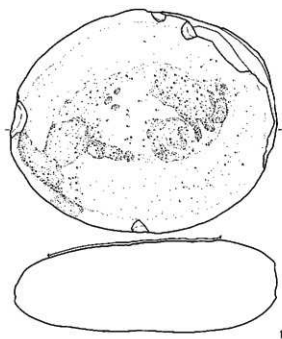
1は石錐。剥片の一部に両面加工を施して棒状の機能部を作出したもの。先端部は使用による摩滅で丸くなっている。被熱により表面が白く曇っている。

④集石

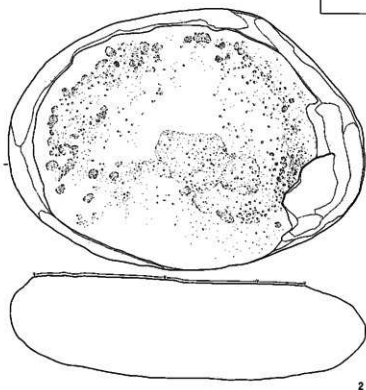
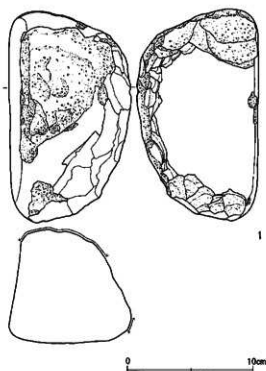
VS-6 (図IV-2-38-1・2/表7/図版85)

1はすり石。断面が三角形になる礫の稜を擦ったもの。9点が接合している。一部に敲打による調整がある。2は石皿。礫の平坦面に擦り面がある。53点が接合している。(酒井)

VP-63

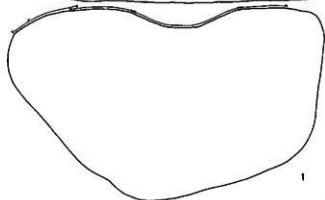
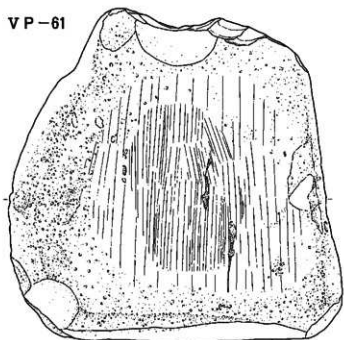


VP-64

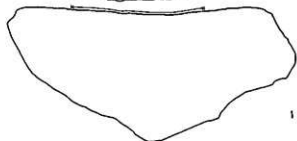
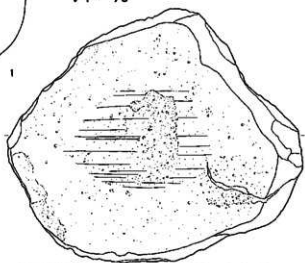


図IV-2-36 遺構の石器 (11)

VP-61

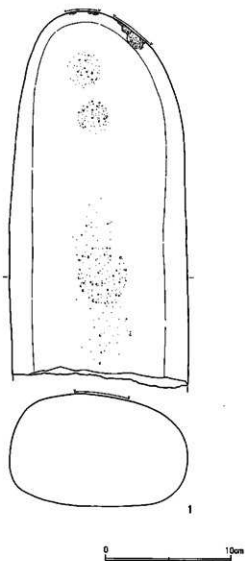


VP-78

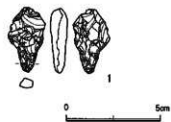


図IV-2-37 遺構の石器 (12)

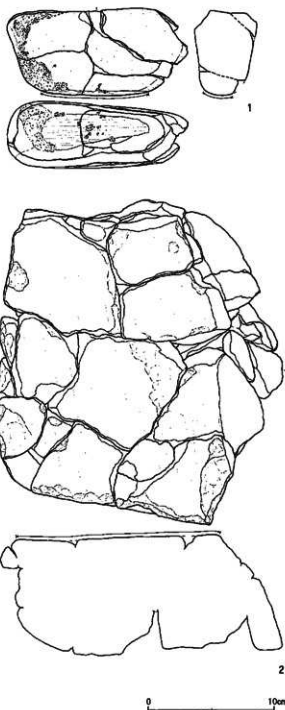
VF-13



VF-14



VS-6



図IV-2-38 遺構の石器(13)

3 包含層出土の遺物

(1) 土器

平成19・20年度、2か年の調査で、V層より土器・土製品は66,957点出土した(表I-2)。時期は、縄文時代前期(Ⅱ群)、中期(Ⅲ群)、後期(Ⅳ群)、晩期(V群)のものがある。縄文時代後期中葉(Ⅳ群b類)の土器が30,175点(45.1%)と最も多く、以下、前期後半(Ⅱ群b類)14,601点(21.8%)、後期後葉(Ⅳ群c類)11,648点(17.4%)、中期後半(Ⅲ群b類)3,646点(5.5%)、晩期後葉(V群c類)1,566点(2.3%)、後期前葉(Ⅳ群a類)1,358点(2.0%)、中期前半(Ⅲ群a類)1,311点(2.0%)と続く。前期前半(Ⅱ群a類)は553点(0.8%)、晩期中葉(V群b類)は387点(0.6%)と非常に少ない。

土器の出土分布は遺構とほぼ一致しており、調査範囲南側～中央の高位・低位の段丘面とそれから祝梅川旧河道へ降りる斜面上に集中し、北側の低地部分は希薄である(図V-3-47~52)。Ⅱ群a類土器は、当該期の住居跡VH-13が検出された、調査範囲中央の北向きの斜面を中心としてまとまりがある。網文式がこの部分に分布が偏るのに対して、静内中野式は南側の段丘面や緩斜面上からも疎らに出土している。Ⅱ群b類土器は、調査範囲南側で濃密だが、北側の低地部分ではほとんど出土していない。植苗式と大麻V式の分布は重なっており、住居跡の覆土から両型式が伴出した例も多い。植苗式は、当該期の土坑VP-23・57・59・61などの周辺、大麻V式は当該期の住居跡VH-6・10・15・17などの周辺に小規模なまとまりが見られる。大麻V式のほうが個体数は多いようである。大麻V式と併行するとされる円筒土器下層d式は出土量が少なく、客体的な存在であったと考えられる。Ⅲ群a類土器(円筒土器上層b式)は、調査範囲南西側の標高12.0~13.0m付近の緩斜面上に集中しており、VH-10・15・17の覆土中からも出土している。Ⅲ群b類土器は、調査範囲南側～中央の全体に分布しており、特に際立った集中域は確認できなかった。天神山式は、調査範囲西側の標高8.0~10.0m付近の氾濫原、柏木川式は一段高い標高11.0~13.0m付近の緩斜面上、北筒式は南東側の標高13.0~15.0m付近の段丘上に多い。北筒式が大半を占め、天神山式・柏木川式の個体数は非常に少ない。Ⅳ群a類土器は、すべてタブコブ式である。調査区全体に疎らで、当該期の土器囲炉を伴う住居跡(VH-5・7)の周辺でも、それほど多くない。Ⅳ群b類土器は、主にウサクマイC式が調査範囲南西側の緩斜面上、手稲式・鮫淵式が調査範囲中央の低位の段丘面から続く氾濫原に多く分布している。接合作業後の復元個体と口縁破片による大まかな個体識別では、ウサクマイC式:手稲式:鮫淵式の個体数比は5:4:1であった。エリモB式は個体数が非常に少ない。Ⅳ群c類土器の分布は、Ⅳ群b類とほぼ重なるが、主体となるのは調査範囲南西側である。Ⅳ群c類の大部分が堂林式である。後続する御殿山式は非常に少なく、調査範囲中央の氾濫原で出土した。V群b類土器は、美々3式に相当するものである。調査範囲南東側の段丘上で深鉢1個体(図IV-3-16-59)が出土したほか、北側の梅川1遺跡との境界部分でまとまりが見られる。梅川1遺跡でも同時期のものが出土している。V群c類土器は、ママチⅡ群・Ⅱ類に相当するもので、調査範囲南側～中央ではほとんど出土していない。K6調査区などで多く出土したものは、晩期後葉の土坑の掘削などに伴ってⅢ層から混入した可能性が高い。このほか北側の低地部分で集中する部分がある。

縄文時代前期前半の土器(図IV-3-18/表8-2/図版53)

Ⅱ群a-1類:美々7式に相当するもの(62)

62は口縁破片。平縁で、端面は内傾。口唇直下に太いR L横走縄文。その下位に同じ原体による斜

走縄文が施される。器外面の縄文はナデられて、不鮮明になっている。内面は丁寧に横ナデ調整される。胎土は少量の繊維と細砂礫が混入する。

Ⅱ群 a-1 類：網文式に相当するもの (63~68)

63・64は口縁部片。いずれも平縁で、端面は水平。器外面に太い R L 横走縄文。65~67は胴部片、68は丸底の底部片。節の荒い R L 横走縄文を施す。胎土は多量の繊維が混入する。器面の剥落が著しい。

Ⅱ群 a-2 類：静内中野式に相当するもの (69~84)

69~78は口縁部片。太めの L R 縄による斜走縄文を施す。79~82は胴部片で、太い原体による L R 斜走縄文。83は口縁部片で、端面は水平。器外面に R L 斜走縄文。横走沈線 2 条に L R 縄側面圧痕を重ねている。内面に横方向の擦痕が確認される。84は口縁部で、端面は丸みを帯びる。無文。器形から大麻 V 式の可能性もある。胎土は多量の繊維が混入する。器面の剥落が著しい。

縄文時代前期後半の土器 (図 IV-3-1・19~23/表 8-1・3/図版 42・53~57)

Ⅱ群 b-1 類：植苗式に相当するもの (1・85~117)

1は口縁~胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。端面はやや内傾し、L R 回転縄文。器外面に R L と L R の斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面にも縦位の羽状縄文。口縁部には弧状の縄側面圧痕が連続して施される。

85~117は破片資料。端面、内外面および底面に異種原体による羽状縄文を施す。羽状縄文は、外面が横位、内面が縦位のものが多い。85~92は口縁部に肥厚帯が設けられている。口縁部に籠状の貼付帯 1 条が巡るもの (85・87・88・91) と口唇直下に粘土紐を貼り付けるもの (86・89・90) がある。前者は貼付帯の断面が角形や台形で、厚みがあり隆々としている。これに対して、後者は断面が三角形もしくは扁平で、口唇と一体化している。91は籠状の貼付帯の上下に縄側面圧痕。92は貼付帯より上位の口縁部を欠損しており、形状が不明である。93~99は縄文のみが施されている。端面は水平だが、押しつぶされたように肥厚するもの (93~96・98) が見られる。99は胴部。100~109は口縁部に縄側面圧痕が横走する。縄側面圧痕が 1 条のみのもの (101・102)、2 条のもの (103~109) がある。107・110はさらに縦位の短縄線を上書きしている。111~117は底部。底縁が外側へ張り出す器形のものが多い (111~114・117)。111は底内面にも縄文が施される。胎土は繊維・砂礫が多く混入する。

Ⅱ群 b-2 類：大麻 V 式に相当するもの (2・118~167)

2は口縁~胴中部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形。端面~器外面に R L と L R の斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。

118~167は破片資料。植苗式と同様に端面や内外面に異種原体による羽状縄文を施す。植苗式が節の粗い縄文を強めに施すのに対して、大麻 V 式はやや節の細かい縄文を浅く施すという違いがある。また、内面の施文は、植苗式が口縁部から底部にまで及ぶのに対して、大麻 V 式は口縁部付近に偏る傾向が見られる。118~134は縄文のみが施されている。端面が外傾するもの (118~124・132)、水平なもの (125・126・128・129・134)、丸みを帯びるもの (127・130・131・133) がある。端面が外傾するものは、口唇断面が肥厚するものが多い (118~122・124)。125は平底。135~165は口縁部に縄側面圧痕が横走する。端面が丸みを帯び、縄文が施されないものが多い (135~138・145・146)。縄側面圧痕 1 条のみのものが大半だが、2 条以上が並走するもの (151・153~155・160)、弧状や縦位の短縄線が上書きされるもの (159・164・165) もある。156~158・160~163は端面に縄側面圧痕が横走する。2 条以上が施されるものは、口唇断面が肥厚する例が多い (156・157・161~163)。161~163は端面が外傾する。166・167は底部。166は凹底。167は平底。胎土は繊維・砂礫が混入する。

Ⅱ群 b-3 類：円筒土器下層 d 式に相当するもの (168~193)

168~193は破片資料。主に単軸絡条体の回転文(撚糸文)が施される。168~186は口縁部。168は口唇直下に絡条体圧痕文。171~175・185は内面にも撚糸文。内外面で回転方向を変えて施文されるものが多い。173・174は外傾する端面に撚糸文が施され、口唇直下に幅の狭い無文帯。175は口縁部文様帯下に縄端が圧痕される。186は波状口縁の波頂部。168~175・186は胎土や器面調整、内面への施文などの特徴が大麻V式と非常によく類似している。これらは円筒土器下層式の施文方法を取り入れた在地の土器(大麻V式の一部)の可能性がある。176~185は口縁部がやや外反し、端面が丸みを帯びるもの。撚糸文が横走る。176は端面にも施文される。177は扁平な横位貼付帯が取り付けられ、貼付帯の外面にも撚糸文。178・182・185は端面が縄の側面により斜めに刻まれる。178は補修孔1か所が確認される。179は横位貼付帯の下に結節回転文(綾織文)。口唇を欠く。176~185は内面の施文が見られず、よく磨かれている。187~193は胴~底部。187は細い原体による結節回転文と単軸絡条体が多段に施される。188は内面および底面にも施文される。190は直前段合摺、191・192は結節回転文。187・189・193は底縁の形状から平底と推測される。

縄文時代中期前半の土器 (図IV-3-24/表8-4/図版57・58)

Ⅲ群 a 類：円筒土器上層 b 式に相当するもの (194~207)

194~198・200・202・204は口縁部が外反する器形で、端面が外傾する。194は端面に粘土紐を山形あるいは波状に貼り付ける。貼付帯はR L縄の側面により縦位に刻まれる。口縁部には横位の馬蹄形圧痕文と3条1組のR L縄側面圧痕が多段に施される。胴部は結束第1種羽状縄文。底部は平底。195は端面に眼鏡状の貼付帯。貼付帯はL R縄の側面により縦位に刻まれる。貼付帯の内側は無文。口縁~胴部は結束第1種羽状縄文。196は山形突起部分。端面および口縁部に粘土紐を山形あるいは波状に貼り付け、内部を縄側面圧痕や馬蹄形圧痕で充填する。貼付帯には回転縄文。197は山形突起の端面および口縁部に波状・横位の縄側面圧痕と馬蹄形圧痕。胴部は結束第1種羽状縄文。底部は平底。196・197の縄側面圧痕は3条1組の撚りの異なる原体による。198は山形突起部分で、端面に弧状の粘土紐。199は口縁部にボタン状突起が貼り付けられ、その上部が半載竹管状施文具により刻まれる。200・202は端面がL R縄の側面により縦位に刻まれる。外面は結束第1種羽状縄文。201は口縁部片で口唇を欠く。粘土紐を波状に貼り付け、内部を4条1組の縄側面圧痕や刺突列で充填する。203・204は深鉢の口縁~底部。外面は結束第1種羽状縄文。底部は平底で、底縁が張り出す。203は山形突起の頂部が指頭により圧痕される。205は口縁部に山形突起と肥厚帯が貼り付けられ、端面にも回転縄文。206は胴部片で、結束第2種羽状縄文。207は底部の地文が横ナデにより消されている。

縄文時代中期後半の土器 (図IV-3-1・25~27/表8-1・5/図版42・58~60)

Ⅲ群 b-1 類：天神山式に相当するもの (208~223)

208~223は口縁部の山形突起部分。208は口縁部に沿って粘土紐を貼り付けて、肥厚帯を作出している。山形突起下にも瘤状突起を貼り付ける。端面は外傾し、山形突起部分の口唇断面は三角形を呈する。山形突起および端面にはへら状施文具の先端による刺突列が多段に巡る。口唇直下にも扁平な粘土紐が貼り付けられ、半載竹管状施文具による横向きの刺突列が施される。瘤状突起の周縁にも同様の刺突列。器外面には、やや節の粗いL R斜走縄文。212は山形突起の外面および肥厚帯の端面に円環状の粘土紐が貼り付けられる。粘土紐の周縁と肥厚帯の端面には半載竹管状施文具の先端による刺突列が多段に巡る。213は山形突起の側縁(端面)に半載竹管状施文具の先端による刺突列。外面

が剥落する。214・216は山形突起下にやや大きめの瘤状突起が貼り付けられる。214は瘤状突起の外面に竹管状施工具の先端による刺突、端面と口縁部に横向きの刺突列が巡る。216は突起部の外面と端面～口唇直下に半載竹管状施工具の先端による刺突列。215は山形突起下に円環状、瘤状、斜走する貼付帯。貼付帯上は半載竹管状施工具とヘラ状施工具の先端による刺突列。口縁部に横走沈線2条。地文は214がR L、215・216がL Rの斜走縄文。217は山形突起2か所が残存する口縁部。端面～器外面にL R斜走縄文。218～223は口縁部で、端面に刺突列。焼成は良好ではなく、器面が剥落するものが多い。胎土は砂礫・繊維が少量混入する。

Ⅲ群b-2類：柏木川式に相当するもの(224～236)

224～236は破片資料。いずれも器外面に粘土紐を縦横あるいは斜位に貼り付け、刺突列を施す。224～231は口縁部。224は口縁部が外反し、胴部がやや膨らむ器形。口縁部は平縁で、端面が外傾する。口縁部に縦位の貼付帯が垂下し、竹管状施工具の先端による円形の刺突列が多段に巡る。器外面にL R斜走縄文。225・226・229・230は横位、227は縦位、228は斜位の貼付帯。225は縄端圧痕、226・227・229は半載竹管状施工具による横向きの刺突、228は指頭圧痕、230は半載竹管状施工具による押し引きと指頭圧痕が施される。231は山形突起に沿った波状、そして頂部から垂下する縦位の貼付帯。貼付帯上に指頭圧痕。器外面と口縁部内面にL R斜走縄文。232～236は胴部。232は縦位、233・236は横位、234・235は斜位の貼付帯。232は縄端圧痕、233・234は指頭圧痕、235・236は半載竹管状施工具の先端による刺突列。232は地文に結節回転文が横走する。焼成は良好で、胎土は砂礫に富む。

Ⅲ群b-3類：北筒式に相当するもの(3・237～263)

3は胴下～底部が復元された深鉢。底部は平底で、底縁が張り出す器形。器外面はR L斜走縄文が施され、結節回転文(縦線文)が不整に巡る。

237～263は破片資料。237～253・255は口縁部に円形刺突列が巡るもの。円形刺突列は棒状施工具の先端を横あるいは斜め下より突いたもので、貫通はしない。240・246・247・249・253・255は内面が刺突により盛り上がっている。口縁部が肥厚し、端面が外傾するものが多い。端面や口唇直下の肥厚帯・貼付帯には、半載竹管状施工具による横向きの連続刺突列(押し引き文)が多段に施される。237は口縁部肥厚帯から垂下する縦位の貼付帯。249は口唇直下と肥厚帯下に円形刺突列が各1列巡っている。250は横位の低い粘土紐の上にボタン状突起を貼り付け、その上下にやや間隔の空いた刺突列。251は端面と内外面の口唇直下に押し引き列。また、口縁部には2条の押し引き列が交差し、交点の上下にも円形刺突列。253は円形刺突列のみで、押し引き列が施されない。254は端面と口唇直下に押し引き列が施されるが、円形刺突列は見られない。256～258・260～263は胴部。256・262は円形刺突列の一部が確認されるので、口縁部に近い部分と考えられる。257は縦位、258は横位の押し引き文。260はヘラ状施工具、261は半載竹管状施工具、263は縄端による刺突列。いずれも器外面には結東第1種または第2種の羽状縄文・斜走縄文が施される。237・239・240・249・250・252・253・255は内面にも施文される。焼成は良好。胎土は砂礫を多く含む。

縄文時代後期前葉の土器(図IV-3-1・28/表8-1・6/図版42・61)

Ⅳ群a-2類：タブコブ式に相当するもの(4・264～277)

4は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、端面はやや外傾。端面と器外面に疎らなL R斜走縄文。口縁部には竹管状施工具による縦位の刺突列が巡る。胎土は砂礫が多量に混入する。

264～277は破片資料。264は口唇直下に簞状の貼付帯を1条取り付けている。端面と器外面にL R斜走縄文。口縁部には2個1対の縄端が強く圧痕されており、内面が膨らむ。265は口縁部に指頭

よる縦位の圧痕列。266は瘤状突起が貼り付けられ、その上からL R斜走縄文。267は口唇直下に幅広い肥厚帯を取り付け、地文と回転方向を違えて施文する。底部は平底で、底外面にも縄文。底内面は指頭による調整痕。270は口縁部に地文がナデ消された無文帯があり、貼付帯が剥落した可能性がある。271～273は端面および内外面に縄文が施される。274～276は胴部。274・276は羽状縄文。274は内面にも施文される。277は平底の底部で、底外面にも縄文。器面の縄文は、ナデにより不鮮明なものが多い。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。

縄文時代後期中葉の土器 (図IV-3-2~8・29~38/表8-1・7/図版42~48・61~72)

IV群b-1類：ウサクマイC式に相当するもの(5・6・278~341)

5は深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈する。口唇断面は角形で、端面は外傾。底部は平底。端面～胴中部はR L斜走縄文が施され、胴下～底部は無文。口唇直下には端面に沿って1条の緩い波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。口縁部では15ないし16条を単位とする波状沈線、胴上部では斜位のS字状沈線が連続して描かれる。胴中部は渦巻文が2条1組の沈線により描かれ、内部の地文がやや粗雑に磨り消されている。焼成は良好で、胎土は緻密である。6は注口土器。口頸部は広口で胴部との接合部がやや窄まる。胴部は算盤玉様に張り出し、下膨れの注口部が取り付けられる。底部は平底。器外面は無文で、丁寧に研磨されている。口唇直下に肥厚帯を設け、さらに弧状の粘土紐を縦位に貼り付ける。胴部には、鋸歯状施工具による集合沈線、C字状あるいは弧状沈線、円形刺突孔を組み合わせた文様が描かれる。関東地方の加曾利B1式に相当し、搬入品と考えられる。周辺よりウサクマイC式が多く出土していたことから、並行関係にあると推測される。

278～341は破片資料。278～296は数条を単位とする沈線により鋸歯状の文様が描かれるもの。いずれも口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形と推測される。口縁部と胴部の間の括れた部分に2条の横走沈線で区画された無文帯が巡るものが多い(278～282・288・290)。278は小波状を呈する口縁部に沿って、横走沈線2条が巡る。無文帯を挟み、幅広い口縁部に2段、胴部に2段(以上)の文様帯が横走沈線により区画される。7～9条が1組となった沈線により山形あるいは鋸歯状の文様が描かれる。280～283・286～288・290・291・294は端面にも縄文。285は端面外縁が棒状施工具の側面により刻まれる。297～304は数条を単位とする沈線により弧状の文様が描かれるもの。297は口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。端面にも縄文。小波状を呈する口縁部に沿って、横走沈線1条が巡るが、波頂部では円環状となる。胴部は2条1組の沈線で湾曲する文様を描き、内部の地文を磨り消している。305～309・327～329は扁平なZ字状またはクランク状の文様が描かれるもの。310は鋸歯状文の一部がクランク化し、蛇行線文などと組み合わせるもの。311～326・332は数条を単位とする沈線により波状の文様が描かれるもの。311・312は胴部に屈曲文が磨り消しの技法により描かれる。311は胴部の横走沈線より垂下する円弧文。323は上下に組み合わせる巴状文が連続する。小波状を呈する口縁部に沿って沈線が巡るものが多いが、332は平線である。330は口縁部に横走沈線が巡り、無文帯を挟み、胴～底部には2条1組の沈線による波状文と交互に対向する弧状文が磨り消しの技法により描かれる。331は口縁部に交差する波状沈線が巡り、胴部には2条1組の沈線によりX字状文が描き、内部を粗雑に磨り消している。333～341は胴部で、屈曲文・渦巻文・矢印文などが磨り消しの技法により描かれる。330・339の底部は無文。

IV群b-2類：手稲式に相当するもの(7~31・342~403)

7～31は復元個体。7は口縁～底部。口縁部は波状で、山形突起4か所。口唇断面はやや肥厚し、

端面は丸みを帯びる。底部は平底。口縁～胴中部にL R斜走縄文を施す。口縁に沿って、6条を単位とする波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分、胴下部には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。胴中部には、波状あるいは屈曲沈線により文様が描かれ、地文の一部が粗雑に磨り消される。8は口縁～胴上部。口縁部は平縁で、やや外反する。器外面にL R斜走縄文。口縁部と胴部は横走沈線間に扁平なクランク状沈線が連続して施される。9は口縁～胴下部。器外面にL R斜走縄文。口縁部は平縁で、端面は水平。口縁部に1条の横走沈線が走り、それより上位の口唇直下は地文が磨り消され、無文帯としている。10は口縁～底部。波状口縁で、波頂部の口唇断面はやや肥厚する。底部は平底。器外面にL R斜走縄文を施すが、口縁部の横走沈線より上位と胴下～底部は無文。11は口縁～底部。波状口縁で、山形突起3か所。底部は平底。胴部上半にのみL R斜走縄文を施す。胴上部には横走沈線8条が走り、竹管状施工具による刺突列が縦位に上書きされる。12は口縁～胴中部。波状口縁で、波頂部の口唇断面はやや肥厚する。器外面にR L斜走縄文を施すが、2条1組の沈線で描かれた、胴部の横走帯とS字状文の内部以外は磨り消されている。13は口縁～胴上部。波状口縁。胴上部にのみL R斜走縄文を施し、横走沈線8条に3ないし4条1組の縦位沈線が上書きされる。14・15は胴中～底部。いずれも器外面にL R斜走縄文が施されるが、底部は無文。数条の横走沈線に、14は弧状の短沈線、15は縦位沈線が上書きされる。16は口縁～底部。口縁部は平縁。胴部上半にのみL R斜走縄文。上下の横走沈線を弧状の短沈線で交互に連結している。17は台付浅鉢で、高台部を欠く。波状口縁。胴部にR L斜走縄文を施し、横走沈線6条に4条1組の縦位沈線が上書きされる。18は口縁～胴上部。口縁部にボタン状突起が貼付される。横走沈線より上位は無文。器形から注口土器の口頸部の可能性もある。19は台付浅鉢で、底部～高台部を欠く。口縁部は波状で、横走沈線より上位は無文。胴部はR L斜走縄文。2条1組の沈線により回転する弧状文が描かれ、内部がやや粗雑に磨り消される。20～24は縄文のみが施された深鉢。いずれも平縁で25のみ波状。22は口縁～胴部が外反、23・24は口縁部と胴部の間が括れる器形。26・27は小型の深鉢。26は器外面にL R斜走縄文で、口縁部のみ無文。27はR L斜走縄文で、口縁部を欠く。28は胴下～底部。疎らなR L横走縄文で、底部は無文。29は無文の鉢。横ナデ調整されるが、器面の剥落が著しい。30・31は無文の底部。

342～403は口縁～底部の破片資料。口唇断面は角形で、端面は平坦またはやや丸みを帯びる。342～373は口縁部と胴部に数条の横走沈線が巡るもの。縦位の短弧線またはS字状線が上書きされて、上下の横走沈線が交互に連結されるものが多い(342～348・350～357・359～361・363～367・371)。口縁部に山形突起を有するものは、突起下に縦位の区画文が施される(342～344・352・360・361・364～367)。349・358・362は横走沈線のみが残存するもので、短弧線は確認されていない。368・369は縦位の刺突列、370・372は縦位沈線が上書きされる。口縁～胴部が残存し、器形が推測できるものでは、口縁部と胴部の間が「く」の字状に曲がり、その部分から口縁部が垂直ぎみに立ち上がるもの(342)、胴部から口縁部にかけて直線的に開くもの(353・360)、口縁部が内傾するもの(355・358・364)、下半部が細く、胴上部から口縁部にかけて緩やかに外反する、いわゆる朝顔形のもの(366)がある。器外面にL R斜走縄文を施すものが大半である。口唇直下は、横走沈線で区画された内部の地文がナデ消されて無文帯になっている。344はナデ消しが粗雑で、地文の一部が残る。342は口縁部と胴部の間の括れ部分にも幅広の無文帯。360・366は胴下部が無文。367は山形突起の頂部に指頭圧痕。374～376は磨り消しの技法により文様が描かれる。377～379は胴部で、無文地に沈線で同心円文や弧線文。378・379は器形から注口土器と考えられる。380～389は横走沈線1条より上位の口唇直下が無文で、口縁部に文様帯が見られないもの。380は括れ部分にも横走沈線1条が走り、口縁部が幅広の無文帯となっている。390は口縁部に横走沈線2条で区画された無文帯。391は矢羽状、392・395は

鋸齒状、393は波状、394はZ字状、396はクランク状の文様が沈線により胴部に描かれる。397はミニチュアの浅鉢で、無文。398～402は斜走縄文のみが施された口縁部。

IV群 b-3 類：鏡淵式に相当するもの (32・33・403～420)

32は口縁～胴下部が復元された深鉢。平縁で、胴部が膨らむ器形。器外面に R L 斜走縄文。2条1組の横走沈線に挟まれた竹管状施文具による刻み列が施される。この刻み列により口縁部と胴部の文様帯が区画される。口縁部と胴部下半は斜位の格子状沈線が上書きされ、胴部上半は地文が磨り消された幅広の無文帯。33は注口土器の口頸部。無文で、口縁部に横走沈線、胴部との接合部分に刻み列。

403～420は破片資料。403・404は刻み列が見られないもの。いずれも器外面に L R + R L 羽状縄文が施される。口唇断面が肥厚し、端面は内傾する。403は口縁部と胴部の間に幅広の無文帯。404は端面外縁が棒状施文具の側面で刻まれ、口縁下部に横走沈線1条が確認される。405は口縁部が外反し、胴部が膨らむ器形。器外面に L R + R L 羽状縄文。口縁部と胴部の間の括れ部分には、横走沈線3条で区画された内部にヘラ状施文具の先端による刻み列が2段巡る。胴部には磨り消しの技法による文様が描かれる。406～420は口縁部あるいは胴部に1～3段の刻み列が巡るもの。406～409は刻み列の直下に縄文が残る。410～415は口縁部に刻み列で区画された幅広の無文帯をもつ。415は口唇直下に刻み列が見られない。416は山形突起の外面に、刻み列が施された円環状の貼付帯が取り付けられる。419は胴～底部に二重の刻み列が3段巡る。底部は無文で、平底。

IV群 b-4 類：エリモB式に相当するもの (34・421～424)

34は口縁～胴上部。口縁部は平縁で、端面は内傾。器外面に R L と L R の斜走縄文を交互に施す。口唇直下に竹管状施文具による刺突列と円形刺突文が巡る。口縁部は、縦位・横位の沈線により区画した内部の地文を磨り消し、無文帯としている。

421～424は口縁～胴部の破片資料。刻み列と突瘤文(421～423)・円形刺突文(424)が併用される。423は4～8条を単位とする沈線により鋸齒状の文様が描かれる。

注口部 (425～433)

IV群 b 類またはIV群 c 類の注口土器の口頸部・注口部を一括した。全体の器形・文様が不明であることから、細分できなかった。425は口頸部。器外面は横ナデに調整されており、無文。口縁部に山形突起1か所が確認される。胴部との接合部分に横走沈線2条。426～433は注口部。形状は、上向きに反り返るもの(426)、下向きに反り返るもの(428)、直線的に突き出すもの(427・429・431)がある。430・432・433は先端を欠失している。いずれも無文であるが、431は胴部との接合部分に R L 斜走縄文が施される。428～430・432・433は接合下部に瘤状突起を有する。426・427は先端部に細沈線1条が巡る。底部(434～453)

434～453は底部。いずれも平底で、無文。434・437はミニチュア土器の底部。434は底側面に段が見られる。底縁から直線的に立ち上がるもの(435～441)とやや外側へ開いて立ち上がるもの(442～453)がある。438は底縁がやや張り出している。451は横走沈線1条が確認される。器外面はナデ調整されているが、器内面は指頭による凹凸が残る。

縄文時代後期後葉の土器 (図IV-3-9-15・39-45/表8-1・8/図版48-52・72-77)

IV群 c-1 類：堂林式に相当するもの (35～56・454～530・535)

35～56は復元個体。35・36は縄文のみが施されたもの。いずれも口縁部は平縁で、端面は内傾。35は平底、36は丸底さみである。器外面に35は R L + L R 羽状縄文、36は L R 斜走縄文を施す。37～42は口縁部に1条の I O 突瘤列が巡るもの。いずれも口縁部は平縁であるが、41は小さな山形突起が貼

り付けられる。端面は水平～内傾。37・41は平底。器外面に37・41はL R斜走縄文、40・42はR L斜走縄文、38・39はR L + L R羽状縄文を施す。43～46は縄文地に横走沈線が巡るもの。43は口縁部に小さな山形突起が貼り付けられ、端面は内傾。口縁部に横走沈線6条が巡るが、口唇直下の1条は全周しない。44は平縁で、口唇断面が肥厚する。端面は内傾。底部は凹底。口縁部に5ないし6条、胴部に3条の不整な横走沈線が巡る。沈線は、段違いで連結しないもの、波状きみで重複するものが見られる。45は胴部が括れる器形で、丸底。口縁部に山形突起が設けられ、端面は内傾。口縁部と胴部にそれぞれ6条の横走沈線が巡る。胴部の括れ部分と底部は、横走沈線で区画した内部の地文を横ナデで磨り消し、無文帯としている。46は波状口縁で、端面は内傾。口縁部に沿って3条の波状沈線、胴部にも横走沈線（現存2条）が巡る。器外面に43・44はR L + L R羽状縄文、45・46はL R斜走縄文を施す。47～52は横走沈線とI O突瘤列が組み合わさるもの。47は平縁で、端面は内傾。底部は平底。口縁部に横走沈線2条が巡り、その下部にI O突瘤列。48は平縁で、端面は内傾。口縁部に横走沈線3条が巡り、その2～3条間にI O突瘤列。49は波状口縁で、端面は内傾。波頂部の口唇断面が肥厚する。口縁部に沿って4条の波状沈線が巡り、その1～2条間にI O突瘤列。50～52は胴部にも文様帯をもつもので、いずれも口縁部に小さな山形突起が設けられる。50は突起の頂部がへう状施文具により横位に刻まれる。端面は内傾。口縁部に横走沈線3条が巡り、その2～3条間にI O突瘤列。胴上部には鋸歯状あるいは波状沈線により渦巻文が描かれる。胴中部にも横走沈線3条が巡る。51は小型の深鉢。端面は内傾。口縁～胴下部に横走沈線（現存13条）が巡り、口唇直下の1～2条間にI O突瘤列。胴部の横走沈線は縦位の弧線などで区画されている。52は胴部がやや括れる器形。端面は内傾。口縁部に横走沈線4条が巡り、その1～2条間にI O突瘤列。胴上部にはクランク状の連結円弧文が描かれ、外側の地文は磨り消されている。胴中部にも横走沈線7条が巡る。器外面に47・48・51はL R斜走縄文、49・50・52はR L + L R羽状縄文を施す。53・54は、注口土器の胴～底部。器外面には細い原体でR L + L R羽状縄文が施される。注口部は斜め上向きで、先端を欠く。53は注口部の下端および胴部の張り出し部分には瘤状突起が貼り付けられる。胴部には横走沈線が巡り、注口部の周縁も沈線で縁取られる。底部は平底。54は胴部の張り出し部分には瘤状突起が貼り付けられた痕跡が残る。胴部には5条1組の沈線により対向する弧線文が描かれる。口頸部との接合部分と底部には横走沈線。底部は凹底。55は小型の鉢。波状口縁で、端面は内傾。波頂部の口唇断面が肥厚する。器外面にL R斜走縄文を施す。口縁部に沿って3条の波状沈線が巡る。胴部には2条1組の円弧状沈線により、花卉様の文様が描かれる。56は台付浅鉢。無文で、内外面がナデ調整される。

454～530・535は口縁～底部の破片資料。454～461は縄文のみが施されたもの。462～479は口縁部にI O突瘤列が巡るもの。480～491は、沈線のみで文様が描かれるもの。492～522は横走または波状沈線とI O突瘤列が組み合わさるもの。523～530は胴部にも文様帯が見られるもの。535は無文。

IV群c-3類：御殿山式に相当するもの（57・58・531～534・536～540）

57は台付土器の底部。無文。低い高台部分の底縁に刺突列が見られる。58はミニチュアの浅鉢。片口で丸底。沈線と円形刺突列により文様が描かれる。

531～534・536～540は口縁～胴部の破片資料。531～534は器外面に沈線により屈曲・波状・鋸歯状の文様が描かれ、貼瘤と組み合わさるもの。貼瘤は棒状施文具の側面により刻まれる。531は波状口縁でI O突瘤列も施される。536～540は口縁部に爪形文が施されるもの。536・540は、めくれの強い爪形が多段に巡る。540は端面のが内外縁が交互に指頭により圧痕される。

縄文時代晩期中葉の土器 (図IV-3-16・45/表8-9/図版52・77)

V群b類: 美々3式に相当するもの (59・541~545)

59は口縁~底部が復元された深鉢。口縁部は平縁。底部は凸底。端面は水平で、外縁が棒状施工具の側面、内縁が縦位のR L縄により刻まれる。器外面および底面にL R斜走縄文が施されるが、胴上部に帯状の無施文部分。口縁部は、L R縄側面圧痕5ないし6条が不整に巡る。横走沈線が縄線の一部に上書きされている。2孔1対の補修孔が2か所確認される。内面は横ナデ調整により平滑である。

541~545は破片資料。541は口縁部に横位とそこから垂下する弧状のL R縄側面圧痕。542は口縁部に横位のR L縄側面圧痕が2条残存する。口唇に扁平な突起が設けられており、頂部がへら状施工具により押し引かれる。端面は棒状施工具の側面により刻まれる。541・542の地文は磨滅・剥落により不明。543は口唇外縁が肥厚し、縄端により刻まれる。端面は水平で、R L縄側面圧痕1条。器外面はL R斜走縄文。544・545は口唇外縁が棒状施工具の側縁により刻まれる。いずれも器外面はR L斜走縄文。545は平底で、底縁から大きく開いて立ち上がる。

縄文時代晩期後葉の土器 (図IV-3-17・45/表8-10/図版52・77)

V群c類: ママチII群・II類に相当するもの (60・61・546~549)

60は口縁~胴中部が復元された深鉢。口縁部に低い山形突起を設けている。突起の頂部はR L縄により縦位に刻まれる。器外面にはR L斜走縄文が疎らに施される。口縁部は横走沈線3条が巡る。61は口縁~胴下部が復元された深鉢。口縁部に内傾する山形突起を貼り付ける。端面は内傾し、外縁が棒状施工具の側面により刻まれる。端面および突起の頂部・外面にR L縄側面圧痕。器外面はR L斜走縄文が施される。口縁部は横走沈線8条が巡り、4~7条を単位とする鋸歯状沈線と縦位沈線が上書きされる。横走沈線下には半截竹管状施工具による刺突列が巡る。

546~549は破片資料。546は口縁部で、横走沈線4条が巡る。547は浅鉢の山形突起部分。端面および突起の頂部に縄側面圧痕。突起下に円形刺突孔1か所。548は口縁~胴下部。胴下半は地文がナデ消されて無文である。549は山形突起が設けられた口縁部。横走沈線8条に3~5条を単位とする縦位あるいは弧状の沈線が上書きされる。地文は546・548・549がR L斜走縄文、547がL R斜走縄文。

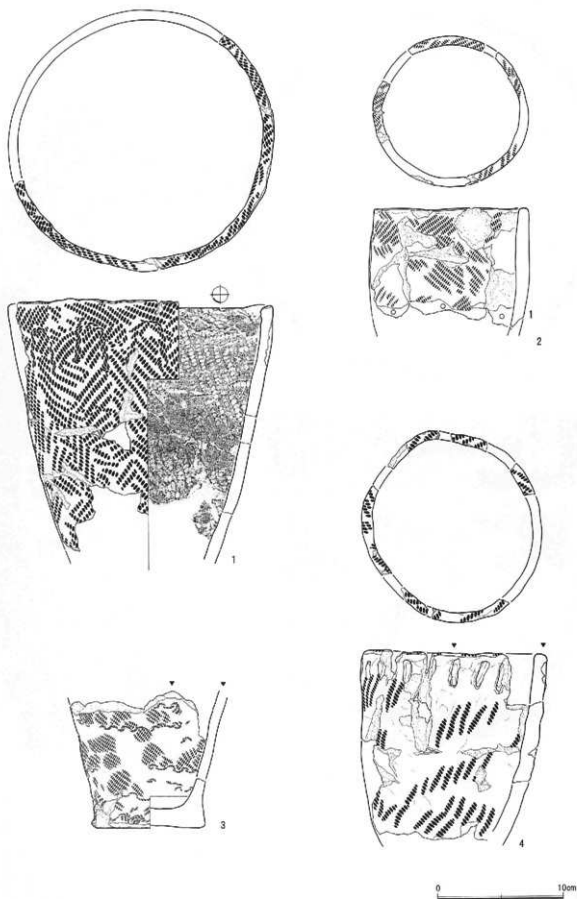
(2) 土製品

再生土製円盤 (図IV-3-46-1~12/表9/図版78)

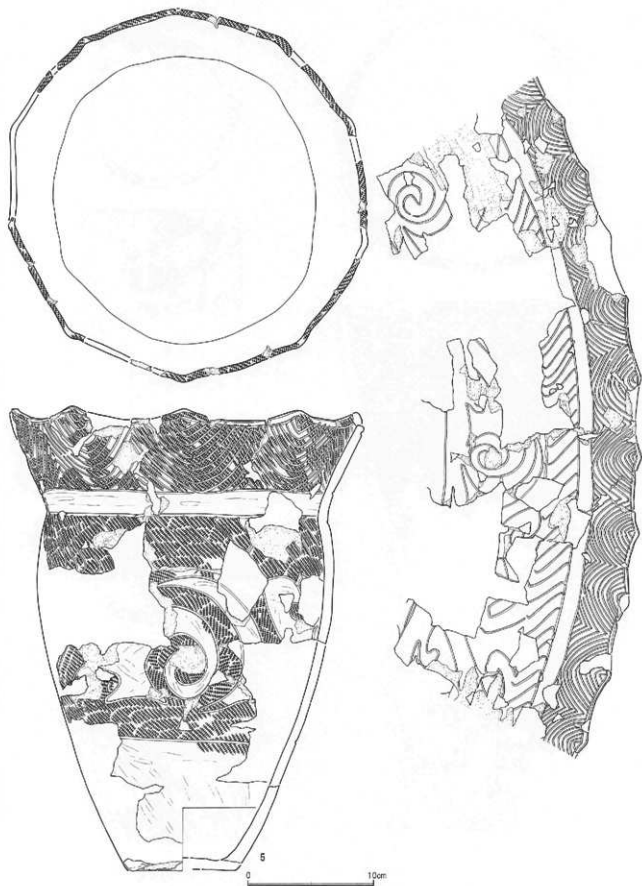
1はII群a類、2・3・6~12はII群b類、4・5はIII群b類の胴部片の周縁を打ち欠いて円盤状にしている。1~3は穿孔されていないもの。2は側縁が擦られている。3は補修孔1か所が確認される。4~12は破片の中央が穿孔されているもの。4は竹管状施工具による横向きの押し引き列、5は格子状の沈線が施される。6は内面に沈線。地文は1がR L横走縄文、2・3・12がR L + L R羽状縄文、4・5・7~9・11がL R斜走縄文、6・10がR L斜走縄文。

盤状粘土塊 (図IV-3-46-13~15/表9/図版78)

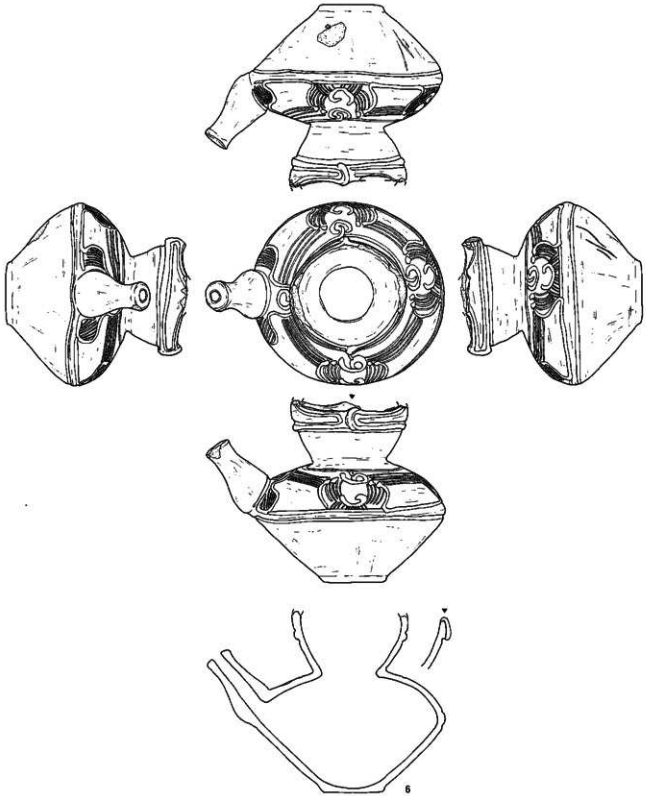
13~15は盤状粘土塊の破片。いずれも外面が黄褐色を呈し、同じ大きさの土器片と比較して軽い。未焼成のまま自然乾燥された可能性がある。厚さはほぼ同じである。胎土は緻密で、細砂礫を少量含む。いわゆる「サツマアケ状土製品」(北理調報116)に類似する。破片の形状から、本来は楕円形であったと推測される。13は指で扁平に整形した痕跡が残る。これらの盤状粘土塊、各時期の土器片を試料として胎土分析を行った。(VI章第2節参照)。(芝田)



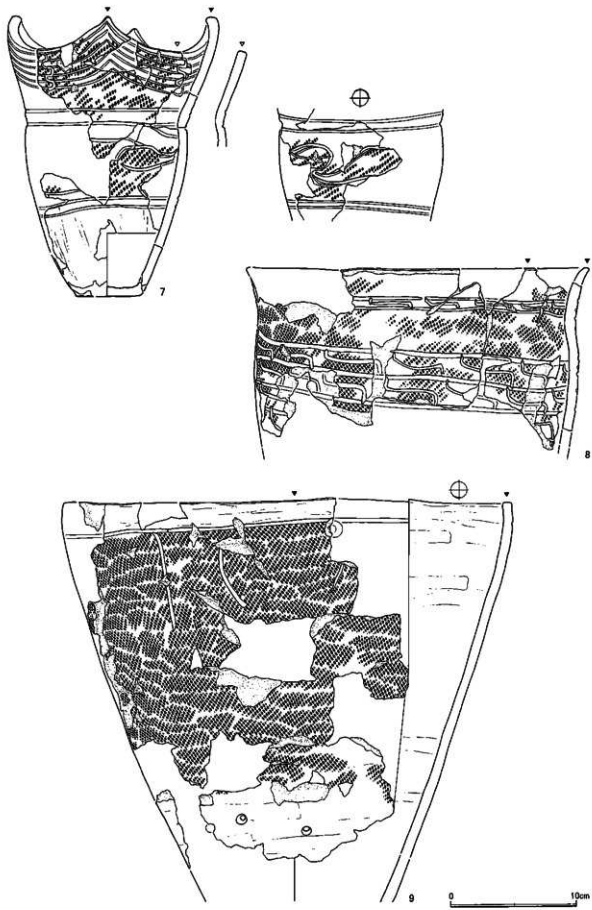
図IV-3-1 包含層の土器(1)



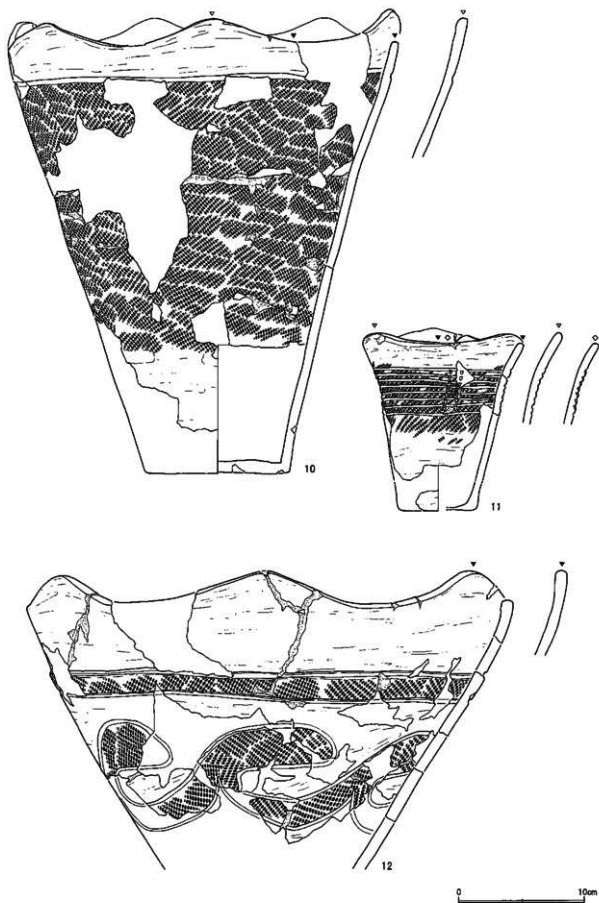
図IV-3-2 包含層の土器(2)



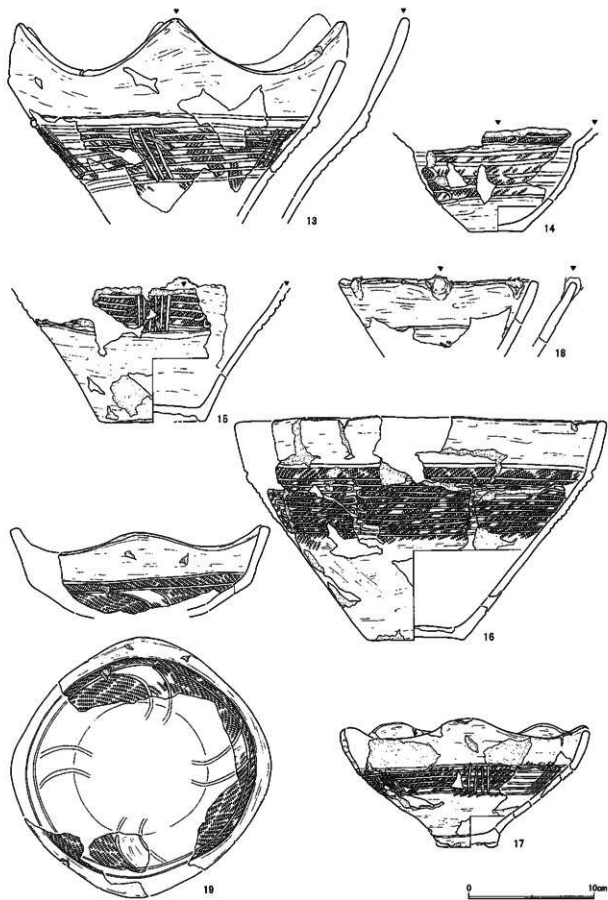
図IV-3-3 包含層の土器(3)



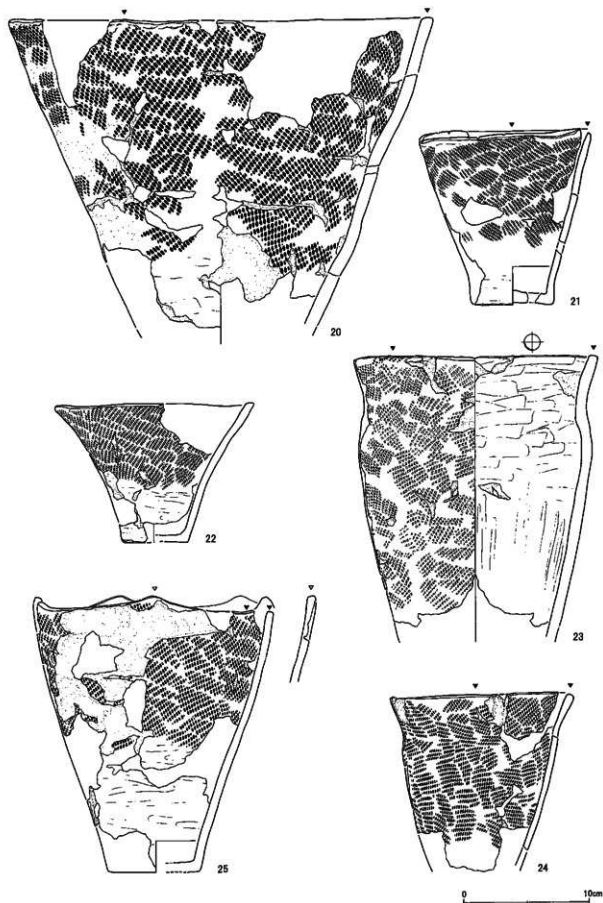
図IV-3-4 包含層の土器(4)



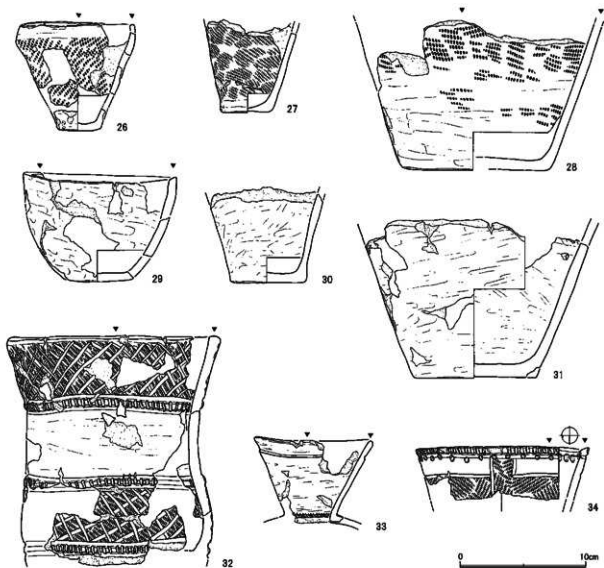
図IV-3-5 包含層の土器(5)



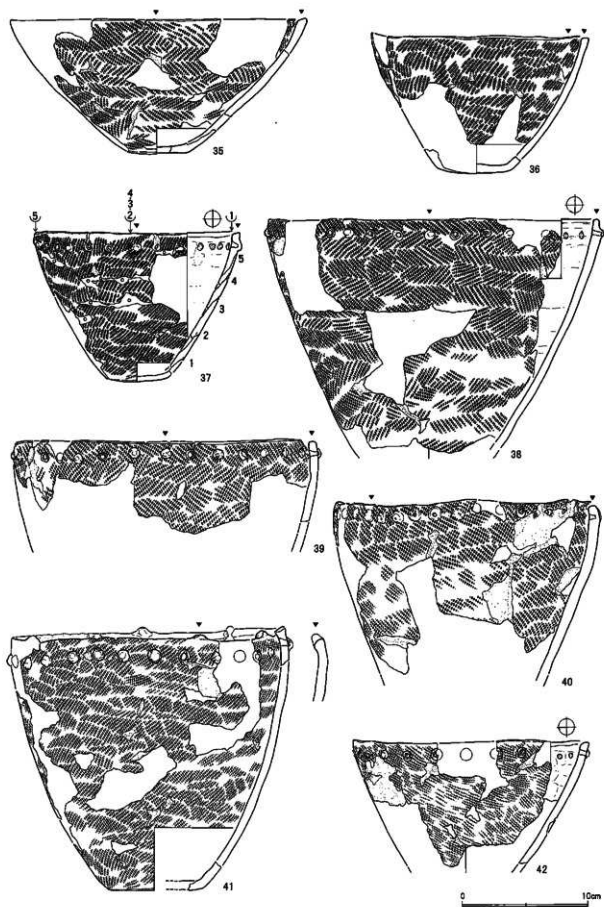
图IV-3-6 包含層の土器(6)



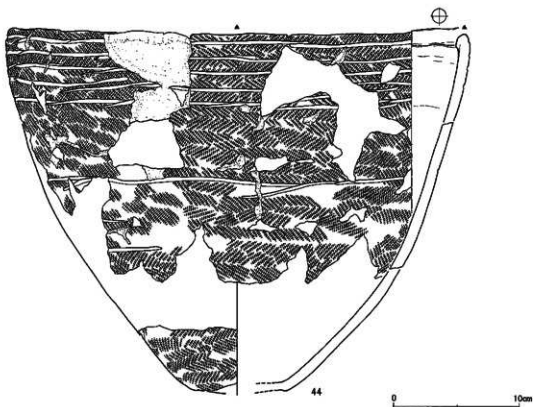
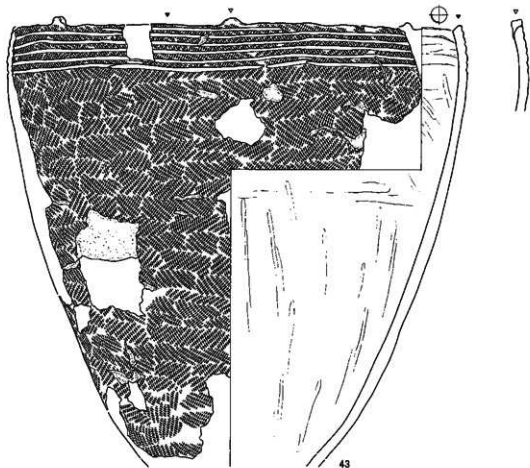
図IV-3-7 包含層の土器(7)



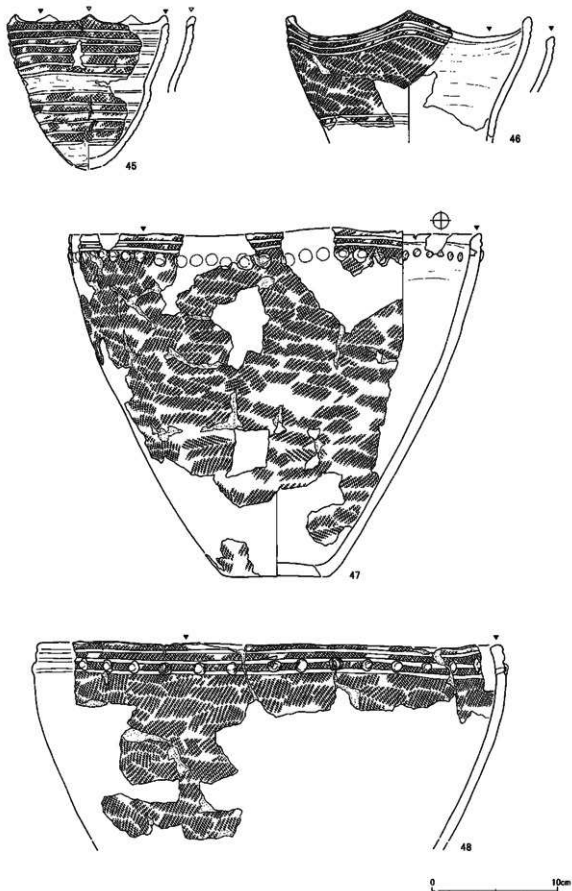
図IV-3-8 包含層の土器(8)



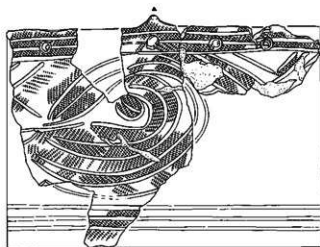
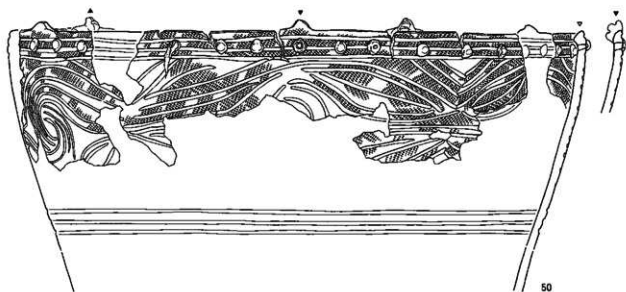
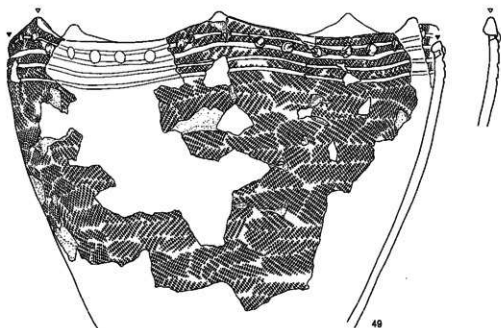
図IV-3-9 包含層の土器(9)



図IV-3-10 包含層の土器 (10)

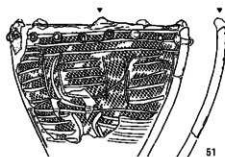


図IV-2-3-11 包含層の土器 (11)

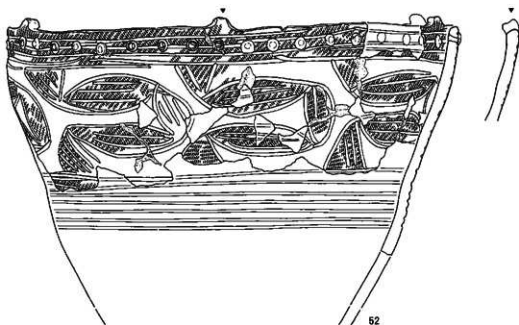


0 10cm

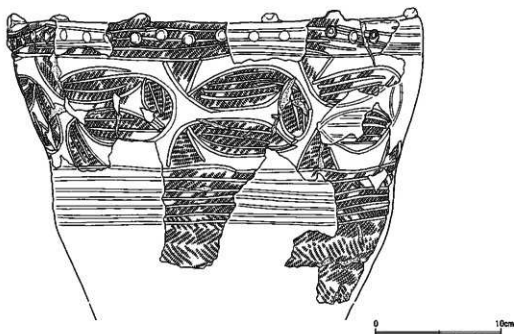
図IV-3-12 包含層の土器 (12)



51

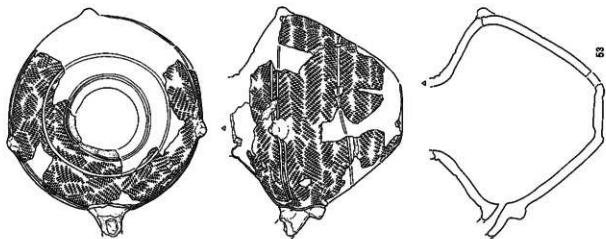


52

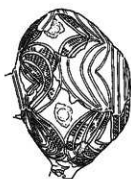


0 10cm

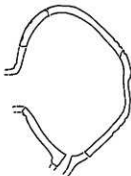
図IV-3-13 包含層の土器 (13)



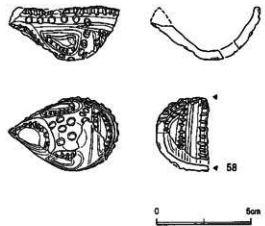
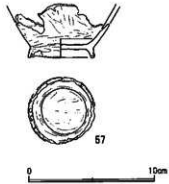
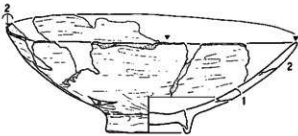
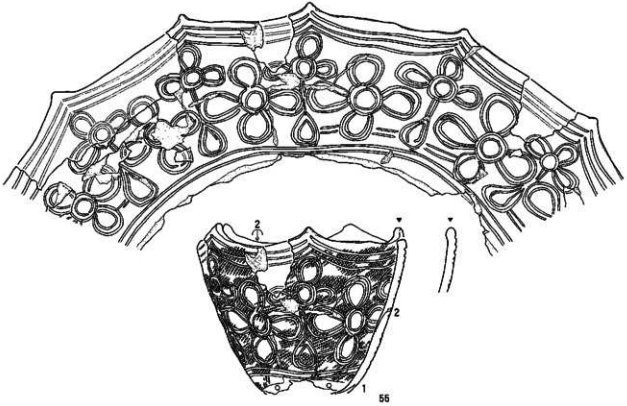
53



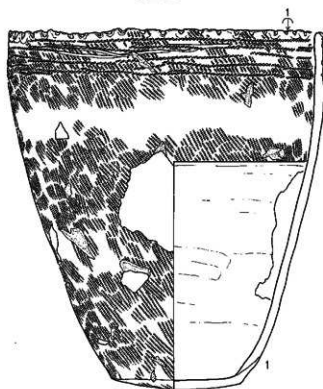
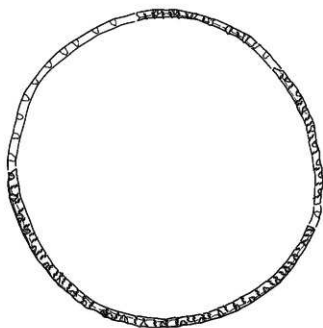
54



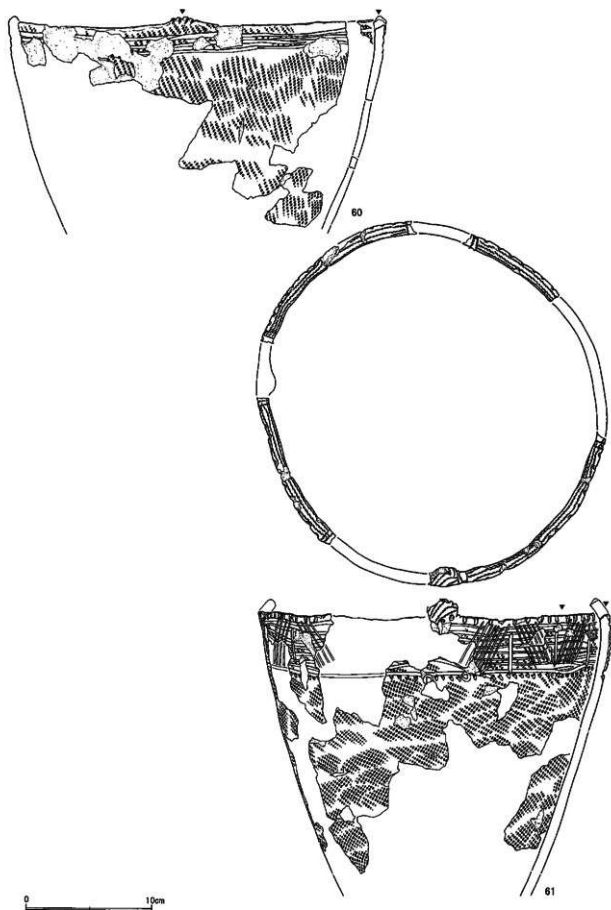
図IV-3-14 岩合層の土器 (14)



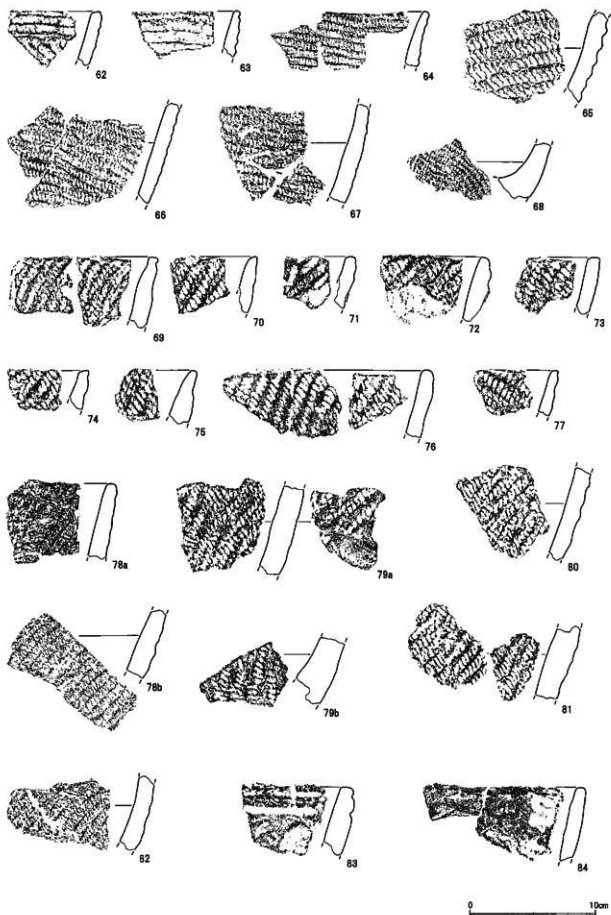
図IV-3-15 包含層の土器 (15)



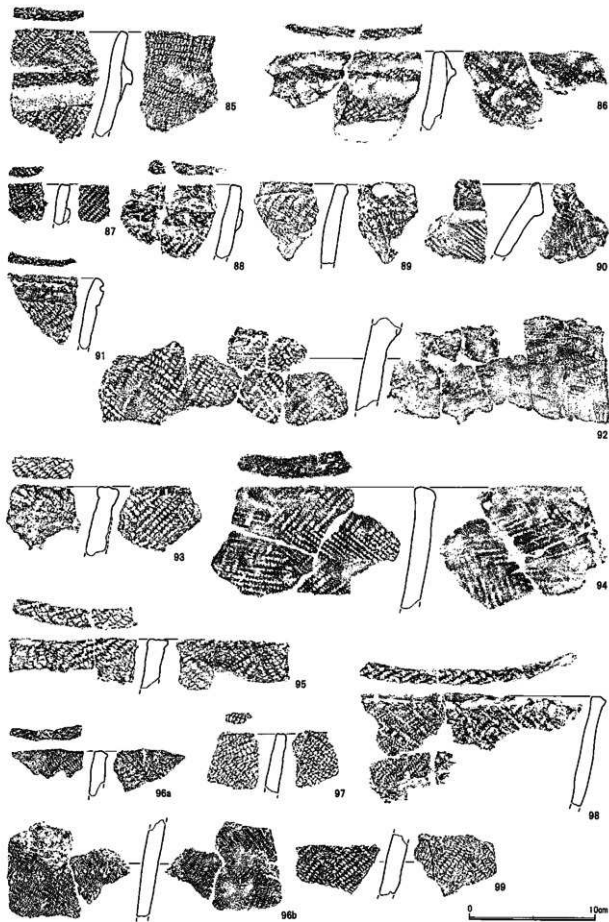
図IV-3-16 包含層の土器 (16)



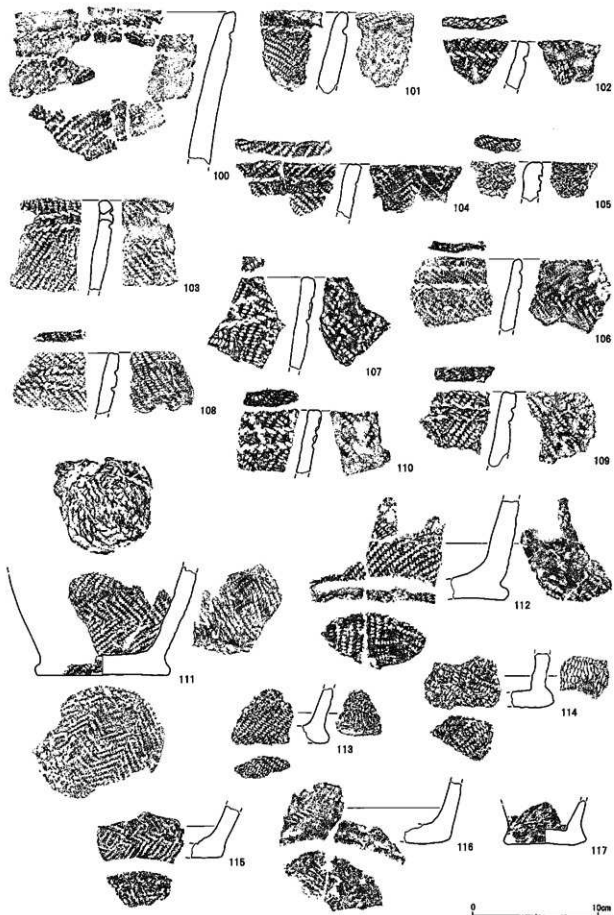
図IV-3-17 包含層の土器 (17)



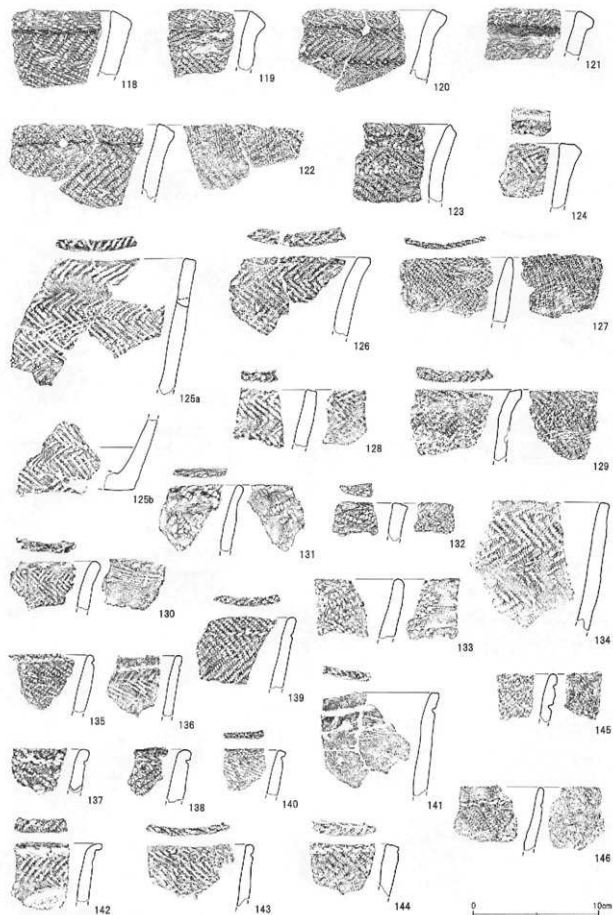
図IV-3-18 包含層の土器 (18)



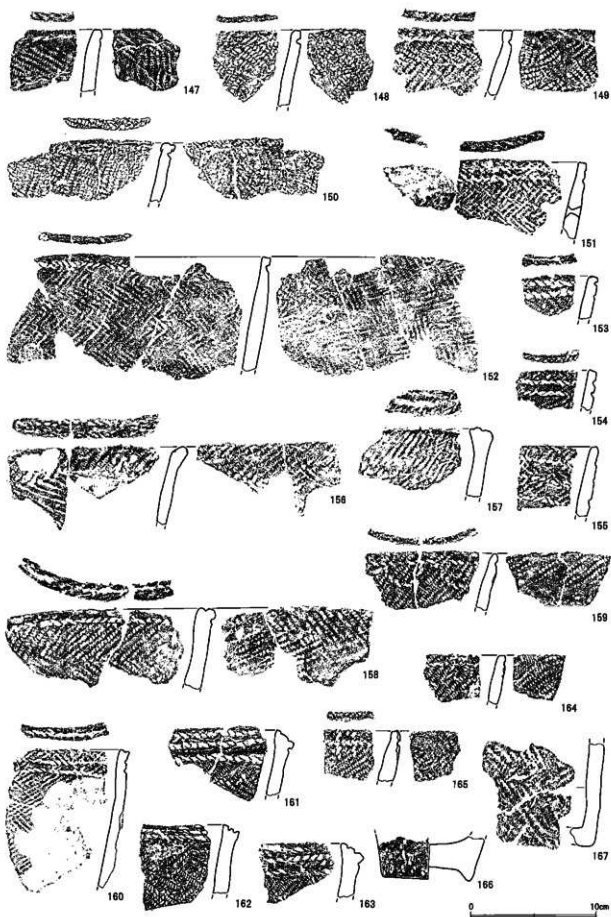
図IV-3-19 包含層の土器 (19)



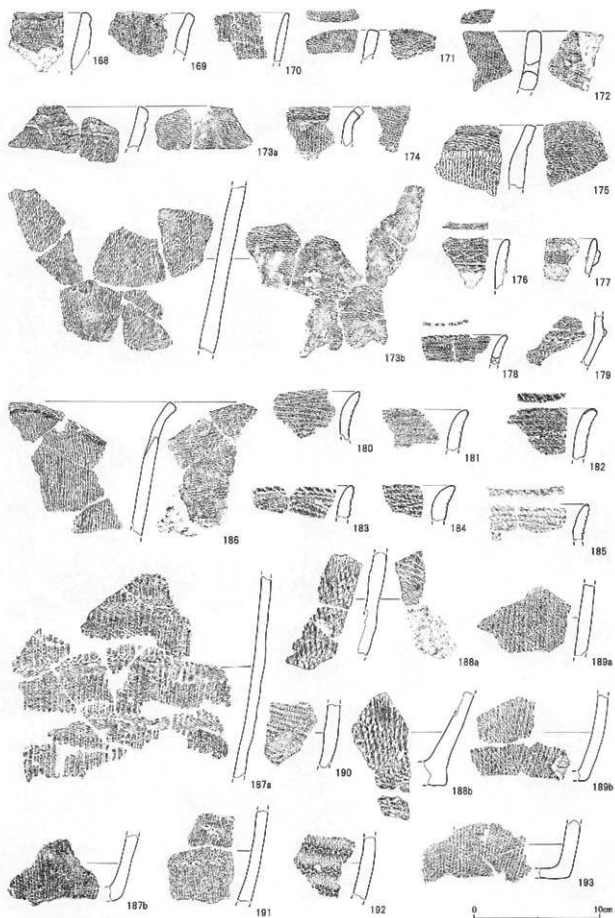
図IV-3-20 包含層の土器 (20)



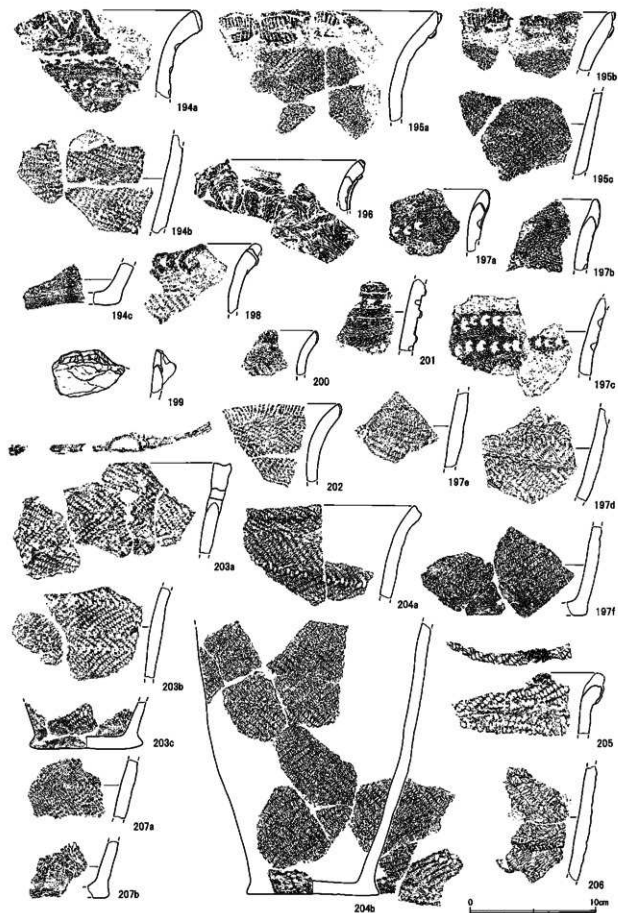
図IV-3-21 包含層の土器 (21)



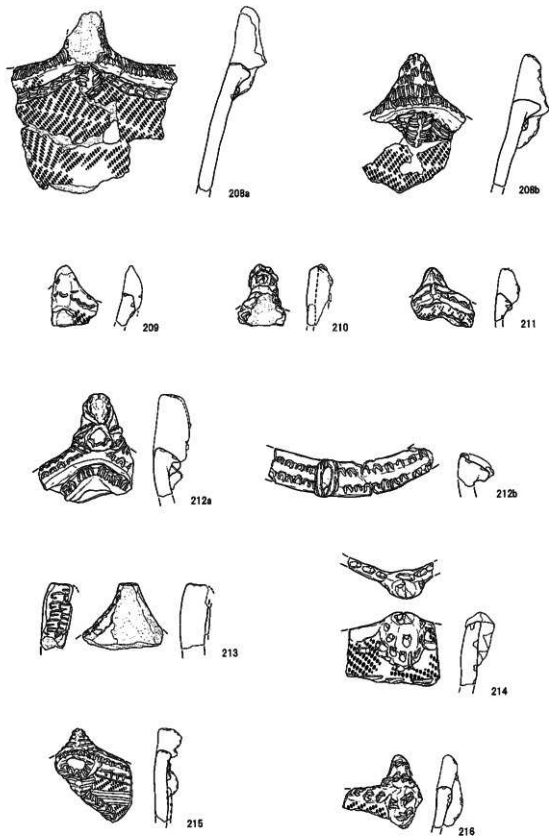
図Ⅳ-3-22 包含層の土器 (22)



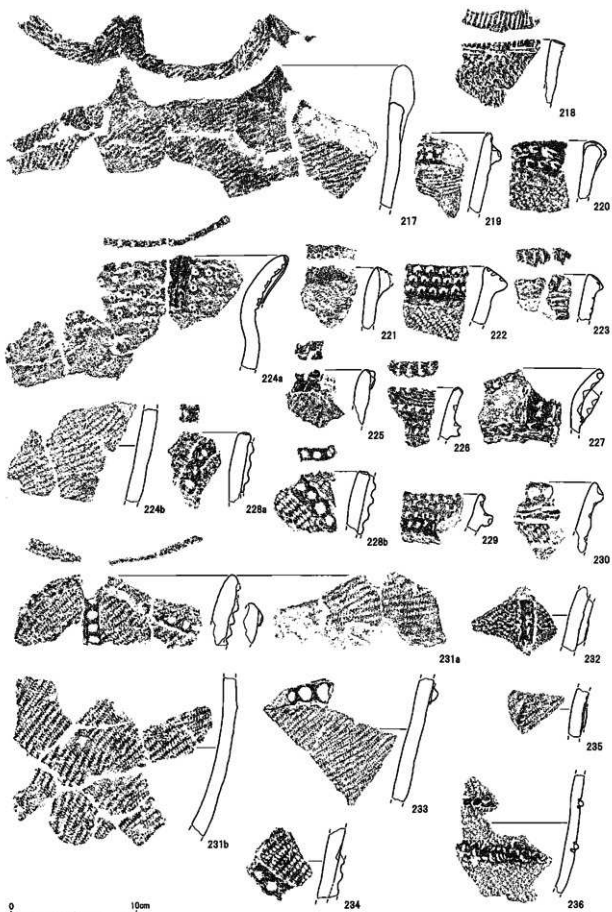
図IV-3-23 包含層の土器 (23)



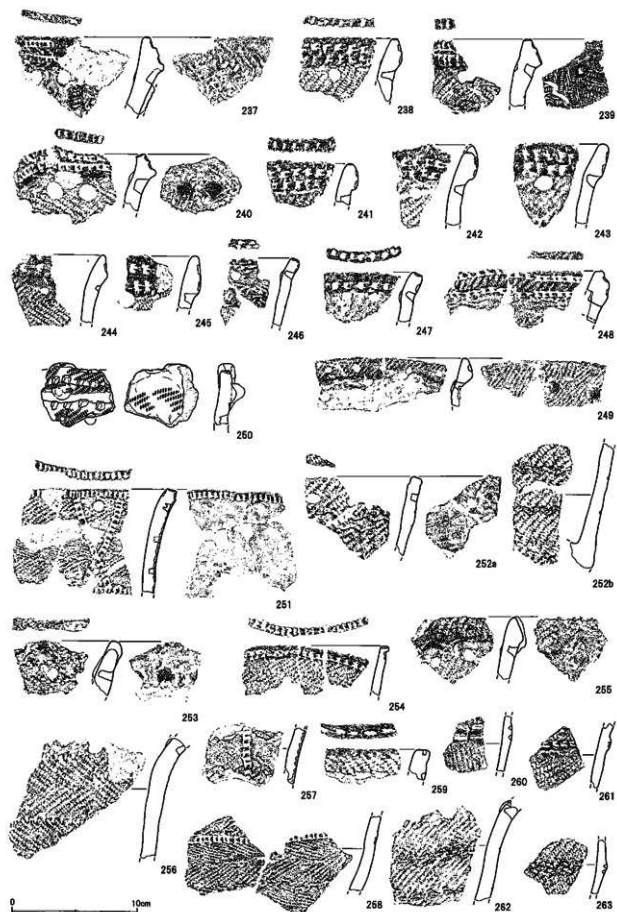
図IV-3-24 包含層の土器 (24)



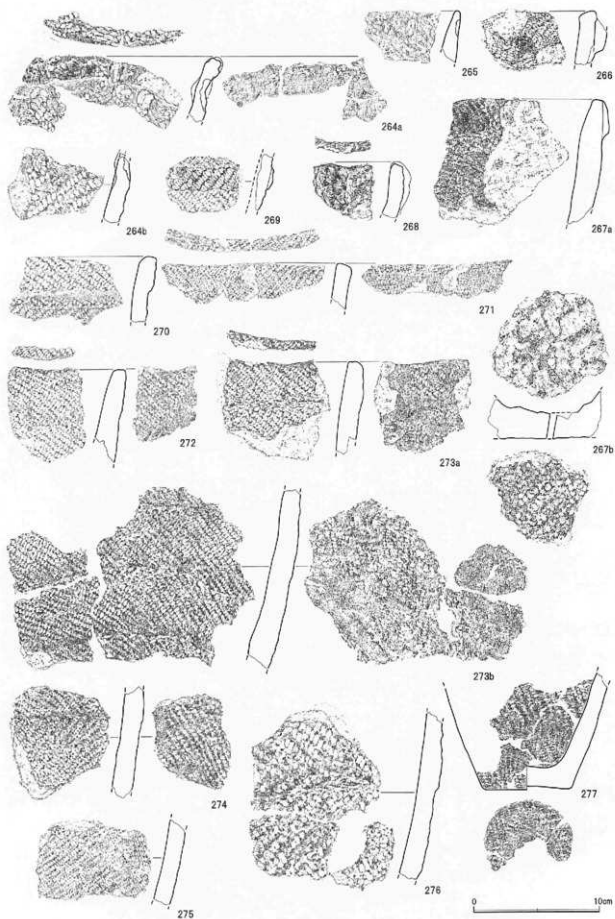
図IV-3-25 包含層の土器 (25)



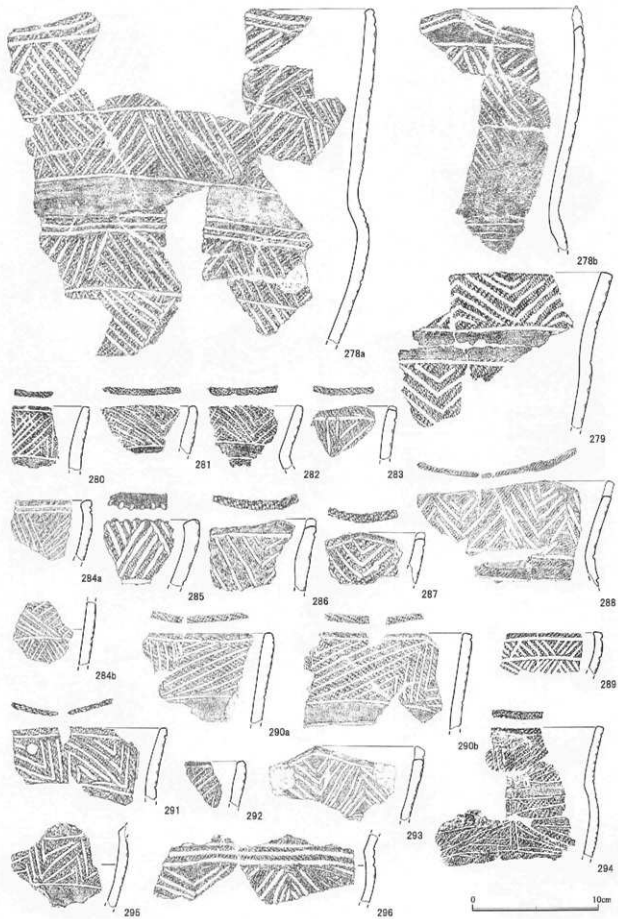
図IV-3-26 包含層の土器 (26)



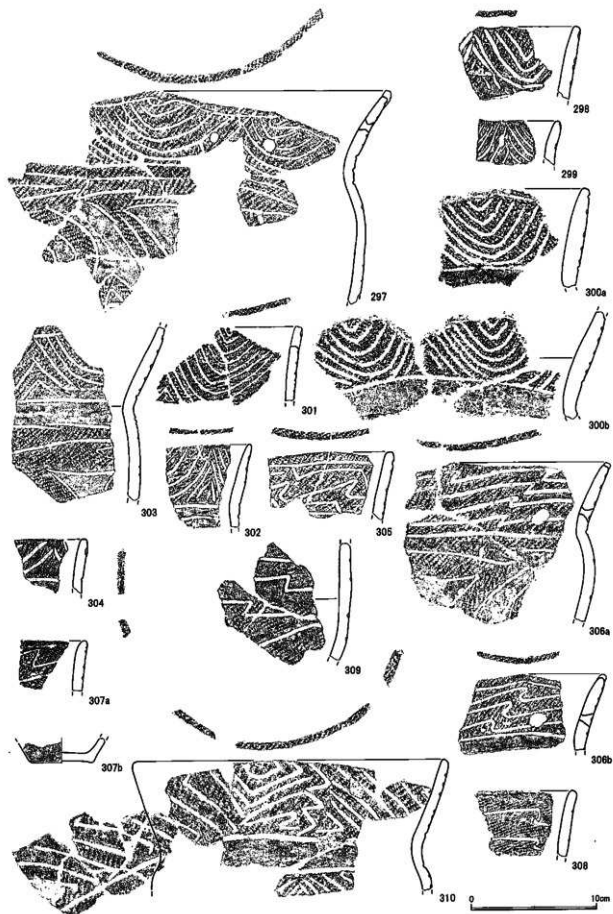
図IV-3-27 包含層の土器 (27)



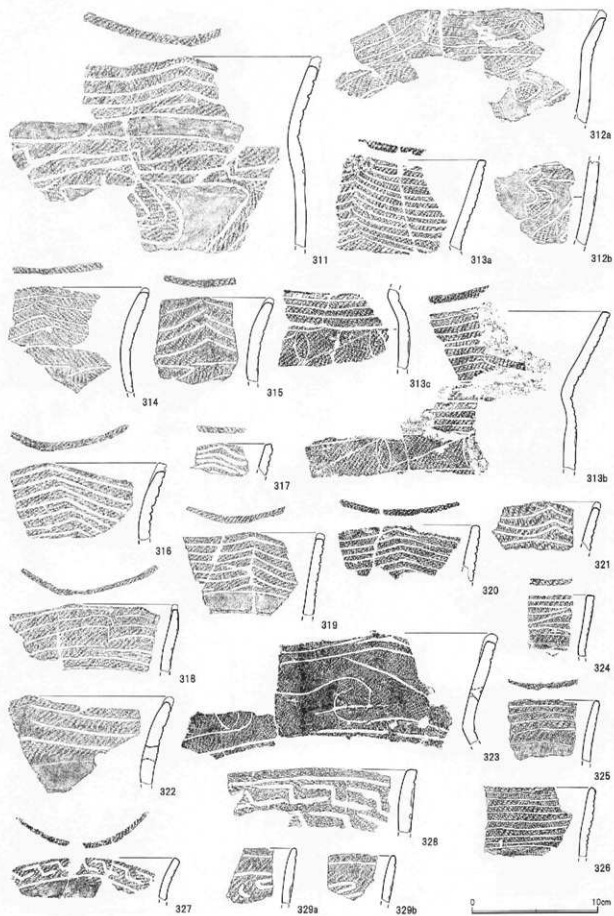
図IV-3-28 包含層の土器 (28)



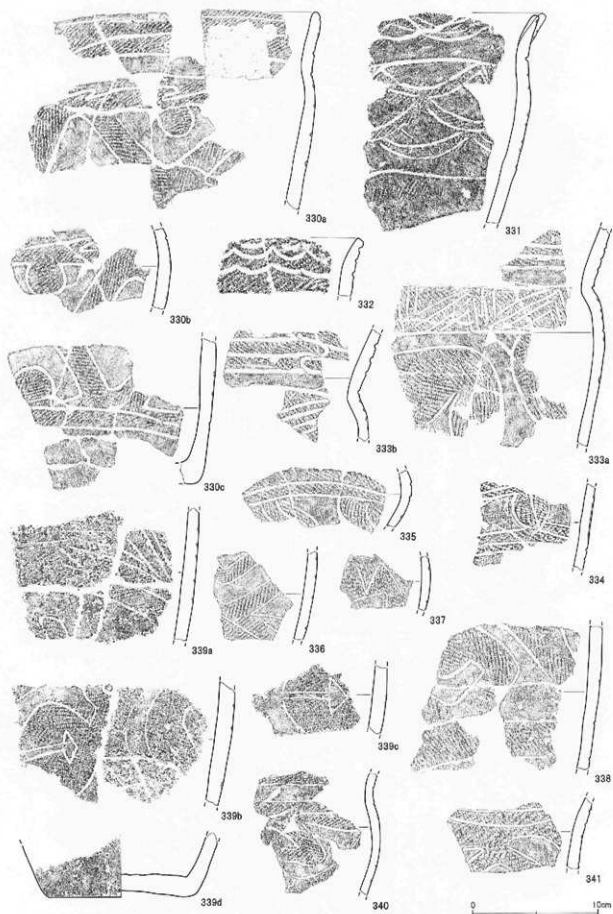
図IV-3-29 包含層の土器 (29)



図IV-3-30 包含層の土器 (30)



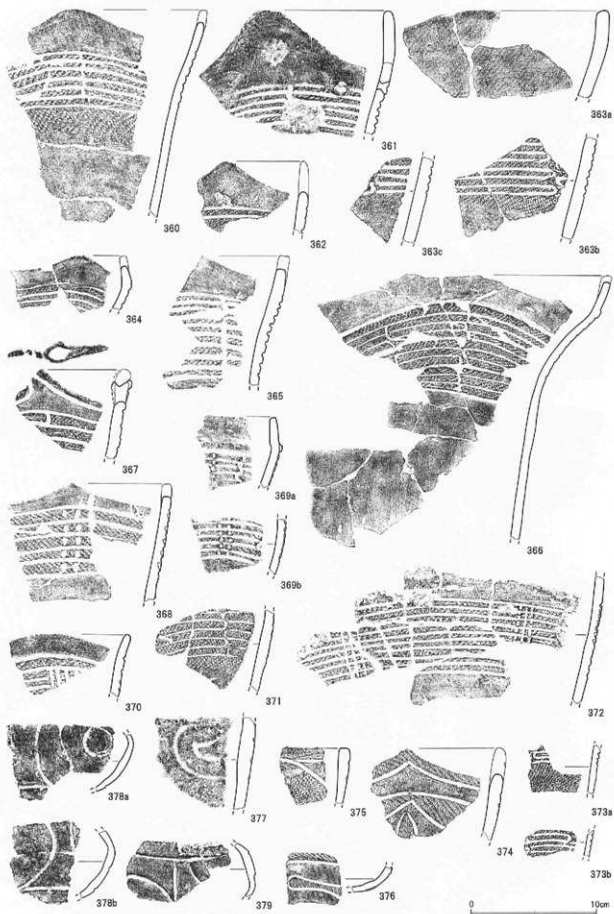
図IV-3-31 包含層の土器 (31)



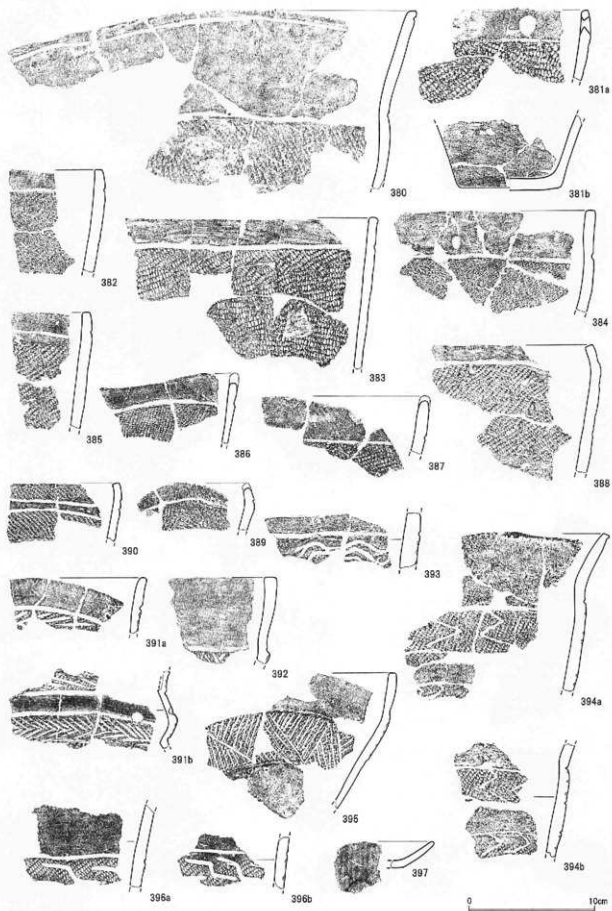
図IV-3-32 包含層の土器 (32)



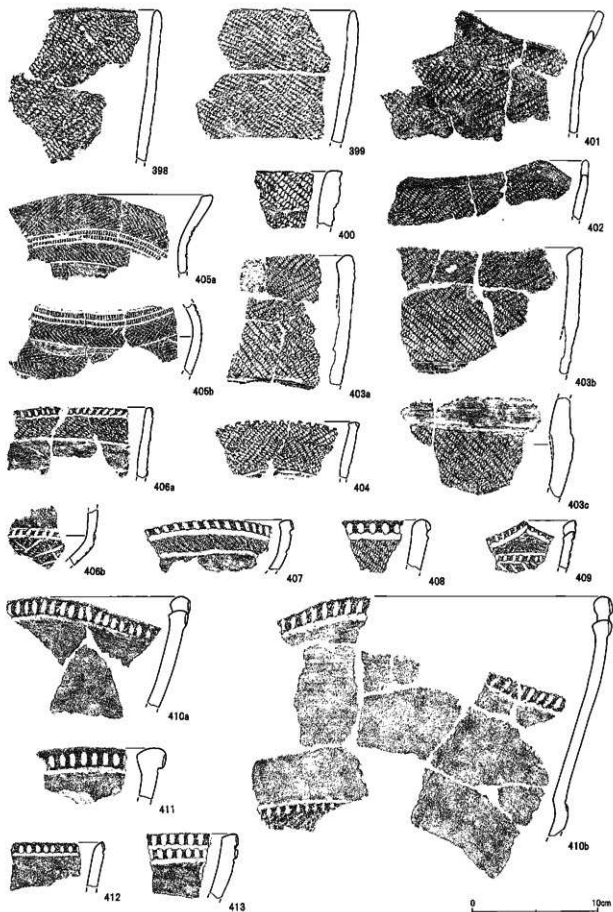
図IV-3-33 包含層の土器 (33)



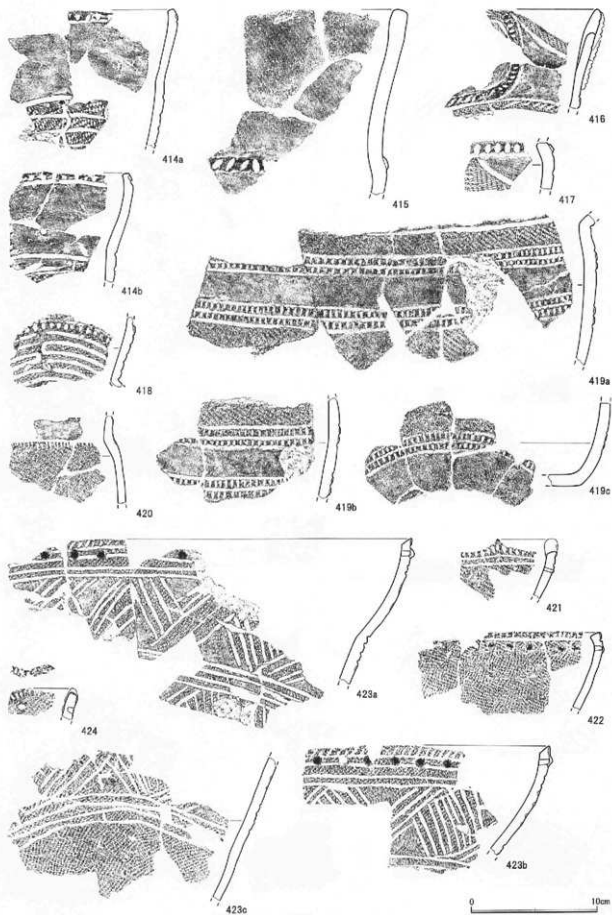
図IV-3-34 包含層の土器 (34)



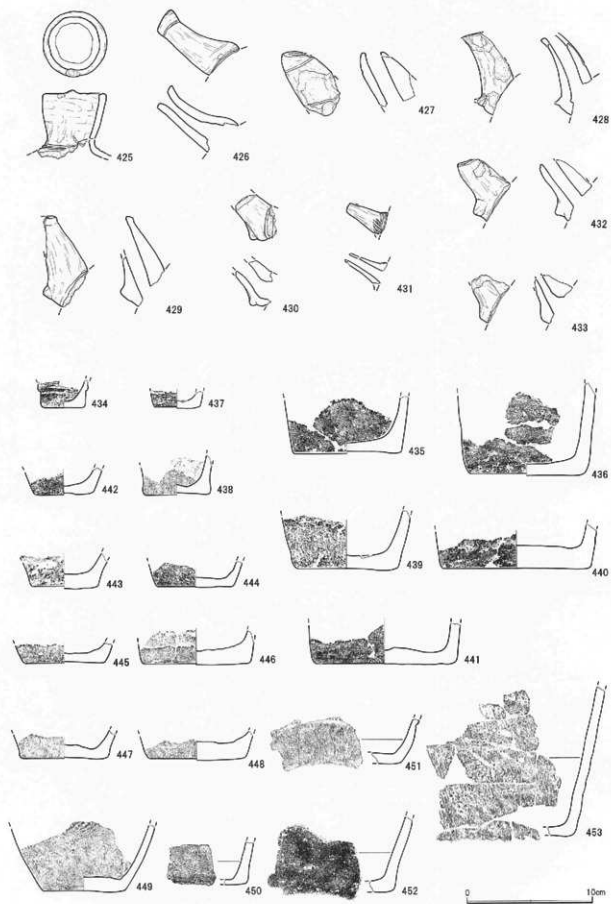
図IV-3-35 包含層の土器 (35)



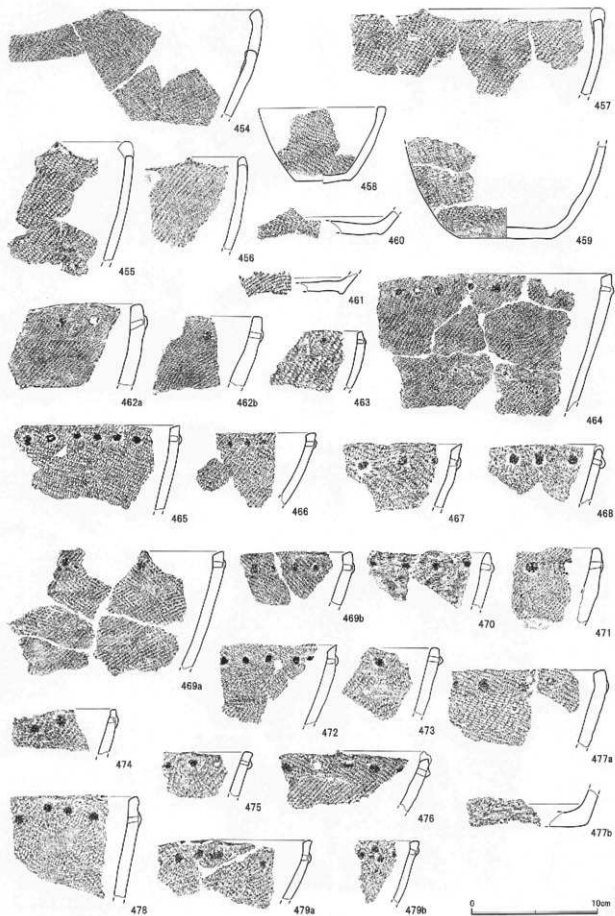
図IV-3-36 包含層の土器 (36)



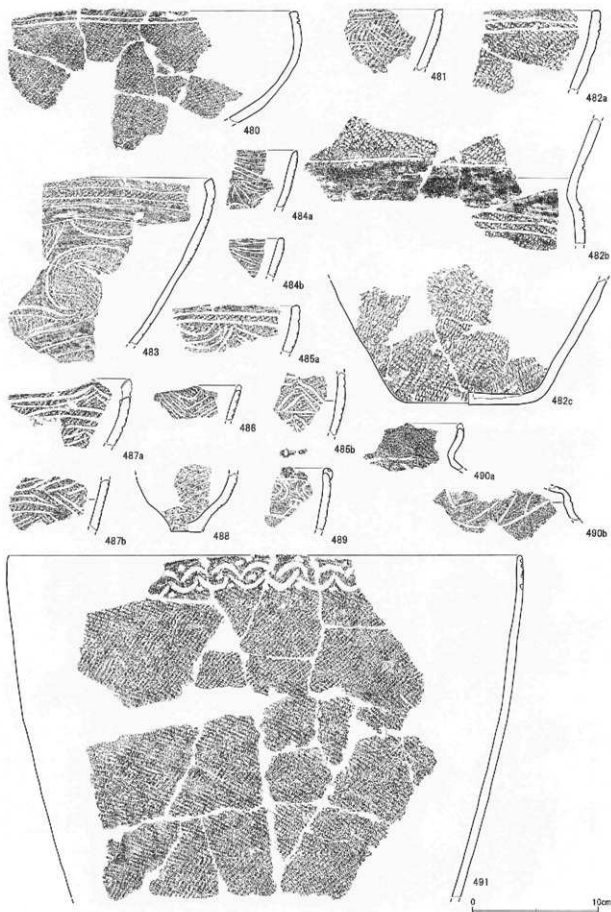
図IV-3-37 包含層の土器 (37)



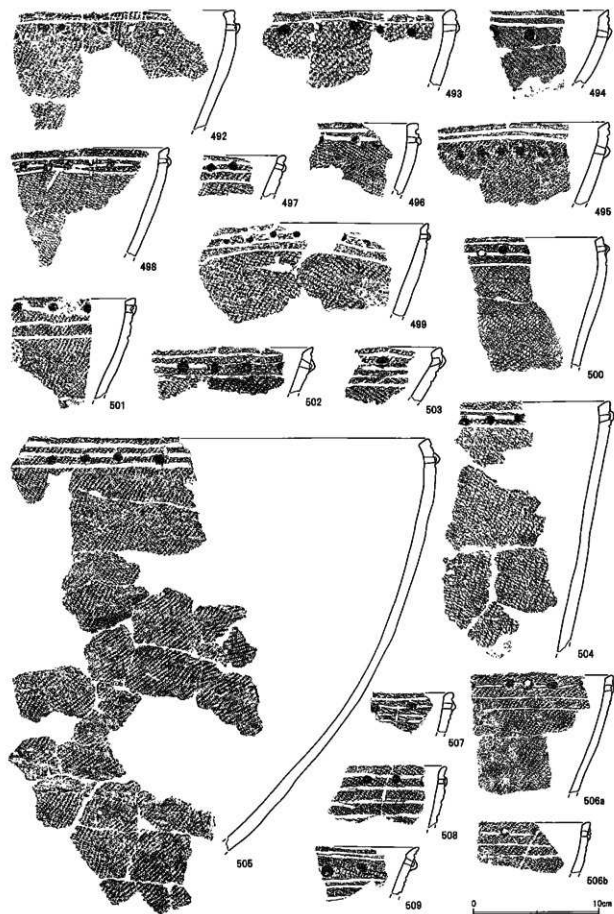
図IV-3-38 包含層の土器 (38)



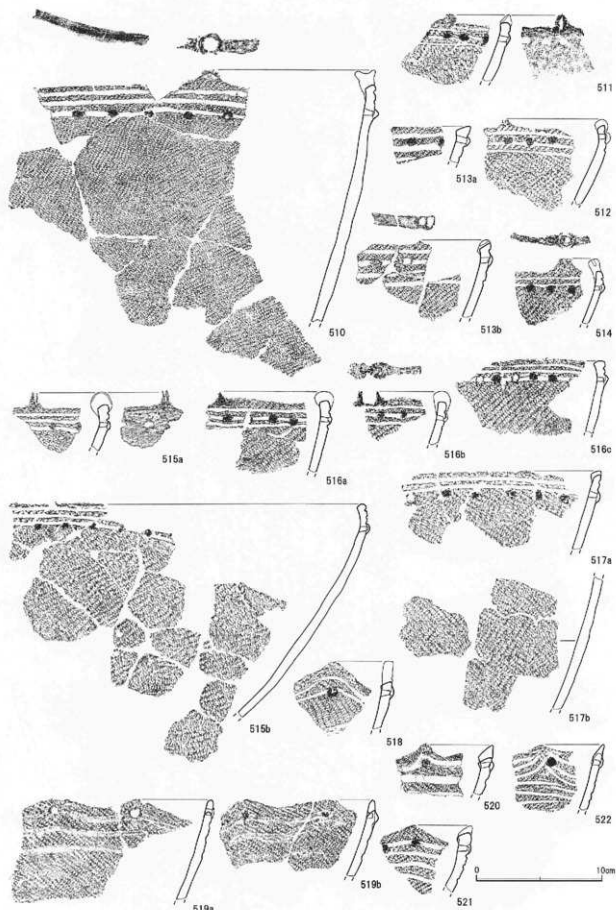
図IV-3-39 包含層の土器 (39)



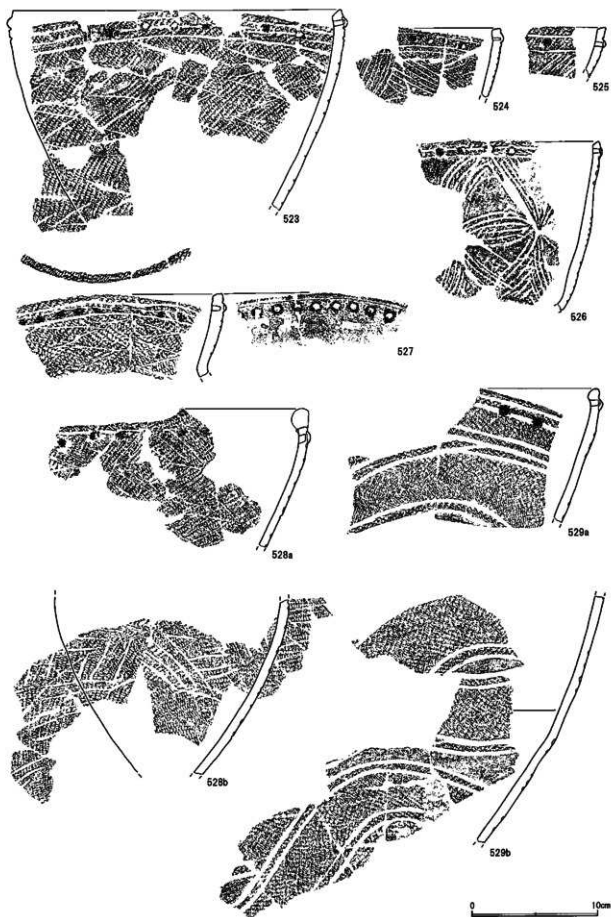
図IV-3-40 包含層の土器 (40)



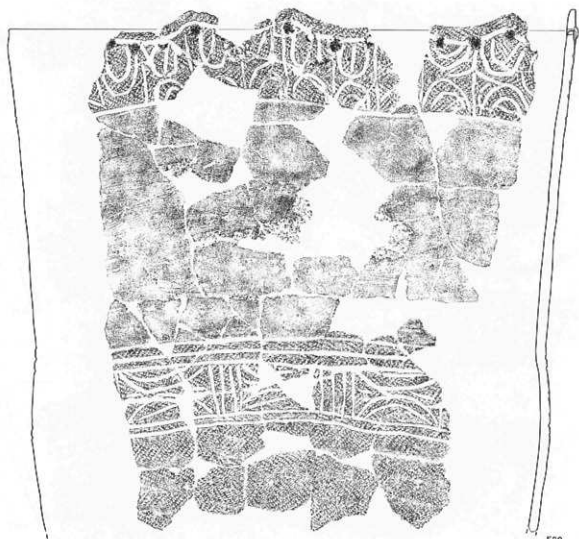
図IV-3-41 包含層の土器 (41)



図IV-3-42 包含層の土器 (42)



図IV-3-43 包含層の土器 (43)



530



531a



531b



532a



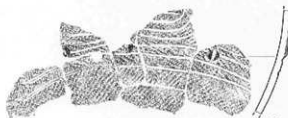
533



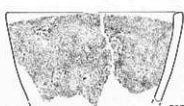
532b



534



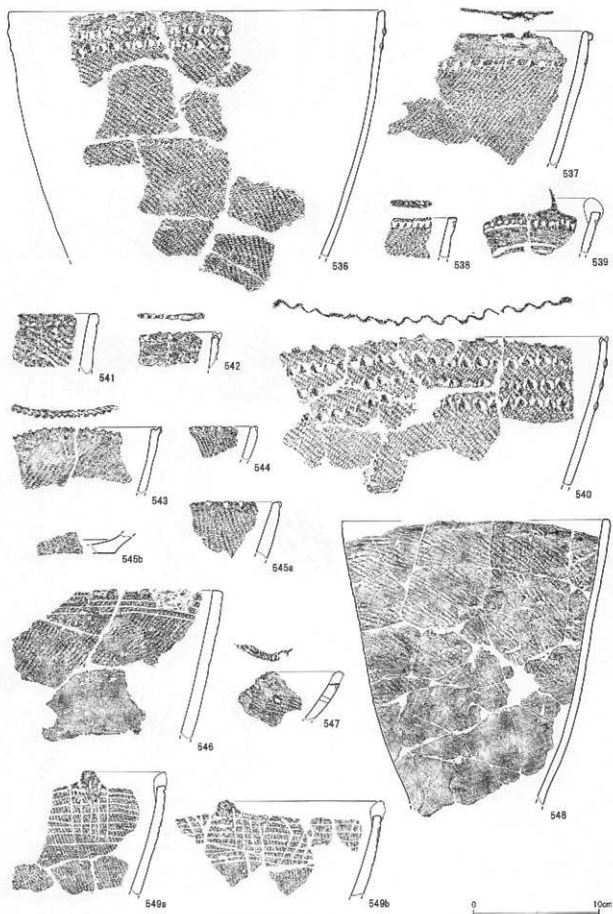
531c



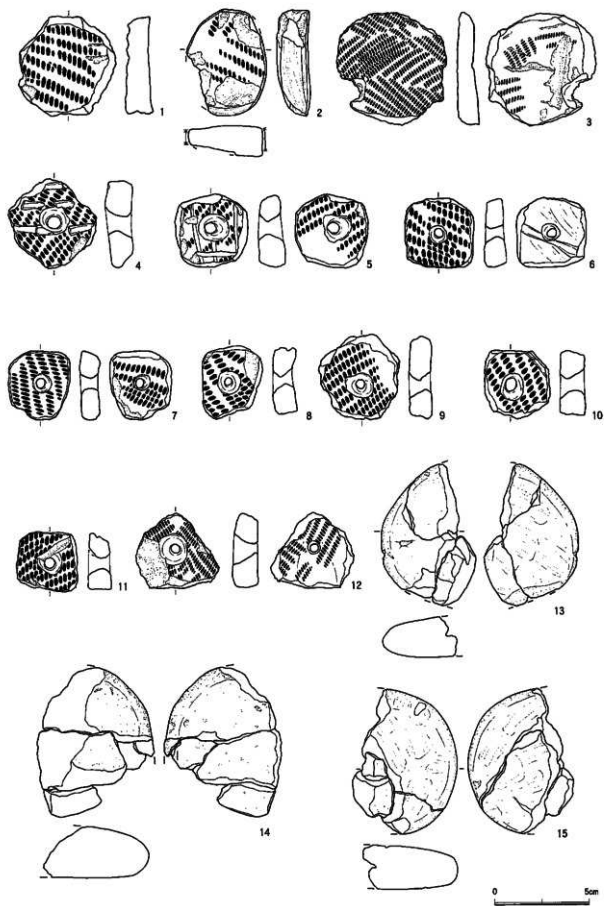
535

0 10cm

図IV-3-44 包含層の土器 (44)

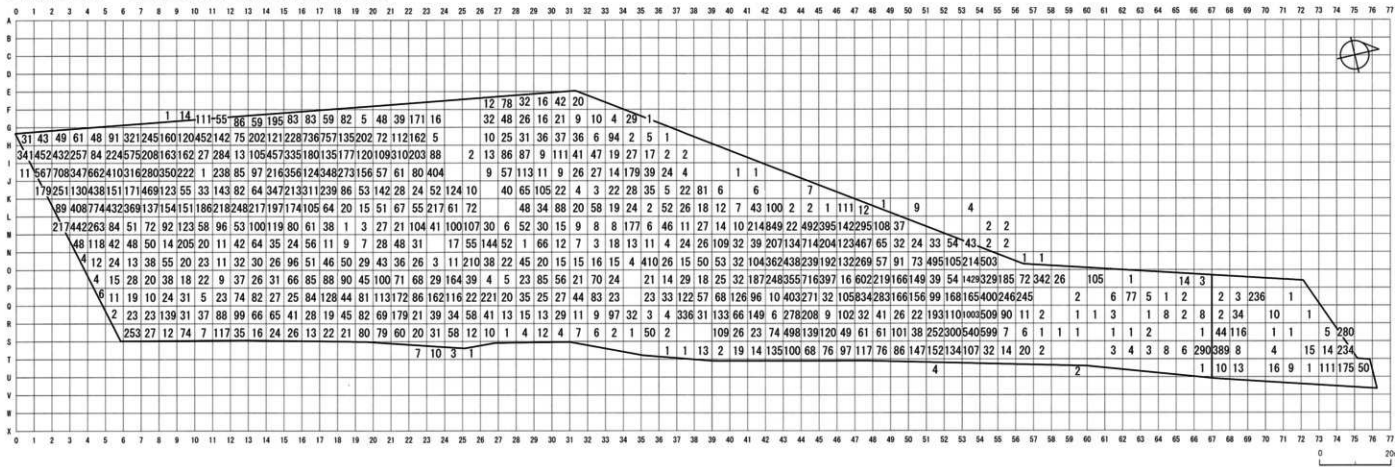


図IV-3-45 包含層の土器 (45)



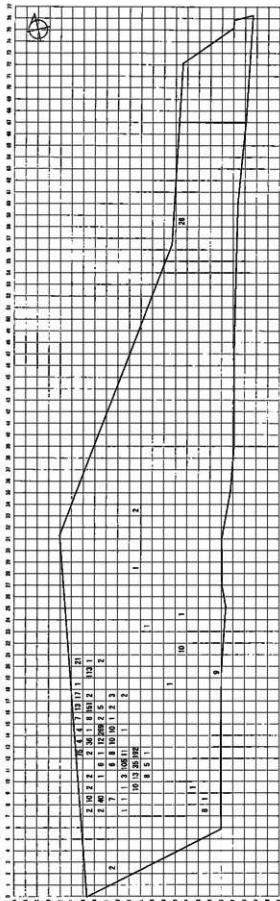
図IV-3-46 包含層の土製品

土器総合計 68,753点 (うち梅川1遺跡 1,796点)



図IV-3-47 土器の分布(1)

取群 a 類 1,311 点



取群 b 類 3,902 点 (うち梅川 1 遺跡 256 点)

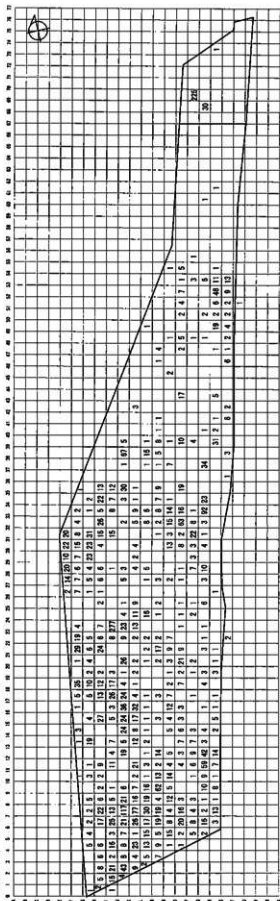
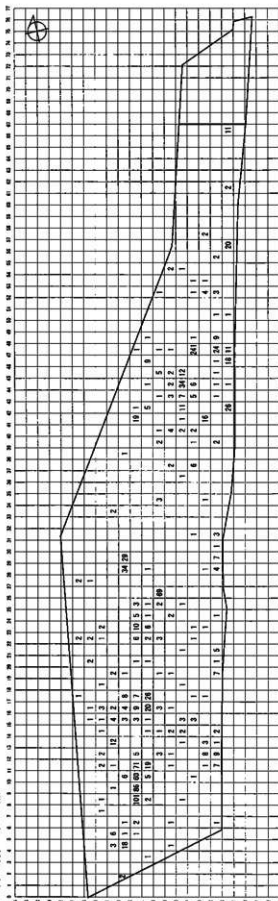
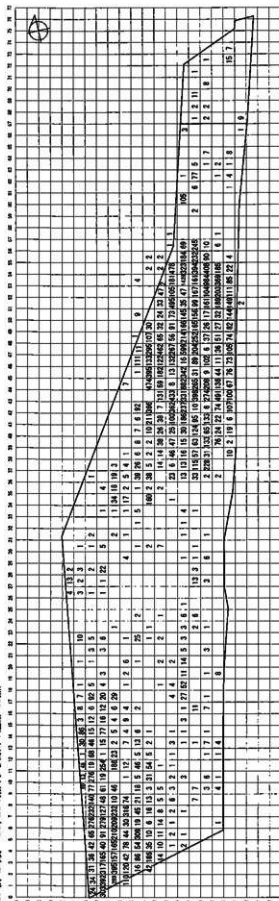


図 IV - 3 - 49 土器の分布 (3)

IV群 a 類 1, 356点

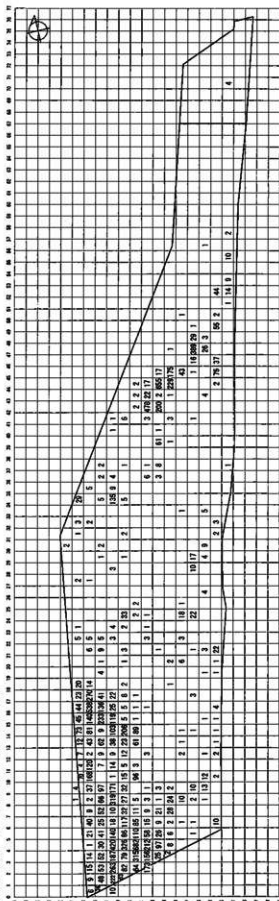


IV群 b 類 30, 234点 (うち堀川1遺跡 59点)

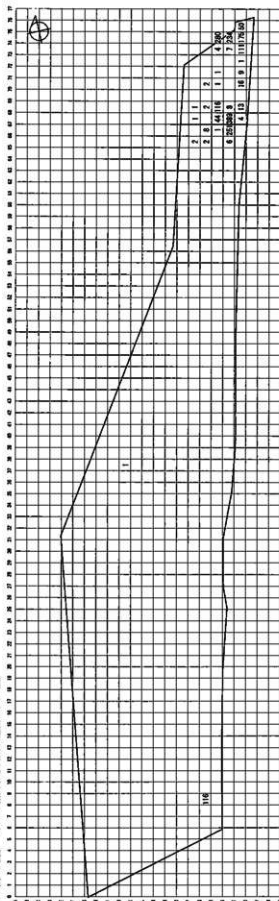


図IV-3-50 土器の分布(4)

IV群c類 11,652点(うち梅川1遺跡4点)



IV群b類 1,853点(うち梅川1遺跡1,466点)



図IV-3-51 土器の分布(5)

(2) 石器等

祝梅川小野遺跡のⅣ～Ⅶ層からは剥片石器2,526点、剥片40,300点、礫石器3,033点、原石・礫・礫片6,079点、石製品29点の合計51,967点が出土している。この中から定型的で完形のものを中心に抽出し掲載した。剥片石器に占める黒曜石の割合は82%となり、頁岩やメノウの16%と比べて非常に高い。器種別では、黒曜石の割合が高いのは石鏃の95%である。頁岩はつまみ付きナイフが67%、石錐が32%と剥片石器全体に比べて高い。礫石器では、石斧は緑色泥岩、すり石は砂岩、たたき石は砂岩、砥石は砂岩、石錘は片麻岩が主体となる。器種によって石材を選考している様子が伺える。全体的な傾向としては、砂岩(46%)、泥岩・緑色泥岩(27%)・安山岩(15%)・凝灰岩(5%)・片岩(4%)・片麻岩(2%)・その他(1%)が利用されている。

細石刃(図Ⅳ-3-53-1~6/表10/図版86)

細石刃は13点出土している。打点側6点、中間部7点である。末端側は出土していない。すべて黒曜石製である。遺跡の東端部から9点が出土している。

1~3は打点側、4~6は中間部である。側縁に微細剥離痕がみられる。

石鏃(図Ⅳ-3-53-7~56/表10/図版86)

石鏃は918点出土している。石材は黒曜石が95%を占め、頁岩やメノウなどが5%である。

7~15は三角形鏃。7~10は平基、11~15は凹基。8は赤褐色の黒曜石を使用している。13・15は挟りが深い。16~28は有茎鏃平基。16~20は刃部が正三角形のもの。23は基部が全長よりも長い。29~39は有茎鏃凸基。35は基部下端につまみ状の挟りがある。38・39は作りが粗く、未成品の可能性がある。40・41は柳葉形のもの。42は五角形のもの。44~56は円形の基部があるもの。46・48・51・53・54・56は基部が尖り気味になる。

石槍・ナイフ(図Ⅳ-3-54-57~67/表10/図版86・87)

石槍・ナイフは破片も含めて169点出土している。石材は黒曜石が89%、頁岩が11%である。

57~65は有茎の石槍。57~59はかえしが明瞭なもの。58は再調整によって刃部が短くなったと見られる。59は先端が欠損した後再加工作している。60~65はかえしの不明瞭なもの。62は下端部につまみ状の挟りを出している。62・65は素材剥片の剥離面の一部を残す。66・67はナイフ。66は上端、67は両端に原石面を残す。

石錐(図Ⅳ-3-55-68~75/表10/図版87)

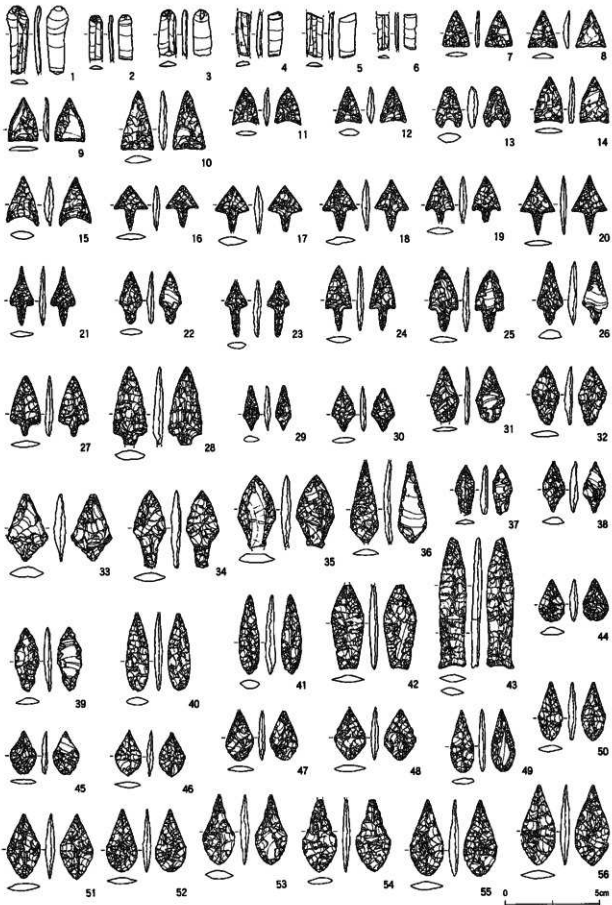
石錐は120点出土している。石材は黒曜石が64%、頁岩やメノウが32%、その他が4%である。

68・69は剥片の一部に刺突部を作り出したもの。70はつまみ付きナイフの破損品を再加工して機能部を作り出したと考えられる。71~74は棒状のもの。75はつまみ部が作り出されている。70・71・73・74・75は使用により先端が磨耗している。

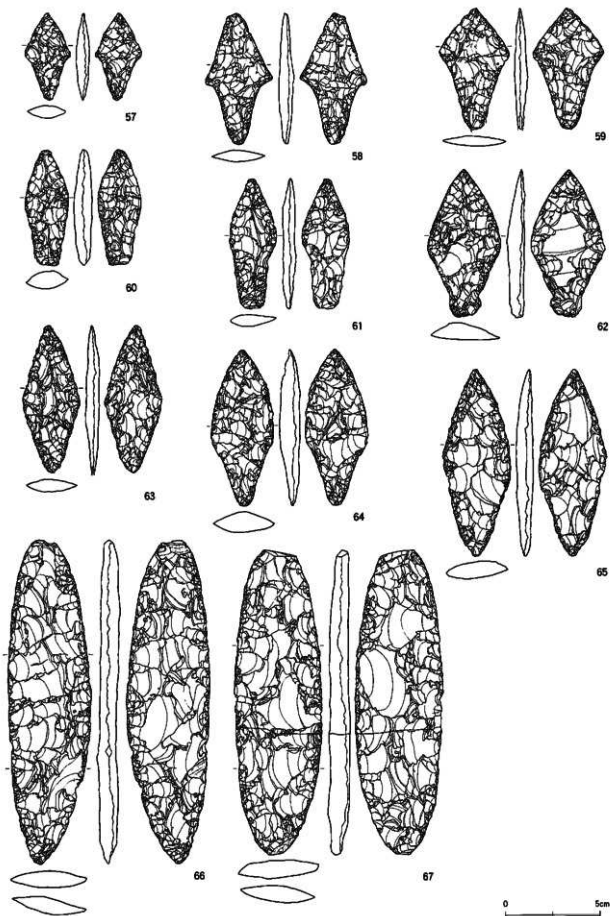
つまみ付きナイフ(図Ⅳ-3-55-56-76~90/表10/図版87・88)

つまみ付きナイフは319点出土している。石材は黒曜石が33%、頁岩が67%である。

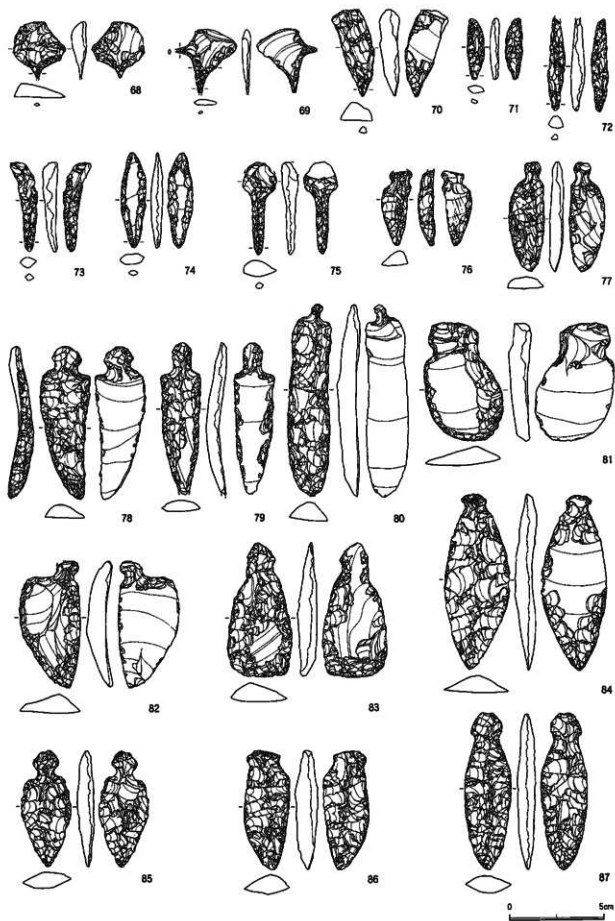
76~87は縦型のもの。76~80は片面全体に二次加工を施している。76は下端部を加工して石錐として使用されている。79は腹面側縁に調整がある。81・82は片面の周縁に二次加工を施しているもの。83~87は両面に二次加工を施しているもの。84は腹面つまみ部付近と下半部を二次加工している。88・89は横型のもの。両面周縁に二次加工を施している。90はつまみ部分の破損品を再加工したもの。



図IV-3-53 包合層の石器(1)



図IV-3-54 包含層の石器(2)



図IV-3-56 包含層の石器(3)

スクレイパー (図Ⅳ-3-56-91~105/表10/図版88)

スクレイパーは227点出土している。石材は黒曜石が75%、頁岩が17%、その他8%である。

91~94は剥片の側縁に直線的な刃部のあるもの。95は下端部に収斂する加工を施されたもの。96~102は素材剥片の周縁に刃部を設けたもの。103・104は素材剥片の下端部に刃部を設けたもの。105は縦長剥片の側縁に抉りのあるもの。

両面調整石器 (図Ⅳ-3-57-106~109/表10/図版88)

両面調整石器は48点出土している。石材は黒曜石が92%、頁岩4%、その他4%である。本来は石鏃や石槍・ナイフなどの破片や未成品と考えられるものである。

106~109は両面を二次加工し、木葉形をしている。石槍やナイフの未成品と考えられる。

石斧 (図Ⅳ-3-57-58-110~121/表10/図版88・89)

石斧は破片を含めて579点出土している。石材は、緑色泥岩や泥岩が82%、片岩が17%、その他1%である。

110は乳房形、112・113は撥形、111・114~120は短冊形。110・111は敲打による整形がみられる。110は破損部分を敲打によって再調整し利用している。112は成形時の剥離痕が残る。113~121は全面を研磨している。113は素材礫の形状を生かして刃部を作り出している。115は基部端部に敲打痕がみられる。117は両端に刃部を設けている。118はかまぼこ型の断面をしている。素材礫を半割した際の形状を利用したとみられる。刃部は基本的には円刃、両刃であるが、111~113・120は直刃、118・120は片刃である。

石のみ (図Ⅳ-3-58-122~125/表10/図版89)

石のみは20点出土している。石材は緑色泥岩や泥岩が75%、片岩が25%である。

122~125は研磨によって整形したもの。刃部は円刃、両刃である。122は緑色泥岩の剥片に刃部を設けている。124は左側縁に擦り切り痕が確認できる。125は両端に刃部を設けている。

たたき石 (図Ⅳ-3-59-126~134/表10/図版89・90)

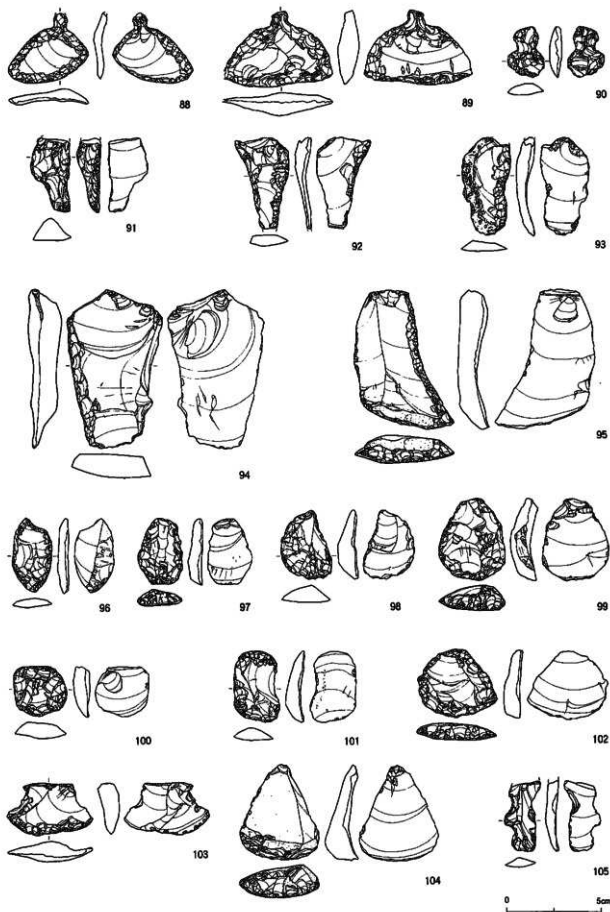
たたき石は破片を含めて387点出土している。石材は砂岩43%、泥岩・緑色泥岩21%、安山岩21%、その他15%である。

126は扁平な楕円礫の腹背部に敲打痕がある。127は断面が隅丸方形の棒状礫の平坦面に敲打痕がある。128は扁平礫の腹背部に敲打痕がある。129・130は楕円礫の両端に敲打痕がある。131は石斧破損品を再利用したもの。両端に敲打痕があり、下端の一部に擦痕がみられる。132・133は扁平な円礫の周縁に敲打痕がある。134は円礫の表面全体に敲打痕がある。

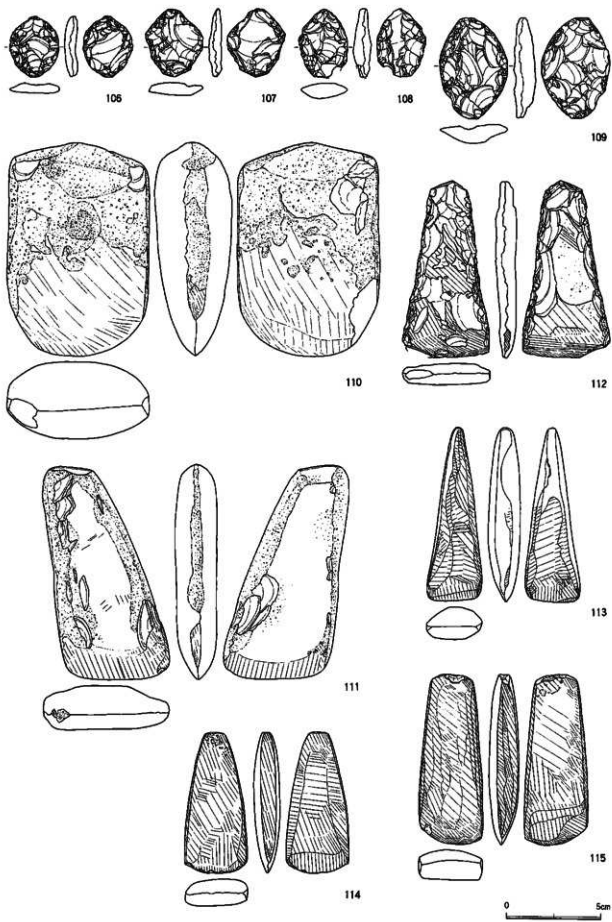
すり石 (図Ⅳ-3-59-60-135~142/表10/図版90)

すり石は破片を含めて826点出土している。うち北海道式石冠が660点を占める。完形品は非常に少なく、ほとんどが破損品である。石材は、すり石全体では砂岩71%、安山岩24%、その他5%である。北海道式石冠では砂岩74%、安山岩23%、その他3%である。北海道式石冠以外のすり石では砂岩59%、安山岩28%、その他13%である。北海道式石冠では砂岩の割合が高くなる傾向がある。

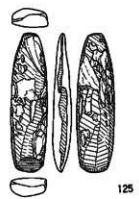
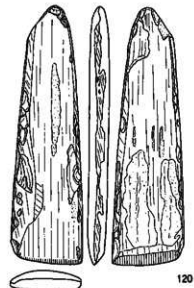
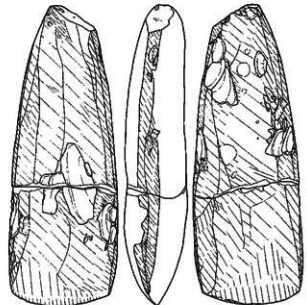
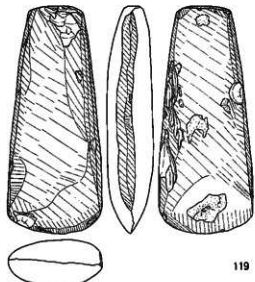
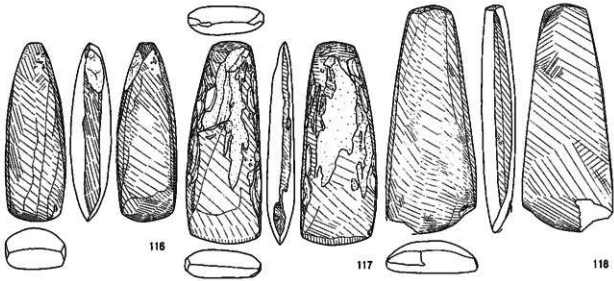
135は断面三角形のもの。2か所の稜に擦り面がある。136は円礫に7面の擦り面がある。敲打痕もみられる事から、たたき石と複合した可能性がある。137は扁平な円礫の腹背部に曲面をなす擦り面がある。周縁には敲打痕がある事から、たたき石と複合した可能性がある。腹面には被熱によるはじけがある。138~140は北海道式石冠。敲打によって整形している。141・142は扁平礫の側縁に擦り面がある。141は長軸両端を打ち欠いている。石錘の転用品の可能性もある。142は長軸両端を敲打によって整形している。腹部に敲打痕がみられ、たたき石と複合した可能性がある。



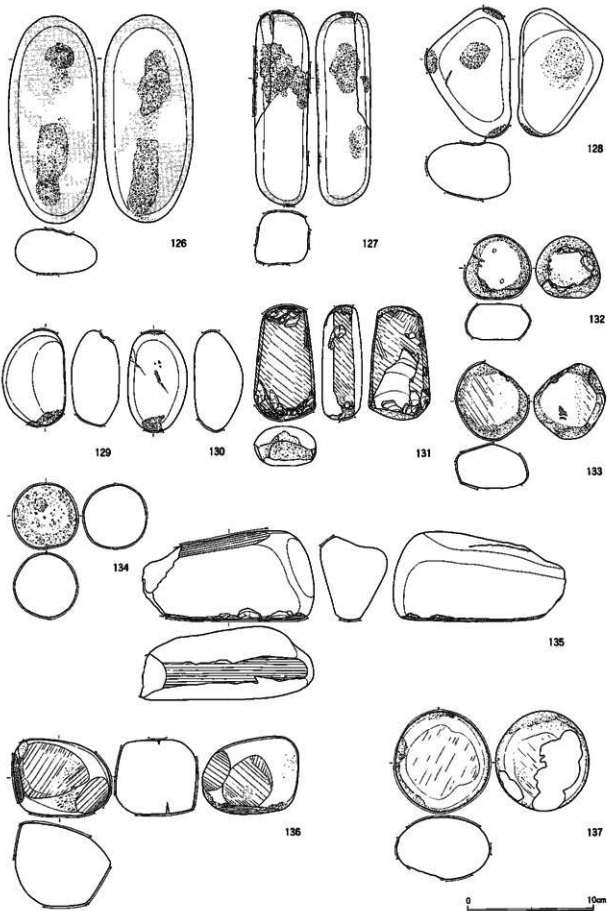
図IV-3-56 包含層の石器(4)



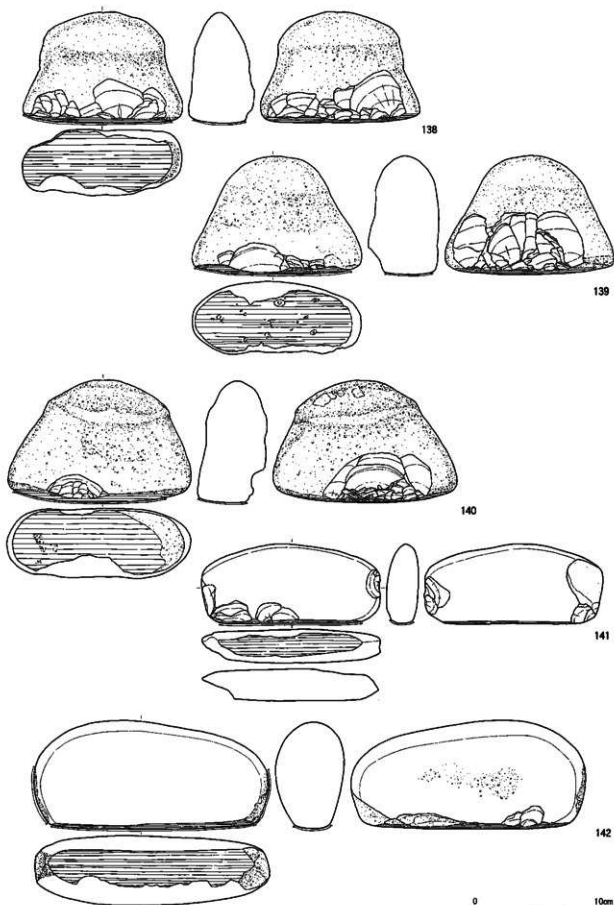
図IV-3-57 包含層の石器(5)



図IV-3-58 包含層の石器(6)



図IV-3-59 包含層の石器(7)



図IV-3-60 包含層の石器(8)

石鏃 (図IV-3-61-143・144/表10/図版90)

石鏃は12点出土している。石材は砂岩83%、その他17%である。

143は下辺と右辺の2か所に直線的な刃部を作り出している。腹背面に研磨面がみられる事から、砥石の破損品の周縁を剥離によって成形し、刃部を作り出したと考えられる。

砥石 (図IV-3-61-145~147/表10/図版90・91)

砥石は435点出土している。ほとんどが破片である。石材は砂岩が95%を占める。

145・146は板状礫の腹背面に研磨面がある。146はO44調査区内から出土した破片114点が接合した。147は四面砥石。断面方形の棒状礫の四面に研磨面がある。

石錘 (図IV-3-61-148~152/表10/図版91)

石錘は62点出土している。石材は片麻岩が66%、砂岩13%、安山岩13%、その他8%である。

148~151は扁平礫の長軸両端を打ち欠いている。打ち欠き部分の稜は使用による磨耗で丸くなっている。152は扁平礫を剥離によって長方形に成形し、長軸両端を打ち欠いている。打ち欠き部分の稜は敲打によって潰されている。腹面に大きな剥離がある。石斧の未成品を転用した可能性がある。

台石 (図IV-3-62-153/表10/図版91)

台石は58点出土している。ほとんどが破片である。石材は安山岩38%、凝灰岩31%、砂岩29%である。

153は表面および周縁部を打ち欠きと敲打によって調整している。表面の一部にうすく黒色の付着物がある。

石皿 (図IV-3-62-154/表10/図版91)

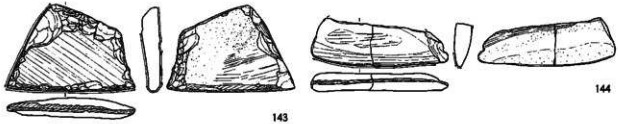
石皿は202点出土している。ほとんどが破片である。石材は安山岩40%、凝灰岩32%、砂岩26%、その他2%である。

154は礫の平坦面に浅く凹む使用面がある。擦り面の周囲には敲打痕がみられる事から、平坦面を敲打によって調整した後擦り面として使用したと考えられる。擦り面には赤色顔料がみられる。

石製品 (図IV-3-63-64-155~176/表10/図版92)

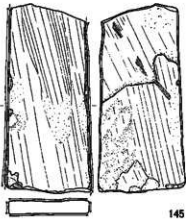
石製品は29点出土している。軽石製石製品3点、黒曜石製石製品5点、粘板岩製石製品1点、砂岩製石製品1点、有孔石製品14点(うち玉類13点)、オロシガネ状石製品3点、棍棒形石器1点(2点接合する)である。

155~157は軽石製石製品。周縁部を調整して平面形が円形~楕円形にしている。浮子の可能性がある。158~160は黒曜石製石製品。157は三角形鏃平基の両側刃部に鋸歯状の抉りを施したもの。159は四隅に突起状の尖端を作出したもの。160は釣針状に作出されたもの。片側を欠損する。161~173は有孔石製品。穿孔は両面から行われている。161~172は玉類。161~163・167は穿孔裏が確認できないほど孔内が研磨されている。165・166は平玉。167・168は垂飾。167は三角形のもの。169・170は素材礫に穿孔したもの。玉の未成品とみられる。171・172は自然礫の2か所に穿孔したもの。172は凝灰岩の薄く扁平な楕円礫を利用したもの。同様のものが祝梅川小野遺跡や梅川4遺跡のⅢ層から出土しており、Ⅲ層からの混入の可能性がある。173は板状礫を半円形に加工し、全面を敲打と研磨によって整形している。中央に両面から開口部で直径3.0cmの穿孔を施されている。174・175はオロシガネ状石製品。この他に破片が1点出土している。174の上端部には3つの突起が設けられている。中央の突起の下側に両面から施された穿孔が1か所ある。開口部で直径1.2cmである。背面周縁には幅1.0cm・高さ0.7cmほどの高まりを廻らしている。175は突起部分を欠損している。176は棍棒形石器といわれるもの。大きさは、長さ31.5cm・幅8.1cm・厚さ1.9cm・重さ595.0gで片岩製である。扁平な石

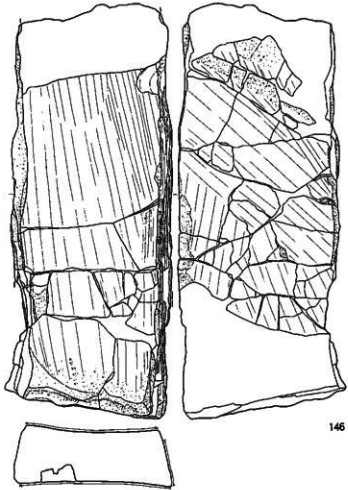


143

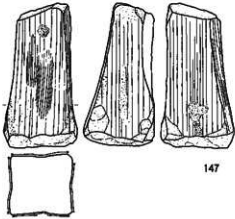
144



145



146



147



148



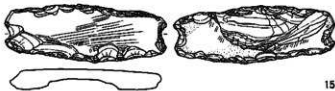
149



150



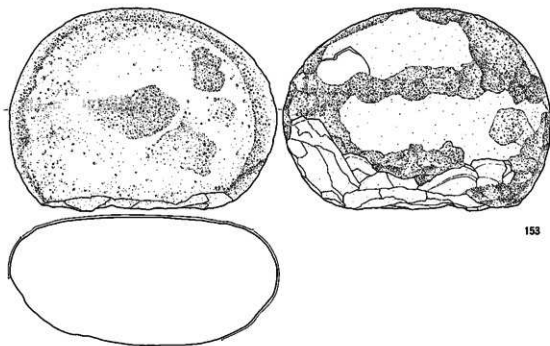
151



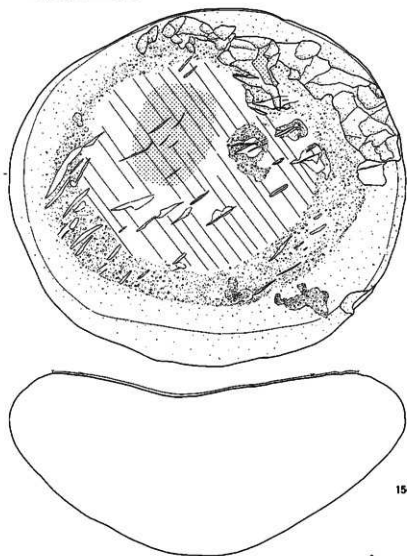
152



図IV-3-61 包含層の石器(9)



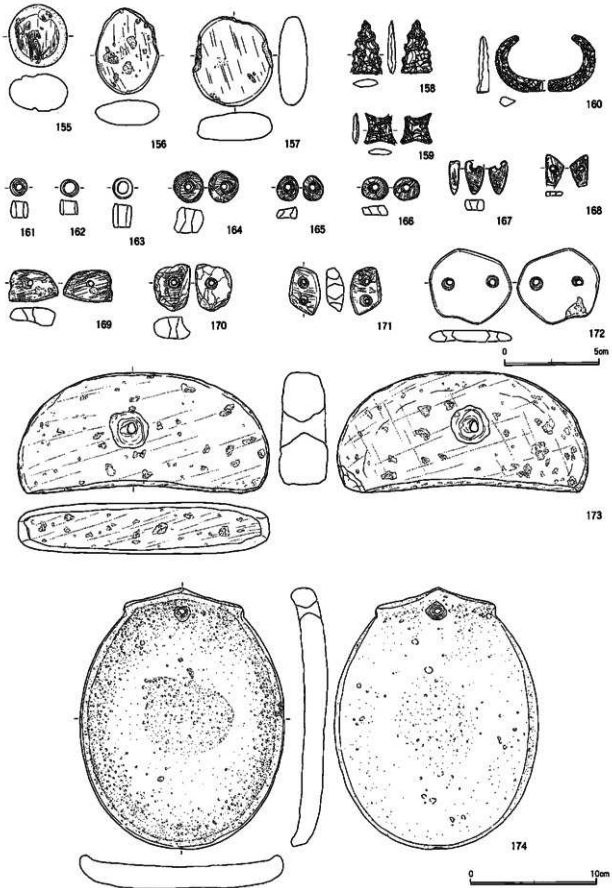
153



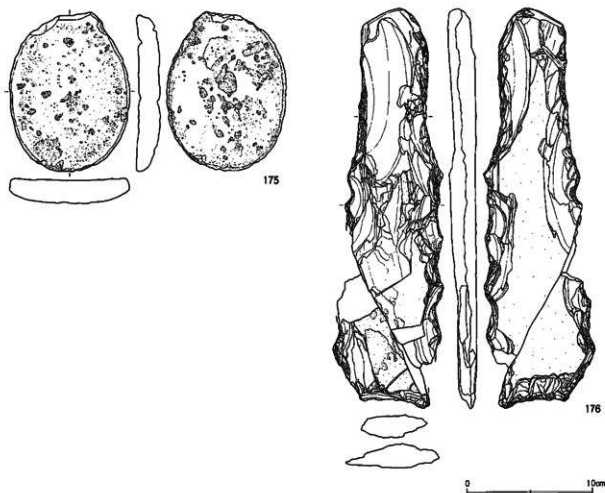
154

0 10cm

図IV-3-62 包含層の石器 (10)



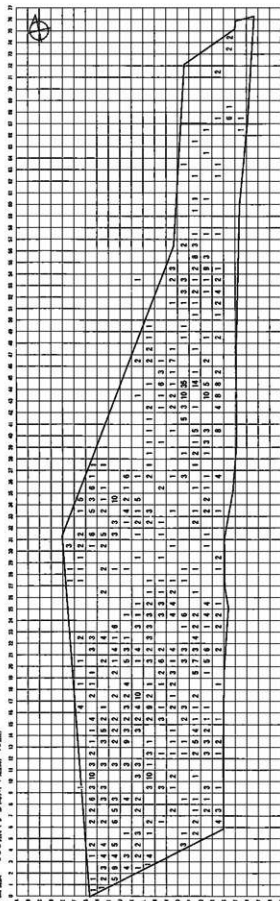
図IV-3-63 包含層の石製品(1)



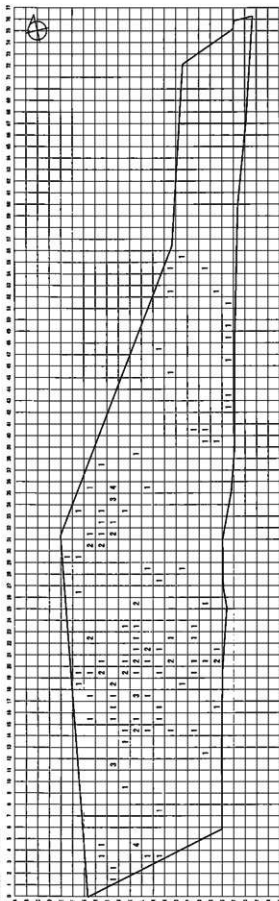
図IV-3-64 包含層の石製品(2)

器素材の両側縁を打ち欠いて整形している。両面に礫表皮を残す。柄部側はやや細く、側縁は平行で細かい剥離により潰れている。刃部側はやや幅広、側縁は平行で鋸歯状になる。刃部には欠損部分があるが、刃は右側5個、左側6個が確認できる。刃をあまり強調せず、全体的に細身のタイプである。直線距離で約90m離れた2点が接合した。刃部先端側の破片は、被熱により暗赤褐色をしている。同様の石製品は赤平市、苫小牧市、富良野市、遠軽町、豊頃町、平取町、和寒町、むかわ町(北埋調報259)、泊村で確認されている。石狩低地帯～道東北地域に分布が見られ、縄文時代中期の遺物とされている(野村1985)。(酒井)

石鏡 933点 (うち南川1遺跡 15点)

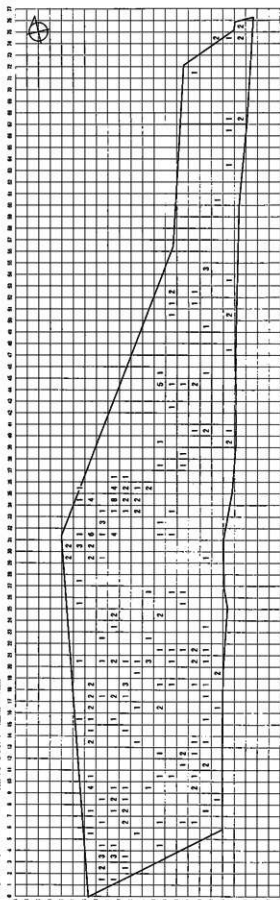


石鏡 120点

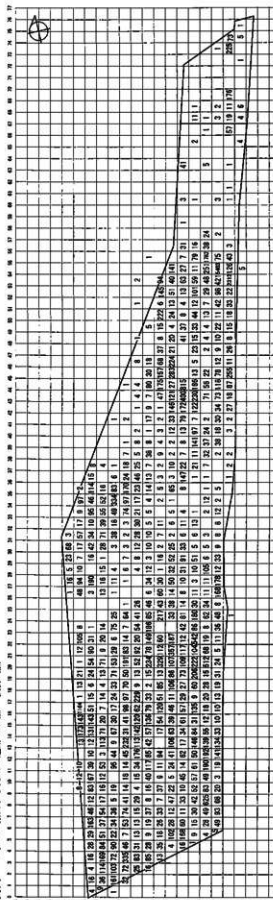


図IV-3-66 石鏡の分布(2)

スクレイパー 238点(うち梅川1遺跡 11点)

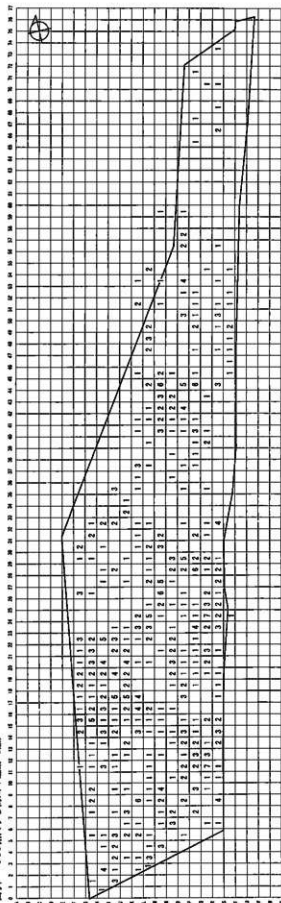


割片 40, 842点(うち梅川1遺跡 542点 義経1点)

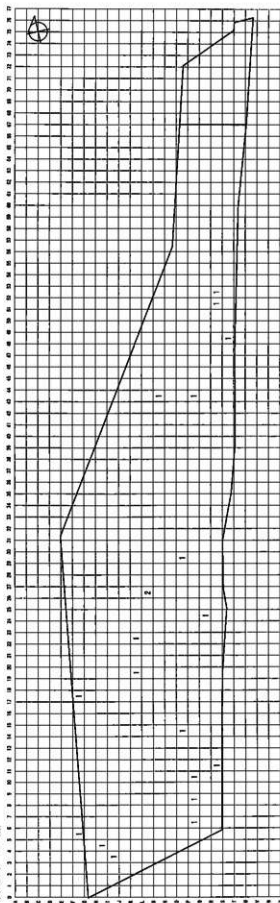


図IV-3-68 石器の分布(4)

石峯 585点(うち崩川1遺跡 6点)

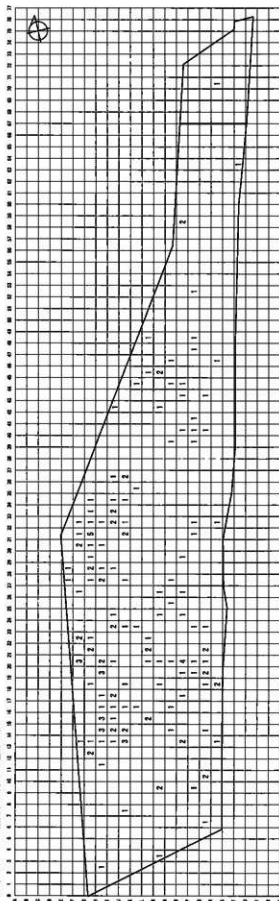


石のみ 20点

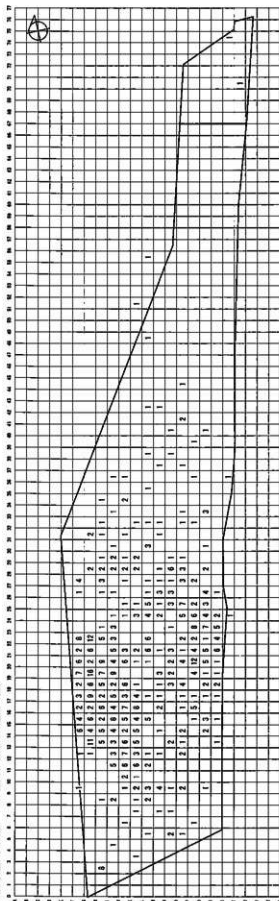


図IV-3-69 石器の分布(5)

すり石 167点(うち梅川1遺跡1点)

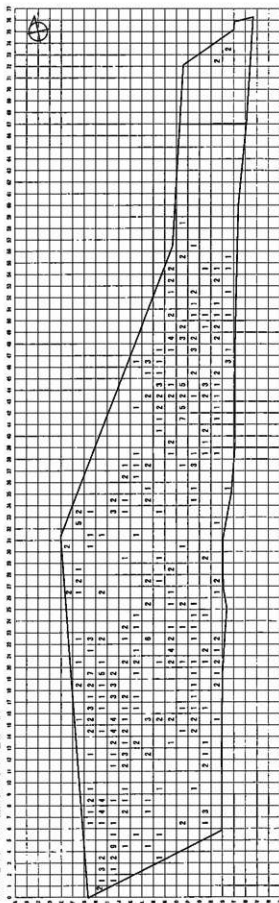


北海道式石器 662点(うち梅川1遺跡2点)

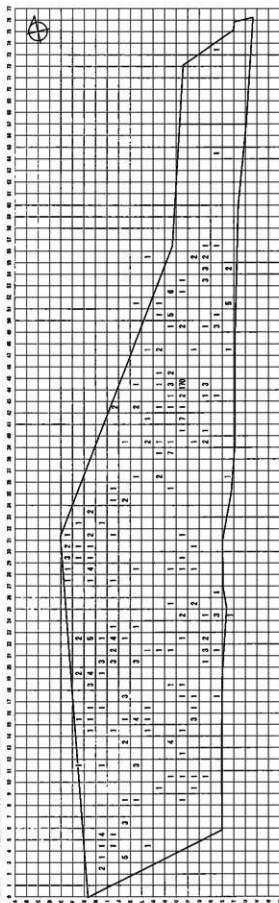


図IV-3-70 石器の分布(6)

たたき石 391点(うち南川1遺跡4点)

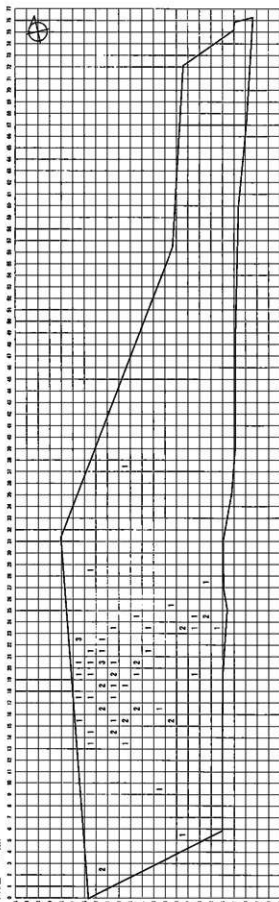


砥石 436点(うち南川1遺跡1点)

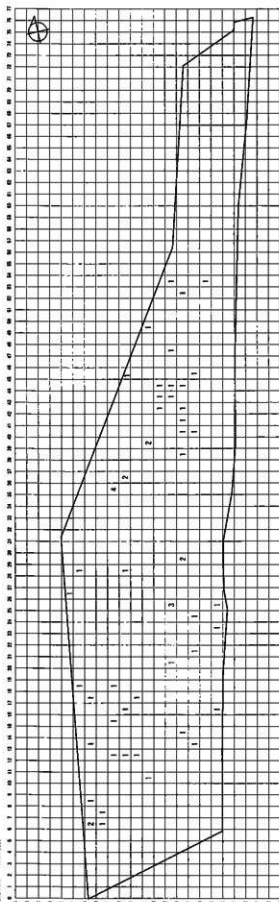


図IV-3-71 石器の分布(7)

石壁 62点

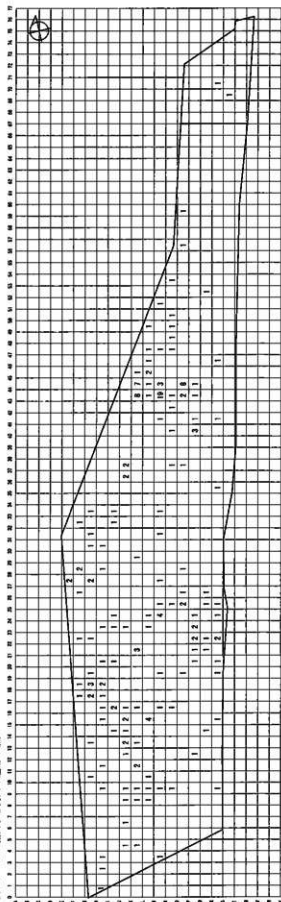


台石 58点

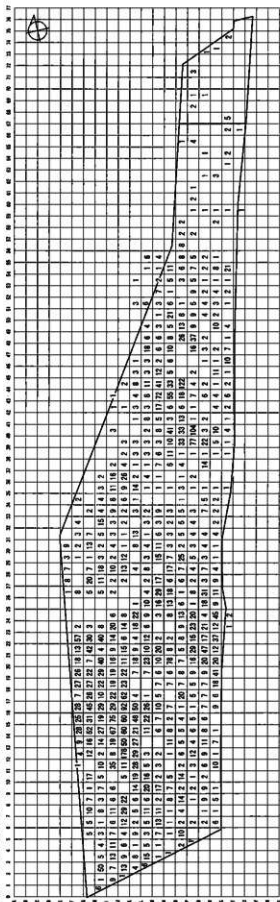


図IV-3-72 石壁の分布(8)

石皿 204点(うち梅川1遺跡2枚)



礫 6,001点(うち梅川1遺跡19庫)



図IV-3-73 石皿の分布(9)

表1 検出遺構規模一覧

遺構 遺跡別	遺構名	調査区	深さ(m)				時期(縄文時代)	特徴	図番号	図版番号
			上層		下層					
			長軸	短軸	長軸	短軸				
VH-1	HP-1	R 6 ~ 5	2.40	(4.28)	4.80	(5.20)	0.30	ベンチ状構造		図版 1
	HP-2	R 7 b	0.25	0.27	0.12	0.07	0.20			
	HP-3	R 7 c	0.17	0.18	0.06	0.04	0.08			
	HP-4	R 8 b	0.24	0.23	0.08	0.08	0.14			
	HP-5	R 7 b	0.10	0.16	0.06	0.06	0.10			
	HP-6	R 7 c	0.18	0.15	0.08	0.07	0.04			
	HP-7	R 7 c	0.19	0.16	0.06	0.06	0.13			
	HP-8	R 7 c	0.19	0.17	0.06	0.04	0.06			
	HP-9	R 8 b	0.18	0.16	0.06	0.04	0.12			
	HP-10	R 7 a	0.26	0.24	0.10	0.08	0.16			
	HP-11	R 7 b	—	0.27	—	—	0.36			
	HP-12	R 7 d	0.12	0.11	0.04	0.04	0.06			
	HP-13	R 6 c	0.23	0.20	0.10	0.08	0.16			
	HP-14	R 6 b ~ c	0.20	0.18	0.06	0.04	0.21			
	HP-15	R 6 d	0.18	0.16	0.06	0.06	0.12			
VH-2	HP-16	Q 8 b R 8 a	0.14	0.12	(0.08)	0.06	0.16	Y P - 13に横される		図版 3
	HP-17	R 8 b	0.20	0.20	0.09	0.06	0.08			
	HP-18	R 7 d R 8 a	0.20	0.18	0.04	0.04	0.12			
	HP-1	R 7 c	0.92	—	—	—	0.12			
	HP-2	R 7 c	0.72	—	—	—	0.10			
	HP-3	R 8 b	0.62	—	—	—	0.06			
	HP-1	Q ~ R ~ 10 ~ 11	2.14	7.14	7.87	6.83	0.30			
	HP-1	Q10c	1.44	1.34	1.28	1.14	0.10			
	HP-2	R10b ~ c R10d	1.12	0.54	0.95	(0.45)	0.11			
	HP-3	Q11a	0.25	0.15	0.07	0.06	0.14			
	HP-4	Q11b	0.24	0.21	0.21	0.16	0.06			
	HP-5	Q11b	0.12	0.11	0.04	0.04	0.12			
	HP-6	Q10c	0.22	0.20	0.14	0.13	0.11			
	HP-7	Q10d	0.24	0.22	0.13	0.12	0.12			
	HP-8	Q10d	0.17	0.16	0.08	0.07	0.25			
HP-9	Q10d	0.18	0.16	0.09	0.08	0.30				
HP-10	Q10a	0.23	0.21	0.05	0.05	0.12				
HP-11	R10d	0.22	0.20	0.12	0.12	0.10				
HP-12	R10d R11a	0.27	0.24	0.11	0.10	0.10				
HP-13	Q11b ~ c	0.14	0.13	0.05	0.05	0.10				
HP-14	Q11b R11a	0.22	0.20	0.09	0.08	0.16				
HP-15	Q11d	0.22	0.20	0.08	0.07	0.12				
HP-16	Q11d	0.16	0.13	0.08	0.06	0.28				
HP-17	R10a	0.28	0.28	0.12	0.11	0.47				
HP-18	R10a	0.16	0.15	0.08	0.05	0.26				
HP-19	Q10b R10a	0.20	0.20	0.12	0.11	0.29				
HP-20	Q11a	0.24	0.15	0.10	0.06	0.23				
HP-21	Q11c	0.26	0.24	0.07	0.07	0.49				
HP-22	Q10b	0.14	0.12	(0.08)	0.07	0.27				
HP-23	Q11a ~ b ~ d	2.24	2.22	1.94	1.93	0.26				
HP-24	R10a	0.10	0.08	0.04	0.04	0.24				
HP-1	Q10c	0.58	0.48	—	—	0.14				
HP-1	Q ~ R ~ 11 ~ 12	10.34	8.07	9.88	7.73	0.48				
HP-1	Q12b ~ c	0.22	0.20	0.10	0.09	0.23				
HP-2	Q12c	0.26	0.22	0.08	0.06	0.17				
HP-3	Q12c	0.15	0.14	0.06	0.06	0.15				
HP-4	Q13b	0.22	0.18	0.08	0.06	0.10				
HP-5	Q12c R12d	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10				
HP-6	R12d	0.32	0.32	0.15	0.15	0.15				
HP-7	R13a	0.24	0.22	0.08	0.08	0.16				
HP-8	R12a	0.40	0.26	0.12	0.10	0.40				
HP-9	R13a	0.19	0.18	0.07	0.07	0.24				
HP-10	R12b	0.18	0.16	0.09	0.06	0.16				
HP-11	Q12a ~ d	0.39	0.32	0.16	0.12	0.35				
HP-12	Q13a	0.26	0.24	0.07	0.07	0.25				
HP-13	Q13a	0.36	0.23	0.12	0.10	0.63				
HP-14	Q13a	0.22	0.18	0.08	0.06	0.35				
HP-15	R13a ~ d	0.36	0.24	0.06	0.06	0.31				
HP-16	Q12d	0.24	0.22	0.06	0.04	0.12				
HP-17	Q12d	0.22	0.18	0.07	0.07	0.18				
HP-18	Q12c	0.20	0.20	0.04	0.04	0.14				
HP-19	Q12a ~ b	0.20	0.18	0.08	0.08	0.07				
HP-20	Q13c	0.70	0.54	0.15	0.13	0.28				
HP-21	Q13b	0.22	0.22	0.05	0.04	0.24				
HP-22	Q11c Q12b	0.17	0.14	(0.04)	(0.04)	0.49				
HP-23	Q12b	0.18	0.18	0.04	0.04	0.46				
HP-24	R12a ~ d	1.48	1.33	1.04	0.94	0.10				
HP-1	R12a ~ d	0.75	0.85	—	—	0.06				
HP-2	Q12b	0.80	0.45	—	—	0.12				
HP-3	R12d	0.43	0.38	—	—	0.08				
HP-1	Q ~ P ~ 13 ~ 14	5.68	5.82	5.98	5.10	0.68				
VH-4	HP-1	P13c	0.12	0.10	0.04	0.04	0.14	Y P - 24の内蔵		図版 5
	HP-2	P13c	0.26	0.25	0.11	0.08	0.08			
	HP-3	P13b	0.28	0.26	0.42	0.32	0.20			
	HP-4	P13d	1.45	1.04	0.78	0.64	0.09			

遺構 番号	遺構名	調査区	深さ(m)				時期(縄文時代)	特徴	図番号	図版番号			
			上層		下層						深さ		
			遺物	層積	遺物	層積							
VH-4	HF-1	P13d	0.04	0.06	—	—	0.08	前期末葉	HP-4の内部 掘り込みなし 土層割伊	図IV-1-16-17 図版5 図IV-1-18-19 図版6			
	HF-1	Q19-20a	0.44	0.05	—	—	0.78				0.54		
		P-Q-19-20	1.08	0.64	—	—	0.50				0.50		
VH-5	HF-1	Q20a	4.26	4.17	4.12	4.05	0.21	前期後半	土層2層目が横溝しで出土	図IV-1-20-22 図版7			
		HP-1	0.26	0.24	0.15	0.14	0.38						
		HP-2	P20b	0.10	0.10	0.03	0.03				0.11		
		HP-3	Q20a	0.08	0.06	0.02	0.02				0.08		
		HP-4	P20b	0.16	0.16	0.07	0.06				0.30		
		HP-5	P20b	0.11	0.10	0.04	0.03				0.16		
		HP-6	Q20d	0.12	0.11	0.07	0.05				0.14		
		HP-7	Q20a	0.18	0.15	0.13	0.10				0.40		
		HP-8	P20b	0.14	0.14	0.04	0.04				0.46		
		HP-9	P20b	0.15	0.12	0.10	0.06				0.07		
		HP-10	P20b	0.28	0.16	0.02	0.02				0.36		
		HP-11	P20b	0.10	0.10	0.06	0.06				0.36		
		HP-12	P20b	0.16	0.16	0.02	0.02				0.38		
		HP-13	P20c	0.22	0.22	0.06	0.06				0.30		
		HP-14	Q20a	0.18	0.18	0.07	0.06				0.10		
		HP-15	Q20b	0.10	0.10	0.02	0.02				0.27		
		HP-16	Q20a	0.12	0.10	0.02	0.02				0.30		
		HP-17	Q20c	0.12	0.11	0.04	0.04				0.18		
		HP-18	P20a・b	0.16	0.15	0.04	0.04				0.25		
		HP-19	Q19d	0.12	0.12	0.06	0.06				0.18		
		HP-20	P20c	0.12	0.10	0.13	0.10				0.40		
		HP-21	Q20b・c	0.10	0.06	0.02	0.02				0.38		
		HP-22	P20c	0.10	0.10	0.02	0.02				0.25		
		HP-23	P20b	0.10	0.10	0.02	0.02				0.25		
		HP-24	Q19d	0.12	0.12	0.02	0.02				0.27		
		HP-25	Q20b	0.12	0.10	0.02	0.02				0.36		
		HP-26	Q20d	0.10	0.08	0.04	0.04				0.24		
		HP-27	P19c	0.12	0.10	0.02	0.02				0.32		
		HP-28	Q19c	0.22	0.18	0.02	0.02				0.32		
		HP-29	P20b	0.15	0.14	0.06	0.06				0.41		
		HP-30	P20d	0.10	0.10	0.06	0.06				0.37		
		HP-31	P20c・P21b	0.12	0.10	0.02	0.02				0.26		
		HP-32	P19c	0.12	0.12	0.02	0.02				0.25		
HP-33	Q19c	0.10	0.08	0.02	0.02	0.32							
住居跡	VH-7	L・M-25-24	—	—	—	—	—	—	後期前葉	掘り跡	図IV-1-25-24 図版8		
			HP-1	M34d	0.15	0.16	0.06	0.06				0.30	
			HP-2	L24c	0.11	0.10	0.10	0.09				0.10	
			HP-3	L24d	0.10	0.10	0.02	0.02				0.34	
			HP-4	L23d	0.16	0.14	0.01	0.01				0.32	
			HP-5	L23b	0.14	0.14	0.04	0.04				0.08	
			HP-6	L23b	0.18	0.16	0.06	0.06				0.31	
			HP-7	L23a	0.12	0.10	0.02	0.02				0.25	
			HP-8	L23a	0.12	0.10	0.08	0.08				0.12	
			HP-1	L25c M24d M24a	0.96	0.63	—	—				0.30	
VH-8	HF-1	L・M-18-19	—	—	—	—	—	前期後半	掘り跡	図IV-1-25	図版9		
			HP-1	L19b	0.10	0.09	0.03					0.30	0.20
			HP-2	M19d	0.07	0.06	0.02					0.02	0.20
VH-9	HF-1	K7・8	—	—	—	—	—	後期中葉	掘り跡	図IV-1-25	図版10		
			HP-1	K7d	0.09	0.08	0.03					0.02	0.14
			HP-2	K8a	0.10	0.10	0.02					0.02	0.17
			HP-3	K8a	0.09	0.05	0.02					0.02	0.08
			HP-4	K8a	0.14	0.12	0.05					0.04	0.12
			HP-5	K8a	0.08	0.05	0.02					0.02	0.14
			HP-6	K8a	0.10	0.09	0.02					0.02	0.10
			HP-7	K8a・b	0.09	0.06	0.02					0.02	0.12
			HP-8	K8a	0.07	0.07	0.02					0.02	0.10
			HP-9	K8a	0.10	0.08	0.04					0.04	0.14
			HP-10	K7d	0.10	0.08	0.02					0.02	0.25
HP-11	K8a	0.42	0.30	—	—	0.04							
VH-10	HF-1	G19-21	H19-20	—	—	—	—	—	前期末葉	掘り跡	図IV-1-27-29 図版11		
				HP-1	G19c	1.48	1.22	1.22				1.00	0.20
				HP-2	G19c・d	1.16	0.90	0.96				0.80	0.18
				HP-3	G19c・d	0.44	0.37	0.34				0.16	0.09
				HP-4	H30a	1.16	1.00	1.06				0.80	0.18
				HP-5	G20b	0.25	0.24	1.40				1.40	0.10
				HP-6	G20b	0.18	0.18	0.16				0.06	0.06
				HP-7	G20d	0.24	0.18	0.04				0.04	0.40
				HP-8	G20d	0.54	—	0.34				0.28	0.22
				HP-9	G20a	0.48	0.42	0.36				0.30	0.16
				HP-10	G20a	0.54	0.40	0.40				0.28	0.10
				HP-11	G20d	0.19	0.19	0.04				0.04	0.46
				HP-12	G20d	0.14	0.14	0.05				0.04	0.35
				HP-13	G20a	0.18	0.14	0.06				0.06	0.35
				HP-14	G19d	0.16	0.15	0.70				0.60	0.28
				HP-15	G20c・d	0.16	0.14	0.08				0.07	0.22
				HP-16	G19d	0.14	0.14	0.06				0.06	0.32
HP-17	G21a	0.20	0.17	0.05	0.04	0.20							

遺構類別	遺構名	調査区	規模(m)				時期(縄文時代)	特徴	図番号	図版番号	
			上層		下層						
			長軸	短軸	長軸	短軸					高さ
VH-10	HP-1	G20 c+d	1.10	0.78	—	—	0.10	前期末葉	図IV-1-27-29	図版11	
	HP-2	G20 c+d	0.47	0.32	—	—	0.06				
VH-11	(H1+J1+d)		—	—	—	—	—	後期中葉	図IV-1-30	図版12	
	HP-1	J1 d	0.32	0.30	0.22	0.21	0.26				
	HP-2	J1 d	0.26	0.24	0.18	0.18	0.48				
	HP-3	J1 a+b	0.90	0.34	0.69	0.20	0.30				
	HP-4	J1 d J1 a	0.18	0.18	—	0.11	0.24				
	HP-5	J1 d J1 a	0.23	0.20	0.16	0.12	0.16				
	HP-6	H3 b	0.22	0.20	0.15	0.15	0.24				
	HP-7	H3 b	0.22	0.21	0.14	0.12	0.20				
	HP-8	H3 c	0.15	0.15	0.12	0.10	0.18				
	HP-9	H3 c J1 d	0.22	0.22	0.12	0.11	0.21				
	HP-10	J1 d	0.24	0.22	0.18	0.14	0.14				
	HP-11	J1 c	0.23	0.23	0.13	0.10	0.28				
	HP-12	J1 a	0.27	0.26	—	0.20	0.36				
	HP-1	J1 a+d	0.84	—	—	—	0.11				
HP-2	J1 c	0.52	—	—	—	0.06					
VH-12	(J1 J1-2)		—	—	—	—	—	後期中葉	図IV-1-31	図版13	
	HP-1	J1 c	0.25	0.22	0.18	0.16	0.20				
	HP-2	J1 a	0.23	0.22	0.12	0.10	0.24				
	HP-3	J1 d J1 a	0.27	0.26	0.18	0.18	0.28				
	HP-4	J1 d	—	0.90	—	0.78	0.25				
	HP-5	J1 c+d	1.00	0.78	0.52	0.45	0.30				
	HP-6	J1 c	—	0.26	0.19	0.16	0.28				
HP-7	J1 d	0.31	—	0.18	0.16	0.31					
HP-1	J1 d	0.72	0.66	—	—	0.08					
VH-13	M35	2.63	1.68	2.18	1.32	0.44	前期前半	図IV-1-32	図版14		
VH-14	Q10-40	2.86	1.66	1.92	1.22	0.25	後期中葉	図IV-1-33	図版15		
注産跡	VH-18	J12-1K13	5.86	4.44	5.58	4.80	0.89	前期後半	図IV-1-34-36	図版15	
		HP-1	J13a	1.08	0.78	0.82	0.58				0.20
		HP-2	J13a	0.22	0.22	0.04	0.03				0.26
		HP-3	J13b K13a	0.24	0.22	0.08	0.06				0.20
		HP-4	J13c	0.22	0.18	0.04	0.04				0.22
		HP-5	J13d	0.18	0.18	0.04	0.04				0.21
		HP-6	J13a	0.10	0.10	0.04	0.04				0.07
		HP-7	K13a	0.10	0.10	0.03	0.03				0.23
		HP-8	K13d	0.12	0.12	0.04	0.04				0.24
		HP-9	J13d J14a	0.10	0.10	0.04	0.03				0.16
		HP-10	J13d	0.10	0.10	0.03	0.02				0.14
		HP-11	J13d	0.12	0.10	0.04	0.03				0.26
		HP-12	K13a	0.10	0.10	0.03	0.03				0.20
HP-13	J13d	0.12	0.12	0.11	0.08	0.16					
HP-1	J13b	0.36	0.35	—	—	0.06					
VH-16	HP-1	F+G+10-11	4.34	3.76	3.80	3.34	0.42	後期中葉	図IV-1-37	図版16	
	HP-1	G10 G11a	0.80	0.66	—	—	0.14				
VH-17	K11+L12		4.40	3.52	3.80	4.70	0.75	前期後半	図IV-1-38-40	図版17	
	HP-1	K12a+d	1.52	1.14	1.18	0.86	0.47				
	HP-2	L12d	0.18	0.18	0.04	0.04	0.34				
	HP-3	L12d	0.08	0.08	0.03	0.03	0.22				
	HP-4	L12c	0.08	0.08	0.02	0.02	0.25				
	HP-5	L12c	0.12	0.12	0.03	0.03	0.17				
	HP-6	L12b	0.07	0.07	0.03	0.03	0.16				
	HP-7	L12b	0.08	0.08	0.04	0.04	0.19				
	HP-8	L11c L12b	0.08	0.08	0.06	0.06	0.19				
	HP-9	L11d	0.12	0.12	0.04	0.04	0.40				
	HP-10	K11d	0.12	0.12	0.02	0.02	0.20				
	HP-11	K11d	0.16	0.15	0.04	0.04	0.26				
	HP-12	K11c	0.08	0.08	0.03	0.02	0.28				
	HP-13	K11c	0.08	0.08	0.02	0.02	0.16				
	HP-14	K11c K12b	0.09	0.09	0.03	0.03	0.26				
	HP-15	K12b	0.10	0.10	0.03	—	0.24				
	HP-16	L12d	0.12	0.10	0.02	0.02	0.21				
	HP-17	L12b	0.14	0.10	0.04	0.04	0.14				
	HP-18	L11c	0.14	0.12	0.04	0.04	0.26				
	HP-19	K12c	0.10	0.10	0.03	0.03	0.24				
HP-20	K12c	0.12	0.11	0.03	0.03	0.42					
HP-21	L11d	0.10	0.10	0.04	0.04	0.18					
HP-22	L12d	0.10	0.10	0.03	0.03	0.31					
HP-23	K12b	0.12	0.12	0.03	0.03	0.19					
HP-1	L12a	0.64	0.62	—	—	0.06					
七棟	Vp-1	O17a+b	3.86	1.48	1.80	1.46	0.20	前期後半	図IV-1-41	図版18	
	Vp-2	R27a+d	1.94	1.41	1.60	1.15	0.20	中期後半			
	Vp-3	R27b+c	—	1.20	—	1.14	0.20	中期			
	Vp-4	Q28d Q29a	1.70	1.54	1.24	1.14	0.26	前期後半			
	Vp-5	R28c	0.48	0.45	0.26	0.24	0.12	中期			
	Vp-6	P31b	1.82	1.60	1.40	1.24	0.30	前期前半			
	Vp-7	R28c+d	0.96	0.85	0.55	0.45	0.18	後期前半			
	Vp-8	R28c+d	0.96	0.85	0.55	0.45	0.18	後期前半			
	Vp-9	O23b+c P29a+d	2.64	2.32	1.76	1.50	0.40	前期後半			
	Vp-10	Q12b	—	0.80	—	0.58	0.18	中期前半			
	Vp-11	Q11c+d Q12a+b	2.08	1.52	1.76	1.22	0.26	中期前半			
	Vp-12	O14e O17b	2.22	1.80	1.98	1.58	0.20	前期後半			
	Vp-13	G21a+b	0.66	0.44	0.44	—	0.16	前期後半			
	Vp-14	O14e O17b	2.22	1.80	1.98	1.58	0.20	前期後半			
	Vp-15	G21a+b	0.66	0.44	0.44	—	0.16	前期後半			

用途 区分	選種名	選定区	選種(m)				選者	時期(選定時代)	特徴	選種号	育成番号
			上層		下層						
			初期	後期	初期	後期					
土坑	VP-15	Q25b	0.89	0.60	0.66	0.42	0.15	前期後半			
	VP-17	R20d K21a	0.92	0.30	0.61	0.13		前期後半	選種15	選種16	
	VP-18	M24c K24a-d	2.70	—	1.34	1.20	0.22	前期後半	選種15	選種17	
	VP-19	O21a	0.32	0.30	0.80	—	0.18	前期後半	選種15	選種19	
	VP-20	O19c	0.84	0.62	0.68	0.38	0.15	前期後半	選種15	選種19	
	VP-21	O19c P19d	0.80	0.58	0.50	0.54	0.10	前期後半	選種15	選種19	
	VP-22	Q30d	(0.50)	(0.42)	(0.80)	0.44	0.30	前期後半	選種15	選種19	
	VP-23	K28b	0.96	0.64	0.86	0.56	0.19	前期後半	選種15	選種19	
	VP-24	F26a	0.53	0.30	0.32	0.17		前期後半	選種15	選種19	
	VP-25	F27d F28a	0.94	0.70	0.64	0.42	0.84	前期			
	VP-29	J24c-d J24a-d	1.04	0.84	0.88	0.64	0.72	後期前半			
	VP-30	I22c	1.06	0.88	0.86	0.58	0.65	後期後半	選種15	選種19	
	VP-31	J23b-d	1.16	1.04	0.92	0.57	0.64	後期			
	VP-32	I22c I23b	1.04	0.68	0.74	0.61	0.44	前期後半			
	VP-33	M19a	—	1.12	—	0.54	0.23	後期	選種15	選種19	
	VP-34	L24a	1.35	0.85	1.14	0.54	0.16	不明			
	VP-35	K19d K20a	0.78	0.77	0.52	0.60	0.32	前期			
	VP-36	K20a-b	1.32	1.15	1.19	0.85	0.14	中期	選種15	選種19	
	VP-37	K18a	0.51	0.52	0.58	0.36	0.24	前期			
	VP-38	J15c	0.96	0.86	0.82	0.58	0.42	前期			
	VP-39	I4d	1.04	0.76	0.64	0.56	0.30	後期中層	選種15	選種19	
	VP-40	I4c I5b	1.57	1.27	0.84	0.79	0.44	後期中層	選種15	選種19	
	VP-41	G6c-d G7b	—	1.38	—	0.91	0.61	後期後半	選種15	選種19	
	VP-42	H5b	0.84	0.70	0.86	0.60	0.23	後期中層	選種15	選種19	
	VP-43	H4c	0.58	0.53	0.50	0.47	0.14	後期中層	選種15	選種19	
	VP-44	H2c H3b	1.70	1.40	1.56	1.06	0.37	後期中層			
	VP-45	J2a	1.38	1.30	1.12	0.92	0.26	後期中層			
	VP-46	H17c H18b	1.18	1.01	0.53	0.46	0.44	不明	選種15	選種19	
	VP-47	I18a-d	1.30	0.82	0.88	0.53	0.50	前期後半	選種15	選種19	
	VP-48	G4c H4d	1.05	0.89	0.70	0.58	0.34	後期中層	選種15	選種19	
	VP-49	H17c-d H18a-b	1.18	—	0.86	0.50	0.39	不明	選種15	選種19	
	VP-50	H22b I22a	0.62	0.67	0.31	0.30	0.24	前期後半	選種15	選種19	
	VP-51	R29c	0.74	0.65	0.53	0.69	0.20	後期中層			
	VP-52	O45c Q44b	0.74	0.71	0.68	0.66	0.14	後期			
	VP-53	K18a	0.78	0.64	0.63	0.57	0.32	不明			
	VP-54	P44a-b	—	1.32	—	1.12	0.19	後期中層	選種15	選種19	
	VP-55	S42a	1.50	1.27	0.93	0.70	0.16	後期中層			
	VP-56	O43a-c P43a-d	1.13	0.86	0.83	0.61	0.14	後期中層			
	VP-57	N26a-b	1.06	0.76	0.97	0.56	0.16	前期後半	選種15	選種19	
	VP-58	R44c R45b	1.74	1.62	1.30	1.20	0.76	後期	選種15	選種19	
	VP-59	K31c K32b L31b L22a	1.56	1.06	1.06	0.67	1.02	前期後半	選種15	選種19	
	VP-60	K30c L30d	1.14	0.70	0.65	0.34	0.44	前期後半	選種15	選種19	
	VP-61	J203a-c K20a-d	1.84	(1.26)	0.96	0.64	0.78	前期後半	選種15	選種19	
	VP-62	H145c I14a-d	—	0.96	0.53	0.48	0.26	前期後半	選種15	選種19	
	VP-63	G14c G15b	0.94	0.30	0.10	0.10	0.36	不明	選種15	選種19	
	VP-64	G16c	1.83	1.36	1.16	0.66	1.34	不明	選種15	選種19	
	VP-65	I14d	0.89	0.78	0.66	0.45	0.26	前期後半	選種15	選種19	
	VP-66	G15b H13a	1.62	0.80	0.83	0.73	0.20	不明			
	VP-67	F14b	1.56	0.76	0.62	0.56	0.20	不明			
	VP-68	R47a	0.93	0.86	0.80	0.71	0.11	不明			
VP-69	S48d S49a	0.96	0.85	0.88	0.73	0.17	不明	選種15	選種19		
VP-70	M42c-d M46a-b	0.88	0.86	0.70	0.57	0.14	後期				
VP-71	G8c-d G9a-b	1.68	1.49	1.56	1.27	0.36	不明				
VP-72	G9a	0.96	0.72	0.83	0.56	0.14	後期中層				
VP-73	R48b-c	0.62	0.62	0.46	0.42	0.30	不明				
VP-74	S48a-d	1.70	1.10	1.20	0.88	0.14	後期中層	選種15	選種19		
VP-75	S47c-d	0.78	0.71	0.54	0.49	0.13	不明				
VP-76	S47e	0.68	—	0.42	0.34	0.13	不明				
VP-77	S47c-d	0.74	0.54	0.46	0.38	0.12	不明	選種15	選種19		
VP-78	N50c N51b O50d O51a	0.56	0.54	0.66	0.46	0.35	後期中層	選種15	選種19		
Tビッド	VTP-1	F24a-c Q24d	4.70	0.86	3.63	0.39	1.22	中期	選種15	選種19	
	VTP-2	M28c-d	3.08	0.86	2.56	0.28	1.10	中期	選種15	選種19	
	VTP-3	K26c H27b	2.94	1.10	0.81	0.54	1.26	中期	選種15	選種19	
	VTP-4	H25c H26b I26d	—	0.70	1.16	0.56	0.50	中期	選種15	選種19	
	VTP-5	I145a-c J14a-d	1.44	0.86	1.02	0.56	1.10	中期	選種15	選種19	
	VTP-6	J16a-b	1.38	1.02	1.12	0.40	1.22	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
	VTP-7	J20a-d	2.94	0.75	2.40	0.34	0.62	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
	VTP-8	J203a-c K20a-d	3.34	0.72	2.78	0.34	0.88	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
	VTP-9	K36b	1.56	0.93	1.15	0.42	0.78	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
	VTP-10	M29b-c N29a	3.22	0.75	2.48	0.17	0.58	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
	VTP-11	J18a	1.62	1.19	1.00	0.39	1.13	不明	選種15	選種19	
	VTP-12	G16c H16d	1.83	1.36	1.16	0.46	1.34	不明	選種15	選種19	
	VTP-13	I10c K10d	2.00	1.60	0.88	0.51	1.20	不明	選種15	選種19	
	VTP-14	R16b-c	—	0.90	—	0.54	0.56	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
	VTP-15	R57c S57d	1.76	1.14	1.26	0.47	1.14	中期前半～後期初級	選種15	選種19	
VTP-16	R55b-c	1.56	1.07	1.16	0.52	0.94	中期前半～後期初級	選種15	選種19		
VTP-17	R48a-b	2.38	0.86	2.32	0.28	1.11	不明	選種15	選種19		
VTP-18	R49c-d R30a-b	2.30	0.81	2.44	0.37	1.30	不明	選種15	選種19		
VTP-19	Q54c	1.43	0.44	1.26	0.17	0.68	中期前半～後期初級	選種15	選種19		
VTP-20	G54c Q54b R52d R54a	1.70	1.26	1.34	0.60	0.98	中期前半～後期初級	選種15	選種19		

遺構類別	遺構名	調査区	規模(m)					築き	時期(縄文時代)	特徴	図番号	図解番号	
			上層		下層		高さ						
			長軸	短軸	長軸	短軸							
Tピット	VTP-21	Q48 b R48 a	1.12	0.88	1.00	0.43	0.70	不明	浅穴木掘1基	図IV-1-65			
	VSP-1	R22 a-d	0.22	0.22	0.04	0.04	0.40	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-2	F17 c	0.17	0.16	0.03	0.02	0.42	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-3	O30 b	0.22	0.20	0.02	0.02	0.50	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-4	O29 a	0.14	0.14	0.04	0.04	0.37	前期前半～後期後半					
	VSP-5	O29 a-b	0.10	0.09	0.02	0.02	0.60	前期前半～後期後半					
	VSP-6	Q28 d	0.18	0.18	0.04	0.04	0.47	前期前半～後期後半					
	VSP-7	Q28 d	0.18	0.18	0.04	0.04	0.47	前期前半～後期後半					
	VSP-8	O28 d	0.26	0.26	0.13	0.12	0.37	前期前半～後期後半					
	VSP-9	O28 a	0.15	0.16	0.06	0.06	0.04	前期前半～後期後半					
	VSP-10	F21 c-d	0.20	0.20	0.05	0.04	0.48	前期前半～後期後半					
	VSP-11	N27 b-c	0.16	0.14	0.04	0.04	0.33	前期前半～後期後半					
	VSP-12	O26 c	0.24	0.19	0.04	0.04	0.34	前期前半～後期後半					
	VSP-13	N25 d	0.16	0.16	0.04	0.04	0.36	前期前半～後期後半					
	VSP-14	O22 d	0.18	0.16	0.04	0.04	0.25	前期前半～後期後半					
	VSP-15	N25 a	0.12	0.12	0.03	0.03	0.29	前期前半～後期後半					
	VSP-16	O24 d	0.14	0.14	0.03	0.02	0.32	前期前半～後期後半					
	VSP-17	N22 b	0.12	0.12	0.05	0.04	0.32	前期前半～後期後半					
	VSP-18	O15 a	0.25	0.14	0.04	0.04	0.50	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-19	Q14 b-c	0.16	0.16	0.10	0.10	0.22	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-21	M22 a	0.12	0.12	0.02	0.02	0.26	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-22	M18 a	0.12	0.12	0.04	0.04	0.29	前期前半～後期後半			図解23		
	VSP-23	K20 d	0.16	0.16	0.05	0.04	0.14	前期前半～後期後半					
	VSP-24	K20 d	0.12	0.12	0.03	0.03	0.32	前期前半～後期後半					
	VSP-25	K15 c	0.14	0.13	0.04	0.04	0.22	前期前半～後期後半					
	VSP-26	M20 b	0.10	0.10	0.02	0.02	0.22	前期前半～後期後半					
	VSP-27	M13 b	0.10	0.08	0.02	0.02	0.12	前期前半～後期後半					
	VSP-28	L13 b	0.24	0.20	0.10	0.10	0.22	前期前半～後期後半					
	VSP-29	L13 d	0.14	0.12	0.03	0.03	0.20	前期前半～後期後半					
	VSP-30	I18 b	0.18	0.16	0.05	0.04	0.16	前期前半～後期後半	縦方あり				
	VSP-31	H22 d	0.28	0.26	0.05	0.05	0.48	前期前半～後期後半					
	VSP-32	H22 b	0.32	0.30	0.14	0.12	0.24	前期前半～後期後半					
	VSP-33	H21 c	0.16	0.15	0.05	0.05	0.38	前期前半～後期後半					
VSP-34	F18 a-b	0.17	0.14	0.10	0.08	0.26	前期前半～後期後半						
VSP-35	F18 c-d F18 a-b	0.22	0.21	0.14	0.13	—	前期前半～後期後半						
VSP-36	F15 b	0.14	0.13	0.10	0.07	—	前期前半～後期後半						
VSP-37	G14 b-c	0.30	0.26	0.22	0.18	—	前期前半～後期後半						
VSP-38	G13 d	0.30	0.28	0.18	0.16	—	前期前半～後期後半						
VSP-39	G13 c-d	0.32	0.31	0.16	0.15	—	前期前半～後期後半						
VSP-40	Q19 a	0.14	0.14	0.06	0.06	0.38	前期前半～後期後半						
縄土	VF-1	Q25 b	0.50	0.43	—	—	0.01	前期前半	粘土盛土の可能性あり	図IV-1-70			
	VF-2	Q11 a	0.37	0.37	—	—	0.25	中期後半	VH-2 掘土中		図解24		
	VF-3	Q11 b	0.58	0.52	—	—	0.08	中期後半	VH-2 掘土中				
	VF-4	Q8 e-d	0.62	0.46	—	—	0.12	前期後半					
	VF-5	Q6 d Q7 a	0.80	0.76	—	—	0.16	前期後半					
	VF-6	N18 d N20 a	1.70	0.46	—	—	0.21	後期			図解24		
	VF-7	F22 a	0.46	0.38	—	—	0.12	後期					
	VF-9	H5 c	0.58	0.58	—	—	0.06	後期中盤			図解24		
	VF-13	M43 c N43 d	0.36	0.32	—	—	0.02	後期	壁土・ブドウ種子出土				
	VF-14	N43 d	0.64	0.48	—	—	0.05	後期					
	VF-15	N43 a	1.50	0.30	—	—	0.04	後期					
	VF-16	N43 a	0.48	0.40	—	—	0.06	後期					
	VF-17	R43 a	0.66	0.46	—	—	0.06	後期中盤	壁穴の浮土の可能性あり		図IV-1-71		
	VF-18	R43 b	0.66	0.38	—	—	0.10	後期中盤	黒炭木炭				
	VF-19	S50 c-d	0.48	0.41	—	—	0.06	後期中盤	壁穴の浮土の可能性あり				
	削り出し	VFC-1	R32 d	0.30	0.14	—	—	—	前期		瓦片	図IV-1-73	図解24
		VS-1	M43 b	0.90	0.76	—	—	—	後期中盤		壁土盛あり		
	築石	VS-2	M43 c	1.14	0.86	—	—	—	後期中盤			図IV-1-73	
		VS-3	M43 c	0.92	0.58	—	—	—	後期中盤				
VS-4		M43 c	0.36	0.58	—	—	—	後期中盤		図解24			
VS-5		P36 c-d P40 b	1.00	0.72	—	—	—	後期中盤					
VS-6		M49 c M50 b	1.82	1.37	—	—	—	不明	ずり石・石礎出土	図IV-1-73	図解24		

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	数量
VH-4	覆土	銅片石層	銅片	瓦片	1852
				黒曜石	6063
				緑色凝灰岩	93
		礫石層	石岸	緑色凝灰岩	5
			ウラボシ	緑色凝灰岩	1
			北海道式石段	火山灰	2
			礎	砂岩	2
				砂岩	2
			たつき石	砂岩	2
			礎	緑色凝灰岩	2
				砂岩	1
			石壁	片麻岩	1
			加工機のある礎	緑色凝灰岩	4
		礎	火山灰	9	
		礎	砂岩	9	
	礎	緑色凝灰岩	1		
	合計		3699		
	床面	土層	黒群b層	黒曜石	19
				銅片石層	石壁
		銅片石層	石壁	黒曜石	1
				黒曜石	2
		礎	チャート	チャート	3
				チャート	2
		礎	つまみ付きタイプ	瓦片	2
				スライパー	瓦片
		礎	Rフレイク	瓦片	1
				瓦片	1114
		銅片	黒曜石	黒曜石	2120
				砂岩	8
		礎	チャート	チャート	2
				チャート	13
		礫石層	石岸	緑色凝灰岩	8
	緑色凝灰岩			2	
	礎	北海道式石段	砂岩	1	
			砂岩	1	
	礎	黒曜石	黒曜石	2	
			砂岩	2	
	礎	加工機のある礎	火山灰	2	
			砂岩	2	
	礎	片麻岩	1		
合計		3300			
HF-1	土層	黒群b層	黒曜石	6	
			銅片石層	銅片	7
合計		13			
VH-5	覆土	土層	黒群b層	黒曜石	1682
				銅片石層	銅片
		銅片石層	銅片	黒曜石	8
				黒曜石	2
		礫石層	礎	火山灰	2
				黒伏岩	2
		土製品	粘土塊	粘土塊	4
				粘土塊	18
		合計		996	
		HF-1	土層	黒群b層	黒曜石
	銅片石層				銅片
	銅片石層		銅片	黒曜石	59
				銅片	59
	土製品		粘土塊	1	
	合計		1081		
VH-6	覆土	銅片石層	石壁	黒曜石	1068
				銅片	1
		銅片	瓦片	瓦片	27
				瓦片	2218
		礎	緑色凝灰岩	緑色凝灰岩	8
				緑色凝灰岩	2254
		土層	黒群b層	黒曜石	27
				銅片石層	銅片
		礫石層	礎	砂岩	1
				砂岩	3
	土製品	粘土塊	粘土塊	3	
			粘土塊	3	
	合計		36		
	覆土2	土層	黒群b層	黒曜石	33
				銅片石層	銅片
銅片石層		銅片	瓦片	4	
			黒曜石	3	
礎		緑色凝灰岩	緑色凝灰岩	31	
			緑色凝灰岩	1	
礫石層		石岸	片岩	1	
			片岩	1	
礎		北海道式石段	緑色凝灰岩	2	
			緑色凝灰岩	2	
礎	加工機のある礎	火山灰	3		
		緑色凝灰岩	3		
礎	礎	火山灰	3		
		砂岩	3		
合計		86			
覆土3	土層	黒群b層	黒曜石	6	
			銅片石層	石壁	1
	銅片石層	石壁	瓦片	1	
			黒曜石	1	
	礎	黒曜石	黒曜石	19	
			黒曜石	1	
	礎	黒伏岩	黒伏岩	1	
			砂岩	1	
	土製品	粘土塊	粘土塊	4	
			粘土塊	4	
合計		34			
覆土4	土層	黒群b層	黒曜石	15	
			銅片石層	銅片	1
	銅片石層	銅片	瓦片	2	
			黒曜石	2	
	礫石層	北海道式石段	緑色凝灰岩	2	
砂岩			1		
礎	加工機のある礎	砂岩	1		
礎	火山灰	1			

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	数量
覆土4	土層	黒群b層	黒曜石	1	
			砂岩	3	
合計		4			
覆土5	土層	黒群b層	黒曜石	5	
			銅片石層	銅片	1
礎	黒伏岩	黒伏岩	1		
		砂岩	1		
合計		8			
床(覆土5)	銅片石層	銅片	瓦片	36	
			黒曜石	336	
礎	緑色凝灰岩	6			
合計		398			
床底	土層	黒群b層	黒曜石	89	
			銅片石層	銅片	4
	礫石層	石岸	黒曜石	5	
			緑色凝灰岩	13	
	礎	砂岩	砂岩	1	
砂岩			1		
合計		126			
床面	土層	黒群b層	黒曜石	226	
			銅片石層	石壁	1
	銅片石層	石壁	瓦片	1	
			黒曜石	1	
	礎	Rフレイク	黒曜石	2	
			瓦片	22	
	銅片	黒曜石	黒曜石	720	
			砂岩	1	
	礎	緑色凝灰岩	緑色凝灰岩	89	
			緑色凝灰岩	2	
	礫石層	石岸	北海道式石段	1	
			砂岩	1	
	礎	黒曜石	黒曜石	1	
			砂岩	1	
	礎	加工機のある礎	緑色凝灰岩	1	
火山灰			2		
礎	礎	砂岩	2		
		砂岩	3		
土製品	粘土塊	37			
合計		1121			
HF-2	銅片石層	銅片	黒曜石	3	
			黒曜石	3	
	合計		6		
	HF-3	銅片石層	銅片	黒曜石	3
				黒曜石	3
	合計		6		
	HF-4	銅片石層	銅片	黒曜石	5
				黒曜石	5
	合計		10		
	HF-6	銅片石層	銅片	瓦片	1
				黒曜石	5
	合計		6		
	HF-9	銅片石層	銅片	黒曜石	1
				黒曜石	1
	合計		2		
HF-1-1	銅片石層	銅片	黒曜石	3	
			黒曜石	3	
合計		6			
HF-1-2	銅片石層	銅片	黒曜石	4	
			黒曜石	4	
合計		8			
HF-1-3	銅片石層	銅片	黒曜石	2	
			黒曜石	2	
合計		4			
HF-1-6	銅片石層	銅片	黒曜石	3	
			緑色凝灰岩	3	
合計		6			
HF-1-8	銅片石層	銅片	黒曜石	1	
			黒曜石	1	
合計		2			
HF-2-0	銅片石層	銅片	黒曜石	2	
			黒曜石	2	
合計		4			
HF-2-3	銅片石層	銅片	黒曜石	1	
			黒曜石	1	
合計		2			
HF-2-8	銅片石層	銅片	緑色凝灰岩	1	
			緑色凝灰岩	1	
合計		2			
VH-7	覆土	土層	黒群b層	黒曜石	4120
				銅片石層	石壁
		銅片石層	石壁	黒曜石	2
				つまみ付きタイプ	瓦片
		礎	瓦片	瓦片	5
				瓦片	36
		礎	黒曜石	黒曜石	1
				緑色凝灰岩	1
		礫石層	北海道式石段	砂岩	3
				砂岩	3
	礎	礎	火山灰	2	
			砂岩	3	
	土製品	粘土塊	3		
	合計		104		
	床面	土層	黒群b層	黒曜石	3
黒群a層				1	
銅片石層		銅片	黒曜石	9	
			黒曜石	2	
礫石層		礎	火山灰	1	
	黒伏岩		1		
合計		19			
HF-7	土層	黒群b層	黒曜石	1	
			瓦片	1	
合計		2			
HF-1	土層	黒群b層	黒曜石	2	
			黒群a層	485	
合計		487			
合計		512			

遺構名	層位 又は付風遺構名	遺物名	分類	石材	点数
VH-8	覆土	土器	Ⅲ群b類		25
		銅片石器	石鏃	黒曜石	1
			石鏃・ナイフ	黒曜石	1
			銅片	黒曜石	15
				緑色硬岩	2
	礎石	北海道式石礎	安山岩	1	
			砂岩	1	
			安山岩	1	
			砂岩	4	
			片麻岩	1	
		合計	50		
床面	銅片石器	つまみ付きナイフ	黒岩	1	
	礎石	礎石	砂岩	3	
		合計	3		
		総計	55		
VH-9	覆土	土器	Ⅲ群b類		1
			Ⅲ群a類		1
			Ⅲ群c類		1
			Ⅳ群b類		1
			Ⅳ群c類		2
			Ⅳ群d類		1
		銅片石器	石鏃	黒曜石	1
			石鏃・ナイフ	黒曜石	2
			リフレイク	黒曜石	1
			銅片	頁岩	1
			黒曜石	37	
			緑色硬岩	2	
			黒曜石配岩	1	
	礎石	石鏃	片岩	1	
			緑色硬岩	1	
		砂岩	1		
		片麻岩	1		
		合計	55		
床面	土器	Ⅳ群b類		4	
	銅片石器	リフレイク	黒曜石	1	
		合計	5		
VH-10	覆土	土器	Ⅲ群b類		425
			Ⅲ群a類		2
			Ⅳ群c類		1
		銅片石器	石鏃	黒曜石	3
			石鏃・ナイフ	黒曜石	1
			つまみ付きナイフ	頁岩	4
			スタレイベー	頁岩	2
			Rフレイク	頁岩	1
			リフレイク	黒曜石	1
			銅片	頁岩	3
	礎石		黒曜石	273	
			緑色硬岩	7	
			メノウ質頁岩	1	
			石	23	
			北海道式石礎	安山岩	3
				砂岩	14
				砂岩	3
				砂岩	3
				安山岩	5
				緑色硬岩	1
				安山岩	1
				砂岩	1
				片麻岩	3
				加工済のある礎	26
				緑色硬岩	3
		砂岩	56		
		頁岩	1		
		片麻岩	3		
		土製品	粘土塊	4	
		合計	861		
床面	礎石	礎	緑色硬岩	1	
			砂岩	2	
		合計	3		
床面	土器	Ⅲ群a類		3	
		Ⅲ群b類		3	
銅片石器	銅片	黒曜石	2		
礎石	礎石	砂岩	1		
		安山岩	1		
		加工済のある礎	1		
		合計	10		
HP-1	土器	Ⅲ群b類		27	
	銅片石器	銅片	頁岩	1	
			黒曜石	1	
			緑色硬岩	1	
	礎石	石鏃	緑色硬岩	1	
		砂岩	1		
		礎	1		
		片岩	1		
		合計	33		
HP-2	土器	Ⅲ群b類		17	
		Ⅲ群a類		1	
銅片石器	銅片	黒曜石	1		
		合計	19		

遺構名	層位 又は付風遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
VH-10	HP-4	土器	Ⅲ群b類		1	
		銅片石器	つまみ付きナイフ	頁岩	1	
			銅片	黒曜石	1	
				黒曜石	1	
				合計	4	
	HP-1	銅片石器	銅片	黒曜石	1	
		礎石	石鏃	緑色硬岩	1	
			礎	安山岩	1	
				緑色硬岩	1	
				合計	4	
HP-2	礎石	礎	緑色硬岩	1		
			合計	1		
		総計	22			
VH-11	床面付足	土器	Ⅳ群b類		4	
		銅片石器	石鏃	黒曜石	1	
			高部湖産石鏃	黒曜石	1	
			銅片	黒曜石	6	
				砂岩	1	
	HP-2	土器	Ⅳ群b類		1	
				合計	14	
		HP-1	銅片石器	銅片	黒曜石	1
					合計	8
					総計	23
礎石	礎石		礎	砂岩	1	
				合計	1	
	床面付足	土器	Ⅲ群		1	
			Ⅳ群b類		34	
		礎石	砂石	緑色硬岩	4	
		安山岩	2			
		礎	砂岩	3		
		緑色硬岩	1			
		合計	45			
HP-4	土器	Ⅳ群b類		2		
			合計	2		
	HP-5	土器	Ⅳ群b類		1	
		銅片石器	つまみ付きナイフ	黒曜石	1	
			銅片	黒曜石	4	
		礎石	たたまき石	安山岩	1	
			合計	11		
		総計	59			
VH-13	覆土	土器	Ⅲ群b類		7	
		銅片石器	Rフレイク	黒曜石	3	
			合計	10		
			総計	19		
	礎石1	土器	Ⅳ群a類		300	
銅片石器		Ⅳ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
		つまみ付きナイフ	黒曜石	1		
		Rフレイク	黒曜石	1		
		リフレイク	黒曜石	1		
		銅片	黒曜石	21		
			緑色硬岩	5		
礎石		礎石	緑石	メノウ	1	
			加工済のある礎	安山岩	1	
				安山岩	6	
				砂岩	1	
				緑色硬岩	1	
				合計	389	
		礎石2	土器	Ⅳ群b類		63
	銅片石器		石鏃	黒曜石	4	
			銅片	黒曜石	136	
				緑色硬岩	7	
礎石	礎石		メノウ	1		
		砂岩	3			
		合計	204			
チップ集中1	銅片石器	銅片	メノウ	799		
		黒曜石	4			
		合計	799			
緑色硬岩集中	銅片石器	銅片	黒曜石	22		
			緑色硬岩	545		
		合計	567			
E n-a 集中2	銅片石器	銅片	黒曜石	20		
	礎石	礎	黒石	180		
			合計	180		
			総計	2067		
	礎石1	土器	Ⅳ群b類		3	
		Ⅳ群b類		10		
		Ⅳ群c類		6		
		Ⅳ群d類		6		
銅片石器		石鏃	黒曜石	3		
		つまみ付きナイフ	頁岩	1		
			黒曜石	1		
		Rフレイク	頁岩	1		
			頁岩	3		
			黒曜石	11		
礎石	礎石	石鏃	片岩	1		
			砂岩	1		
			片麻岩	1		
			砂岩	1		
			北海道式石礎	安山岩	3	

遺跡名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
VH-15	覆土1	燧石器	北海道式石剣	砂岩	1	
			燧石	燧石	3	
			加工痕のある燧石	燧石	2	
			燧石	燧石	2	
			燧石	燧石	2	
			合計		215	
	覆土2	土器	Ⅱ群bⅡ類			118
			Ⅲ群aⅡ類			11
			Ⅳ群aⅡ類			1
			Ⅳ群bⅡ類			1
Ⅳ群cⅡ類					2	
銅片石器		石剣	黒曜石	1		
		つまみ付きナイフ	頁岩	2		
		スタレイバー	頁岩	1		
		Uフレイク	頁岩	1		
		銅片	黒曜石	4		
燧石器	石片	緑色頁岩	16			
	すり石	砂岩	1			
	北海道式石剣	花崗岩	1			
	たつき石	砂岩	11			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	3			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
覆土3	土器	Ⅱ群bⅡ類			55	
		Ⅲ群aⅡ類			3	
		Ⅳ群aⅡ類			3	
		Ⅳ群bⅡ類			1	
		Ⅳ群cⅡ類			1	
	銅片石器	スタレイバー	黒曜石	1		
		燧石	燧石	1		
		Uフレイク	頁岩	1		
		銅片	燧石	1		
		銅片	黒曜石	77		
燧石器	石片	緑色頁岩	14			
	すり石	砂岩	1			
	北海道式石剣	砂岩	2			
	たつき石	砂岩	1			
	加工痕のある燧石	花崗岩	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	4			
	燧石	燧石	2			
覆土4上面	土器	Ⅱ群bⅡ類			175	
		Ⅲ群aⅡ類			180	
		Ⅳ群aⅡ類			1	
		Ⅳ群bⅡ類			1	
		Ⅳ群cⅡ類			2	
	銅片石器	石剣	黒曜石	1		
		つまみ付きナイフ	燧石	2		
		スタレイバー	燧石	2		
		Uフレイク	燧石	4		
		銅片	燧石	4		
燧石器	北海道式石剣	砂岩	3			
	たつき石	砂岩	1			
	燧石	燧石	1			
	加工痕のある燧石	花崗岩	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
覆土4	土器	Ⅱ群bⅡ類			52	
		Ⅲ群aⅡ類			32	
		Ⅳ群aⅡ類			1	
		Ⅳ群bⅡ類			2	
		Ⅳ群cⅡ類			2	
	銅片石器	石剣	黒曜石	34		
		銅片	燧石	2		
		つまみ付きナイフ	燧石	2		
		スタレイバー	燧石	2		
		銅片	燧石	1		
燧石器	北海道式石剣	砂岩	4			
	たつき石	砂岩	1			
	燧石	燧石	1			
	加工痕のある燧石	花崗岩	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
覆土5	銅片石器	石剣	黒曜石	1		
		銅片	黒曜石	1		
		つまみ付きナイフ	燧石	1		
		スタレイバー	燧石	2		
		銅片	燧石	2		
	燧石器	石片	緑色頁岩	4		
		すり石	砂岩	1		
		北海道式石剣	砂岩	1		
		たつき石	砂岩	1		
		燧石	燧石	1		
覆土6	銅片石器	石剣	黒曜石	1		
		銅片	黒曜石	1		
		つまみ付きナイフ	燧石	1		
		スタレイバー	燧石	2		
		銅片	燧石	1		
	燧石器	石片	緑色頁岩	1		
		すり石	砂岩	1		
		北海道式石剣	砂岩	1		
		たつき石	砂岩	1		
		燧石	燧石	1		

遺跡名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
VH-15	覆土5	銅片石器	銅片	黒曜石	合計	11
			燧石	燧石	40	
			燧石	燧石	40	
			燧石	燧石	2	
			燧石	燧石	1	
			合計		44	
	H P-1	土器	Ⅱ群bⅡ類			2
		銅片石器	銅片	燧石	1	
		燧石	燧石	1		
		燧石	燧石	1		
燧石		燧石	1			
テップ集中	銅片石器	銅片	頁岩	合計	7	
		燧石	燧石	186		
		燧石	燧石	192		
		燧石	燧石	122		
		燧石	燧石	1		
VH-16	覆土	土器	Ⅱ群bⅡ類		48	
			Ⅲ群aⅡ類		1	
			Ⅳ群aⅡ類		1	
			Ⅳ群bⅡ類		2	
			Ⅳ群cⅡ類		1	
	銅片石器	つまみ付きナイフ	頁岩	1		
		スタレイバー	燧石	1		
		Uフレイク	燧石	1		
		銅片	燧石	1		
		銅片	燧石	35		
燧石器	石片	緑色頁岩	1			
	すり石	砂岩	1			
	北海道式石剣	砂岩	1			
	たつき石	砂岩	1			
	燧石	燧石	1			
床面	土器	Ⅱ群bⅡ類		合計	34	
		Ⅲ群aⅡ類		34		
		Ⅳ群aⅡ類		34		
		Ⅳ群bⅡ類		34		
		Ⅳ群cⅡ類		34		
VH-17	覆土1	土器	Ⅱ群bⅡ類		194	
			Ⅲ群aⅡ類		390	
			Ⅳ群aⅡ類		22	
			Ⅳ群bⅡ類		17	
			Ⅳ群cⅡ類		2	
	銅片石器	石剣	黒曜石	4		
		つまみ付きナイフ	燧石	3		
		スタレイバー	燧石	1		
		Uフレイク	頁岩	1		
		銅片	燧石	35		
燧石器	石片	緑色頁岩	47			
	すり石	砂岩	1			
	北海道式石剣	砂岩	1			
	たつき石	砂岩	1			
	加工痕のある燧石	花崗岩	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
	燧石	燧石	1			
覆土2	土器	Ⅱ群bⅡ類		合計	1002	
		Ⅲ群aⅡ類		49		
		Ⅳ群aⅡ類		4		
		Ⅳ群bⅡ類		8		
		Ⅳ群cⅡ類		9		
	銅片石器	石剣	黒曜石	1		
		つまみ付きナイフ	燧石	3		
		スタレイバー	燧石	2		
		Uフレイク	燧石	2		
		銅片	燧石	1		
燧石器	石片	緑色頁岩	25			
	すり石	砂岩	1			
	北海道式石剣	砂岩	2			
	たつき石	砂岩	1			
	加工痕のある燧石	花崗岩	2			
	燧石	燧石	2			
	燧石	燧石	2			
	燧石	燧石	2			
	燧石	燧石	2			
	燧石	燧石	2			
覆土3	土器	Ⅱ群bⅡ類		合計	145	
		Ⅲ群aⅡ類		49		
		Ⅳ群aⅡ類		15		
		Ⅳ群bⅡ類		8		
		Ⅳ群cⅡ類		9		
	銅片石器	石剣	黒曜石	1		
		つまみ付きナイフ	燧石	1		
		スタレイバー	燧石	1		
		Uフレイク	燧石	1		
		銅片	燧石	1		

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	数量	
V	覆土	土器	Ⅲ群b類		10	
			Ⅳ群a類		10	
		Ⅳ群c類		1		
		銅片石器	銅片	瓦割	1	
				黒曜石	1	
合計				22		
瓦版	銅片石版	つまみ付きナイフ	黒曜石		1	
合計				1		
合計				31		
V P-29	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		28		
合計				29		
V P-30	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		39		
合計				40		
V P-31	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
合計				2		
V P-32	土器	Ⅲ群b類		23		
		Ⅳ群c類		23		
合計				46		
V P-33	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
合計				2		
V P-34	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
銅片石器	銅片	黒曜石	2			
合計				4		
V P-35	瓦版	碑石類	Ⅲ群	砂岩	1	
			Ⅳ群	安山岩	11	
				砂岩	2	
				安山岩	1	
				砂岩	1	
				加工痕のある類	1	
				Ⅲ群	安山岩	8
				Ⅳ群	凝灰岩	1
					砂岩	17
		合計				46
V P-36	土器	土器	Ⅲ群b類		2	
			Ⅳ群c類		2	
		碑石類	加工痕のある類	砂岩	1	
				Ⅲ群	凝灰岩	1
		合計				6
V P-37	土器	Ⅲ群b類		7		
		Ⅳ群c類		1		
合計				8		
V P-38	土器	Ⅲ群b類		75		
		Ⅳ群c類		1		
銅片石器	銅片	瓦割	1			
		黒曜石	13			
		凝灰岩	1			
		砂岩	1			
碑石類	たなま石	輝石凝灰岩	1			
合計				91		
V P-40	土器	Ⅲ群b類		53		
		Ⅳ群c類		1		
		銅片石器	Rフレイク	チャート	2	
		黒曜石	2			
合計				58		
V P-41	土器	土器	Ⅲ群b類		85	
			Ⅳ群c類		35	
		銅片石器	石鏃	黒曜石	1	
				Rフレイク	瓦割	1
				黒曜石	1	
				銅片	凝灰岩	13
				石鏃	輝石凝灰岩	1
				石鏃	砂岩	2
				Ⅲ群	安山岩	1
				Ⅳ群	凝灰岩	2
石製品	玉	黒曜石	1			
合計				120		
V P-42	土器	Ⅲ群b類		2		
		Ⅳ群c類		120		
合計				122		
V P-43	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
		銅片石器	Rフレイク	黒曜石	1	
		銅片	黒曜石	4		
合計				6		
V P-44	土器	Ⅲ群b類		15		
		Ⅳ群c類		2		
合計				17		
V P-45	土器	土器	Ⅲ群b類		3	
			Ⅳ群c類		3	
		銅片石器	銅片	黒曜石	2	
		碑石類	石鏃	片岩	1	
				Ⅲ群	砂岩	3
合計				12		

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	数量	
V P-47	土器	Ⅲ群b類			5	
					5	
合計				10		
V P-48	土器	Ⅲ群b類			5	
					1	
		碑石類	石鏃	砂岩	1	
合計				6		
V P-49	土器	Ⅲ群b類			30	
					4	
		碑石類	北海道式石版	砂岩	1	
				土製品	粘土	1
		合計				36
V P-50	土器	Ⅲ群a類		2		
		Ⅳ群b類		6		
		銅片石器	Rフレイク	黒曜石	1	
合計				9		
V P-51	土器	Ⅲ群b類		1		
		銅片石器	銅片	黒曜石	20	
合計				21		
V P-52	土器	Ⅲ群b類		4		
		銅片石器	石鏃	黒曜石	1	
		銅片	砂岩	6		
		碑石類	石のみ	輝石凝灰岩	1	
合計				12		
V P-53	土器	土器	Ⅲ群b類		16	
			Ⅳ群c類		1	
		銅片石器	銅片	黒曜石	1	
				銅片	砂岩	4
				碑石類	石のみ	輝石凝灰岩
合計				22		
V P-54	土器	土器	Ⅲ群b類		19	
			Ⅳ群c類		1	
		銅片石器	銅片	砂岩	2	
				安山岩	1	
		合計				23
V P-55	土器	土器	Ⅲ群b類		11	
			Ⅳ群c類		1	
		銅片石器	銅片	砂岩	1	
				砂岩	1	
		合計				14
V P-56	土器	土器	Ⅲ群b類		4424	
			Ⅳ群c類		1	
		銅片石器	銅片	砂岩	4419	
				片岩	5	
				碑石類	Ⅲ群	安山岩
合計				4424		
V P-57	土器	Ⅲ群b類		9		
		Ⅳ群c類		1		
合計				10		
V P-58	土器	Ⅲ群b類		19		
		銅片石器	銅片	黒曜石	8	
合計				27		
V P-59	土器	Ⅲ群b類		116		
		銅片石器	銅片	黒曜石	1	
合計				117		
V P-60	土器	Ⅲ群b類		117		
		Ⅳ群c類		1		
合計				118		
V P-61	土器	Ⅲ群b類		229		
		Ⅳ群c類		1		
合計				230		
V P-62	土器	Ⅲ群b類		231		
		Ⅳ群c類		4		
銅片石器	ナール	砂岩	1			
		Ⅲ群	輝石凝灰岩	3		
合計				239		
V P-63	土器	土器	Ⅲ群b類		8	
			Ⅳ群c類		1	
		七器	Ⅲ群b類		9	
				Ⅳ群a類		1
		銅片石器	銅片	瓦割	2	
		石鏃	砂岩	1		
合計				22		
V P-64	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
銅片石器	銅片	砂岩	1			
合計				3		
V P-65	土器	Ⅲ群b類		5		
		Ⅳ群c類		1		
銅片石器	銅片	黒曜石	1			
合計				7		
V P-66	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
銅片石器	Ⅲ群	安山岩	2			
合計				4		
V P-67	土器	Ⅲ群b類		1		
		Ⅳ群c類		1		
銅片石器	銅片	砂岩	1			
合計				3		
V P-68	土器	Ⅲ群b類		2		
		Ⅳ群c類		2		
銅片石器	銅片	砂岩	1			
合計				5		
V P-69	土器	Ⅲ群b類		2		
		Ⅳ群c類		2		
銅片石器	銅片	砂岩	1			
合計				5		
V P-70	土器	Ⅲ群b類		4		
		Ⅳ群c類		2		
銅片石器	銅片	黒曜石	2			
合計				8		

表3 遺構出土土器等一覽

発掘/高取 遺構種別	遺構名	分類										不明	土製品	合計			
		Ⅰ群a類	Ⅰ群b類	Ⅱ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群b類	Ⅳ群	Ⅳ群a類	Ⅳ群b類	Ⅴ群a類	Ⅴ群b類						
住居跡	VH-1		3	1			13		2						16	20	
	VH-2		86			1	4									107	
	VH-3	1	52				59		85		2				7	196	
	VH-4		349				4									357	
	VH-5		1						989							3	994
	VH-6		409													45	452
	VH-7		48					1	685							5	540
	VH-8		25														25
	VH-9		1			1	9	1			6	1					19
	VH-10	3	473			3						1				4	484
	VH-11										5						5
	VH-12				1						41						42
	VH-13	7															7
	VH-14								1	363							364
	VH-15		394				22		1	12	8				2		439
	VH-16						1			34	48						83
	VH-17		185			403	34			17	11					58	706
合計		11	3036	2	438	146	2	1564	472	60	1			140		4842	
七坑	VP-1		64												2	66	
	VP-2					1									1	2	
	VP-4		1													2	
	VP-6														2	2	
	VP-8		96						1						2	99	
	VP-11	1	116												3	120	
	VP-12		1													1	1
	VP-14		8													1	9
	VP-15															30	30
	VP-16		3													1	4
	VP-17															122	122
	VP-18		3													1	4
	VP-19		1													1	2
	VP-20															18	18
	VP-21															6	6
	VP-22															1	1
	VP-23		71													1	71
	VP-24		2													2	2
	VP-29		5						12			1					18
	VP-30					1						30					40
	VP-32		25														25
	VP-34		1					1									2
	VP-36		2		1												3
	VP-37																1
	VP-39										75				1		75
	VP-40										52						52
	VP-41										85	12					97
	VP-42										7						7
	VP-44					1						2					3
	VP-46										5						5
	VP-47		5														5
	VP-48										2						2
	VP-50		50											1			51
	VP-52								2		6						8
VP-54										3						4	
VP-55										4						4	
VP-56										1						1	
VP-57		9														9	
VP-58											19					19	
VP-59			116													116	
VP-61			230													230	
VP-62			1													1	
VP-63			1						3							4	
VP-64		1				1				1						3	
VP-67									1	1						2	
VP-69										2						2	
VP-71										4						4	
VP-72										5						5	
VP-73										3						3	
VP-74																1	
合計	1	813	1	0	4	1	19	273	64	0				213		1579	
Tピット	VTP-7		1													1	
	VTP-5		4													4	
	VTP-10		31													31	
	VTP-11					7										7	
	VTP-13		1													1	1
	VTP-15										1						1
VTP-16										1						1	
合計	5	39	0	0	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	46	
小ピット	VSP-2		10												2	12	
	VSP-15	1														1	
合計	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		13	
雑土	VF-2		1													1	
	VF-3		1			14										15	
	VF-14									1						1	
	VF-17									4						4	
	VF-18									2						2	2
合計	0	1	0	0	15	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	23	

合計/点数	遺物名	分類										不明	土製品	合計			
		Ⅰ群a種	Ⅰ群b種	Ⅱ群	Ⅲ群a種	Ⅲ群b種	Ⅳ群	Ⅳ群a種	Ⅳ群b種	Ⅳ群c種	Ⅳ群d種						
	VS-1																1
	VS-2																20
	VS-3																5
	VS-4																4
	VS-5																4
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	4	28	0	0	1	1	1	34
総計		18	2992	3	496	172	3	1599	780	114	1	1	1	1	1	1	6337

表4 遺構出土石器等一覧

遺構種別	遺構名	遺物名															総計										
		石鏃	石鏃	石鏃・ナイフ	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面磨製石器	Rフレイク	Uフレイク	石鏃	削片	石斧	石のり	たたき石	台石	すり石		北海道式石鏃	石皿	砥石	石鏃	石鏃	加工済ある鏃	砥石	磨・薄片	石鏃	
住居跡	VH-1	4		5	1	2		6	3		12,896	3	1	1					1	3		9		10		12,945	
	VH-2	4	1	2	3	1	1	1			4,539	13		3		2	3	3				9		39		4,618	
	VH-3	14	5	6	1			5		2	6,945	3		1			6		8	1		3		13		7,013	
	VH-4	24	2	1	5	1		8			11,236	7		4	1	4	2		1	5		24		1	5	11,805	
	VH-5										8																4
	VH-5・HF-1	2									1,866																9
	VH-6	7	1	1				2			3,690	6					3	1	2			5		24		3,742	
	VH-7	2			2						70						1										11
	VH-8	1	1	1							32						1		3								6
	VH-9	1	2					2			61	3															2
	VH-10	3	2	5	2	2	1				1,850	4		3	2		17	6	3		4	3	1	157		2,065	
	VH-11	1				1					422					1											426
	VH-12			1							12			1	4												7
	VH-13								3																		3
	VH-14	5		1		1	1				1,644											1	2	171			1,826
	VH-15	7		4	3		2	1			643	5		3	1	3	22	1	6		1	11				71	
	VH-15・HP-1										2																2
VH-16						2	3	1		66			1			1		1			9	1	3			82	
VH-17	8		8	2		11	1			5,643	2		3	1	1	14		5			10		48			5,757	
土坑	VP-1	1		1						14					1	2	2	2		1						31	
	VP-2																		1							3	
	VP-3																					1					19
	VP-4										11						1										18
	VP-6																1										7
	VP-8										2																2
	VP-11	1		1							3												1				2
	VP-12										2																2
	VP-13	1									12		1														1
	VP-14	1					1				4																1
	VP-15	1																									2
	VP-16																	2									4
	VP-17																	1									1
	VP-18										1	1											1				5
	VP-22										1																1
	VP-24																		8								15
	VP-29					1					7	1											1				13
	VP-31																										1
	VP-33																										1
	VP-34										2																1
	VP-36																	2		15	1			1			23
	VP-36																						3				1
	VP-39										15			1													16
	VP-40							1			2																3
	VP-41	1						2			36	2		1													4
	VP-42							1			4																5
	VP-45										2	1															2
	VP-48																			1							1
	VP-50										4							1									5
	VP-52									1																	1
VP-54										21																21	
VP-55	1									10			1													12	
VP-56	1									4,421														1		4,423	
VP-58									1	7																8	
VP-59										1																1	
VP-60																									1	1	

遺構種別	遺構名	遺物名														総計																		
		石製	石製	つまみ付石ナイフ	石製ナイフ	スクレイパー	西国産燧石	Rフレイク	Uフレイク	割片	石のすみ	石の末	たたき石	台石	すり石		北海道産燧石	砥石	砥石	砥石	加工済める礫	砥石	砥石片	石製品										
土坑	VP-61																								1									
	VP-62															1								3	4									
	VP-63									1						2									3									
	VP-64																								2									
	VP-66										1														5									
	VP-67										1														1									
	VP-71										2														2									
	VP-72											1													6									
	VP-73																								1									
VP-78																								1										
Tピット	VTP-1										2														2									
	VTP-2																								1									
	VTP-7											1	3												13									
	VTP-8																								1									
	VTP-10																								1									
	VTP-11											8													9									
小ピット	VSP-1																								1									
	VSP-2																								20									
機土	VF-1																								2									
	VF-2										1														1									
	VF-3										6	1													7									
	VF-6											12													12									
	VF-7																								2									
	VF-12											1													1									
	VF-13											18													19									
	VF-14											83													85									
	VF-15											5													5									
機石	VS-1																								1									
	VS-2																								57									
	VS-3										3														40									
	VS-4																								71									
	VS-5																								131									
	VS-6											8													121									
VF C-1											60													60										
総計											91	9	19	37	11	1	50	17	4	56,428	53	2	24	15	18	82	102	37	1	8	74	50,172	11	56,261

表5 遺構出土掲載土器一覽

図番	遺構名	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図番番号	備考
図IV-2-1-1	VP-57	VP-57・1×4	計44	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-1	
		N35・1×13, N35・2×28		V			
図IV-2-2-2	VP-59	VP-59・1×26	計39	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-1	
		K32・2×13		V			
図IV-2-3-3	VP-61	VP-61・1×24, VP-61・9×57	計81	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-1	図取26 石皿と一緒に出土
		VP-61・10×2		機土			
図IV-2-4-4	VH-4	VH-4・54×2, VH-4・62×3,	計5	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	
		VH-4・75×1		機土			
図IV-2-4-5	VH-6	VH-6・122×1, VH-6・124×3	計4	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	図取27
		NH-4×1		V			
図IV-2-4-6	VH-6	VH-6・122×2, VH-6・141×1	計20	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	図取27 横割して出土
		VH-6・1×1, VH-6・5×1,		機土			
図IV-2-4-7	VH-10	VH-6・6×1, VH-6・7×1	計4	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	図取28
		VH-6・140×4		機土			
図IV-2-4-8	VH-10	VH-10・2×2, VH-10・5×10	計12	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	
		VH-10・6×9		機土			
図IV-2-5-9	VH-15	VH-8・1×1, VP-8・8×1,	計10	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	
		VH-15・27×6		機土			
図IV-2-5-10	VH-15	VH-8・6×1, VP-8・8×1,	計10	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	
		VH-15・185×50		機土			
図IV-2-5-11	VH-17	VH-17・107×3	計2	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	
		VH-17・115×1, VH-17・115×1		機土			
図IV-2-5-12	VP-8	VP-8・2×1, VP-8・4×2,	計41	機土	燧元製煉(口縁-胴部)	II b-2	
		VP-8・5×1, VP-8・6×1,					
		VP-8・7×1, VP-8・8×1,					
		VP-8・9×2, VP-8・10×1,					
		VP-8・11×2, VP-8・12×1,					
		VP-8・13×1, VP-8・14×1,					
		VP-8・15×1, VP-8・16A×2,					
		VP-8・18×1, VP-8・54×1					
		O31・2×3, O31・6×7,					
		P31・3×7					

図番号	透通名	設置区・透通番号×点数	部位	部位	分類	図番番号	備考					
図IV-2-5-13	VP-11	VP-11-8×4, VP-11-6×1, VP-11-7×1, VP-11-11×2, VP-11-12×1, VP-11-17×1	計10 覆土2	復元躯体(口縁~底部)	IV b-1	図版26						
		VP-11-4×1, VP-11-47×1	計2 覆土									
		VP-11-38×1, VP-11-38×2, VP-11-34×1, VP-11-35×2, VP-11-36×2, VP-11-36×3, VP-11-39×1, VP-11-41×1 VP-39-6×1	計13 覆土									
図IV-2-6-14	VP-23	VP-23-1×21 R28-4×16	計4 覆土	復元躯体(口縁~胴部)	IV b-1							
図IV-2-6-15	VP-50	VP-50-1×2, VP-50-2×2 H21-5×3	計4 V	復元躯体(口縁~胴部)	IV b-2							
図IV-2-6-16	VH-2	VH-2-264×1, VH-2-255×1 VF-2-1×1, VF-3-2×1, VF-3-2×5, VF-3-3×4, VF-3-10×1, VF-3-3×11, VF-3-12×1, VF-3-13×1	計2 計15 覆土上面	復元躯体(口縁~底部)	IV b-3							
		H11-2×1, L20-10×1, M25-11×1, P10-3×1, Q10-10×1, Q11-8×26	計31 V									
図IV-2-7-17	VH-5 HF-1	VH-5-HF-1-3×1, VH-5-HF-1-4×1, VH-5-HF-1-5×1, VH-5-HF-1-6×1, VH-5-HF-1-7×1, VH-5-HF-1-8×1, VH-5-HF-1-14×1, VH-5-HF-1-15×1, VH-5-HF-1-16×1, VH-5-HF-1-17×1, VH-5-HF-1-18×1, VH-5-HF-1-19×1, VH-5-HF-1-20×1, VH-5-HF-1-21×1, VH-5-HF-1-28×1	計15 覆土1	復元躯体(口縁~胴部)	IV a-2	図版29	土留部F					
		VH-5-HF-1-32×1, VH-5-HF-1-33×1, VH-5-HF-1-54×1	計3 覆土2									
		VH-5-HF-1-59×1, VH-5-HF-1-60×1, VH-5-HF-1-61×1, VH-5-HF-1-71×1, VH-5-HF-1-74×2, VH-5-HF-1-79×1	計7 覆土3									
		VH-5-HF-1-87×1, VH-5-HF-1-87×1, VH-5-HF-1-87×1, VH-5-HF-1-87×1, VH-5-HF-1-125×1	計10 覆土4上面									
		VH-7-HF-1-13×7, VH-7-HF-1-15×5	計12 覆土					復元躯体(口縁~胴部)	IV a-2	図版29	土留部F	
		VH-7-HF-1-2×4 VH-7-HF-1-3×17, VH-7-HF-1-4×2, VH-7-HF-1-5×3, VH-7-HF-1-6×6, VH-7-HF-1-7×1, VH-7-HF-1-8×4, VH-7-HF-1-10×1	計84 床面									
		VH-7-HF-1-13×7, VH-7-HF-1-15×5	計12 覆土									
		VH-7-HF-1-2×4 VH-7-HF-1-3×17, VH-7-HF-1-4×2, VH-7-HF-1-5×3, VH-7-HF-1-6×6, VH-7-HF-1-7×1, VH-7-HF-1-8×4, VH-7-HF-1-10×1	計84 床面									
		図IV-2-8-18	VH-7 HF-1					VH-7-HF-1-13×7, VH-7-HF-1-15×5 VH-7-HF-1-2×4 VH-7-HF-1-3×17, VH-7-HF-1-4×2, VH-7-HF-1-5×3, VH-7-HF-1-6×6, VH-7-HF-1-7×1, VH-7-HF-1-8×4, VH-7-HF-1-10×1	計84 床面	復元躯体(口縁~胴部)	IV a-2	
		図IV-2-9-19	VP-39					VP-39-6×35 1-4-20×3	計5 V	復元躯体(口縁~底部)	IV b-1	
図IV-2-10-30	VP-17	VP-17-1×1 P43-3×34, P43-5×3, P43-10×1	計28 V	復元躯体(口縁~胴部)	IV b-1							
図IV-2-11-21	VP-42	VP-42-1×3 16-10×1, J5-12×3, J7-8×1, J7-9×1	計6 V	復元躯体(口縁~胴部)	IV b-1							
図IV-2-11-22	VP-74	VP-74-1×1 S48-4×3	計1 V	復元躯体(口縁~底部)	IV b							
図IV-2-11-23	VH-14	VH-14-21×5, VH-14-22×1, VH-14-37A×21, VH-14-37B×17, VH-14-37C×24, VH-14-37D×12, VH-14-37E×2, VH-14-82×3, VH-14-81×3	計58 覆土1	復元躯体(口縁~底部)	IV b-2	図版30	34・35と一括で土止					
		VH-14-12×1, VH-14-38×2, VH-14-41×1, VH-14-42×1, VH-14-44×2, VH-14-46×1, VH-14-50×1, VH-14-53×1, VH-14-57×1, VH-14-58×1, VH-14-60×2, VH-14-61×1, VH-14-63×1, VH-14-64×1, VH-14-65×1, VH-14-67×1, VH-14-69×1, VH-14-71×1, VH-14-76×1, VH-14-78×3, VH-14-81×4	計29 覆土2									
図IV-2-11-24	VH-14	VH-14-12×1, VH-14-38×2, VH-14-41×1, VH-14-42×1, VH-14-44×2, VH-14-46×1, VH-14-50×1, VH-14-53×1, VH-14-57×1, VH-14-58×1, VH-14-60×2, VH-14-61×1, VH-14-63×1, VH-14-64×1, VH-14-65×1, VH-14-67×1, VH-14-69×1, VH-14-71×1, VH-14-76×1, VH-14-78×3, VH-14-81×4	計29 覆土2	復元躯体(口縁~胴部)	IV b-2		23・25と一括で土止					
図IV-2-11-25	VH-14	VH-14-3×22, VH-14-16×1,	計1 覆土1	復元躯体(口縁~胴部)	IV b-2							

図番号	遺構名	測量区・建物番号×点座	層位	部位	分類	図原番号	備考
図IV-2-11-25	VH-14	VH-14・17×1, VH-14・91×1, VH-14・96×1	計26	覆土1	復元部(口縁~胴部)	IV b-2	図原30
		VH-14・28×6	覆土2				
図IV-2-11-26	VH-16	F0-2・27, Q43・4×1	計5	V	復元部(口縁~底部)	IV b-2	
		VH-16・1×34	床面				
図IV-2-12-27	VP-41	VP-41・42×1	計1	覆土1	復元部(口縁~胴部)	IV b-3	図原31
		G6・12×3, G6・18×2, G6・21×9, G7・9×3, G17・1×1, H6・16×5, H6・24×2, H7・9×3, H7・28×1, H8・7×2, H8・25×1, J7・2×1, J8・6×1, F36・1×2, Q15・10×4, Q16・3×2, Q16・5×1	計43	V			
		VH-16・4×1	覆土				
		F10・2×5, G10・3×14, H6・5×5	計24	V			
		G10・3×2	V				
		VH-16・17×4	覆土1				
		G11・3×1	V				
		VP-20	VP-20・2×28	覆土1			
		VSP-25	VSP-25・1×1	覆土			
		L19・3×1	V				
図IV-2-12-29	VH-16	G10・3×2	計1	V	復元土器(胴部)	IV c-1	同一部体
		G11・3×1	覆土				
図IV-2-12-30	VP-20	VP-20・2×28	覆土1	復元土器(口縁~底部)	IV c-1		
図IV-2-13-31	VSP-25	VSP-25・1×1	覆土	口縁部	II a-2		
図IV-2-13-32	VTF-8	VTF-8・1×2 L38・1×1	計2	覆土 V砂	胴部	II a-1	
図IV-2-13-33	VH-2	VH-2・358×2	計2	床面	口縁部	II b-2	同一部体
		VH-2・358×1	計1	床面	口縁部		
図IV-2-13-34	VH-2	VH-2・352×1	計1	床面	胴部	II b-2	
		VH-2・358×1	計1	床面	胴部		
図IV-2-13-35	VH-2	VH-2・2×2	計1	覆土	胴部	II b-2	同一部体
		VH-2・8×1, VH-2・9×1, VH-2・11×1	計3	覆土	胴部		
図IV-2-13-36	VH-3	VH-3・133×1	計1	覆土	胴部	II b-1	
図IV-2-13-37	VH-3	VH-3・111×1, VH-3・121×1	計2	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-13-38	VH-3	VH-3・41×1, VH-3・139×7 J16・18×1	計6	覆土 V	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-13-39	VH-3	VH-3・214×1	計1	床面	胴部	II b-2	
図IV-2-13-40	VH-3	VH-3・228×1	計1	床面	胴部	II b-2	
図IV-2-13-41	VH-4	VH-4・69×2	計2	覆土	口縁部	II b-1	
図IV-2-13-42	VH-4	VH-4・20×1	計1	覆土	口縁部	II b-1	
図IV-2-13-43	VH-4	VH-4・10×1	計1	床面	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-13-44	VH-4	VH-4・34×1, VH-4・86×3	計4	床面	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-13-45	VH-4	VH-4・47×1	計1	覆土	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-13-46	VH-4	VH-4・54×2	計2	覆土	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-13-47	VH-4	VH-4・106×1	計1	覆土	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-13-47	VH-4	VH-4・62×1	計1	覆土	胴部	II b-1	
図IV-2-13-48	VH-4	VH-4・62×1	計1	覆土	胴部	II b-2	
図IV-2-13-49	VH-4	VH-4・62×1	計1	覆土	胴部	II b-3	
図IV-2-14-50	VH-6	VH-6・261×2	計2	覆土1	口縁~胴部	II b-2	
		VH-6・299×1	計1	床面			
図IV-2-14-51	VH-6	VH-6・204×1	計1	床面	口縁部	II b-2	
図IV-2-14-52	VH-6	VH-6・189×1	計1	床面	口縁部	II b-2	
図IV-2-14-53	VH-6	VH-6・251×1	計1	床面	口縁部	II b-2	
		VH-6・310×1	計1	床面			
図IV-2-14-54	VH-6	VH-6・194×1	計1	床面	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-14-55	VH-6	VH-6・233×1	計1	床面	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-14-56	VH-6	VH-6・252×2	計2	床面	口縁部	II b-2	
図IV-2-14-57	VH-6	VH-6・241×1	計1	床面	口縁部	II b-2	同一部体
		VH-6・44×1 Q20・4×1	計1	覆土 V			
図IV-2-14-58	VH-6	VH-6・218×1, VH-6・223×1, VH-6・273×1	計3	床面	胴部	II b-2	
		VH-6・75×1	計1	覆土2			
図IV-2-14-59	VH-6	VH-6・288×1, VH-6・298×1	計2	床面	胴部	II b-2	
図IV-2-14-60	VH-6	VH-6・304×1	計1	床面	底部	II b-2	
図IV-2-14-61	VH-6	VH-6・165×1	計1	床面	胴部	II b-3	
図IV-2-14-62	VH-6	VH-6・91×1	計1	覆土2	胴部	II b-3	
図IV-2-14-63	VH-8	VH-8・15×1	計1	覆土	口縁部	II b-1	
図IV-2-14-64	VH-8	VH-8・18×1	計1	覆土	胴部	II b-1	
図IV-2-15-05	VH-10	VH-10・107×3	計3	H P-1 覆土	口縁部	II b-1	
図IV-2-15-06	VH-10	VH-10・117×1	計1	H P-2 覆土	口縁~胴部	II b-2	
図IV-2-15-07	VH-10	VH-10・2×1	計1	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-08	VH-10	VH-10・2×1	計1	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-09	VH-10	VH-10・3×1	計1	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-10	VH-10	VH-10・5×1	計1	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-11	VH-10	VH-10・5×1	計1	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-12	VH-10	VH-10・2×1	計1	覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-13	VH-10	VH-10・119×1	計1	H P-4 覆土	口縁部	II b-2	
図IV-2-15-14	VH-10	VH-10・30×1	計1	覆土	口縁部	II b-3	
図IV-2-15-15	VH-10	VH-10・2×1	計1	覆土	口縁部	II b-3	

图号	名称	规格、结构符号×数量	部位	单位	分册	图号	备注		
图IV-2-15-76	VH-10	VH-10-116×1	H P-2 顶板	钢板	图 b-2	图集35			
图IV-2-15-77	VH-10	VH-10-124×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-15-78	VH-10	VH-10-4×1, VH-10-5×1	衬2 顶板	钢板	图 b-1	同一整体			
图IV-2-15-79	a b	VH-10 VH-10-2×2	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-15-80	VH-10	VH-10-5×3	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-15-81	VH-10	VH-10-124×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-15-82	a	VH-10	VH-10-114×15	H P-2 顶板	钢板-钢板	图 b-3	同一整体		
	b	VH-10	VH-10-105×16	H P-1 顶板	钢板				
图IV-2-16-83	VH-15	VH-15-215×1	顶板	钢板	图 b-2	图集34			
图IV-2-16-84	VH-15	VH-15-147×1	顶板上盖	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-85	VH-15	VH-15-114×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-86	VH-15	VH-15-97×3	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-87	VH-15	VH-15-73×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-88	VH-15	VH-15-149×1	顶板上盖	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-89	VH-15	VH-15-73×3	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-90	VH-15	VH-15-136×4	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-91	VH-15	VH-15-135×1	顶板上盖	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-92	VH-15	VH-15-63×1	顶板	钢板	图 b-3				
图IV-2-16-93	VH-15	VH-15-144×1	顶板上盖	钢板	图 b-3				
		Q21-15×1	V	钢板	图 b-3				
图IV-2-16-94	VH-15	VH-15-63×1	顶板	钢板	图 b-3				
		N25-7×1	V	钢板	图 b-3				
图IV-2-16-95	VH-17	VH-17-119×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-16-96	VH-17	VH-17-73×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-16-97	VH-17	VH-17-113×2	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-16-98	VH-17	VH-17-4×1	顶板	钢板	图 b-3				
		K13-5×1	V	钢板	图 b-3				
图IV-2-16-99	VH-17	VH-17-68×1	顶板	钢板	图 b-3				
		W23-3×1	V	钢板	图 b-3				
图IV-2-16-100	VP-1	VP-1-16×1	顶板	钢板	图 b-2	图集36			
图IV-2-16-101	VP-1	VP-1-57×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-102	VP-1	VP-1-29×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-103	VP-1	VP-1-107×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-104	VP-1	VP-1-35×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-16-105	VP-8	VP-8-3×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-16-106	VP-8	VP-8-17×1	顶板	钢板	图 b-2				
	a	VP-11-14×2, VP-11-15×2	顶板	钢板-钢板	图 b-2				
		VP-11-55×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-107	b	VP-11	VP-11-8×1, VP-11-10×1, VP-11-16×1, VP-11-18×1, VP-11-21×1, VP-11-23×1, VP-11-54×1	衬7 顶板	钢板-钢板		图 b-2	同一整体	
			VP-11-47×2	顶板	钢板				
			VP-11-31×1	顶板	钢板				
	c		VH-3-209×1	V	钢板				
			J15-3×1	V	钢板				
图IV-2-17-108	VP-14	VP-14-4×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-109	VP-16	VP-16-1×3	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-110	VP-24	VP-24-8×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-17-111	VP-24	VP-24-3×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-17-112	VP-29	VP-29-12×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-113	VP-29	VP-29-5×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-114	a	VP-29	VP-29-2×1	顶板	钢板	图 b-3	同一整体		
	b	VP-34	VP-34-1×1	顶板	钢板				
图IV-2-17-115	VP-32	VP-32-1×1, VP-32-4×1,	顶板	钢板	钢板-钢板	图 b-2			
图IV-2-17-116	VP-36	VP-36-1×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-117	VP-47	VP-47-1×1, VP-47-2×1	衬2 顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-17-118	VP-50	VP-50-7×1	顶板	钢板	图 b-3				
图IV-2-17-119	VP-62	VP-62-1×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-18-120	VTP-10	VTP-10-1×1	顶板	钢板	图 b-1				
图IV-2-18-121	VSP-2	VSP-2-1×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-18-122	VSP-2	VSP-2-1×1	顶板	钢板	图 b-2				
图IV-2-18-123	a	VH-10	VH-10-165×1	H P-3 顶板	钢板-钢板	图 a-1	同一整体		
	b	VH-10	G19-5×4, G19-12×1, G19-9×1	衬12 V	钢板				
			G19-5×3, G19-12×2	衬6	钢板				
	c		VH-17-5×2	V	钢板				
			VH-17-5×2	顶板上	钢板				
图IV-2-18-124	b	VH-17	K12-2×1	V	钢板	图 a-1	同一整体		
			K12-2×2	V	钢板				
			VH-17-5×2	顶板上	钢板				
			K12-2×2	V	钢板				
	d		VH-17-5×16	顶板上	钢板				
			K12-2×5, K12-7×2	衬10	钢板				
图IV-2-19-125	VH-1	VH-1-129×1	顶板	钢板	图 b-3				
图IV-2-19-126	a b	VH-1	VH-1-162×1, VH-1-333×1	顶板	钢板	图 b-3	同一整体		
图IV-2-19-127	VH-1	VH-1-215×1	顶板	钢板	图 b-3				
图IV-2-19-128	VH-3	VH-3-38×1	顶板	钢板	图 b-3				
图IV-2-19-129	VH-3	VH-3-67×5, VH-3-68×1,	顶板	钢板	钢板-钢板	图 b-3			

図番号	遊名	設置区・遊物番号×点数	種別	遊位	分類	図番号	遊名
図IV-2-19-129	VH-3	VH-3・110×1	計7	複士	口籠→胴部	図版36	同一遊体
図IV-2-19-130	VH-3	VH-3・214×1	複士	胴部	胴部		
図IV-2-19-131	VH-4	VH-4・35×2	計5	複士	口籠部		
図IV-2-19-132	VH-9	VH-9・6×1	複士	口籠部	胴部		
図IV-2-19-133	VH-9	VH-9・9×1	複士	胴部	胴部		
図IV-2-19-134	VH-4	VH-4・110×3	複士	胴部	胴部		
a	VH-5 HF-1	VH-5・HF-1・124×1	計4	複士4上座	口籠部		
b	VH-5 HF-1	VH-5・HF-1・25×1	計1	複士2	口籠部		
c	VH-5 HF-1	VH-5・HF-1・104×1	計1	複士2	胴部		
図IV-2-19-136	VH-5 HF-1	VH-5・HF-1・57×4	計4	複士4上座	胴部		
図IV-2-19-136	VH-5 HF-1	VH-5・HF-1・29×1	計1	複士2	口籠部		
図IV-2-19-137	VH-7	VH-7・27×1	計1	複士	口籠部		
図IV-2-19-138	VH-62	VH-62・4×1	計1	複士	胴部		
図IV-2-20-139	VH-9	VH-9・5×1	計1	複士	胴部		
図IV-2-20-140	VH-9	VH-9・21×1, VH-9・22×1	計2	複士	胴部		
図IV-2-20-141	VH-11	VH-11・9×1	計1	HF-2 複士	胴部		
a	VH-11	1.3・7×1, L.3・7×1, L.3・12×1, L.3・13×2, L.3・14×3	計6	V	口籠→胴部	図版37	同一遊体
b		VH-11・4×1	計1	床面付足	胴部		
c		1.3・9×1, 1.4・23×3, K.4・14×1	計5	V	胴部		
d	L.3・13×5, L.3・21×1, L.3・13×3	計6	V	胴部			
図IV-2-20-145	VH-12	VH-12・14×1	計1	床付足	口籠部	IV b-1	
図IV-2-20-146	VH-12	VH-12・16×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-20-146	VH-12	VH-12・13×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-20-146	VH-12	VH-12・14×1	計1	床付足	胴部	IV b-1	
a	VH-12	VH-12・10×2	計1	床付足	胴部	IV b-1	同一遊体
b		J.1・19×1, J.1・20×1, J.1・15×2, J.1・21×1, J.1・21×1	計4	V	胴部		
図IV-2-20-148	VH-12	VH-12・14×1	計1	床付足	口籠部	IV b-1	
図IV-2-20-149	VH-14	VH-14・96×1	計1	複士1	口籠→胴部	IV b-2	
図IV-2-20-150	VH-14	VH-14・48×2, VH-14・62×1	計3	複士2	口籠→胴部	IV b-2	
図IV-2-20-151	VH-14	VH-14・13×1, VH-14・80×2	計3	複士2	口籠→胴部	IV b-2	
図IV-2-20-152	VH-14	VH-14・82×1, VH-14・96×1	計2	複士1	口籠→胴部	IV b-2	
図IV-2-20-153	VH-14	G.10・4×1, K.42・3×1	計2	V	胴部	IV b-2	
図IV-2-20-153	VH-14	VH-14・35×1	計1	複士2	口籠部	IV b-2	
図IV-2-20-154	VH-14	VH-14・2×1	計1	複士1	口籠→胴部	IV b-2	
図IV-2-20-155	VH-14	VH-14・31×2	計2	複士	胴部	IV b-2	
図IV-2-21-156	VP-40	VP-40・2×1	計1	複士	口籠部	IV b-1	
図IV-2-21-157	VP-40	VP-40・5×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-158	VP-40	VP-40・2×2	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-159	VP-41	VP-41・12×1	計1	V	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-160	VP-41	VP-41・5×1	計1	複士	口籠部	IV b-1	
図IV-2-21-161	VP-41	VP-41・33×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-162	VP-41	VP-41・1×1	計1	複士	胴部	IV b-3	
図IV-2-21-163	VP-41	VP-41・31×1, VP-41・32×1	計2	複士	口籠→胴部	IV b-3	
図IV-2-21-164	VP-41	VP-41・13×4, VP-41・17×1	計5	複士	胴部	IV b-3	
図IV-2-21-164	VP-41	G.17・1×1, H.6・34×1	計2	V	胴部	IV b-3	
図IV-2-21-166	VP-41	VP-41・18×1, VP-41・19×1, VP-41・29×1, VP-41・21×2, VP-41・22×1, VP-41・23×1, VP-41・24×1, VP-41・25×1, VP-41・26×1, VP-41・29×1	計11	複士	口籠→胴部	IV b-3	
図IV-2-21-166	VP-42	VP-42・1×2	計1	複士	口籠部	IV b-1	
図IV-2-21-167	VP-45	VP-45・7×1	計1	複士	口籠部	IV b-1	
図IV-2-21-168	VP-45	VP-45・6×1	計1	複士	口籠部	IV b-1	
a	VP-45	VP-45・2×1	計1	複士	胴部	IV b-1	同一遊体
b		L.1・10×1	計1	V	胴部		
図IV-2-21-170	VP-45	VP-45・1×1	計1	複士	口籠部	IV b-1	
図IV-2-21-171	VP-48	VP-48・2×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-172	VP-54	VP-54・1×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-173	VP-55	VP-55・1×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-21-174	VP-55	VP-55・1×1	計1	複士	胴部	IV b-1	
図IV-2-22-175	VP-58	VP-58・1×1	計1	複士	口籠部	IV b-2	
図IV-2-22-176	VP-58	VP-58・1×1	計1	複士	胴部	IV b-2	
図IV-2-22-177	VP-67	K.65・13×4	計4	V	胴部	IV b-2	
図IV-2-22-177	VP-67	VP-67・2×1	計1	複士	胴部	IV b-2	
図IV-2-22-178	a	VP-69	VP-69・1×1	計1	複士	IV b-1	同一遊体
b	S.48・2×8	計8	V	胴部			
図IV-2-22-179	a	VP-71	VP-71・1×1	計1	複士	IV b-1	同一遊体
b	S.48・2×1	計2	V	胴部			
図IV-2-22-180	VP-72	VP-72・1×1	計1	複士	口籠部	IV b-1	
図IV-2-22-181	VP-74	VP-74・2×1	計2	複士	胴部	IV b-2	

図番号	遺構名	測量区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図IV-2-22-182	V F-18	V F-18・1×1	覆土	口縁部	IV b-2	図版39	同一物体
図IV-2-22-183	V S-1	V S-1・3×1	V	胴部	IV b-1		
図IV-2-22-184	V S-2	V S-2・1×1	V	胴部	IV b-2		
図IV-2-22-185	V S-5	V S-5・9×1	V	胴部	IV b-2		
図IV-2-22-186	V H-16	V H-16・4×8	覆土	口縁・胴部	IV c-1		
	b	F10・8×5	V	口縁部			
	b	V H-16・4×8	覆土	口縁部			
図IV-2-22-187	V P-41	V P-41・40×7	覆土	口縁・胴部	IV c-1		

表6 遺構出土陶磁土製品一覧

図番号	遺構名	測量区・遺物番号×点数	層位	分類	図版番号	備考
図IV-2-23-1	V H-2	V H-2・10×1	覆土	赤土製瓦片	図版40	ノデブ目式
図IV-2-23-2	V H-15	V H-15・71×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-23-3	V H-15	V H-15・70×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-23-4	V H-17	V H-17・1×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-23-5	V H-17	V H-17・100×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-23-6	V H-17	V H-17・131×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-23-7	V H-17	V H-17・130×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-23-8	V P-1	V P-1・21×1	V	横状粘土土塊		
図IV-2-24-9	V P-15	V P-15・17×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-10	V P-15	V P-15・18×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-11	V P-15	V P-15・19×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-12	V P-15	V P-15・22×2	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-13	V P-15	V P-15・21×4	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-14	V P-17	V P-17・18×10	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-15	V P-17	V P-17・8×4	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-16	V P-17	V P-17・19×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-17	V P-21	V P-21・4×1	覆土	横状粘土土塊		
図IV-2-24-18	V P-21	V P-21・3×1	覆土	横状粘土土塊		

表7 遺構出土陶磁土製品等一覧

図番号	遺構名	遺物番号	層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	図版番号	備考
図IV-2-26-1	V H-1	109	覆土	石鏃	(2.6)	1.8	0.3	1.2	黒曜石	図版39	
図IV-2-26-2	V H-1	357	床	石槍	3.3	2.0	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-2-26-3	V H-1	59	覆土	石槍	3.8	2.0	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-2-26-4	V H-1	213	床	石槍	(4.5)	1.9	0.6	4.4	黒曜石		
図IV-2-26-5	V H-1	178	床	石槍	(5.4)	3.3	0.8	13.0	頁岩		
図IV-2-26-6	V H-1	350	覆土	スレイバー	2.6	1.8	0.6	3.4	黒曜石		
図IV-2-26-7	V H-1	101	覆土	スレイバー	4.2	1.5	0.6	3.2	黒曜石		
図IV-2-26-8	V H-1	352	床	石のみ	9.0	2.1	0.9	40.8	泥岩		
図IV-2-26-9	V H-1	292	床	たたき石	7.5	6.7	5.0	431.5	珪岩		
図IV-2-26-10	V H-1	140	覆土	石皿片	(16.5)	(10.7)	(11.2)	275.2	安山岩		
図IV-2-27-1	V H-2	237	覆土	石鏃	(2.1)	1.6	0.3	0.8	頁岩	図版39	被熱
図IV-2-27-2	V H-2	5	覆土	スレイバー	(3.7)	1.6	0.8	4.8	黒曜石		
図IV-2-27-3	V H-2	263・264	床	石斧	11.1	4.2	1.4	117.9	緑色泥岩	図版39	被熱
図IV-2-27-4	V H-2	259	床	すり石	9.5	(8.5)	6.8	895.0	安山岩		
図IV-2-27-5	V H-2	39	覆土	すり石片	(9.0)	(3.3)	(5.7)	245.2	砂岩	北海道式石皿片	
図IV-2-27-6	V H-2 H P-3	346・347	坑底	石皿	29.5	25.8	3.5	7800.0	安山岩	被熱	
図IV-2-28-1	V H-3	96	覆土	石鏃	(2.3)	1.1	0.3	0.5	黒曜石	図版40	
図IV-2-28-2	V H-3	125	覆土	石鏃	2.4	1.3	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-2-28-3	V H-3	158	覆土	石鏃	1.7	1.4	0.2	0.5	黒曜石		
図IV-2-28-4	V H-3	92	床面	石槍	(3.9)	2.3	0.5	4.6	黒曜石		
図IV-2-28-5	V H-3	129	覆土	石槍	4.7	2.1	0.7	5.6	黒曜石		
図IV-2-28-6	V H-3	140	覆土	石槍	(3.3)	2.2	0.8	5.5	頁岩		
図IV-2-28-7	V H-3	97	覆土	石鏃	(2.3)	0.8	0.4	0.6	黒曜石		
図IV-2-28-8	V H-3	98	覆土	石鏃	(3.4)	1.4	0.5	3.0	頁岩		
図IV-2-28-9	V H-3	127	覆土	石鏃	3.0	1.5	0.4	1.4	頁岩		
図IV-2-28-10	V H-3	206	床	つまみ付きナイフ	6.6	2.7	1.2	19.8	頁岩		
図IV-2-28-11	V H-3	138	覆土	石鏃	4.6	(5.9)	1.8	70.9	砂岩		
図IV-2-28-1	V H-4	116	床	つまみ付きナイフ	3.1	2.0	0.5	3.4	頁岩	図版40	
図IV-2-28-2	V H-4	115	床	つまみ付きナイフ	7.4	1.8	1.2	21.0	頁岩		
図IV-2-28-3	V H-4	120	床	スレイバー	8.0	(4.2)	1.0	48.8	頁岩		
図IV-2-28-4	V H-4	119	床	砥石	(6.8)	(3.9)	1.4	53.0	砂岩		
図IV-2-28-1	V H-6	158	床	石鏃	3.1	1.4	0.4	1.1	黒曜石		
図IV-2-28-2	V H-6	266	床	石鏃	2.3	1.1	0.3	0.5	黒曜石		
図IV-2-28-3	V H-6	105	覆土	石鏃	(3.9)	1.3	0.3	1.5	黒曜石		
図IV-2-28-4	V H-6	207	床	石鏃	2.8	1.7	0.5	2.7	頁岩		

図番号	遺構名	遺物番号	層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	材質	図版番号	備考
図IV-2-28-5	VH-6	70	覆土2	つまみ付きナイフ	3.6	1.6	0.5	2.8	頁岩	図版80	
図IV-2-28-6	VH-6	146	床	砥石片	5.3	4.4	1.3	45.8	砂岩		
図IV-2-29-1	VH-7	20	覆土	石鏃	2.4	1.1	0.2	0.5	黒曜石		
図IV-2-29-2	VH-7	2	覆土	つまみ付きナイフ	5.4	1.3	0.7	5.8	頁岩		
図IV-2-29-3	VH-7	3	覆土	つまみ付きナイフ	5.2	1.6	0.8	6.5	頁岩		
図IV-2-29-1	VH-8	11	覆土	ナイフ	6.8	2.2	1.0	13.7	黒曜石		
図IV-2-29-2	VH-8	22	床	つまみ付きナイフ	5.8	1.9	0.4	6.4	頁岩		
図IV-2-29-1	VH-9	19	覆土	石鏃	(3.8)	1.9	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-2-29-2	VH-9	18	覆土	石鏃	(5.4)	2.6	0.6	8.0	黒曜石		
図IV-2-29-3	VH-9	14	覆土	石斧	8.9	3.2	0.8	46.2	緑色泥岩		
図IV-2-29-1	VH-10	64	覆土	石鏃	2.6	1.2	0.3	0.9	黒曜石	被熱	
図IV-2-29-2	VH-10	46	覆土	石鏃	6.6	2.4	0.8	11.1	チャート		
図IV-2-29-3	VH-10	120	覆土	つまみ付きナイフ	4.7	(1.5)	0.8	6.4	頁岩		
図IV-2-29-4	VH-10	18	覆土	つまみ付きナイフ	6.2	2.0	0.8	9.4	頁岩		
図IV-2-29-5	VH-10	71	覆土	すり石	8.7	8.8	5.7	592.0	安山岩	北海道式石鏃 被熱 北海道式石鏃片 接合	
図IV-2-29-6	VH-10 H19	23 9	覆土 V	すり石片	10.0	(8.7)	4.7	626.0	砂岩		
図IV-2-29-7	VH-10	22	覆土	石鏃	8.3	8.1	2.7	327.3	片麻岩	図版81	
図IV-2-29-8	VH-10	84	覆土	石鏃片	(5.8)	(3.7)	1.9	70.6	砂岩		
図IV-2-30-1	VH-11	1	床面付近	石鏃	(2.2)	1.7	0.3	0.8	黒曜石	被熱	
図IV-2-30-2	VH-11	2	床面付近	両面鋭角石鏃	3.8	2.4	0.7	6.8	黒曜石		
図IV-2-30-3	VH-11	8	床面付近	台石片	13.0	(15.5)	5.8	1878.0	砂岩		
図IV-2-30-4	VH-11	7	床面付近	石皿片	13.2	(11.3)	7.5	1717.0	砂岩		
図IV-2-30-1	VH-12	1	覆土	つまみ付きナイフ	12.5	4.1	1.0	51.0	黒曜石	図版82	
図IV-2-30-1	VH-14	111	覆土2	石鏃	(1.4)	1.2	0.3	0.4	黒曜石		
図IV-2-30-2	VH-14	110	覆土2	石鏃	(1.6)	(1.4)	0.3	0.4	黒曜石		
図IV-2-30-3	VH-14	8	覆土2	石鏃	2.3	1.5	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-2-30-4	VH-14	26	覆土2	石鏃	(1.9)	1.8	0.3	0.7	黒曜石		
図IV-2-30-5	VH-14	83	覆土1	つまみ付きナイフ	4.5	1.8	0.5	3.6	黒曜石		
図IV-2-31-1	VH-15	183	覆土4	石鏃	(1.3)	1.2	0.1	0.2	黒曜石		
図IV-2-31-2	VH-15	74	覆土2	石鏃	(2.0)	1.2	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-2-31-3	VH-15	11	覆土1	つまみ付きナイフ	5.0	1.7	0.7	5.5	黒曜石		
図IV-2-31-4	VH-15	31	覆土1	つまみ付きナイフ	(4.9)	1.7	0.5	5.2	頁岩		
図IV-2-31-5	VH-15	54	覆土2	つまみ付きナイフ	5.3	2.4	0.8	8.9	頁岩		
図IV-2-31-6	VH-15	88	覆土2	つまみ付きナイフ	6.5	2.3	0.9	14.6	頁岩		
図IV-2-31-7	VH-15	98	覆土2	スクレイパー	4.0	1.8	0.4	4.4	頁岩		
図IV-2-31-8	VH-15	171	覆土3	スクレイパー	(5.8)	2.7	1.0	17.4	泥岩		
図IV-2-31-9	VH-15	13	覆土1	石斧	(8.5)	4.4	0.9	51.6	片岩		
図IV-2-31-10	VH-15	75	覆土2	すり石	8.4	14.1	4.8	853.0	砂岩	北海道式石鏃 北海道式石鏃片	
図IV-2-31-11	VH-15	6	覆土1	すり石片	8.8	(6.3)	4.8	346.0	安山岩		
図IV-2-31-12	VH-15	56	覆土2	石鏃片	6.9	(5.7)	2.8	189.7	片麻岩		
図IV-2-32-1	VH-16	6	覆土	たたき石	15.0	6.4	2.2	465.2	緑色泥岩	図版83	
図IV-2-32-2	VH-16	7	覆土	砥石片	(6.0)	7.8	2.0	170.5	砂岩		
図IV-2-32-3	VH-16	8	覆土	加工痕のある鏃	9.0	(3.9)	1.5	71.1	緑色泥岩		石斧未成品?
図IV-2-32-4	VH-16	10	覆土	加工痕のある鏃	11.1	5.0	1.7	155.6	緑色泥岩		石斧未成品?
図IV-2-32-5	VH-16	9	覆土	加工痕のある鏃	11.9	4.6	1.5	145.6	緑色泥岩		石斧未成品?
図IV-2-33-1	VH-17	8	覆土1	石鏃	(2.5)	2.0	0.3	0.1	黒曜石		
図IV-2-33-2	VH-17	9	覆土1	石鏃	2.4	1.3	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-2-33-3	VH-17	42	覆土1	石鏃	2.3	1.4	0.4	1.1	黒曜石		
図IV-2-33-4	VH-17	10	覆土1	石鏃	(2.7)	1.3	0.3	1.2	黒曜石		
図IV-2-33-5	VH-17	11	覆土1	つまみ付きナイフ	5.6	3.0	0.6	10.7	黒曜石		
図IV-2-33-6	VH-17	13	覆土1	つまみ付きナイフ	8.6	2.3	0.6	13.8	頁岩		
図IV-2-33-7	VH-17	12	覆土1	つまみ付きナイフ	(4.6)	2.8	0.4	5.0	頁岩	図版82	
図IV-2-33-8	VH-17	93	覆土2	つまみ付きナイフ	6.8	3.0	0.6	11.9	頁岩		
図IV-2-33-9	VH-17	102	覆土2	つまみ付きナイフ	1.9	3.5	0.6	4.2	頁岩		
図IV-2-33-10	VH-17	75	覆土2	スクレイパー	2.4	2.2	0.9	5.7	黒曜石		
図IV-2-33-11	VH-17	103	覆土2	スクレイパー	(3.7)	1.8	0.7	3.8	黒曜石		
図IV-2-33-12	VH-17	17	覆土1	石斧片	7.9	4.9	1.2	65.1	緑色泥岩		
図IV-2-33-13	VH-17	22・105	覆土1	加工痕のある鏃	17.1	4.6	2.6	338.1	緑色泥岩		

図番号	遺構名	遺物番号	層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	図版番号	備考
図IV-2-34-1	VP-1	4	覆土	石鍬片	(1.7)	1.4	0.4	0.8	頁岩	図版83	
図IV-2-34-2	VP-1	5	覆土	石鍬	3.2	(1.6)	0.9	3.8	黒曜石		
図IV-2-34-3	VP-1	46	覆土	つまみ付きナイフ	4.9	1.9	0.9	9.4	頁岩		
図IV-2-34-1	VP-2	2	覆土	砥石	(116.5)	36.7	34.1	233.2	砂岩		四面磨石
図IV-2-34-1	VP-11	46	覆土	石鍬	(1.8)	1.3	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-2-34-2	VP-11	50	覆土	つまみ付きナイフ	6.8	2.2	1.0	15.0	頁岩		
図IV-2-34-1	VP-13	4	覆土	石鍬	(1.6)	1.3	0.2	0.4	黒曜石		
図IV-2-34-2	VP-13	1	覆土	石斧	(7.5)	2.6	0.7	23.5	片岩		
図IV-2-34-1	VP-14	7	坑底	石鍬	(1.8)	1.2	0.2	0.4	黒曜石		
図IV-2-34-1	VP-15	16	覆土	石鍬	(1.9)	1.7	0.2	0.7	黒曜石		
図IV-2-34-1	VP-18	2	覆土	石斧	9.7	3.2	0.9	45.3	緑色泥岩		
図IV-2-34-1	VP-24	1	覆土	石鍬片	(10.6)	(11.2)	10.1	2026.0	凝灰岩		
図IV-2-34-2	VP-24	4	坑底	石鍬片	(11.9)	(12.7)	(11.0)	2096.0	凝灰岩		
図IV-2-35-1	VP-29	1	坑底	つまみ付きナイフ	7.2	2.9	0.9	15.4	黒曜石		
図IV-2-35-2	VP-29	7	覆土	石斧	11.9	4.2	1.8	159.6	緑色泥岩		
図IV-2-35-1	VP-41	7・8	覆土	石斧	9.1	3.6	1.6	72.5	泥岩		
図IV-2-35-2	VP-41	16	覆土	たつき石	(10.4)	5.3	3.7	306.7	泥岩	被鳥	
図IV-2-35-3	VP-41	36	覆土	石製品	1.0	0.8	0.6	1.0	滑石	玉	
図IV-2-35-1	VP-48	3	覆土	石鍬片	(14.3)	(16.0)	2.6	867.0	砂岩	被鳥	
図IV-2-35-1	VP-55	3	覆土	石鍬	2.2	1.3	0.4	0.6	黒曜石		
図IV-2-35-2	VP-55	2	覆土	石のみ	6.9	1.9	0.9	25.8	緑色泥岩		
図IV-2-37-1	VP-61	7	覆土	石皿	26.0	25.0	13.4	14800.0	安山岩	図版85	ベンガラ付着
図IV-2-36-1	VP-63	2	覆土	台石	17.5	20.8	7.0	3416.0	砂岩	図版84	
図IV-2-36-2	VP-63	3	覆土	台石	20.6	28.2	8.0	5700.0	砂岩		
図IV-2-36-1	VP-64	5	覆土	加工痕のある礫	16.6	9.4	9.1	2069.0	安山岩		
図IV-2-37-1	VP-78	1	覆土	石皿	23.2	19.9	10.0	5630.0	安山岩		
図IV-2-38-1	VP-13	1	V	台石	(28.8)	14.0	8.7	8000.0	凝灰岩	図版85	
図IV-2-38-1	VP-14	2	V	石鍬	3.4	1.5	0.8	4.5	黒曜石		被鳥
図IV-2-38-1	VS-6	$2 \cdot 3 \cdot 5$ $\cdot 9 \cdot 13$	VI	すり石	7.4	14.3	5.3	680.0	砂岩	図版85	9点接合
図IV-2-38-2	VS-6	7・8・10	VI	石皿	25.5	22.9	9.2	6350.0	砂岩		53点接合

表 8-1 包含層出土掲載復元土器一覧

図番号	復元図・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図IV-3-1-1	G30・5×4, G30・6×1, G30・7×46	計61	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-1	内埋接合
図IV-3-1-2	R36・2×16		V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-1-3	K11・14×6		V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-3	
図IV-3-1-4	I 4・5×3, I 5・33×3, J 4・10×15, J 4・15×1, J 4・22×1, J 5・11×1, J 6・9×1	計23	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV a-2	
図IV-3-2-5	J 5・6×1, J 5・15×1, J 5・18×1, K 5・12×4, K 5・14×11, K 5・18×1, K 6・15×1, L 2・14×1, L 4・14×1	計127	V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-1	図版43
図IV-3-3-6	T 1・13×1		V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-1	図版42
図IV-3-4-7	P37・2×4, P38・1×1, Q37・2×2, Q37・4×36, Q38・1×2, S38・3×1	計45	V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	図版43
図IV-3-4-8	L34・4×1, L46・3×3, M40・2×1, O43・3×2, O44・4×3, O44・6×1, P43・5×2, P53・5×1	計13	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	図版42
図IV-3-4-9	N39・4×8, O43・6×1	計6	V砂			
図IV-3-5-9	H11・9×36, I11・5×44 I11・11×1	計100	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-5-10	R54・3×30, R54・5×4, R54・6×8, S51・1×1, S53・1×3, S53・4×3, S54・1×1, S56・1×1	計106	V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	図版43
図IV-3-5-11	L42・6×8, L42・8×13	計20	V砂	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-5-12	O53・2×11, O53・3×13	計24	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-6-13	N51・1×11		V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	図版44
図IV-3-6-14	N51・4×26		V砂	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-6-14	O43・3×10		V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-6-15	O53・2×3, O53・3×19	計21	V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-6-16	L42・4×6		V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	図版45
図IV-3-6-16	L42・8×1		V砂			
図IV-3-6-17	Q53・4×40		V	復元胴体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-6-18	K36・2×1, K36・1×2, K36・3×4, K36・4×2		V	復元胴体(口縁~胴部)	IV b-2	図版44

図番号	調査区・遺物番号×点数	形状	部位	分類	図録番号	備考
図IV-3-6-18	L37・1×1	計10	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-6-19	F43・10×2, R43・6×2, R45・7×7	計11	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-2	図版44 合金成銭
図IV-3-7-20	O44・4×1, O45・1×47, O45・6×7, O45・12×1	計56	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-7-21	R42・3×1		V	還元銅体(口縁~底面)	IV b-2	図版45
図IV-3-7-22	F44・1×8, F44・2×2, P45・3×3	計13	V	還元銅体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-7-23	H・11×45		V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-7-24	N54・1×1, N54・3×21	計22	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-2	
図IV-3-7-25	N54・8×1		V抄	還元銅体(口縁~底面)	IV b-2	図版46
図IV-3-8-26	N54・9×3, N54・10×3	計4	V	還元銅体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-8-26	N54・10×1, N54・11×3, N54・12×3	計7	V抄	還元銅体(口縁~底面)	IV b-2	
図IV-3-8-27	S48・4×4		V	還元銅体(前~底面)	IV b-2	
図IV-3-8-28	S47・7×7		V	還元銅体(前~底面)	IV b-2	
図IV-3-8-29	R47・5×1, R47・8×3, S47・3×3	計13	V	還元銅体(口縁~底面)	IV b-2	撰文
図IV-3-8-30	M44・5×6		V	還元銅体(前~底面)	IV b-2	撰文
図IV-3-8-31	O53・7×17		V	還元銅体(前~底面)	IV b-2	撰文
図IV-3-8-32	N17・6×1, N18・4×1, N18・8×1, O13・5×1, O17・4×16, O17・6×1, O18・4×13, O18・6×27	計61	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-3	
図IV-3-8-33	O51・3×3		V	還元銅体(口縁)	IV b-3	注口土器
図IV-3-8-34	O45・2×1, O45・5×2, O45・12×1	計4	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV b-4	
図IV-3-9-35	K2・8×1, K2・13×1, K3・15×16, L3・15×2, L3・19×1	計20	V	還元銅体(口縁~底面)	IV c-1	
図IV-3-9-36	H5・3×1, I2・7×1, I4・21×1, I5・18×4, I5・18×2, J7・11×1, J7・24×1	計11	V	還元銅体(口縁~底面)	IV c-1	図版48
図IV-3-9-37	G17・8×11, G17・20×2, G17・27×2, G17・28×1, G17・29×1	計17	V	還元銅体(口縁~底面)	IV c-1	内縁接合
図IV-3-9-38	I1・8×1, I1・11×3, I1・22×1, I2・17×1, K5・3×1, K5・6×1	計8	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-9-39	I1・8×2, I1・11×3, I1・15×2, I1・17×1, I1・22×1, I2・7×1	計10	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-9-40	H2・15×3, H2・22×13, I4・10×2, J3・49×1, K2・10×1	計21	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-9-41	F13・15×1, F15・3×1, F16・7×10, G13・4×1, G4・5×1, G16・2×1, G16・5×43, G16・15×1, H13・8×5	計64	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	図版49
図IV-3-9-42	I14・8×4, I15・9×6, I15・14×1, J14・1×1, J14・8×4, J14・9×2	計18	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-10-43	F14・4×14, F15・3×1, G13・4×14, G14・5×3, G15・8×5, G16・6×8	計45	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-10-44	J14・1×2, J14・8×3, J14・9×10, K14・2×49, K14・8×1, K14・11×9	計89	V	還元銅体(口縁~底面)	IV c-1	
図IV-3-11-45	F14・4×5, F15・3×2, G16・6×1	計6	V	還元銅体(口縁~底面)	IV c-1	
図IV-3-11-46	H2・7×1, H3・19×2, I5・18×1, I5・28×5, K4・9×5, K4・15×1	計16	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-11-47	I8・5×24, I9・4×62	計86	V	還元銅体(口縁~底面)	IV c-1	
図IV-3-11-48	J4・5×4, J4・8×3, K4・7×4, K4・15×8, K5・3×1	計20	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-12-49	H16・4×5, H17・7×1, H19・7×1, I15・2×3, I15・9×37, I15・14×3, I16・5×2, I16・12×8, J14・8×1, J15・8×1, J16・2×1, J16・5×6, J16・10×1, J17・13×3 J19・13×1	計72	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	図版50
図IV-3-12-50	F22・5×1, G14・8×2, G15・3×1, G15・8×2, G16・6×5, H15・16×21, H16・7×3, I15・9×1, J12・5×5, Q16・8×2	計43	V	還元銅体(L1縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-13-51	I14・18×3, J14・8×9, J14・9×3	計15	V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-13-52	G6・26×1, G15・8×1, G16・6×16, G17・8×10, G17・12×2, G17・20×1,		V	還元銅体(口縁~胴部)	IV c-1	図版51

圖番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図面番号	備考
図IV-3-13-52	G17・23×9, G17・24×1, H16・7×15, H17・13×2, I17・25×3, I17・25×1	2f62	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV c-1	図面51 注口土器
図IV-3-14-53	F 8・5×1, F 9・2×1, P 8・3×3, P 9・5×4, P 9・7×3, Q 8・2×13, Q10・4×10, Q10・8×2, R10・6×1	2f39	V	復元胴体(胴~底部)	IV c-1	
図IV-3-14-54	I 2・17×1, I 2・28×2, I 2・28×1	2f18	V	復元胴体(胴~底部)	IV c-1	
図IV-3-15-55	G18・6×15, G17・26×25	2f25	V	復元胴体(口縁~胴部)	IV c-1	
図IV-3-15-55	M4・4×18		V	復元胴体(口縁~底部)	IV c-1	
図IV-3-15-57	M42・2×4		V	復元胴体(胴~底部)	IV c-3	図面52 注口土器
図IV-3-15-58	Q43・2×4		V	復元胴体(口縁~底部)	IV c-3	
図IV-3-15-59	Q 8・5×21, Q 8・6×48, Q 8・7×17	2f86	V	復元土器(口縁~底部)	V b	
図IV-3-17-60	Q51・9×7, Q53・1×2, R52・15×1, R53・2×25	2f35	V	復元胴体(口縁~胴部)	V c	
図IV-3-17-61	Q50・9×1 Q54・3×82, Q55・2×13, R53・2×3	2f88	V	復元胴体(口縁~胴部)	V c	

表 8-2 包含層出土掲載土器一覽 II 群 a 類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図面番号	備考
図IV-3-18-62	H 4・10×1		V	口縁部	1 類	
図IV-3-18-63	E 29・2×2		V	口縁部		
図IV-3-18-64	H30・10×3		V	口縁部		
図IV-3-18-65	L34・2×1		V	胴部		
図IV-3-18-66	E29・2×2		V	胴部		
図IV-3-18-67	I 32・1×2		V	胴部		
図IV-3-18-68	M38・2×1		V	胴部		
図IV-3-18-69	G19・3×1, G19・11×1	2f2	V	胴~底部		
図IV-3-18-70	J 23・1×1		V	口縁部		
図IV-3-18-71	I17・28×1		V	口縁部		
図IV-3-18-72	I17・29×1		V	口縁部		
図IV-3-18-73	G21・14×1		V	口縁部	図面53	
図IV-3-18-74	Q22・1×1		V	口縁部		
図IV-3-18-75	M12・1×1		V	口縁部		
図IV-3-18-76	G18・16×1, K17・6×1, L15・2×1	2f5	V	口縁部		
図IV-3-18-77	O30・1×1		V	口縁部		
図IV-3-18-78	a J 37・7×1 b J 37・7×2		V	胴部		
図IV-3-18-79	a J17・18×1 b M14・2×1		V	胴部		
図IV-3-18-80	J 20・5×1		V	胴部		
図IV-3-18-81	L28・1×1, L27・5×1	2f2	V	胴部		
図IV-3-18-82	K34・4×2		V	胴部		
図IV-3-18-83	O22・3×2		V	口縁部		
図IV-3-18-84	O24・3×1, O25・4×1	2f2	V	口縁部		

表 8-3 包含層出土掲載土器一覽 II 群 b 類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図面番号	備考
図IV-3-19-85	H14・4×1		V	口縁部	図面53	
図IV-3-19-86	G18・11×1, G19・11×1	2f2	V	口縁部		
図IV-3-19-87	R20・8×1		V	口縁部		
図IV-3-19-88	R20・13×1		V	口縁部		
図IV-3-19-89	M27・5×1		V	口縁部		
図IV-3-19-90	I19・8×1		V	口縁部		
図IV-3-19-91	G15・2×1		V	口縁部		
図IV-3-19-92	K22・4×4, K23・1×2	2f6	V	胴部		
図IV-3-19-93	I 20・1×1		V	口縁部		
図IV-3-19-94	H27・8×3		V	口縁~胴部		
図IV-3-19-95	L15・4×1, O31・2×1	2f2	V	口縁部		
図IV-3-19-96	a K30・3×1 b J 30・7×1, K30・5×1	2f2	V	胴部	同一胴体	
図IV-3-19-97	H15・13×1		V	口縁部		
図IV-3-19-98	K25・1×5		V	口縁~胴部		
図IV-3-19-99	Q34・4×1		V	胴部		
図IV-3-20-100	O22・1×3, O22・3×8	2f11	V	口縁~胴部		
図IV-3-20-101	G21・2×1		V	口縁部		
図IV-3-20-102	I17・5×2		V	口縁部		
図IV-3-20-103	I 20・1×1		V	口縁~胴部		
図IV-3-20-104	O26・1×1, O29・10×1	2f2	V	口縁部		
図IV-3-20-105	H26・15×1		V	口縁部		
図IV-3-20-106	O16・4×1		V	口縁部		
図IV-3-20-107	H25・2×1		V	口縁部		
図IV-3-20-108	F 22・11×1		V	口縁部		
図IV-3-20-109	G21・2×1		V	口縁部		
図IV-3-20-110	H21・5×1		V	口縁部		
図IV-3-20-111	I18・12×1, I15・15×1, I15・2×1	2f5	V	胴~底部		
図IV-3-20-112	F 22・6×5		V	胴~底部		
図IV-3-20-113	L10・3×1		V	胴~底部		
図IV-3-20-114	K11・2×1		V	胴~底部		
図IV-3-20-115	I17・8×1		V	胴~底部		

遺構番号	位置・遺物番号×点数	層位	部位	種分類	図面番号	備考
図IV-3-20-116	J20・7×2		V	1層		
図IV-3-20-117	P11・6×1, Q11・7×1	#12	V			
図IV-3-21-118	N9・5×1		V			
図IV-3-21-119	K22・1×1		V			
図IV-3-21-120	J15・1×1, J16・5×1	#12	V			
図IV-3-21-121	P25・2×1		V			
図IV-3-21-122	J38・1×2		V			
図IV-3-21-123	F14・7×1		V			
図IV-3-21-124	N21・4×1		V			
図IV-3-21-125	a J17・11×3, J18・12×1 b J18・12×1	#14	V			
図IV-3-21-126	J17・11×3, J17・21×1	#12	V			
図IV-3-21-127	N35・1×1		V			
図IV-3-21-128	J16・5×1		V			
図IV-3-21-129	G15・9×1		V			
図IV-3-21-130	O24・18×1		V			
図IV-3-21-131	G21・2×1		V			
図IV-3-21-132	J28・8×1		V			
図IV-3-21-133	I11・3×1		V			
図IV-3-21-134	Q21・17×1	#1	V			
図IV-3-21-135	K13・7×1		V			
図IV-3-21-136	G22・6×1		V			
図IV-3-21-137	K16・9×1		V			
図IV-3-21-138	J28・6×1		V			
図IV-3-21-139	I18・16×1		V			
図IV-3-21-140	Q27・1×1		V			
図IV-3-21-141	P26・4×5		V			
図IV-3-21-142	O18・1×1		V			
図IV-3-21-143	I18・17×1		V			
図IV-3-21-144	M25・8×1		V			
図IV-3-21-145	H29・2×1		V			
図IV-3-21-146	H15・28×1		V			
図IV-3-22-147	L14・6×1		V			
図IV-3-22-148	G33・6×1		V			
図IV-3-22-149	P28・4×3		V			
図IV-3-22-150	G33・4×1, G33・5×1, G33・7×1	#15	V			
図IV-3-22-151	G1・3×1		V			
図IV-3-22-152	J15・10×1, J15・12×4, J16・13×1	#16	V			
図IV-3-22-153	J33・1×1		V			
図IV-3-22-154	G19・13×1		V			
図IV-3-22-155	J10・6×1		V			
図IV-3-22-156	K13・7×1, K14・5×1	#12	V			
図IV-3-22-157	H19・2×1		V			
図IV-3-22-158	P21・3×1, Q21・3×1	#12	V			
図IV-3-22-159	G19・13×1		V			
図IV-3-22-160	H19・2×1, H19・10×2	#13	V			
図IV-3-22-161	L25・3×1, L25・8×1	#12	V			
図IV-3-22-162	I17・11×1		V			
図IV-3-22-163	K12・6×1		V			
図IV-3-22-164	K16・1×1		V			
図IV-3-22-165	P30・1×1		V			
図IV-3-22-166	O30・2×1		V			
図IV-3-22-167	P20・2×2		V			
図IV-3-22-168	K20・3×1		V			
図IV-3-22-169	H28・6×1		V			
図IV-3-22-170	L24・2×3		V			
図IV-3-22-171	不明	不明				
図IV-3-22-172	Q25・12×1	#1	V			
図IV-3-22-173	a G22・7×1, K24・4×1 b G21・3×1, H22・12×1, J4・13×1, K10・6×1, K17・6×1, M18・7×1, Q7・10×1	#12 #17	V			
図IV-3-22-174	R20・7×1		V			
図IV-3-22-175	F15・10×1		V			
図IV-3-22-176	N16・6×1		V			
図IV-3-22-177	M26・3×1		V			
図IV-3-22-178	H21・6×1, I21・2×1	#12	V			
図IV-3-22-179	P21・6×1		V			
図IV-3-22-180	F10・2×1		V			
図IV-3-22-181	M9・4×1		V			
図IV-3-22-182	Q15・12×2	#1	V			
図IV-3-22-183	L9・14×2		V			
図IV-3-22-184	I14×1		V			
図IV-3-22-185	H21・7×1, H22・3×1	#12	V			
図IV-3-22-186	J27・1×4		V			
図IV-3-22-187	L24・6×1, L25・1×6, L25・7×9, Q11・1×1, Q20・6×1	#17	V			
図IV-3-22-188	a F22・1×1 b H22・11×1	#13	V			
図IV-3-22-189	a F22・7×1 b J17・7×1, K17・2×1, P11・2×1	#13	V			

図番号	調査区・器物番号×点数	層位	部位	細分類	図記番号	備考
図IV-3-23-190	J 12・5×1		V			
図IV-3-23-191	J 16・12×1, K 9・5×1	212	V		図記57	
図IV-3-23-192	H 15・23×1		V			
図IV-3-23-193	J 2・18×1, L 9・9×1	212	V			

表 8-4 包含層出土掲載土器一覽 III群 a類

図番号	調査区・器物番号×点数	層位	部位	細分類	図記番号	備考	
図IV-3-24-194	a J 11・6×2		V	口縁部	図記57	同一個体	
	b J 11・6×2			胴部			
	c J 11・6×1			胴一底部			
図IV-3-24-195	a H 14・7×1, H 14・8×2,	216	V	口縁部	図記57	同一個体	
	b H 14・8×2			口縁部			
	c H 14・8×1, H 14・17×1			口縁部			
図IV-3-24-196	J 17・8×2, K 11・22×1	212	V	口縁部			
図IV-3-24-197	a G 16・5×2		V	口縁部	図記58	同一個体	
	b F 14・8×1			口縁部			
	c G 16・5×2			胴部			
	d H 20・5×1			胴部			
	e I 17・15×1			胴部			
図IV-3-24-198	F 12・4×5		V	胴一底部			
図IV-3-24-199	K 33・2×2		V	口縁部			
図IV-3-24-200	G 19・2×1		V	口縁部			
図IV-3-24-201	G 17・2×1		V	口縁部			
図IV-3-24-202	F 17・8×2		V	口縁部			
図IV-3-24-203	a F 12・4×5		V	口縁部	図記58	同一個体	
	b F 12・4×2			胴部			
	c F 12・4×6			胴一底部			
図IV-3-24-204	a J 13・7×1, J 14・24×1	212	V	口縁部	図記58	同一個体	
	b J 11・9×1, J 12・12×1,						
	J 13・13×2, J 15・21×1,						
	J 16・16×2, J 12・3×1,						
	J 12・5×1, J 14・18×1,						
K 12・17×4	214						
図IV-3-24-206	J 2・13×1, J 2・18×1	212	V	口縁部			
図IV-3-24-206	G 17・2×1, H 20・5×1	212	V	胴部			
図IV-3-24-207	a F 17・8×1		V	胴部	図記58	同一個体	
	b F 20・2×1			胴一底部			

表 8-5 包含層出土掲載土器一覽 III群 b類

図番号	調査区・器物番号×点数	層位	部位	細分類	図記番号	備考
図IV-3-25-208	a J 34・3×1, J 35・1×4	215	V	口縁部	図記58	同一個体
図IV-3-25-209	O 30・1×1, J 35・1×2	215	V	口縁部		
図IV-3-25-210	F 30・6×1		V	口縁部		
図IV-3-25-211	M 31・2×1		V	口縁部		
図IV-3-25-212	a R 33・1×1	212	V	口縁部	図記58	同一個体
図IV-3-25-213	R 32・8×1			口縁部		
図IV-3-25-214	J 2・14×1		V	口縁部		
図IV-3-25-215	H 3・16×1		V	口縁部		
図IV-3-25-216	L 32・1×1		V	口縁部		
図IV-3-26-217	R 52・17×6, R 52・8×3	219	V	口縁部		
図IV-3-26-218	M 6・2×1		V	口縁部		
図IV-3-26-219	J 23・19×1		V	口縁部		
図IV-3-26-220	S 42・1×1		V	口縁部		
図IV-3-26-221	O 54・2×1		V	口縁部		
図IV-3-26-222	G 40・1×1		V	口縁部		
図IV-3-26-223	J 23・3×2		V	口縁部		
図IV-3-26-224	a J 38・2×5	V砂		口縁部	図記59	同一個体
	b J 38・6×4			胴部		
図IV-3-26-225	M 9・6×1		V	口縁部		
図IV-3-26-226	H 23・2×1		V	口縁部		
図IV-3-26-227	H 7・21×1		V	口縁部		
図IV-3-26-228	a J 22・3×1		V	口縁部	図記59	同一個体
	b H 22・14×1			口縁部		
図IV-3-26-229	J 25・5×1		V	口縁部		
図IV-3-26-230	a K 32・8×1, K 28・3×1	212	V	口縁部	図記59	同一個体
	b J 23・5×2, J 23・10×1			口縁部		
図IV-3-26-231	a J 23・3×5, J 25・10×4,	2110	V	胴部	図記59	同一個体
	b J 23・14×1			胴部		
図IV-3-26-232	N 16・6×1		V	胴部		
図IV-3-26-233	G 8・7×1, L 9・11×1	212	V	口縁部		
図IV-3-26-234	K 23・4×1		V	胴部		
図IV-3-26-235	F 55・1×1		V	胴部		
図IV-3-26-236	N 30・3×3		V	胴部		
図IV-3-27-237	Q 11・3×1		V	口縁部		
図IV-3-27-238	K 2・4×1		V	口縁部		
図IV-3-27-239	P 11・5×1		V	口縁部		
図IV-3-27-240	K 10・4×1		V	口縁部		
図IV-3-27-241	J 2・12×1		V	口縁部		
図IV-3-27-242	J 2・2×1, J 2・18×1	212	V	口縁部	図記60	同一個体
	K 10・4×1			口縁部		
図IV-3-27-243	N 10・4×1		V	口縁部		
図IV-3-27-244	N 16・6×1		V	口縁部		
図IV-3-27-245	O 6・3×1		V	口縁部		
図IV-3-27-246	N 30・3×2		V	口縁部		
図IV-3-27-247	R 9・7×1		V	口縁部		

図番号	測量区・遺物番号×点数	層位	部位	種分類	図版番号	備考
図IV-3-27-248	M 9・6×3		V	口縁部	図版60	同一個体
図IV-3-27-249	M 7・2×2		V	口縁部		
図IV-3-27-250	L 33・2×1		V	口縁部		
図IV-3-27-251	Q 21・1×1, Q 28・3×5	#16	V	口縁～胴部		
図IV-3-27-252	a P 13・3×1, P 13・11×1	#12	V	口縁部		
	b P 12・6×1, Q 12・4×1	#12	V	胴部		
図IV-3-27-253	K 6・11×1		V	口縁部		
図IV-3-27-254	Q 32・2×1, Q 32・5×2	#13	V	口縁部		
図IV-3-27-255	O 14・4×1		V	口縁部		
図IV-3-27-256	M 9・1×1		V	胴部		
図IV-3-27-257	K 11・4×1		V	胴部		
図IV-3-27-258	P 32・4×2		V	胴部		
図IV-3-27-259	L 1・4×1		V	口縁部		
図IV-3-27-260	N 15・4×1		V	胴部		
図IV-3-27-261	G 5・12×1		V	胴部		
図IV-3-27-262	M 9・6×1		V	胴部		
図IV-3-27-263	K 7・2×1		V	胴部		

表 6-6 包含層出土掲載土器一覽 IV群 a 類

図番号	測量区・遺物番号×点数	層位	部位	種分類	図版番号	備考
図IV-3-28-264	a Q 41・2×4		V	口縁部	図版61	同一個体
	b P 52・1×1		V	胴部		
図IV-3-28-265	P 37・1×1		V	口縁部		
図IV-3-28-266	M 28・10×1		V	口縁部		
図IV-3-28-267	a L 13・7×1		V	口縁～胴部		
	b L 11・7×1		V	胴部		
図IV-3-28-268	Q 23・6×1		V	口縁部		
図IV-3-28-269	S 46・1×1		V	胴部		
図IV-3-28-270	R 52・2×1		V	口縁部		
図IV-3-28-271	K 9・5×1, K 10・5×1, N 11・4×1	#13	V	口縁		
図IV-3-28-272	M 34・4×1		V	口縁～胴部		
	a K 24・2×1		V	口縁～胴部		
図IV-3-28-273	b K 23・3×1, L 23・4×1, S 36・1×1	#15	V	胴部		
図IV-3-28-274	S 28・1×1		V	胴部		
図IV-3-28-275	K 10・5×1		V	胴部		
図IV-3-28-276	H 11・4×1, P 15・4×1, R 12・2×1	#13	V	胴部		
図IV-3-28-277	S 42・5×7		V	胴～底縁		

表 6-7 包含層出土掲載土器一覽 IV群 b 類

図番号	測量区・遺物番号×点数	層位	部位	種分類	図版番号	備考
図IV-3-29-278	a J 2・5×5, J 2・18×1, J 2・43×1, J 1・11×1, J 1・17×1, J 2・9×1, J 2・11×4, J 2・16×1, J 2・29×3, J 2・41×1, J 2・25×1, J 2・15×3, J 2・23×1	#19	V	口縁～胴部	図版62	同一個体
	b J 2・23×1	#15	V	口縁～胴部		
図IV-3-29-279	S 30・3×4		V	口縁～胴部		
図IV-3-29-280	P 47・6×1		V 砂	口縁部		
図IV-3-29-281	P 48・4×1		V 砂	口縁部		
図IV-3-29-282	Q 44・4×1		V	口縁部		
図IV-3-29-283	H 9・14×1		V	口縁部		
図IV-3-29-284	a G 10・11×1		V	口縁部		
	b L 12・11×1		V	胴部		
図IV-3-29-285	F 9・3×1		V	口縁部		
図IV-3-29-286	H 7・22×1		V	口縁部		
図IV-3-29-287	K 11・12×1		V	口縁部		
図IV-3-29-288	J 7・7×4, J 7・8×1	#15	V	口縁～胴部		
図IV-3-29-289	R 48・3×2		V	口縁部		
	a L 1・10×1, L 1・14×1, L 1・21×1, L 1・24×1, L 1・26×1, L 1・28×1, J 2・16×1	#15	V	口縁部		
図IV-3-29-290	b G 45・1×1		V	口縁部		
図IV-3-29-291	G 7・32×1, G 8・10×1	#12	V	口縁部		
図IV-3-29-292	H 7・22×1		V	口縁部		
図IV-3-29-293	H 9・14×1		V	口縁部		
図IV-3-29-294	Q 37・4×5, Q 37・6×2	#15	V	口縁～胴部		
図IV-3-29-295	L 46・5×1		V	胴部		
図IV-3-29-296	F 16・14×1, G 16・1×1	#12	V	胴部		
図IV-3-30-297	H 6・16×2, L 5・17×1, L 6・8×1, L 3・15×1	#11	V	口縁～胴部		
図IV-3-30-298	H 9・14×1		V	口縁部		
図IV-3-30-299	G 8・5×1		V	口縁部		
	a O 44・4×1		V	口縁部		
図IV-3-30-300	b O 44・4×1, O 44・5×2, G 45・1×1	#14	V	胴部		
図IV-3-30-301	N 42・1×2		V	口縁部		
図IV-3-30-302	J 1・14×1, L 1・21×1	#12	V	口縁部		
図IV-3-30-303	G 9・10×3		V	胴部		
図IV-3-30-304	H 14・3×1		V	口縁部		
図IV-3-30-305	H 1・21×1, H 2・15×1	#12	V	口縁部		
図IV-3-30-306	a H 2・15×2		V	口縁～胴部		
	b H 2・15×1		V	口縁部		
図IV-3-30-307	a Q 43・4×1		V	口縁部		
	b Q 43・4×1		V	胴部		

圖號	圖號區・構造物番号×尺寸	單位	部位	縮分率	圖號番号	備考
圖IV-3-30-308	K 4・14×1		V			
圖IV-3-30-309	G 8・8×3		V			
圖IV-3-30-310	H 2・15×1, H 3・10×10	#11	V			
圖IV-3-31-311	J 1・24×1, J 1・28×1, J 1・5×1, J 1・15×3	#16	V		図表53	
圖IV-3-31-312	a J 7・8×6, J 7・15×3 b J 7・7×1, J 7・8×1	#19 #12	V			同一個体
圖IV-3-31-313	a N54・3×1 b N54・6×1, N54・1×1, N54・3×3 c N54・1×4	V V #16	V V V			図表54 同一個体
圖IV-3-31-314	J 4・11×2		V			
圖IV-3-31-315	H 9・14×1		V		図表53	
圖IV-3-31-316	H 1・26×1		V			
圖IV-3-31-317	G 9・3×1		V			
圖IV-3-31-318	H 1・20×2		V			
圖IV-3-31-319	G15・18×2, H14・9×1, H18・28×1	#14	V			
圖IV-3-31-320	Q51・7×2		V			
圖IV-3-31-321	G 7・32×1		V			
圖IV-3-31-322	H 0・12×1, 1・10×1	#12	V			
圖IV-3-31-323	M4・1×1 N54・6×1, N54・8×1	#12	V V			
圖IV-3-31-324	N38・4×2		V			
圖IV-3-31-325	J 9・12×1		V			
圖IV-3-31-326	S44・4×1		V			
圖IV-3-31-327	N43・4×2, S43・1×1	#19	V		図表54	
圖IV-3-31-328	Q37・4×3 R38・4×1, N38・4×2	#13	V V			
圖IV-3-31-329	a H 8・8×1 b H 8・11×1		V			同一個体
圖IV-3-32-330	L 3・7×3, L 3・13×3, L 3・14×3, L 3・18×1, L 3・21×1, L 3・24×1, L 3・13×1, L 3・18×1, M 5・6×2	#11 #14	V			同一個体
圖IV-3-32-331	L 3・13×3, L 3・18×2, L 3・21×3	#18	V			同一個体
圖IV-3-32-332	L42・8×3, L42・9×1 O45・9×2	#14	V V			
圖IV-3-32-333	a J 2・16×14 b J 2・16×3		V			同一個体
圖IV-3-32-334	N51・4×3		V			
圖IV-3-32-335	O24・21×2, P24・5×1	#15	V			
圖IV-3-32-336	G 6・21×1		V			
圖IV-3-32-337	G 9・3×1		V			
圖IV-3-32-338	J 2・16×2, J 2・28×1, J 2・3×1	#14	V		図表55	
圖IV-3-32-339	a M43・4×4 b M43・2×4, O44・6×1 c O44・6×1 d N43・4×4	#15	V			同一個体
圖IV-3-32-340	G 8・16×4		V			
圖IV-3-32-341	J 2・16×1		V			
圖IV-3-33-342	a N54・3×2, P56・2×3 b N54・6×4, N54・8×7	#15 #11	V V			同一個体
圖IV-3-33-343	a P45・3×1 b S46・3×2		V			同一個体
圖IV-3-33-344	R42・1×1		V			
圖IV-3-33-345	Q44・8×2		V			
圖IV-3-33-346	P43・3×1		V			
圖IV-3-33-347	P54・1×1, P54・3×1	#12	V			
圖IV-3-33-348	S48・8×1		V			
圖IV-3-33-349	P41・1×2		V			
圖IV-3-33-350	Q46・4×1		V			
圖IV-3-33-351	Q43・1×1, Q43・4×6	#19	V			
圖IV-3-33-352	Q44・7×1, R42・1×2 L44・4×1 L41・3×1, L41・4×1, L42・6×1, L42・8×7, L42・10×3	#13	V		図表56	
圖IV-3-33-354	G10・4×2		V			
圖IV-3-33-355	P47・9×1		V			
圖IV-3-33-356	a Q43・4×1, R43・6×1 b O43・3×3 c P43・4×4	#12	V			同一個体
圖IV-3-33-357	M51・1×4		V			
圖IV-3-33-358	L42・8×1		V			
圖IV-3-33-359	R52・9×3, S54・1×1	#14	V			
圖IV-3-34-360	L42・6×5		V			
圖IV-3-34-361	M41・3×1		V			
圖IV-3-34-362	R44・1×3		V			
圖IV-3-34-363	a P46・3×1, P47・9×1 b P47・9×2 c P46・3×1	#13	V		図表57	同一個体
圖IV-3-34-364	M45・8×2 L47・1×1		V V			

図番	図名・遺物番号×点数	層位	部位	部分	図番	遺物
図IV-3-34-365	N47・5×1, N49・3×1, N48・2×1	#3	V砂	口縁~胴部	2期	
図IV-3-34-366	Q53・2×14, Q55・3×3	#17	V	口縁~胴部		
図IV-3-34-367	Q55・1×1		V	口縁部		
図IV-3-34-368	N43・2×3, N43・4×1	#4	V	口縁~胴部		
図IV-3-34-369	a N51・1×1 b N51・4×1		V V砂	口縁部 胴部		
図IV-3-34-370	L44・7×1		V	口縁部		
図IV-3-34-371	L46・4×2		V砂	胴部		
図IV-3-34-372	N51・1×3 N51・4×9		V V砂	胴部		
図IV-3-34-373	a Q41・3×1 b Q41・3×1		V V	胴部		
図IV-3-34-374	S50・8×1		V	口縁部		
図IV-3-34-375	F44・1×1		V	口縁部		
図IV-3-34-376	Q41・2×1		V	胴部		
図IV-3-34-377	M46・4×1		V砂	胴部		
図IV-3-34-378	a R52・9×2 b R52・9×2		V V	胴部		
図IV-3-34-379	Q43・1×1, Q43・4×1	#2	V	胴部		
図IV-3-35-380	H 0・9×5, H 0・12×6	#9	V	口縁~胴部	図IV65	
図IV-3-35-381	a Q51・8×4 b Q51・8×5		V V	口縁~胴部	図IV67	
図IV-3-35-382	L41・3×1, L41・4×1	#2	V砂	口縁~胴部	2期	
図IV-3-35-383	Q53・8×2, R52・3×3, R52・9×3	#8	V	口縁~胴部		
図IV-3-35-384	K42・2×4, Q43・4×2, R42・1×2	#8	V	口縁~胴部		
図IV-3-35-385	Q43・8×4		V	口縁~胴部		
図IV-3-35-386	Q43・1×1, Q43・4×2	#5	V	口縁部		
図IV-3-35-387	Q53・8×3		V	口縁~胴部		
図IV-3-35-388	N51・4×2		V砂	口縁~胴部		
図IV-3-35-389	L42・8×2		V砂	口縁部		
図IV-3-35-390	N51・2×1, Q53・4×1	#2	V	口縁部		
図IV-3-35-391	a R43・1×1, R43・6×2 b R43・6×3, R43・7×1	#5 #4	V V	口縁部 胴部		
図IV-3-35-392	J 9・12×1		V	口縁~胴部		図IV68
図IV-3-35-393	J 36・3×1 J 97・2×1		V V砂	胴部		
図IV-3-35-394	a P50・3×1, R48・6×1, S48・4×6 b R48・6×3	#8	V	口縁~胴部 胴部	同一層位	
図IV-3-35-395	N43・4×2, Q43・3×1, Q43・4×1	#4	V	口縁~胴部		
図IV-3-35-396	a M39・3×1 b M39・3×1		V V	胴部 胴部	同一層位	
図IV-3-35-397	K33・3×2		V	胴~底部		
図IV-3-35-398	Q43・1×2, Q43・5×1	#3	V	口縁~胴部		
図IV-3-35-399	L43・1×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-35-400	F47・8×1		V砂	口縁部		
図IV-3-35-401	R47・8×3, S47・3×1	#4	V	口縁~胴部		
図IV-3-35-402	R51・3×3		V	口縁部		
図IV-3-35-403	a L44・6×6 b L45・3×2 c L45・3×2		V V V	口縁~胴部 口縁~胴部 胴部	同一層位	
図IV-3-35-404	Q47・9×2		V砂	口縁部		
図IV-3-35-405	a I 17・9×4, I 17・30×1 b H 16・18×1, H 17・12×2	#5 #3	V V	口縁~胴部 胴部	同一層位	
図IV-3-35-406	a O45・11×1, O45・13×4 b O45・13×1	#5	V	口縁~胴部 胴部		
図IV-3-35-407	H 6・16×1, H 6・24×1	#2	V	口縁部	図IV69	
図IV-3-35-408	I 2・20×1		V	口縁部		
図IV-3-35-409	M 4・3×1		V	口縁部		
図IV-3-35-410	a G 6・5×1, H 6・24×1, H 6・25×1 b G 6・21×10, H 6・21×1, H 20・12×1	#3 #13	V V	口縁~胴部 口縁~胴部	同一層位	
図IV-3-35-411	J 6・11×1		V	口縁部		
図IV-3-35-412	I 5・17×1		V	口縁部		
図IV-3-35-413	I 1・14×1		V	口縁部		
図IV-3-37-414	a O47・9×2, O47・10×5 b O47・7×5	#7	V砂 V砂	口縁~胴部 口縁~胴部	同一層位	
図IV-3-37-415	M37・3×1, J 36・1×1, K 36・3×2	#4	V	口縁~胴部		
図IV-3-37-416	M47・4×3		V砂	口縁部		
図IV-3-37-417	H 13・12×1		V	胴部		
図IV-3-37-418	M45・3×1		V	胴部		
図IV-3-37-419	a M44・10×3, M46・2×1, N44・7×6, O45・12×2 b M46・2×1, R45・3×1 c M45・5×3, N45・8×2, O45・13×1	#12 #2 #6	V V V	胴部 胴部 胴~胴部	図IV70	
図IV-3-37-420	I 9・4×4		V	胴部		
図IV-3-37-421	I 9・4×2		V	口縁部		
図IV-3-37-422	S50・9×1, S51・4×2	#5	V	口縁~胴部		
図IV-3-37-423	a F 14・4×14, F 14・5×1 b F 14・4×1, G 14・5×4 c F 14・4×15, F 14・5×1	#15 #5 #11	V V V	口縁~胴部 口縁~胴部 口縁~胴部	同一層位	
図IV-3-37-424				胴部		

圖號	圖名	圖號	單位	備註	組分類	圖號	備註
圖IV-3-38-424	G81-8X1		V	口緣部	4類	圖版70	
圖IV-3-38-425	I 2-8X2		V	口緣-前部			
圖IV-3-38-426	J 4-7X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-427	M43-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-428	G17-7X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-429	P63-3X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-430	Q40-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-431	H11-9X1, I11-5X1	計2	V	口緣部			
圖IV-3-38-432	P 9-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-433	J14-9X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-434	M37-6X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-435	R45-2X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-436	Q55-2X9		V	口緣部			
圖IV-3-38-437	Q41-3X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-438	R17-6X1, Q19-6X1	計2	V	口緣部			
圖IV-3-38-439	P52-2X4		V	口緣部			
圖IV-3-38-440	O53-2X14		V	口緣部			
圖IV-3-38-441	S49-4X4		V	口緣部			
圖IV-3-38-442	N53-1X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-443	R44-7X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-444	O43-4X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-445	P38-1X3		V	口緣部			
圖IV-3-38-446	L42-8X6	V	口緣部				
圖IV-3-38-447	L 2-12X2		V	口緣部			
圖IV-3-38-448	H 0-12X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-449	J 2-28X2		V	口緣部			
圖IV-3-38-450	P71-6X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-451	M 3-10X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-452	Q53-8X1		V	口緣部			
圖IV-3-38-453	G 7-20X1, G 7-25X1, G 8-8X7, G 8-10X2	計11	V	口緣部			

表 8-8 包含層出土揚載土器一覽 IV群c類

圖號	圖名	圖號	單位	備註	組分類	圖號	備註
圖IV-3-39-454	I 1-38X1, I 3-10X1, I 4-21X1, J 1-8X1	計4	V	口緣-前部	1類	圖版71	
圖IV-3-39-455	I 8-7X1, I 2-17X3	計4	V	口緣-前部			
圖IV-3-39-456	P15-7X1		V	口緣-前部			
圖IV-3-39-457	F 9-4X2, F 9-5X1, F10-8X1	計4	V	口緣部			
圖IV-3-39-458	K 3-7X5, K 3-11X1	計5	V	口緣-前部			
圖IV-3-39-459	J 6-12X9		V	口緣部			
圖IV-3-39-460	M 4-4X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-461	H1-34X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-462	a F15-3X1 b G14-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-463	G 7-20X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-464	J14-12X7		V	口緣-前部			
圖IV-3-39-465	G16-7X2		V	口緣-前部			
圖IV-3-39-466	R55-10X2		V	口緣-前部			
圖IV-3-39-467	P47-10X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-468	I 6-5X2		V	口緣部			
圖IV-3-39-469	a R49-4X5 b R49-4X2		V	口緣-前部			
圖IV-3-39-470	R49-5X2		V	口緣部			
圖IV-3-39-471	G16-6X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-472	M 4-4X3		V	口緣部			
圖IV-3-39-473	H 7-20X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-474	G16-6X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-475	I 8-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-476	J11-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-477	a P47-10X2 b P47-7X1		V	口緣部			
圖IV-3-39-478	H1-4-20X1		V	口緣-前部			
圖IV-3-39-479	a R45-8X2 b R44-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-40-480	K 4-7X1, K 4-9X7	計5	V	口緣-前部			
圖IV-3-40-481	H16-7X1		V	口緣部			
圖IV-3-40-482	a K 5-6X1, L 3-8X1 b K 5-22X1, K 6-21X1, L 5-11X2, M 4-17X1 c K 4-9X4, K 4-15X3, K 6-7X1, K 10-17X1 L 6-12X1	計15	V	口緣-前部			
圖IV-3-40-483	L 2-9X3		V	口緣-前部			
圖IV-3-40-484	a O12-3X2 b F15-2X1		V	口緣部			
圖IV-3-40-485	a K 4-15X1, K 4-15X1 b K 4-15X1	計2	V	口緣部			
圖IV-3-40-486	H 7-20X1		V	口緣部			
圖IV-3-40-487	a G16-6X2 b G16-20X1		V	口緣部			
圖IV-3-40-488	H1-5X1, M39-4X1	計2	V	口緣部			
圖IV-3-40-489	H1-5X1		V	口緣部			
圖IV-3-40-490	a J 6-12X1 b J 6-12X3		V	口緣部			
圖IV-3-40-491	L42-1X1, L42-2X7, M42-5X1	計4	V	口緣-前部			

図版番号	調査区・遺物番号×点数	形状	部位	部分	図版番号	備考
図IV-3-41-492	1 8・5×6		V	口縁~胴部	図版73	
図IV-3-41-493	K 4・9×2, K 4・15×1	#15	V	口縁部		
図IV-3-41-494	1 0・2×1, 1 2・7×1	#12	V	口縁部		
図IV-3-41-495	1 2・8×2		V	口縁部		
図IV-3-41-496	G 10・3×1		V	口縁部		
図IV-3-41-497	G 16・8×1		V	口縁部		
図IV-3-41-498	G 14・5×3		V	口縁~胴部		
図IV-3-41-499	G 16・6×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-41-500	J 14・8×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-41-501	G 16・6×1		V	口縁~胴部		
図IV-3-41-502	1 14・8×1, 1 14・8×1	#12	V	口縁部	図版74	
図IV-3-41-503	G 16・6×2		V	口縁部		
図IV-3-41-504	1 3・8×1, 1 3・22×4	#15	V	口縁~胴部		
図IV-3-41-505	J 4・8×5, J 4・12×3, K 4・7×1, K 4・15×13	#12B	V	口縁~胴部		
図IV-3-41-506 a	P 48・5×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-41-506 b	Q 47・6×2		V	口縁部		
図IV-3-41-507 a	F 15・3×1		V	口縁部		
図IV-3-41-507 b	F 15・3×1		V	口縁部		
図IV-3-41-508	Q 20・6×2		V	口縁部		
図IV-3-41-509	G 7・2×1		V	口縁部		
図IV-3-42-510	J 4・8×1, K 4・15×9	#10	V	口縁~胴部	1 類	
図IV-3-42-511	L 2・6×1		V	口縁部		
図IV-3-42-512	1 14・20×1		V	口縁部		
図IV-3-42-513 a	H 15・15×1		V	口縁部		
図IV-3-42-513 b	G 15・8×4		V	口縁部		
図IV-3-42-514	1 5・15×1		V	口縁部		
図IV-3-42-515 a	1 2・17×1		V	口縁部		
図IV-3-42-515 b	H 2・19×1, G 3・6×1, 1 2・7×1, 1 2・17×9, 1 2・22×1, 1 2・23×2, 1 2・26×1, 1 2・37×2, 1 2・38×1, 1 5・28×1	#20	V	口縁~胴部		
図IV-3-42-516 a	1 3・8×2, 1 3・19×1	#13	V	口縁部		
図IV-3-42-516 b	1 4・21×1		V	口縁部		
図IV-3-42-516 c	1 3・8×2, 1 4・21×1	#13	V	口縁部		
図IV-3-42-517 a	H 2・18×1, 1 2・17×1, 1 5・28×2	#14	V	口縁部		
図IV-3-42-517 b	H 3・11×1, 1 2・17×2, 1 5・28×1	#14	V	胴部		
図IV-3-42-518	1 1・11×1		V	口縁部	図版75	
図IV-3-42-519 a	N 45・6×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-42-519 b	L 44・1×2		V	口縁部		
図IV-3-42-520	L 44・1×1		V	口縁部		
図IV-3-42-521	G 16・6×1		V	口縁部		
図IV-3-42-522	N 7・9×1		V	口縁部		
図IV-3-42-523	K 10・6×17		V	口縁~胴部		
図IV-3-43-524	1 3・28×1, 1 4・10×2, 1 4・11×1, 1 4・21×1	#15	V	口縁部		
図IV-3-43-525	J 13・4×1		V	口縁部		
図IV-3-43-526	H 2・16×2, H 2・20×5, H 5・9×1	#12	V	口縁~胴部		
図IV-3-43-527	K 3・15×1, L 3・15×2	#13	V	口縁部	図版76	
図IV-3-43-528 a	R 45・6×5, R 46・1×2, R 46・9×1	#16	V	口縁~胴部		
図IV-3-43-528 b	R 45・6×8, R 46・9×4	#12	V	胴部	図版75	同一個体
図IV-3-43-528 c	L 4・8×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-43-529 a	H 5・20×1, K 4・9×1, K 4・15×2, K 4・34×2, K 13・4×1, L 4・8×4	#11	V	胴部	図版76	同一個体
図IV-3-44-530	M 44・1×3, M 44・2×34, M 44・5×4, N 44・4×16	#17	V	口縁~胴部		
図IV-3-44-531 a	M 45・9×1, N 44・4×1, K 45・3×2, N 45・5×1	#15	V	口縁~胴部	1 類	同一個体
図IV-3-44-531 b	N 43・3×1, N 44・4×1	#12	V	胴部		
図IV-3-44-531 c	M 44・2×6, N 45・6×2	#16	V	胴部		
図IV-3-44-532 a	G 16・6×2		V	胴部	図版76	同一個体
図IV-3-44-532 b	G 16・6×1		V	胴部		
図IV-3-44-533	G 15・6×1		V	胴部		
図IV-3-44-534	H 4・19×1		V	胴部	1 類	
図IV-3-44-535	M 45・3×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-45-536	L 42・2×12		V	口縁~胴部	3 類	
図IV-3-45-537	L 42・2×2		V	口縁~胴部		
図IV-3-45-538	O 33・8×1		V	口縁部	3 類	
図IV-3-45-539	1 1・10×1, 1 1・11×1	#12	V	口縁部		
図IV-3-45-540	M 42・5×12		V	口縁~胴部	図版77	

表 8-9 包含層出土掲載土器一覽 V 群 b 類

図版番号	調査区・遺物番号×点数	形状	部位	部分	図版番号	備考
図IV-3-45-541	J 37・1×1		V	口縁部	図版77	
図IV-3-45-542	S 66・5×2		V	口縁部		

表8-10 包含層出土掲載土器一覽 V群c類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	部分類	図版番号	備考
図IV-3-45-543	O65・1×2	V	口縁部	V群c類	図版77	同一個体
図IV-3-45-544	R50・13×1	V	口縁部			
図IV-3-45-545	R53・2×1	V	底部			
図IV-3-45-546	N54・13×4	V砂	口縁～胴部			
図IV-3-45-547	N53・2×1	V	口縁部			
図IV-3-45-548	R51・5×46	V	口縁～胴部			
図IV-3-45-549	R53・2×4	V	口縁～胴部			
	R53・2×8	V	口縁～胴部			

表9 包含層出土掲載土製品一覽

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	分類	図版番号	備考	
図IV-3-46-1	F30・4×1	V	再生土製内蓋	図版78	有孔	
図IV-3-46-2	Q20・5×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-3	F23・3×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-4	I25・7×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-5	K20・5×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-6	I18・13×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-7	I19・11×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-8	I19・11×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-9	J24・6×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-10	G8・9×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-11	H28・8×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-12	H22・12×1	V	再生土製内蓋			
図IV-3-46-13	F24・13×3	V	凝灰粘土塊			粘土分析試料
図IV-3-46-14	O23・10×8	V	凝灰粘土塊			粘土分析試料
図IV-3-46-15	O24・11×4	V	凝灰粘土塊			粘土分析試料

表10 包含層出土掲載石器等一覽

図番号	調査区	遺物番号	層位	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	図版番号	備考
図IV-3-53-1	E21	4	V	細石刃	(3.6)	0.9	0.2	0.9	黒曜石	図版86	打点削
図IV-3-53-2	F30	19	V	細石刃	(2.4)	0.7	0.2	0.3	黒曜石		打点削
図IV-3-53-3	F31	10	V	細石刃	(2.4)	0.9	0.2	0.7	黒曜石		打点削
図IV-3-53-4	O26	8	V	細石刃	(2.4)	0.7	0.2	0.5	黒曜石		中間部
図IV-3-53-5	F31	8	V	細石刃	(2.4)	0.8	0.2	0.5	黒曜石		中間部
図IV-3-53-6	F31	11	V	細石刃	(1.8)	0.6	0.1	0.2	黒曜石		中間部
図IV-3-53-7	K17	25	V	石鏃	1.9	1.1	0.2	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-8	H26	7	V	石鏃	2.0	1.2	0.2	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-9	R29	4	V	石鏃	2.3	1.5	0.2	0.8	黒曜石		
図IV-3-53-10	Q20	13	V	石鏃	3.1	1.4	0.4	1.6	黒曜石		
図IV-3-53-11	L17	2	V	石鏃	2.0	1.2	0.3	0.5	黒曜石		
図IV-3-53-12	G21	21	V	石鏃	1.9	1.0	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-13	N36	1	V	石鏃	2.1	1.4	0.5	1.2	黒曜石		
図IV-3-53-14	J28	2	V	石鏃	2.4	1.4	0.3	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-15	L16	21	V	石鏃	2.6	1.2	0.4	1.0	黒曜石		
図IV-3-53-16	K17	6	V	石鏃	(2.2)	1.7	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-17	H3	28	V	石鏃	(2.4)	1.8	0.4	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-18	L3	23	V	石鏃	2.7	(1.8)	0.4	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-19	J2	22	V	石鏃	(2.4)	1.5	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-3-53-20	J3	31	V	石鏃	3.1	1.8	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-3-53-21	I2	14	V	石鏃	3.1	1.3	0.3	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-22	P13	5	V	石鏃	2.7	1.2	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-3-53-23	G6	17	V	石鏃	(2.9)	1.2	0.3	0.7	黒曜石		
図IV-3-53-24	R9	1	V	石鏃	3.4	1.4	0.5	1.1	チャート		
図IV-3-53-25	J24	1	V	石鏃	(3.2)	1.5	0.3	1.3	黒曜石		
図IV-3-53-26	N18	8	V	石鏃	3.3	1.3	0.4	1.2	黒曜石		
図IV-3-53-27	P17	8	V	石鏃	3.1	1.6	0.3	1.2	頁岩		
図IV-3-53-28	P5	4	V	石鏃	(4.1)	1.8	0.5	3.2	チャート		
図IV-3-53-29	I6	1	V	石鏃	2.3	0.8	0.3	0.4	黒曜石		
図IV-3-53-30	J2	18	V	石鏃	(2.3)	1.2	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-31	O21	19	V	石鏃	(2.9)	1.5	0.2	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-32	Q12	15	V	石鏃	3.1	1.5	0.4	1.3	黒曜石		
図IV-3-53-33	I2	29	V	石鏃	3.5	(2.2)	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-3-53-34	F18	1	V	石鏃	(4.1)	1.7	0.5	2.4	黒曜石		
図IV-3-53-35	Q20	14	V	石鏃	(3.8)	2.0	0.4	3.4	メノウ質頁岩		
図IV-3-53-36	O24	5	V	石鏃	(4.3)	1.3	0.3	1.7	黒曜石		

図番号	測量区	測点番号	層位	分類	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	質量(g)	材質	図番号	備考
図IV-3-53-37	R15	17	V	石礫	(2.6)	1.0	0.3	0.8	黒曜石	図0686	
図IV-3-53-38	F22	16	V	石礫	2.7	1.2	0.4	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-39	R28	2	V	石礫	3.4	1.3	0.4	1.3	黒曜石		
図IV-3-53-40	Q13	23	V	石礫	(4.1)	1.2	0.4	1.6	黒曜石		
図IV-3-53-41	O20	3	V	石礫	4.2	1.1	0.4	1.9	頁岩		
図IV-3-53-42	Q34	1	V	石礫	(4.4)	1.7	0.4	2.6	黒曜石		
図IV-3-53-43	P40	3・10	V	石礫	6.9	1.4	0.4	3.8	黒曜石		
図IV-3-53-44	Q12	15	V	石礫	2.2	1.3	0.4	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-45	O4	1	V	石礫	2.3	1.4	0.2	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-46	K21	7	V	石礫	(2.3)	1.4	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-3-53-47	O16	1	V	石礫	(2.6)	1.4	0.3	0.9	黒曜石		
図IV-3-53-48	Q24	21	V	石礫	(2.7)	1.7	0.3	1.1	黒曜石		
図IV-3-53-49	P19	13	V	石礫	3.3	1.2	0.3	1.1	黒曜石		
図IV-3-53-50	P19	1	V	石礫	3.1	1.3	0.3	1.1	黒曜石		
図IV-3-53-51	O20	2	V	石礫	3.4	1.7	0.4	1.8	黒曜石		
図IV-3-53-52	Q9	11	V	石礫	3.3	1.6	0.4	1.4	黒曜石		
図IV-3-53-53	I21	4	V	石礫	3.7	1.7	0.4	1.9	頁岩		
図IV-3-53-54	I19	35	V	石礫	(3.8)	1.8	0.4	1.9	黒曜石		
図IV-3-53-55	N24	4	V	石礫	4.0	1.7	0.5	2.4	黒曜石		
図IV-3-53-56	P27	3	V	石礫	4.3	1.8	0.4	2.5	黒曜石		
図IV-3-54-57	H0	19	V	石楕	4.6	2.4	0.7	5.2	黒曜石		
図IV-3-54-58	H32	18	V	石楕	6.9	3.5	0.7	11.0	黒曜石		
図IV-3-54-59	R26	3	V	石楕	(6.4)	3.7	0.6	10.7	黒曜石		
図IV-3-54-60	J29	1	V	石楕	6.1	2.3	0.9	12.6	頁岩		
図IV-3-54-61	N47	14	V砂	石楕	6.9	2.4	0.6	9.6	黒曜石		
図IV-3-54-62	Q13	1	V	石楕	7.8	3.9	0.9	21.3	黒曜石		
図IV-3-54-63	P44	7	V	石楕	7.8	3.0	0.6	1.3	黒曜石		
図IV-3-54-64	P50	9	V砂	石楕	8.3	3.3	1.0	23.4	黒曜石		
図IV-3-54-65	O44	39	V	石楕	9.9	3.5	0.9	27.5	黒曜石		
図IV-3-54-66	S53	5	V	ナイフ	17.1	4.3	0.9	80.3	黒曜石		
図IV-3-54-67	S53	6	V	ナイフ	16.1	4.6	1.0	88.1	黒曜石		
図IV-3-55-68	P23	5	V	石礫	(2.9)	2.7	0.7	4.4	黒曜石		
図IV-3-55-69	L20	11	V	石礫	(3.3)	(3.1)	0.4	2.6	黒曜石		
図IV-3-55-70	F18	12	V	石礫	4.6	1.6	1.0	9.3	頁岩		
図IV-3-55-71	I31	13	V	石礫	3.2	0.9	0.4	1.3	黒曜石		
図IV-3-55-72	E29	16	V	石礫	(4.8)	0.9	0.7	2.4	黒曜石		
図IV-3-55-73	I32	5	V	石礫	4.7	0.9	0.8	2.6	黒曜石		
図IV-3-55-74	P20	13	V	石礫	5.0	1.3	0.5	3.4	頁岩		
図IV-3-55-75	M47	17	V砂	石礫	4.8	1.8	0.8	4.3	メノウ質頁岩	図0687	
図IV-3-55-76	N19	10	V	つまみ付きナイフ	(3.9)	1.4	0.8	4.7	頁岩		
図IV-3-55-77	R57	2	V	つまみ付きナイフ	5.8	1.9	0.7	8.2	頁岩		
図IV-3-55-78	S48	3	V	つまみ付きナイフ	8.1	2.7	0.7	17.0	頁岩		
図IV-3-55-79	N50	19	V	つまみ付きナイフ	(8.0)	2.0	0.6	12.6	頁岩		
図IV-3-55-80	O43	12	V	つまみ付きナイフ	10.2	2.2	1.0	25.5	頁岩		
図IV-3-55-81	L17	5	V	つまみ付きナイフ	6.2	4.0	0.9	26.5	頁岩		
図IV-3-55-82	Q37	13	V	つまみ付きナイフ	6.7	3.2	1.1	21.2	頁岩		
図IV-3-55-83	H29	8	V	つまみ付きナイフ	7.1	3.4	1.0	20.4	黒曜石		
図IV-3-55-84	I21	6	V	つまみ付きナイフ	9.2	3.4	0.9	26.1	頁岩		
図IV-3-55-85	H3	21	V	つまみ付きナイフ	6.2	2.6	0.8	10.9	黒曜石		
図IV-3-55-86	G30	6	V	つまみ付きナイフ	6.4	3.4	1.2	15.6	黒曜石		
図IV-3-55-87	G17	25	V	つまみ付きナイフ	8.3	2.5	1.0	18.3	頁岩		
図IV-3-55-88	N50	18	V	つまみ付きナイフ	(3.7)	4.2	0.4	6.2	黒曜石		
図IV-3-55-89	Q39	4	V	つまみ付きナイフ	4.0	(5.7)	1.1	18.6	頁岩		
図IV-3-55-90	L34	1	V	つまみ付きナイフ	2.7	1.6	0.6	2.7	黒曜石	図0688	
図IV-3-55-91	J2	9	V	スタレイバー	(3.9)	2.0	1.2	7.7	黒曜石		
図IV-3-55-92	H33	13	V	スタレイバー	(4.8)	2.1	0.7	6.1	黒曜石		
図IV-3-55-93	I34	36	V	スタレイバー	5.1	2.5	0.8	8.6	黒曜石		

図番号	調査区	遺物 番号	層位	分類	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	材質	図面 番号	備考	
図IV-3-56-94	H29	3	V	スタレイバー	8.3	4.7	1.2	63.5	頁岩	図版88		
図IV-3-56-95	Q34	7	V	スタレイバー	7.3	3.6	1.1	41.4	頁岩			
図IV-3-56-96	O12	1	V	スタレイバー	3.9	2.0	0.5	0.5	頁岩			
図IV-3-56-97	Q18	1	V	スタレイバー	3.5	2.3	0.7	6.1	黒曜石			
図IV-3-56-98	M16	3	V	スタレイバー	3.7	2.5	1.0	8.4	頁岩			
図IV-3-56-99	M37	1	V	スタレイバー	4.3	3.5	1.0	16.4	黒曜石			
図IV-3-56-100	M39	15	V	砂	スタレイバー	2.7	2.8	0.8	6.6		黒曜石	
図IV-3-56-101	N26	3	V	スタレイバー	3.8	2.1	0.7	6.6	黒曜石			
図IV-3-56-102	P30	6	V	スタレイバー	3.6	3.9	0.5	11.5	黒曜石			
図IV-3-56-103	L22	19	V	スタレイバー	2.8	4.5	0.9	9.3	黒曜石			
図IV-3-56-104	P21	5	V	スタレイバー	5.1	4.1	1.2	19.5	黒曜石			
図IV-3-56-105	G31	11	V	スタレイバー	(3.8)	1.6	0.5	3.2	黒曜石			
図IV-3-57-106	I3	36	V	両面調整石器	3.2	2.6	0.5	5.3	黒曜石			
図IV-3-57-107	I1	34	V	両面調整石器	3.5	3.0	0.6	6.8	黒曜石			
図IV-3-57-108	H3	32	V	両面調整石器	3.6	2.5	0.8	6.8	黒曜石			
図IV-3-57-109	N52	2	V	両面調整石器	5.3	3.6	0.9	18.9	黒曜石			
図IV-3-57-110	P15	29	V	石斧	11.3	7.4	4.0	578.8	燧石			
図IV-3-57-111	F11	1	V	石斧	11.9	5.5	2.2	240.1	緑色泥岩			
図IV-3-57-112	P29	2	V	石斧	9.3	4.6	1.0	58.8	緑色泥岩			
図IV-3-57-113	Q24	30	V	石斧	9.2	2.9	1.6	54.4	緑色泥岩			
図IV-3-57-114	P44	31	V	石斧	7.5	3.3	1.3	55.6	緑色泥岩			
図IV-3-57-115	I9	2	V	石斧	9.0	3.3	1.6	84.3	緑色泥岩			
図IV-3-58-116	R49	5	V	石斧	9.4	3.2	2.1	100.0	緑色泥岩			
図IV-3-58-117	Q82	1	V	石斧	10.7	4.0	1.5	10.1	片岩	両端に万部		
図IV-3-58-118	J5	15	V	石斧	12.0	4.8	1.7	148.4	緑色泥岩			
図IV-3-58-119	P22	21	V	石斧	11.9	4.9	2.4	246.9	蛇紋岩			
図IV-3-58-120	J7	11	V	石斧	13.7	3.7	1.1	99.7	片岩			
図IV-3-58-121	M8 N6	7 3	V	石斧	15.8	5.7	3.3	489.0	緑色泥岩	図版89		
図IV-3-58-122	S48	5	V	石のみ	3.1	1.9	0.4	3.6	緑色泥岩			
図IV-3-58-123	P6	11	V	石のみ	4.1	1.4	0.3	2.6	片岩			
図IV-3-58-124	K32	3	V	石のみ	(5.7)	1.3	0.3	7.2	緑色泥岩			
図IV-3-58-125	R51	6	V	石のみ	7.4	1.9	1.0	21.0	片岩	両端に万部		
図IV-3-59-126	R43	22	V	たたき石	16.3	7.0	3.6	602.0	凝灰岩	被熱		
図IV-3-59-127	P9	6	V	たたき石	15.3	4.0	4.2	411.0	砂岩	被熱		
図IV-3-59-128	O44	15	V	たたき石	10.1	6.5	4.4	406.0	安山岩			
図IV-3-59-129	R41	1	V	たたき石	7.5	4.9	4.0	203.0	砂岩			
図IV-3-59-130	M46	5	V	たたき石	7.8	4.7	3.8	203.0	砂岩			
図IV-3-59-131	P14	2	V	たたき石	9.0	4.8	3.1	249.0	緑色泥岩	石斧転用品		
図IV-3-59-132	R50	20	V	たたき石	4.7	5.0	3.1	136.0	緑色泥岩			
図IV-3-59-133	G17	7	V	たたき石	5.9	5.6	3.4	185.0	緑色泥岩			
図IV-3-59-134	J13	15	V	たたき石	4.9	5.0	4.9	208.0	燧石			
図IV-3-59-135	G31	17	V	すり石	(7.0)	13.6	5.4	708.0	砂岩	断面三角形		
図IV-3-59-136	H19 H20	21 19	V	すり石	5.8	7.5	6.2	481.5	安山岩	図版90		
図IV-3-59-137	R46	6	V	すり石	7.9	7.3	4.9	389.7	安山岩			
図IV-3-60-138	P24	9	V	すり石	8.7	12.6	4.6	806.0	安山岩	北海道式石冠		
図IV-3-60-139	I23	18	V	すり石	9.4	13.3	5.5	944.0	安山岩	北海道式石冠		
図IV-3-60-140	F17	2	V	すり石	8.7	14.5	5.4	1027.0	砂岩	北海道式石冠		
図IV-3-60-141	M3	6	V	すり石	6.2	14.0	2.5	400.8	砂岩			
図IV-3-60-142	J23	23	V	すり石	8.6	18.6	5.4	1450.0	安山岩			
図IV-3-61-143	P22	29	V	石籠	6.8	10.1	1.4	107.2	砂岩			
図IV-3-61-144	R44	21	V	石籠	3.5	10.8	1.2	67.3	砂岩			
図IV-3-61-145	O63	4	V	砥石	14.9	6.6	1.0	194.3	砂岩			
図IV-3-61-146	O44	15 + 45 + 96	V	砥石	(32.7)	12.0	4.8	2840.0	砂岩	114点接合		
図IV-3-61-147	P56	19	V	砥石	11.2	4.7	4.8	364.0	砂岩	四面砥石		
図IV-3-61-148	P22	5	V	石籠	5.2	6.5	8.8	50.0	凝灰岩	図版91		
図IV-3-61-149	F19	12	V	石籠	5.7	7.3	1.7	127.4	片麻岩			
図IV-3-61-150	M16	18	V	石籠	7.9	7.0	3.4	360.5	片麻岩			
図IV-3-61-151	K20	21	V	石籠	9.0	7.3	1.5	174.4	片麻岩			

図番号	調査区	遺物 番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図番 番号	備考
図IV-3-61-152	K19	1	V	石鏃	(4.5)	11.9	1.5	130.8	緑色泥岩	図091	石押輪用品?
図IV-3-62-153	N44	14	V	台石	15.5	21.1	10.2	5012.0	安山岩		
図IV-3-62-154	G33	1	V	石鏃	31.2	28.2	14.5	18100.0	凝灰岩		ペンガラ付着
図IV-3-63-155	H27	5	V	石製品	4.8	4.6	3.0	21.9	礫石		
図IV-3-63-156	G18	29	V	石製品	6.7	5.0	2.0	31.9	礫石		
図IV-3-63-157	J1	9	V	石製品	7.0	6.3	2.2	45.4	礫石		
図IV-3-63-158	H31	31	V	石製品	2.8	1.5	0.3	1.4	黒曜石		異形石器
図IV-3-63-159	L24	19	V	石製品	1.6	1.2	0.3	0.7	黒曜石		異形石器
図IV-3-63-160	P65	13	V	石製品	2.9	0.8	0.6	1.9	黒曜石		異形石器
図IV-3-63-161	N36	6	V	石製品	0.9	0.9	0.9	1.0	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-162	N37	1	V	石製品	0.9	0.9	0.8	0.6	蛇紋岩	玉	
図IV-3-63-163	R39	3	V	石製品	1.0	1.0	1.2	1.8	蛇紋岩	玉	
図IV-3-63-164	I2	25	V	石製品	1.6	1.6	1.3	4.6	蛇紋岩	玉	
図IV-3-63-165	N54	4	V	石製品	1.3	1.0	0.6	1.1	蛇紋岩	玉	
図IV-3-63-166	P52	15	V	石製品	1.2	1.4	0.5	1.0	蛇紋岩	玉	
図IV-3-63-167	O45	13	V	石製品	(1.8)	1.0	0.5	1.2	メノウ	磨物	
図IV-3-63-168	H7	11	V	石製品	(1.7)	0.9	0.2	0.6	蛇紋岩	磨物	
図IV-3-63-169	Q33	13	V	石製品	1.7	2.6	0.8	2.6	礫石	玉	
図IV-3-63-170	H2	51	V	石製品	2.5	1.9	1.2	8.3	蛇紋岩	玉	
図IV-3-63-171	O44	8	V	石製品	2.5	1.7	0.9	6.7	滑石	玉・孔2か所	
図IV-3-63-172	M10	4	V	石製品	4.0	4.3	0.5	9.4	凝灰岩	玉・孔2か所	
図IV-3-63-173	N36	2	V	石製品	9.6	19.8	4.0	1005.0	凝灰岩	半円状有孔石製品	
図IV-3-63-174	Q54	36	V	石製品	20.6	16.1	1.8	666.0	凝灰岩	オロンガキ状石製品	
図IV-3-64-175	Q62	13	V	石製品	12.5	9.5	1.8	225.5	凝灰岩	オロンガキ状石製品	
図IV-3-64-176	N42 P25	22 7	V	石製品	31.5	8.1	1.9	585.0	片岩	環状石製品 接合・1点破断	

V 梅川1遺跡

1 遺構

(1) 概要

遺構はT a - cを除去後にV層上面から焼土を9か所検出している。旧河道を挟む標高8 mほどの段丘上の両側から確認している。獣骨・魚骨の微細骨片を多く含む灰層がある。焼土は、周辺からの出土遺物やT a - c降下直前とみられる検出層位から、縄文時代晩期中葉に形成されたと考えられる。

(2) 焼土

V F - 1 (図V-1-2/表1~4・7)

特徴 T a - cを除去後、S74 a区を調査中に微細骨片を多量に含むオリーブ灰色の範囲を検出した。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる獣骨・魚骨が106.1 gのほか堅果・炭化材・カワシンジュガイなどが検出された。焼土は非常によく焼けている。遺物は焼成面上からV群b類土器(図V-2-1-1)、石鏃(図V-2-2-1)、剥片が出土している。剥片は被熱したものが多量に出土した。北西側には土器片(V群b類)の集ながみられる。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。

(酒井)

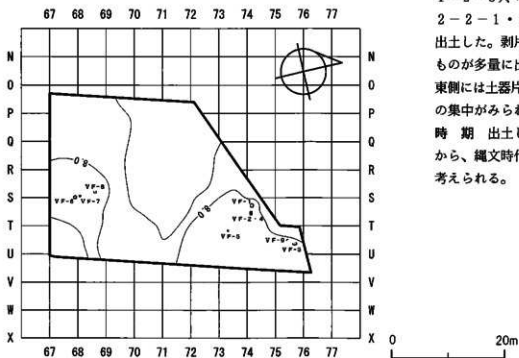
V F - 2 (図V-1-2/表1~4・7)

特徴 T a - cを除去後、S74 a・b区を調査中に微細骨片を多量に含む赤褐色の範囲を検出した。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる獣骨・魚骨が15.9 gのほか堅果・炭化材・カワシンジュガイなどが検出された。焼土には微細骨片が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。位置的にはV F - 1から廃棄されたものと推定される。遺物はV群b類土器(図V-2-

1-2・3)、石鏃(図V-2-2-1・2)、剥片が出土した。剥片は被熱したものが多量に出土した。南東側には土器片(V群b類)の集ながみられる。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。

(酒井)



図V-1-1 遺構位置図

VF-3 (図V-1-2/表1・2・4)

特徴 T a-cを除去後、S75c区を調査中に微細骨片を含む黒色土の範囲を検出した。西側をB調査坑により削平されている。南側を半截したところ、黒色土の下に微細骨片を多量に含むオリブ灰色の範囲を検出した。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。シカヤサケ・マス類とみられる獣骨・魚骨が291.1gのほか種子・堅果・炭化材・カワシヅメガイなどが検出された。焼土は非常によく焼けている。遺物は焼成面上からV群b類土器、焼成粘土塊、スクレイパー (図V-2-2-1)、剥片が出土した。剥片は、被熱して白く曇っているものが多量に出土している。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (酒井)

VF-4 (図V-1-2/表1・2・7)

特徴 VF-2を半截した際に直下から微細骨片を含む橙色の範囲を検出した。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。骨片のほか種子・炭化材などが検出された。焼土は非常によく焼けている。遺物はV群b類土器、剥片が出土した。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (酒井)

VF-5 (図V-1-3/表1・2・7)

特徴 T a-cを除去後、T73a区を調査中に微細骨片を含むいぶい赤褐色の範囲を検出した。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。微細骨片のほか種子・炭化材などが検出された。焼土には微細骨片が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物は剥片が出土した。

時期 周囲から出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (酒井)

VF-6 (図V-1-3/表1・2・7)

特徴 T a-cを除去後、R67c・S67d区を調査中に微細骨片を含むいぶい橙色の範囲を検出した。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。種子・炭化材が検出された。焼土には微細骨片が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物はV群b類土器、剥片が出土している。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (影浦)

VF-7 (図V-1-3/表1・2)

特徴 T a-cを除去後、R68b区を調査中に炭化物を含む明黄褐色の範囲を検出した。焼土には炭化物が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物は剥片が出土している。

時期 周囲から出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (影浦)

VF-8 (図V-1-3/表1~3)

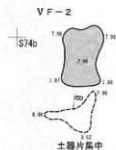
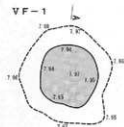
特徴 T a-cを除去後、R68c区を調査中に微細骨片を微量含む橙色の範囲を検出した。焼土は非常によく焼けており、現地で焼成されたものと考えられる。遺物はV群b類土器 (図V-2-1-4)、剥片が出土している。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (影浦)

VF-9 (図V-1-2/表1・2・7)

特徴 T a-cを除去後、T75a区を調査中、B調査坑の断面に微細骨片を含む焼土の断面を検出した。精査したところ微細骨片を多量に含むオリブ灰色の範囲を検出した。北東側をB調査坑により削平されている。この土壌を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のよう

VF-1・2・4



VF-1

- 5YR4/6赤褐色焼土粒を含む灰層 しまり中 粘性中 微細骨片を多量に含む(30%)
- 5G5/1オリーブ灰色焼土 しまり中 粘性強 微細骨片を多量に含む(30%)
- 2.5YR4/6赤褐色焼土 しまり中 粘性強 非常によく焼けている
- 5YR4/8赤褐色焼土 しまり中 粘性強

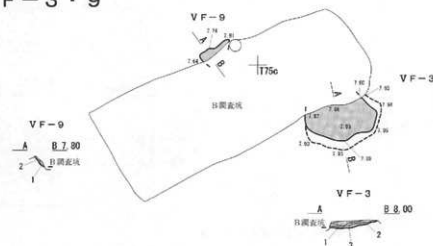
VF-2

- 5YR4/6赤褐色焼土を含む 微細骨片を多量に含む(30%) 腐葉 VF-1のものか?

VF-4

- 5YR6/6橙褐色焼土 しまり中 粘性強 上に微細骨片(1%) VF-2の直下

VF-3・9



VF-3

- 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性強 微細骨片含む(10%) 灰層
- 2.5G5/1オリーブ灰色焼土 しまり中 粘性強 微細骨片多量に含む(40%) 灰層
- 2.5YR4/6赤褐色焼土~5YR4/8赤褐色焼土 しまり中 粘性強 非常によく焼成されている

VF-9

- 5YR7/2明褐色粘土 しまりなし 粘性強 微細骨片多量に含む(40%) 灰層
- 5YR5/6明赤褐色焼土 しまり中 粘性強

0 1m

図V-1-2 VF-1~4・9

VF-5

1773a

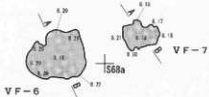
1773d



VF-5

1 5YR4/4にぶい赤褐色焼土~7.5YR4/3褐色焼土 しまり中 粘性中
微細骨片多く含む(20%) 腐葉 焼成された様子はない

VF-6・7



S68d



VF-6

1 7.5YR6/6橙色焼土 しまり弱 粘性強
黒色土30%、炭10%、微細骨片10%混じる

VF-7

1 10YR7/6明黄褐色土 しまり弱 粘性強
黒色土30%、炭10%混じる

VF-8



VF-8

1 7.5YR6/6橙色焼土 しまり弱 粘性強
黒色土30%程度に混じる 骨片、炭が少量に混じる
2 7.5YR6/6橙色焼土 しまり弱 粘性強

S68d

S69a

0 1m

図V-1-3 VF-5~8

な結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる獣骨・魚骨が18.5gのほか炭化材が検出された。焼土は非常によく焼けており、現地で焼成されたものと考えられる。遺物はV群B類土器、剥片が出土している。B調査坑の壁面の崩落で傾いている。

時期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。

(酒井)

2 遺構出土の遺物

(1) 土器

VF-1 (図V-2-1/表3/図版94)

1はV群b類。口縁部片。口唇断面は角形。器外面にRL斜走縄文。口唇直下は横ナデにより無文。

VF-2 (図V-2-2・3/表3/図版94)

2・3はV群b類。いずれも口縁部片。2は端面が内傾する。端面～外面にRL斜走縄文。3は口唇がやや肥厚し、端面が内傾する。器外面にRL斜走縄文。

VF-8 (図V-2-4/表3/図版94)

4はV群b類。突起の一部が残る口縁部片。端面が内傾する。器外面にRL縦走縄文が施されるが、口唇直下は横ナデにより無文。縄側面圧痕5条が横走る。(芝田)

(2) 石器等

遺構からは剥片石器4点、剥片3,735点、礫片19点の合計3,758点が出土している。剥片石器等の石材はすべて黒曜石である。この中から剥片石器4点を図化した。

VF-1 (図V-2-2-1、表4、図版94)

1は石鏃。有茎凸基。被熱によって全体が薄く白く曇っている。

VF-2 (図V-2-2-1・2、表4、図版94)

1・2は石鏃。有茎平基。被熱によって全体が白く曇っている。2は有茎凸基。調整が粗く、未成品の可能性ある。

VF-3 (図V-2-2-1、表4、図版94)

1はスクレイパー。剥片の周縁を加工して刃部を作出している。被熱によって全体が白く曇っている。

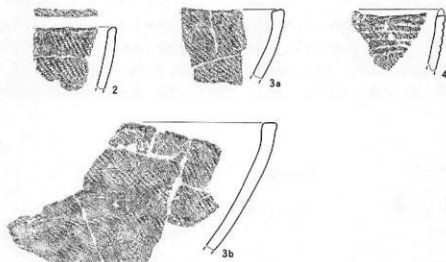
VF-1



VF-2



VF-8



0 10cm

図V-2-1 遺構の土器

3 包含層出土の遺物

(1) 土器

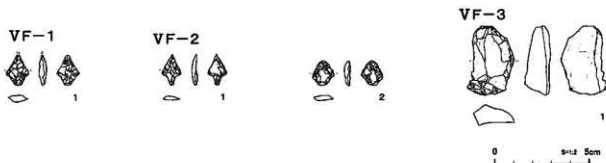
V層より土器等は1,797点出土している(表I-4)。このうちV群b類が1,466点で最も多い。このほかⅢ群b類が256点、Ⅳ群b類が59点、Ⅳ群c類が4点出土しているが、いずれも微細な破片で、透水の影響で残存状態がよくないことから掲載しなかった。土製品12点はすべて焼成粘土塊である。

V群b類は、美々3式に相当する。焼土VF-1～9と同様にV層上面から3～5cm下のV層上位より出土する。遺物分布図は、祝梅川小野遺跡と合わせて記載した(図IV-3-47～52)。梅川1遺跡と祝梅川小野遺跡の低地部分は、祝梅川旧河道右岸の同じ段丘面に立地しており、埋蔵文化財包蔵地としては一連のものともみなせる。縄文時代前～後期は遺構・遺物が希薄で、これは祝梅川小野遺跡の低地部分北側から続く傾向である。晩期中葉(V群b類)は、梅川旧河道の両岸(65～69ライン、74～76ライン)に集中域があり、北側の調査範囲外へと続く予想される。梅川旧河道の内部からの出土は少ない。

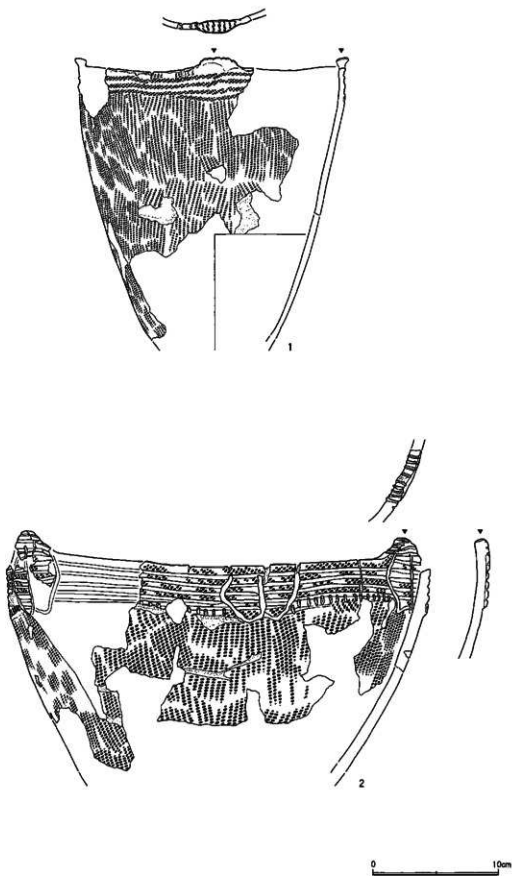
縄文時代晩期中葉の土器(図V-3-1・2/表5/図版93・94)

V群b類：美々3式に相当するもの(1～18)

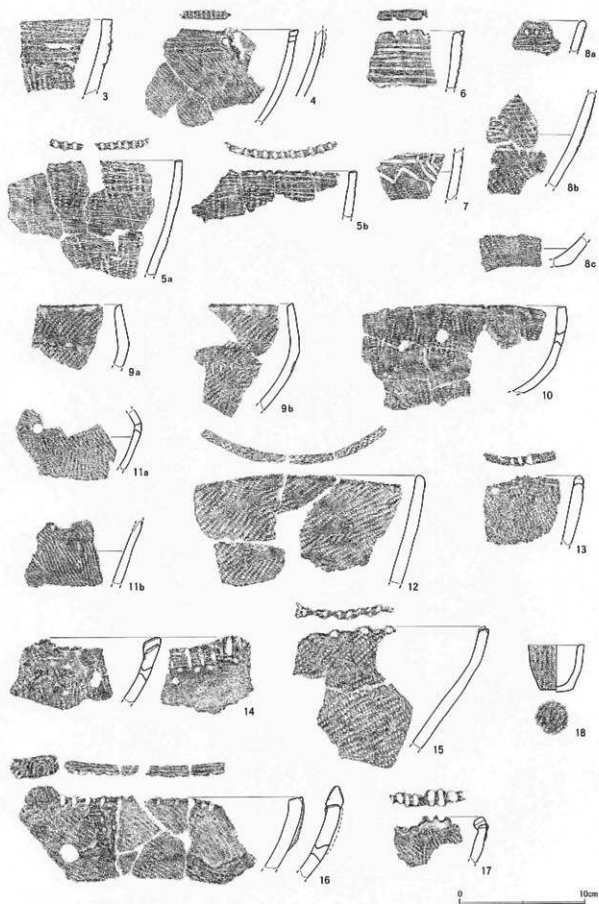
1は口縁～胴下部が復元された深鉢。山形突起4か所が設けられていたと推測される。突起の頂部は肥厚し、縦位のRL縄側面圧痕。口縁部は無文で、RL縄側面圧痕3ないし4条が巡る。胴部外面はRL縦走縄文。2は口縁～胴中部が復元された深鉢。山形突起2か所が現存する。突起の頂部は半截竹管状施工具により縦位に刻まれる。器外面にはRL原体により口縁部は斜走縄文、胴部は縦走縄文。口縁部は4～7条の横走沈線に、2連の垂下屈曲沈線を上書きしている。横走沈線下には半截竹管状施工具による刺突列が巡る。2は口縁部にRL縄側面圧痕7条が巡り、竹管状施工具による横向きの押し引き状刺突列が上書きされる。胴部はRL縦走縄文。4は口縁部にRL縄側面圧痕4条が巡り、弧状またはV字状と推測される貼付帯が取り付けられる。貼付帯の側縁に円形刺突孔1か所が確認される。端面は内傾し、RL縄により縦位に刻まれる。胴部はRL斜走縄文。5は器外面にRL縦走縄文が施され、細沈線がやや粗雑に横走する。端面は水平で、棒状施工具の側縁により刻まれる。6は無文地に横走沈線が多段に巡り、縦位の細沈線が上書きされる。端面外縁は棒状施工具の側縁により刻まれる。7は胴上部片。RL斜走縄文に横走・弧状・鋸歯状の沈線が上書きされる。8は器外面にRL斜走縄文。口縁部は粗雑な横走沈線に斜位の細沈線が上書きされる。口唇直下には円形刺突列が巡る。底部は丸底ぎみ。9・11は口縁部が内側へ屈曲する器形。9は端面が内傾する。器外面に



図V-2-2 遺構の石器



図V-3-1 包含層の土器(1)



図V-3-2 包含層の土器(2)

L R斜走縄文が施され、屈曲部分には半截竹管状施文具による刺突列が巡る。10は浅鉢。端面は水平。器外面にR L縦走縄文が施される。補修孔2か所が確認される。11はR L縦走縄文が施され、補修孔1か所が確認される。12は端面～外面にR L斜走縄文。端面は丸みを帯びる。13は山形突起部分で、器外面にR L斜走縄文。突起の頂部は棒状施文具の側縁により刻まれる。14・15は浅鉢。14は山形突起部分で、内面の口唇直下にR L縄側面圧痕4条が巡り、棒状施文具の側縁により刻まれる。縄側面圧痕下には円形刺突列が巡る。15は端面の内外側縁が指頭圧痕により小波状を呈し、さらに波頂部が竹管状施文具により刺突される。器外面にL R斜走縄文。16は山形突起および端面に縄側面圧痕。端面外縁は棒状施文具の側縁により刻まれる。器外面にL R斜走縄文を施した後、口縁部に幅広の貼付帯を上乘せし、縄側面圧痕や刺突列などを加えている。補修孔1か所が確認される。17は山形突起部分。頂部および端面は棒状施文具の側縁により刻まれる。器外面にR L斜走縄文。18はミニチュアの深鉢。器外面～底面にR L縦走縄文が施される。(芝田)

(2) 石器等

石器等は479点出土している。剥片石器55点、礫石器19点、剥片385点、礫・礫片20点である。この中から定型的で完形のものを中心に抽出し掲載した。利用する石材は、剥片石器類では黒曜石が98%を占める。礫石器類は安山岩(31%)、砂岩(28%)、緑色泥岩(23%)、その他(18%)である。分類別では石鏃・スクレイパー・石斧が多い。遺物分布図については、祝梅川小野遺跡の遺物分布図(図IV-3-65~79)と合わせて記載している。

石鏃(図V-3-3-1~4/表6/図版94)

石鏃は15点出土した。すべて有茎のものである。石材はすべて黒曜石。

1~4は有茎鏃。1~3は平基。1・2は基部が逆三角形になる。4は菱形をしている。裏面に素材剥片の剥離面を残す。

スクレイパー(図V-3-3-5~8/表6/図版94)

スクレイパーは11点出土した。石材は黒曜石が10点を占め、頁岩は掲載した1点のみである。

5~7は剥片の周囲に円弧状の刃部を設けている。8は縦長剥片の片面全面を加工している。つまみ部が作出されていないためスクレイパーとしたが、つまみ付きナイフの未成品の可能性もある。

石斧(図V-3-3-9・10/表6/図版94)

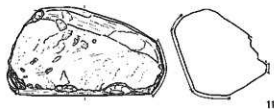
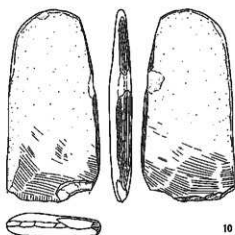
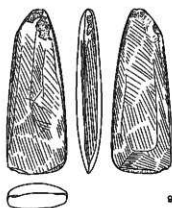
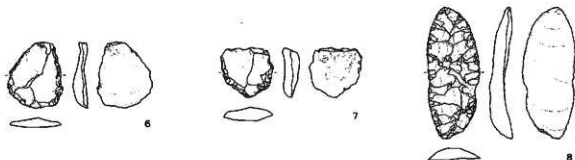
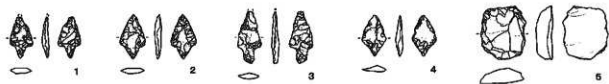
石斧は6点出土した。短冊形ものが出土している。石材は緑色泥岩・泥岩である。

9・10は短冊形で曲刃、両刃。9は敲打による整形後、全面を研磨している。10は扁平礫の右側縁を研磨によって直線的に整形している。刃部は使用による剥離が見られる。

すり石(図V-3-3-11/表6/図版94)

すり石は3点出土した。断面三角形の稜を擦ったもの1点と北海道式石冠片が2点出土している。石材は砂岩と安山岩である。

11は断面が三角形の礫の稜を擦ったすり石。左端部を欠損している。2つの稜に擦り痕が見られる。右端部ともう一つの稜には敲打による整形が見られる。(酒井)



図V-3-3 包含層の石器

表1 検出遺構規模一覧

遺構個別	遺構名	調査区	規模(m)				深さ	時期 (縄文時代)	特徴	図番号
			上端		下端					
			長軸	短軸	長軸	短軸				
焼土	VF-1	S74a	0.66	0.62	—	—	0.06	晩期中葉	現地	図V-1-2
	VF-2	S74ab	0.64	0.44	—	—	0.02	晩期中葉	廃棄	図V-1-2
	VF-3	S75c	0.76	0.40	—	—	0.06	晩期中葉	現地	図V-1-2
	VF-4	S74ab	0.50	0.26	—	—	0.02	晩期中葉	現地	図V-1-2
	VF-5	T73a	0.30	0.26	—	—	0.02	晩期中葉	廃棄	図V-1-3
	VF-6	R67c/S67d	0.64	0.34	—	—	0.02	晩期中葉	廃棄	図V-1-3
	VF-7	R68b	0.40	0.30	—	—	0.02	晩期中葉	廃棄	図V-1-3
	VF-8	R68c	0.56	0.40	—	—	0.04	晩期中葉	現地	図V-1-3
	VF-9	T75a	0.36	0.10	—	—	—	晩期中葉	廃棄	図V-1-2

表2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位	遺物名	分類	石材	点数	遺構名	層位	遺物名	分類	石材	点数		
VF-1	V	土器	V群b類		261	VF-5	V	剥片	剥片	黒曜石	1		
		剥片石器	石鏃	黒曜石	1					合計	1		
		剥片	剥片	黒曜石	2439					合計	14		
				合計	2701	VF-6	V	土器	V群b類		14		
								剥片	剥片	黒曜石	26		
										合計	40		
VF-2	V	土器	V群b類		52	VF-7	V	剥片	剥片	黒曜石	2		
		剥片石器	石鏃	黒曜石	2					合計	2		
		剥片	剥片	黒曜石	246								
				合計	300	VF-8	V	土器	V群b類		297		
								剥片	剥片	黒曜石	2		
										合計	299		
VF-3	V	土器	V群b類		11	VF-9	V	土器	V群b類		46		
		土製品	焼成粘土塊		95					剥片	剥片	黒曜石	64
		剥片石器	スクレイパー	黒曜石	1							合計	110
										合計	892		
VF-4	V	土器	V群b類		877	総計						5236	
		剥片	剥片	黒曜石	14								
						合計	891						

表3 遺構出土縄織土器一覧

図番号	遺構名	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図V-2-1-1	VF-1	VF-1・3×2	V	口縁部	Vb	図版94	同一器体
図V-2-1-2	VF-2	VF-2・3×2	V	口縁部	Vb		
図V-2-1-3	VF-2	VF-2・3×3	V	口縁部	Vb		
		VF-2・3×6		口縁~胴部			
図V-2-1-4	VF-8	VF-8・2×3	V	口縁部	Vb		

表4 遺構出土縄織石器一覧

図番号	遺構名	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図V-2-2-1	VF-1	5	V	石鏃	(1.6)	1.1	0.3	0.5	黒曜石	図版94	有茎 被熱
図V-2-2-1	VF-2	5	V	石鏃	(1.6)	1.0	0.2	0.2	黒曜石	図版94	有茎 被熱
図V-2-2-2	VF-2	6	V	石鏃	(1.3)	1.1	0.3	0.4	黒曜石	図版94	有茎
図V-2-2-1	VF-8	1	V	スクレイパー	3.6	(2.4)	1.2	9.6	黒曜石	図版94	被熱

表5 包含層出土掲載土器一覧

図番号	原産区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図V-3-1-1	a S66・5×14、S-66・6×1、	計21	V	復元土器(口縁~胴部)	Vb	図版93 同一個体
	b S67・5×6					
図V-3-1-2	R74・1×36	V	復元土器(口縁~胴部)	Vb		
図V-3-2-3	T76・2×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-4	S67・5×3	V	口縁~胴部	Vb		
図V-3-2-5	a S67・5×4	計5	V	口縁部	Vb	
	b S67・4×1、S-67・5×4					
図V-3-2-6	S67・5×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-7	T67・4×1	V	胴部	Vb		
図V-3-2-8	a R74・1×1	V	胴部	Vb	図版94 同一個体	
	b R74・1×2					
	c R74・1×1					
図V-3-2-9	a R67・1×1	V	口縁部	Vb		
	b R67・1×2					
図V-3-2-10	R74・1×6、S-74・7×2	計8	V	口縁~胴部		Vb
図V-3-2-11	a R67・1×2	V	胴部	Vb		
	b S66・2×1					
図V-3-2-12	T74・5×4	V	口縁~胴部	Vb		
図V-3-2-13	S74・4×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-14	T72・4×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-15	T66・2×2	V	口縁~胴部	Vb		
図V-3-2-16	T74・3×6	V	口縁~胴部	Vb		
図V-3-2-17	S67・5×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-18	T71・1×1	V	口縁~底唇	Vb		

表6 包含層出土掲載石器一覧

図番号	原産区	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図V-3-3-1	S74	2	V	石鏃	(2.1)	1.2	0.4	0.6	黒曜石	図版94	有茎
図V-3-3-2	S67	3	V	石鏃	2.2	1.3	0.3	0.8	黒曜石	図版94	有茎
図V-3-3-3	S73	9	V	石鏃	(2.7)	1.2	0.4	0.8	黒曜石	図版94	有茎
図V-3-3-4	S67	4	V	石鏃	2.1	1.2	0.4	0.6	黒曜石	図版94	有茎
図V-3-3-5	R74	2	V	スクレイパー	2.9	2.7	0.8	6.2	黒曜石	図版94	
図V-3-3-6	T74	2	V	スクレイパー	2.9	2.6	0.8	5.5	黒曜石	図版94	
図V-3-3-7	T74	3	V	スクレイパー	3.5	2.9	0.7	5.8	黒曜石	図版94	
図V-3-3-8	T67	9	V	スクレイパー	6.9	2.7	1.0	17.2	頁岩	図版94	
図V-3-3-9	T73	6	V	石斧	8.7	3.1	1.3	58.5	緑色泥岩	図版94	
図V-3-3-10	R68	1	V	石斧	(10.2)	4.9	1.1	93.2	緑色泥岩	図版94	
図V-3-3-11	R70	1	V	すり石	(12.6)	8.6	6.8	778.0	砂岩	図版94	断面三角形

表7 土壌フローテーション成果一覧

遺物名	処理番号	炭化物重量%			骨 重量%	土器 重量%	土器品 重量%	石器 重量%	黒曜石 重量%	視片点数		その他 重量%	備考	
		2.5mm	0.425mm	篩残						黒曜石	その他			
VF-1	20-1	31.9	4.3	7.8	1.5	196.1	56.2	115	なし	なし	16.9	1,627	なし	重量1.5g カワシンジュガイ3.1g
VF-1	20-2	3.2	0.3	0.4	なし	50.0	44.7	47	なし	なし	14.0	794	なし	重量0.1g カワシンジュガイ0.6g
VF-2	20-3	4.8	11.7	0.3	0.1	15.3	8.1	14	なし	なし	2.6	220	なし	重量0.1g カワシンジュガイ0.0g
VF-2	20-4	0.7	0.4	0.1	なし	0.6	なし	なし	なし	なし	0.2	22	なし	
VF-3	20-5	5.3	1.2	0.3	0.0	291.1	25.2	11	18.6	なし	6.2	785	なし	重量0.0g カワシンジュガイ(3) 不明(1) カワシンジュガイ0.6g
VF-4	20-6	6.9	1.6	0.0	0.0	0.2	52.8	695	なし	なし	0.0	12	なし	不明(2)
VF-4	20-7	6.4	1.4	0.0	0.0	0.1	36.1	178	なし	なし	0.0	2	なし	シソ科(1)+カシノウ 不明(10)(3)
VF-5	20-8	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	0.0	1	なし	種子 不明(1)(3) 虫食(1)
VF-6	20-9	1.1	0.4	0.0	0.0	なし	15.5	12	なし	なし	5.7	25	なし	種子 不明(1)(1)
VF-7	20-10	6.8	0.3	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	2	なし	
VF-8	20-11	0.3	0.2	0.0	なし	なし	40.7	177	なし	なし	なし	なし	なし	
VF-9	20-12	2.4	0.7	0.0	0.0	18.8	35.8	46	なし	なし	0.5	64	なし	カワシンジュガイ0.9g
T75	20-14	4.4	1.2	0.1	なし	22.4	1.9	4	なし	なし	0.3	28	なし	カワシンジュガイ0.1g

VI 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果について

平成19年度に当財団が株式会社加速器分析研究所に委託し、年代測定の成果として提出された「放射性炭素年代測定結果 報告書」を掲載する。報告書中の測定結果については、今回報告するV層の測定結果9点について抜き出して掲載している。測定の対象となった試料IAAA-72173~72177・72180~72182・72184の採取位置などについては表1のとおりである。

測定試料は、竪穴住居跡や土坑から採取された炭化物である。各遺構の形成年代を把握することを目的として測定を依頼した。

測定結果については、現場での観察結果および整理段階での検討結果と、今回の測定数値におおきな乖離は見られなかった。

縄文時代前期後半を想定していたVH-2・VH-6は4,489~4,537yrBP、後期前葉を想定していたVH-7・VP-10は3,490~3,528yrBP、後期中葉~後葉を想定していたVH-11・VP-39・VP-42は3,218~3,407yrBPという数値を得た。これらについては、おおよそ想定した年代ごとにまとまった数値となっており、数値自体もこれまでの年代観に対して異論を挟むものではないと考えられる。また、各遺構から出土する遺物や周囲から出土する遺物とも矛盾しない。(西井)

表VI-1-1 放射性炭素年代測定試料一覧

試料番号	試料	出土地点	層位	Code No.	前処理	暦年較正用 (yrBP・丸め込みなし)	暦年較正1σ (yrcaBP)	暦年較正2σ (yrcaBP)
No.9	炭化物	VH-2	HP-23 坑底	IAAA-72173	AAA	4537±57	3360-3330BC(18.3%) 3280-3260BC(10.8%) 3240-3110BC(49.2%)	3370-3260BC(35.1%) 3250-3090BC(60.3%)
No.10	炭化物	VH-6	HP-1 覆土4層	IAAA-72174	AAA	4489±35	3340-3260BC(29.0%) 3250-3210BC(14.2%) 3190-3150BC(12.9%) 3130-3090BC(12.1%)	3350-3080BC(91.8%) 3060-3030BC(3.6%)
No.11	炭化物	VH-7	HP-1 覆土	IAAA-72175	AAA	3490±31	1880-1760BC(68.2%)	1900-1730BC(94.3%) 1710-1690BC(1.1%)
No.12	炭化物	VH-7	HF-1 覆土	IAAA-72176	AAA	3528±31	1920-1870BC(28.1%) 1850-1770BC(40.1%)	1940-1750BC(95.4%)
No.13	炭化物	VH-11	床面付近	IAAA-72177	AAA	3407±32	1750-1665BC(68.2%)	1870-1840BC(3.0%) 1780-1610BC(82.4%)
No.16	炭化物	VP-10	覆土	IAAA-72180	AAA	3523±31	1990-1880BC(20.2%) 1850-1770BC(48.0%)	1940-1750BC(95.4%)
No.17	炭化物	VP-39	覆土	IAAA-72181	AAA	3344±30	1690-1600BC(61.6%) 1570-1560BC(4.2%) 1550-1540BC(2.4%)	1740-1710BC(2.8%) 1700-1520BC(92.5%)
No.18	炭化物	VP-42	覆土	IAAA-72182	AAA	3218±31	1515-1445BC(68.2%)	1610-1580BC(2.6%) 1540-1410BC(92.8%)
No.20	炭化物		V層	IAAA-72184	AAA	3287±33	1610-1520BC(68.2%)	1870-1650BC(1.4%) 1640-1480BC(94.0%)

祝梅川小野遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

祝梅川小野遺跡は、北海道千歳市祝梅485番地2ほか(北緯42° 49' 51"、東経141° 41' 52")に所在する。測定対象試料は、祝梅川小野遺跡から出土した炭化物9点である。

2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80℃)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

4 測定方法

測定機器は、(株)加速器分析研究所の¹⁴C-AMS専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹⁴Cの測定も同時に行う。

5 算出方法

年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する。¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表される。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料

炭素の ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを計算する。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(加速器)と注記する。また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{14}\text{C} = -25.0$ (%)であるときの ^{14}C 濃度に換算した上で計算した値である。pMC (percent Modern Carbon)は、 ^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合を示す。

年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値を暦年校正年代という。暦年校正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10校正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。暦年校正年代は、 ^{14}C 年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年校正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入していない ^{14}C 年代値である。

6 測定結果

^{14}C 年代は、VH-2では、HP-23坑底の炭化物が $4540 \pm 40\text{yrBP}$ (No.9 : IAAA-72173) である。VH-6では、HP-1覆土4層の炭化物が $4490 \pm 40\text{yrBP}$ (No.10 : IAAA-72174) である。VH-7では、HF-1覆土の炭化物が $3490 \pm 30\text{yrBP}$ (No.11 : IAAA-72175) と $3530 \pm 30\text{yrBP}$ (No.12 : IAAA-72176) である。VH-11では、床面付近の炭化物が $3410 \pm 30\text{yrBP}$ (No.13 : IAAA-72177) である。VP-10覆土の炭化物は $3520 \pm 30\text{yrBP}$ (No.16 : IAAA-72180)、VP-39覆土の炭化物が $3340 \pm 30\text{yrBP}$ (No.17 : IAAA-72181)、VP-42覆土の炭化物が $3220 \pm 30\text{yrBP}$ (No.18 : IAAA-72182) である。包含層V層出土の炭化物が $3290 \pm 30\text{yrBP}$ (No.20 : IAAA-72184) である。

暦年校正年代 ($1\sigma = 68.2\%$) は、No.9が3360~3110BC、No.10が3340~3090BC、No.11が1880~1760BC、No.12が1920~1770BC、No.13が1750~1665BC、No.16が1900~1770BC、No.17が1690~1540BC、No.18が1515~1445BC、No.20が1610~1520BCに含まれる。

試料の炭素含有率は十分であり、化学処理および測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考えられる。

参考文献

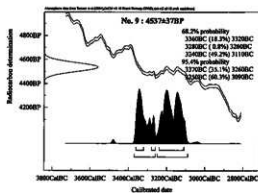
- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72173 #2040-9	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-2 HP-23坑底 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 9	Libby Age (yrBP) : 4,540 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.94 ± 0.65 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -481.5 ± 2.7 pMC (%) = 56.85 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -433.8 ± 2.5 pMC (%) = 56.62 ± 0.25 Age (yrBP) : 4,570 ± 40
IAAA-72174 #2040-10	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-6・HP-1覆土4層 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 10	Libby Age (yrBP) : 4,490 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.66 ± 0.32 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -428.1 ± 2.5 pMC (%) = 57.19 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -431.3 ± 2.5 pMC (%) = 56.87 ± 0.25 Age (yrBP) : 4,530 ± 40
IAAA-72175 #2040-11	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-7・HP-1覆土 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 11	Libby Age (yrBP) : 3,490 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.99 ± 0.83 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -352.4 ± 2.5 pMC (%) = 64.76 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -353.7 ± 2.3 pMC (%) = 64.63 ± 0.23 Age (yrBP) : 3,510 ± 30
IAAA-72176 #2040-12	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-7・HP-1覆土 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 12	Libby Age (yrBP) : 3,530 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.58 ± 0.56 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -355.5 ± 2.5 pMC (%) = 64.45 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -357.6 ± 2.4 pMC (%) = 64.24 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,550 ± 30
IAAA-72177 #2040-13	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-11 床面付近 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 13	Libby Age (yrBP) : 3,410 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.09 ± 0.86 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -345.7 ± 2.6 pMC (%) = 65.43 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -347.1 ± 2.4 pMC (%) = 65.29 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,430 ± 30

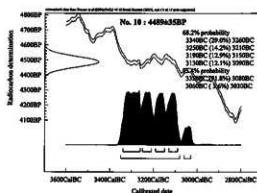
IAA

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72180 #2040-16	試料採取場所：日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VP-10 覆土 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 16	Libby Age (yrBP) : 3,520 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -22.42 ± 0.88 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -355.1 ± 2.6 pMC (%) = 64.49 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -351.7 ± 2.3 pMC (%) = 64.83 ± 0.23 Age (yrBP) : 3,480 ± 30
IAAA-72181 #2040-17	試料採取場所：日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VP-39 覆土 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 17	Libby Age (yrBP) : 3,340 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.14 ± 0.61 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -340.6 ± 2.5 pMC (%) = 65.94 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -338 ± 2.4 pMC (%) = 66.2 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,310 ± 30
IAAA-72182 #2040-18	試料採取場所：日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VP-42 覆土 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 18	Libby Age (yrBP) : 3,220 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27 ± 0.5 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -330.2 ± 2.6 pMC (%) = 66.98 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -332.9 ± 2.5 pMC (%) = 66.71 ± 0.25 Age (yrBP) : 3,250 ± 30
IAAA-72184 #2040-20	試料採取場所：日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 V層 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 20	Libby Age (yrBP) : 3,290 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.72 ± 0.74 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -335.9 ± 2.8 pMC (%) = 66.41 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -334.1 ± 2.6 pMC (%) = 66.59 ± 0.26 Age (yrBP) : 3,270 ± 30

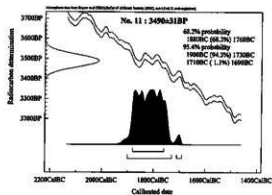
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



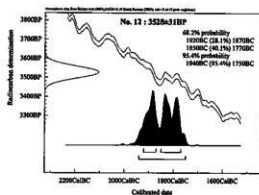
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



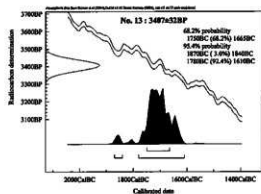
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



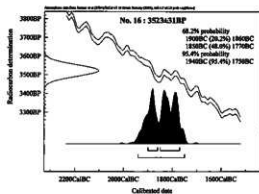
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



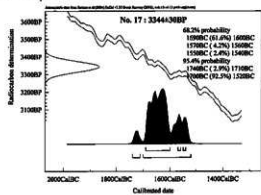
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



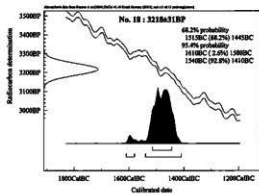
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



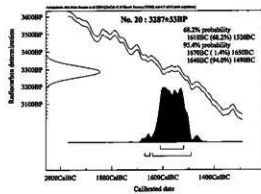
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v8.30

2 祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析

平成19年度に当財団が株式会社第四紀地質研究所に委託した、土器・粘土塊の胎土分析の成果として提出された「祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析（報告書）」を掲載する。

今回分析の対象となった試料62点の内容については表VI-2-1・2に示した。対象試料1～62は、いずれも祝梅川小野遺跡の遺構や包含層より出土した土器・粘土塊・盤状粘土塊を抽出したものである。1～18が粘土塊・盤状粘土塊、19～62が縄文時代前期～後期の土器片で、一部はIV章でも実測図を掲載している（4～8・14・15・18・22・38・39・49・50）。土器片については拓影図を掲載した。

盤状粘土塊はその形状やVP-15・17・21における出土状況などから、土器製作に関わる遺物と推測している。また、VH-17でII群b類土器と共伴し、包含層での出土分布が重なることから、縄文時代前期後半のものが多くと考えられる。今回の分析の目的は、盤状粘土塊と主に縄文時代前期後半の土器（大麻V式・円筒土器下層d式）、これ以外に周辺で出土している中期・後期の土器の胎土を分析・比較することにより、遺跡内における土器製作技術の変遷と時期を探ることである。

分析の結果では、盤状粘土塊とII群b類土器が同じ組成分類に偏るということとはなかった。盤状粘土塊は大麻V式・円筒土器下層d式以外の、北筒式・タブコブ式・ウサクマイC式・甕淵式・堂林式などとも対比された。各土器型式は胎土の組成が多種にわたり分散する傾向が見られる。一方、盤状粘土塊と粘土塊のみの組成分類で、土器型式との関連性が認められないものもある。これらの盤状粘土塊が土器原材粘土の規格をそそえて貯蔵したものであるとすると、今回の試料は「使用されなかったもの」であり、同一の組成の土器が存在しないことになる。分析結果から、縄文時代前期～後期の各時期、複数の胎土種類が存在した可能性がある。これが粘土採取地の違いを反映したものか不明であるが、異なる時期でもほぼ同じ組成の胎土を使用することもあったのではないか。この生地としての粘土を加工して土器を製作する技術（混和材や焼成温度など）が次第に変化し、各土器型式の胎土組成を複雑化していったと考えられる。

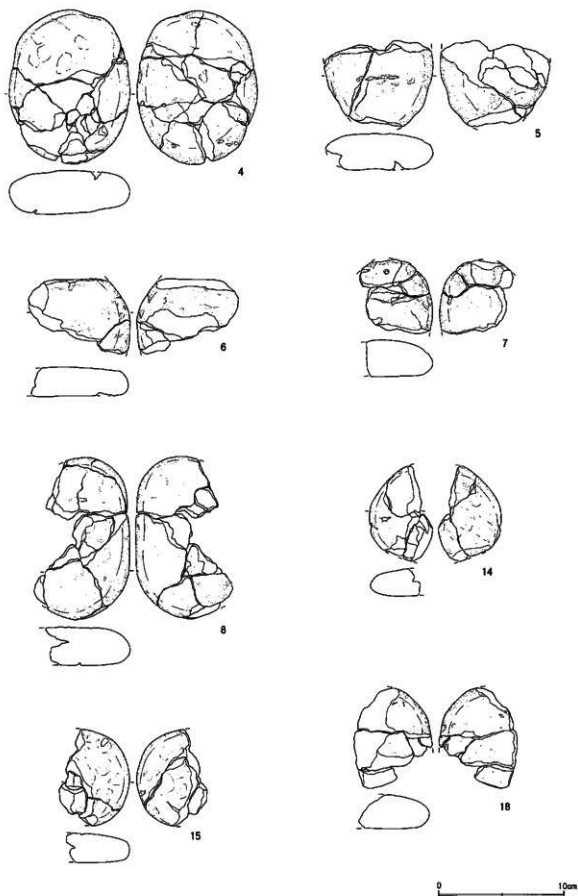
(芝田)

表VI-2-1 胎土分析依頼試料一覧(1)

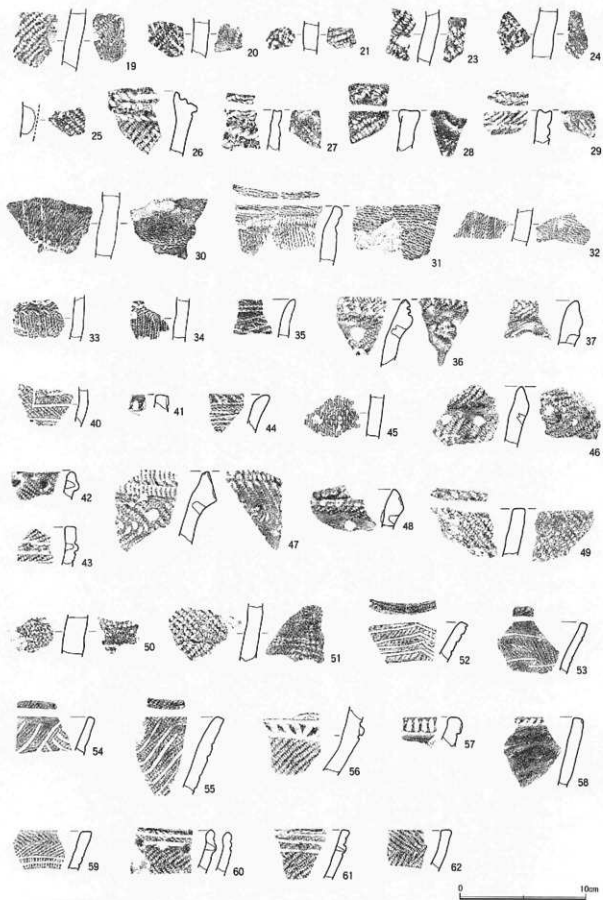
試料番号	遺構番号・調査区	遺物番号	層位	試料	部位	分類	型式	備考
1	VP-8	15b	覆土	粘土塊				
2	VP-11	58	覆土	粘土塊				
3	VP-15	6	覆土	盤状粘土破片				
4	VP-15	18	覆土	盤状粘土破片				ほぼ完形に接合
5	VP-15	21	覆土	盤状粘土破片				3/4接合・細かく割れている
6	VP-15	22	覆土	盤状粘土破片				2個体のうち1点・1/2残
7	VP-17	5	覆土	盤状粘土破片				1/4残
8	VP-17	8	覆土	盤状粘土破片				4/5接合
9	VP-17	12	覆土	盤状粘土破片				小片多数・接合不可
10	VP-20	8	覆土	粘土塊				小片
11	VP-21	4	覆土	盤状粘土破片				1/4残
12	I23	17	V層	盤状粘土破片				小片
13	J17	1	V層	盤状粘土破片				1/6残
14	P24	13	VI層	盤状粘土破片				小型 1/2残
15	O24	11	VI層	盤状粘土破片				小型 1/2残
16	F26	4	V層	粘土塊				
17	L13	5	V層	粘土塊				2・3cmの粘土塊多数
18	O23	10	V層	粘土塊				やや小型 2/3残

表VI-2-2 胎土分析依頼試料一覧(2)

試料番号	遺物番号・調査区	遺物番号	層位	試料	部位	分類	型式	備考
19	VH-4	47	覆土	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	内面縄文
20	VH-4	86	覆土	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	内面縄文
21	VH-6	113	覆土4	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	
22	VH-6	139	床面	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	復元土器と同じ・破片多数
23	VH-10	5	覆土	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	内面縄文
24	VH-10	2	覆土	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	内面縄文
25	VP-23	3	覆土	土器片	胴部	II b-2	大麻V式	内面縄文・表面剥落
26	L14	9	V層	土器片	口縁	II b-2	大麻V式	口唇施文に縄線2条
27	P13	10	V層	土器片	口縁	II b-2	大麻V式	口唇施文・縄線2条・内面縄文
28	H21	5	V層	土器片	口縁	II b-2	大麻V式	口唇縄線・内面縄文・縄文1条
29	H19	2	V層	土器片	口縁	II b-2	大麻V式	口唇施文・内面縄文・縄文1条
30	J27	1	V層	土器片	胴部	II b-3	円筒土器下層d式	捺糸文・内面横位
31	L24	11	V層	土器片	胴部	II b-3	円筒土器下層d式	捺糸文・絡条体圧痕
32	G22	7	V層	土器片	胴部	II b-3	円筒土器下層d式	捺糸文・内面も施文
33	L26	2	V層	土器片	胴部	II b-3	円筒土器下層d式	縄絡紋
34	K21	8	V層	土器片	胴部	II b-3	円筒土器下層d式	
35	F27	6	V層	土器片	口縁	II b-3	円筒土器下層d式	
36	O14	4	V層	土器片	口縁	III b-3	北筒式	
37	J7	4	V層	土器片	口縁	III b-3	北筒式	
38	VH-7・ HF-1	3	床面	土器片	胴部	IV a-2	タブコブ式	土器器の土器と同じ
39	VH-7・ HF-1	6	床面	土器片	胴部	IV a-2	タブコブ式	土器器の土器と同じ
40	M6	3	V層	土器片	胴部	IV b-1	ワクマイC式	口縁・磨消文
41	I7	5	V層	土器片	胴部	IV b-3	鉢淵式	口縁・沈線+刻み
42	I5	28	V層	土器片	口縁	IV c-1	堂林式	口縁・沈線+刻み
43	I3	8	V層	土器片	口縁	IV c-1	堂林式	口縁・突瘤文
44	I23	12	V層	土器片	口縁	II b-3	円筒土器下層d式	
45	J24	1	V層	土器片	胴部	II b-3	円筒土器下層d式	多軸絡条体
46	O7	5	V層	土器片	口縁	III b-3	北筒式	
47	Q12	5	V層	土器片	口縁	III b-3	北筒式	
48	P5	4	V層	土器片	口縁	III b-3	北筒式	突起部か
49	VH-5・ HF-1	102	覆土3	土器片	口縁	IV a-2	タブコブ式	土器器の土器と同じ
50	VH-5・ HF-1	66	覆土4 上面	土器片	胴部	IV a-2	タブコブ式	土器器の土器と同じ
51	R28	1	V層	土器片	胴部	IV a-2	タブコブ式	内面施文
52	I7	5	V層	土器片	口縁	IV b-1	ワクマイC式	口唇施文
53	J5	12	V層	土器片	口縁	IV b-1	ワクマイC式	口唇施文
54	J7	8	V層	土器片	口縁	IV b-1	ワクマイC式	口唇施文
55	E28	4	V層	土器片	口縁	IV b-1	ワクマイC式	口唇施文
56	P16	1	V層	土器片	口縁	IV b-3	鉢淵式	刻み
57	I7	5	V層	土器片	口縁	IV b-3	鉢淵式	刻み
58	I7	9	V層	土器片	口縁	IV b-3	鉢淵式	刻み無文部・口唇角刻み
59	I17	30	V層	土器片	口縁	IV b-3	鉢淵式	刻み
60	G5	10	V層	土器片	口縁	IV c-1	堂林式	突瘤文
61	I4	10	V層	土器片	口縁	IV c-1	堂林式	突瘤文
62	L3	8	V層	土器片	口縁	IV c-1	堂林式	



图VI-2-1 对象试料(1)



图VI-2-2 对象试料(2)

祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析(報告書)

巻第四紀 地質研究所 井上 巖

1 X線回折試験及び化学分析試験の実験条件

(1) 試料

分析に供した試料は表VI-2-3・4:胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

(2) X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5秒。

(3) 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は表VI-2-3・4:胎土性状表に示す通りである。表の右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織を、左側には各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度である。

(1) 組成分類

a. Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

図VI-2-3に示すように三角ダイヤグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb*100でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は図VI-2-3に示す通りである。

b. Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイヤグラム

図VI-2-4に示すように菱形ダイヤグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)、緑泥石(Ch)の内、ア)3成分以上含まれない、イ)Mont, Chの2成分が含まれない、ウ)Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイアグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある1～7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は図VI-2-4に示すとおりである。

(2) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO₂-Al₂O₃図、Fe₂O₃-TiO₂図、K₂O-CaO図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

3 X線回折試験結果

(1) タイプ分類

表VI-2-3・4：胎土性状表には祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・壘状粘土とが記載してある。表VI-2-7：タイプ分類表に示すように土器と原土はA～Jの10タイプが検出された。

Aタイプ：Hb, Chの2成分を含み、Mont, Micaの2成分に欠ける。

Bタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Cタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Dタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Eタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

組成的にはCタイプと類似するが、検出強度が異なる。

Fタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

組成的にはDタイプと類似するが、検出強度が異なる。

Gタイプ：Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分に欠ける

Hタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。

Iタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。

Jタイプ：Ch 1成分を含み、Mont, Mica, Hbの3成分に欠ける。

祝梅川小野遺跡の出土土器はA～Jの10タイプすべてが検出され多種にわたる。表VI-2-7：タイプ分類表に示すように、Iタイプが22個で最も多く、次いでBとFタイプの各10個、Hタイプの8個、A・C・D・E・G・Jタイプの各2個である。

(2) 石英 (Qt) - 斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して業地土を作るといったことは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくる。

図VI-2-7：Qt-P 1図に示すように、Qtの強度が小の領域から大の領域にかけて6グループと“その他”に分類された。

- Qt 1 : Qtが90~190、Plが250~550の領域に分布する。
 Qt 2 : Qtが530~900、Plが150~750の領域に分布する。
 Qt 3 : Qtが700~1200、Plが150~1000の領域に分布する。
 Qt 4 : Qtが1200~1800、Plが130~800の領域に分布する。
 Qt 5 : Qtが1800~2650、Plが250~800の領域に分布する。
 Qt 6 : Qtが1400~1750、Plが1100~1550の領域に分布する。
 "その他" : 祝梅川小野-46はPlの値が2777と高く異質である。

4 化学分析結果

表VI-2-5・6 : 化学分析表には祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土とが記載してある。分析結果に基づいて図VI-2-8 : SiO_2 - Al_2O_3 図、図VI-2-9 : Fe_2O_3 - TiO_2 図、図VI-2-10 : K_2O - CaO 図を作成した。

(1) SiO_2 - Al_2O_3 の相関について

図VI-2-8 : SiO_2 - Al_2O_3 図を基準として、祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土はI~VIの6タイプに分類した。

- タイプI : SiO_2 が36~43%、 Al_2O_3 が38~40%の領域に分布する。
 タイプII : SiO_2 が44~52%、 Al_2O_3 が30~40%の領域に分布する。
 タイプIII : SiO_2 が50~62%、 Al_2O_3 が18~33%の領域に分布する。
 タイプIV : SiO_2 が63~69%、 Al_2O_3 が19~24%の領域に分布する。
 タイプV : SiO_2 が76~79%、 Al_2O_3 が11~16%の領域に分布する。
 タイプVI : SiO_2 が36~37%、 Al_2O_3 が28~29%の領域に分布する。

(2) Fe_2O_3 - TiO_2 の相関について

図VI-2-9 : Fe_2O_3 - TiO_2 図に示すように、 Fe_2O_3 の領域によって4グループに細分された。

- Fe_2O_3 -1 : Fe_2O_3 が4.0~11%、 TiO_2 が0.5~1.7%の領域に分布する。
 Fe_2O_3 -2 : Fe_2O_3 が10.5~15.5%、 TiO_2 が0.7~1.8%の領域に分布する。
 Fe_2O_3 -3 : Fe_2O_3 が17.5~19.5%、 TiO_2 が1.0~1.5%の領域に分布する。
 Fe_2O_3 -4 : Fe_2O_3 が25~26%、 TiO_2 が2.0~3.0%の領域に分布する。

(3) K_2O - CaO の相関について

図VI-2-10 : K_2O - CaO 図に示すように K_2O の値によって4グループと"その他"に分類した。

- K_2O -1 : K_2O が0~1.5%、 CaO が0.1~1.7%の領域に分布する。
 K_2O -2 : K_2O が1.5~2.4%、 CaO が0~1.9%の領域に分布する。
 K_2O -3 : K_2O が2.5~3.1%、 CaO が0.5~1.3%の領域に分布する。
 K_2O -4 : K_2O が3.8~4.0%、 CaO が0.6~1.0%の領域に分布する。
 "その他" : 祝梅川-39は CaO が4.58%と高く異質である。

5 まとめ

X線回折試験と蛍光X線分析の結果に基づいて、祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土を表VI-2-7:タイプ分類表、および表VI-2-8・9:組成分類表に示すように分類した。

- 1) 土器胎土はA~Jの10タイプに分類された。表VI-2-7:タイプ分類表に示すように、祝梅川小野遺跡の出土土器はA~Jの10タイプすべてが検出され多種にわたる。最も多いのはIタイプの22個、次いでB・Fタイプの各10個、Hタイプの8個、A・C・D・E・G・Jタイプの各2個である。
- 2) 図VI-2-7:Qt-P1図に示すように、Qtの強度が小さい領域~大きい領域にかけて6グループと"その他"に分類された。
- 3) 表VI-2-8・9:組成分類表に示すように、土器と粘土のX線回折試験と化学分析の結果に基づいて図VI-2-7:Qt-P1図、図VI-2-8:SiO₂-Al₂O₃図、図VI-2-9:Fe₂O₃-TiO₂図、図VI-2-10:K₂O-CaO図を作成し、各相関により分類したもので組成分類をおこなった。
A:「㉑ タイプI・Qt1・Fe₂O₃-3」,「㉒ タイプI・Qt2・Fe₂O₃-2」,「㉓ タイプII・Qt2・Fe₂O₃-1」,「㉔ タイプIII・Qt2・Fe₂O₃-1」,「㉕ タイプIII・Qt2・Fe₂O₃-2」,「㉖ タイプIII・Qt5・Fe₂O₃-3」,「㉗ タイプIV・Qt1・Fe₂O₃-4」の7タイプは粘土塊あるいは盤状粘土破片で組成的に土器と対比されるものはない。
B:「㉘ タイプIII・Qt3・Fe₂O₃-1」が13個で最も多く検出された。祝梅川-12・14の盤状粘土破片と祝梅川-22・28の大麻V式、30・32・34の円筒土器下層d式、38・50・51のタブコブ式、53のウマクサイC式、61・62の堂林式の土器が同じ組成を示す。
C:「㉙ タイプIII・Qt4・Fe₂O₃-1」は8個検出され、祝梅川-13の盤状粘土破片と祝梅川-29の大麻V式、35の円筒土器下層d式、36・48の北筒式、42・43の堂林式、59の甕淵式の土器が同じ組成を示す。
D:「㉚ タイプIII・Qt4・Fe₂O₃-2」は4個検出され、祝梅川-9の盤状粘土破片と祝梅川-39のタブコブ式、40のウマクサイC式、41の甕淵式の土器が同じ組成を示す。
E:「㉛ タイプIII・Qt5・Fe₂O₃-1」は4個検出され、祝梅川-19・24の大麻V式、57の甕淵式、60の堂林式の土器が同じ組成を示す。
F:「㉜ タイプIII・Qt3・Fe₂O₃-2」は3個検出され、祝梅川-18の粘土塊と祝梅川-21の大麻V式、37の北筒式の土器が同じ組成を示す。
G:「㉝ タイプIII・Qt5・Fe₂O₃-2」は3個検出され、祝梅川-54・55のウマクサイC式、58の甕淵式の土器が同じ組成を示す。
H:「㉞ タイプII・Qt3・Fe₂O₃-2」は2個検出され、祝梅川-33・45の円筒土器下層d式の土器が同じ組成を示す。
I:「㉟ タイプIV・Qt5・Fe₂O₃-1」は2個検出され、祝梅川-27の大麻V式と祝梅川-31の円筒土器下層d式の土器が同じ組成を示す。
J:㉠~㉡, ㉢~㉣, ㉥~㉦の各タイプは各々1個が1タイプとして独立しており、多種にわたる。これらの傾向は大麻V式土器で多く見られる。
- 4) 祝梅川小野遺跡の粘土塊と盤状粘土破片、土器との関係は複雑で、分析した粘土関連のものはそのほとんどが土器と対比されるものがない。しかし、土器と直接関連する粘土塊と盤状粘土破片があり、これらはQt-P1相関でも化学組成でも類似性が高く関連性が認められる。
- 5) 大麻V式土器は胎土の組成が多種にわたり分散する傾向が強い。

表VI-2-4 胎土性状表(2)

試料 No	組成分類			胎土性状および物理特性										選物式	備 考			
	タイプ 分類	Mo:Ms	Me:Ma:He	Moist	Misa	Hb	D ₅₀	D ₁₀	Or	Fl	Crain	Mat ₁₀	K:Ma			Halloy	Pyro	Au
祝園川-3-0	I	14	20							1517	577	95					Ⅱb-3 北礫片	
祝園川-3-7	B	6	20			107				1042	413	128					Ⅱb-3 北礫片	
祝園川-3-8	F	7	20		105	98				1170	608	70					Ⅳa-2 タフコア式	土留部分の土層と同じ
祝園川-3-9	H	8	20		80					1638	707						Ⅳa-2 タフコア式	土留部分の土層と同じ
祝園川-4-0	H	8	20		104					1305	477	91					Ⅳb-1 クラタマイC式	比喩・遊積礫文
祝園川-4-1	G	8	8		96				58	1631	415						Ⅳb-3 凝濁式	口縁・沈積・割み
祝園川-4-2	H	6	20		80					1343	794	92					Ⅳc-1 雲林式	口縁・沈積・割み
祝園川-4-3	I	14	20							1430	470	91					Ⅳc-1 雲林式	口縁・沈積・割み
祝園川-4-4	I	14	20							1457	137	82					Ⅱb-3 田圃土層下層口式	
祝園川-4-5	I	14	20							809	250	76					Ⅱb-3 田圃土層下層口式	多結核集合
祝園川-4-6	J	15	21						80	685	2777	100					Ⅱb-3 北礫片	
祝園川-4-7	B	5	20			88				1633	366	133					Ⅱb-3 北礫片	
祝園川-4-8	C	6	10		96	110	142			1374	464	151					Ⅱb-3 北礫片	
祝園川-4-9	I	14	20							800	564	67					Ⅳa-2 タフコア式	割み
祝園川-5-0	H	8	20		129					708	578	85					Ⅳa-2 タフコア式	土留部分の土層と同じ
祝園川-5-1	I	14	20							1042	522	90					Ⅳa-2 タフコア式	土留部分の土層と同じ
祝園川-5-2	C	6	10		53	58	147			1740	1547	60					Ⅳa-2 タフコア式	内面礫文
祝園川-5-3	I	14	20														Ⅳb-1 クラタマイC式	口縁礫文
祝園川-5-4	B	5	20			79				1947	454	76					Ⅳb-1 クラタマイC式	口縁礫文
祝園川-5-5	H	8	20		81					2057	512	70					Ⅳb-1 クラタマイC式	口縁礫文
祝園川-5-6	B	7	9		128	65				108	2612	498	71				Ⅳb-3 凝濁式	割み
祝園川-5-7	J	15	21						55	1899	777	85					Ⅳb-3 凝濁式	割み
祝園川-5-8	I	14	20							2254	500	93					Ⅳb-3 凝濁式	割み
祝園川-5-9	I	14	20							1397	423	80					Ⅳb-3 凝濁式	割み
祝園川-6-0	P	7	20		100	79				1916	342	64					Ⅳc-1 雲林式	雲礫文
祝園川-6-1	I	14	20							927	523	76					Ⅳc-1 雲林式	雲礫文
祝園川-6-2	I	14	20							731	554	82					Ⅳc-1 雲林式	雲礫文

Moist: 含水率(%) Ms: 含水率(%) Me: 含水率(%) Ma: 含水率(%) He: 含水率(%) Hb: 含水率(%) D₅₀: 粒径(μm) D₁₀: 粒径(μm) Or: 粒径(μm) Fl: 粒径(μm) Crain: 粒径(μm) Mat₁₀: 粒径(μm) K: 粒径(μm) Ma: 粒径(μm) Halloy: 粒径(μm) Pyro: 粒径(μm) Au: 粒径(μm)

表VI-2-5 化学分析表(1)

試料番号	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	Total	型式	分類	材料	備考
祝梅川-1	0.92	1.44	30.88	50.98	3.84	0.98	1.04	0.00	9.59	0.31	99.98				粘土塊	
祝梅川-2	1.49	0.00	39.35	36.94	3.43	1.41	1.48	1.05	17.54	0.31	100.00				粘土塊	
祝梅川-3	1.31	0.00	30.52	50.65	2.06	0.93	1.27	0.27	12.94	0.06	100.01				盤状粘土破片	ほぼ完全に接合
祝梅川-4	1.69	0.00	29.43	53.17	3.42	2.03	1.10	0.66	8.49	0.99	99.99				盤状粘土破片	3/4程度・細かく割れている
祝梅川-5	1.45	0.00	35.59	51.38	1.79	0.79	1.16	0.42	6.93	0.48	99.99				盤状粘土破片	2個体のうち1点・1/2塊
祝梅川-6	1.21	0.00	26.73	53.51	2.54	0.73	1.46	0.38	13.44	0.00	100.00				盤状粘土破片	1/4塊
祝梅川-7	1.56	0.00	30.57	56.66	2.11	0.75	1.19	0.11	4.91	0.15	100.01				盤状粘土破片	4/5接合
祝梅川-8	1.98	0.00	29.79	58.57	2.25	0.75	1.00	0.47	5.19	0.00	100.00				盤状粘土破片	小片多数・接合不可
祝梅川-9	0.06	1.40	19.30	59.71	3.97	0.82	1.45	0.17	13.69	0.01	99.98				盤状粘土破片	
祝梅川-10	1.25	0.00	36.83	42.03	1.31	0.78	0.73	0.40	13.24	0.44	100.01				粘土塊	
祝梅川-11	1.26	0.00	34.57	51.52	2.77	0.57	1.65	0.00	7.67	0.00	100.01				盤状粘土破片	1/4塊
祝梅川-12	1.44	0.00	29.78	54.34	2.07	0.80	1.21	0.41	8.63	0.32	100.00				盤状粘土破片	小片
祝梅川-13	0.53	0.16	26.34	61.21	3.07	0.56	1.35	0.28	6.50	0.00	100.00				盤状粘土破片	1/6塊
祝梅川-14	0.87	0.00	32.96	52.87	3.87	0.69	1.00	0.66	6.63	0.42	99.99				盤状粘土破片	小型 1/2塊
祝梅川-15	0.37	0.63	22.51	50.74	2.27	0.69	0.96	1.46	19.74	0.64	100.01				盤状粘土破片	小型 1/2塊
祝梅川-16	1.97	0.00	28.67	37.02	0.70	2.74	2.40	1.22	25.09	0.19	100.00				粘土塊	2・3 cmの粘土塊多数
祝梅川-17	1.64	0.45	27.92	36.11	0.82	3.23	2.64	1.79	25.40	0.00	100.00				粘土塊	やや小型 2/3塊
祝梅川-18	1.63	0.00	29.48	52.38	1.68	1.04	1.74	0.65	11.40	0.00	100.00				粘土塊	やや小型 2/3塊
祝梅川-19	1.81	0.00	29.38	53.85	1.95	0.84	1.25	0.70	10.23	0.00	100.01				土器片	内面腐文
祝梅川-20	1.62	0.00	30.79	51.29	2.18	0.59	0.93	0.43	11.64	0.32	99.99				土器片	内面腐文
祝梅川-21	0.65	0.00	28.83	54.65	1.70	0.52	0.97	0.60	11.96	0.11	99.99				土器片	内面腐文
祝梅川-22	1.96	0.00	27.97	57.58	2.02	0.74	1.07	0.50	8.15	0.12	100.01				土器片	還元土層と同じ・破片多数
祝梅川-23	1.80	0.00	28.63	56.78	1.65	1.42	1.04	0.52	8.16	0.00	100.00				土器片	内面腐文
祝梅川-24	1.41	0.00	29.34	60.76	1.97	0.61	1.02	0.67	10.23	0.00	100.01				土器片	内面腐文
祝梅川-25	2.42	0.00	19.97	65.03	2.52	1.14	0.84	0.72	6.88	0.48	100.00				土器片	内面腐文・表面割落
祝梅川-26	2.48	0.00	22.80	63.48	1.80	1.06	1.26	0.28	6.55	0.48	100.01				土器片	口部腐文に纏繞2条
祝梅川-27	1.67	0.00	23.56	63.14	1.72	0.87	1.37	0.13	7.53	0.00	99.99				土器片	口部腐文・纏繞2条・内面腐文
祝梅川-28	2.02	0.00	27.85	58.13	1.92	0.53	0.54	0.86	8.64	0.12	100.01				土器片	口部腐文・内面腐文・纏繞1条
祝梅川-29	2.35	0.00	26.00	58.31	1.91	1.11	1.10	0.00	8.59	0.61	99.98				土器片	口部腐文・内面腐文・纏繞1条
祝梅川-30	1.73	0.00	28.93	55.44	1.54	0.56	1.18	0.44	9.15	0.01	99.98				土器片	還元土層下層d式
祝梅川-31	2.20	0.00	20.22	66.11	2.72	0.56	0.75	0.35	4.76	0.33	99.99				土器片	還元土層下層d式
祝梅川-32	1.44	0.00	29.59	55.50	1.69	1.16	1.41	0.56	8.63	0.00	100.00				土器片	還元土層下層d式
祝梅川-33	1.06	0.00	32.39	48.58	1.63	0.68	1.03	1.30	13.32	0.00	99.99				土器片	還元土層下層d式
祝梅川-34	0.40	1.21	28.25	56.42	1.02	0.96	0.81	0.23	10.32	0.35	99.99				土器片	還元土層下層d式
祝梅川-35	1.50	0.00	22.90	61.12	2.65	0.89	1.39	0.54	8.90	0.12	100.01				土器片	還元土層下層d式

表Ⅶ-2-6 化学分析表(2)

試料番号	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	Total	試料	分類	型式	備考
祝梅川-3-6	1.91	0.00	26.65	60.73	0.79	1.24	1.03	0.28	7.36	0.02	100.01	土器片	Ⅱb-3	北朝式	
祝梅川-3-7	1.57	0.00	28.72	54.19	1.58	1.21	1.47	0.24	11.02	0.00	100.00	土器片	Ⅱb-3	北朝式	土器調子の土器と同じ
祝梅川-3-8	2.00	0.00	23.11	56.94	2.81	1.26	1.27	0.10	10.27	0.23	99.99	土器片	Ⅱa-2	タコフコ式	土器調子の土器と同じ
祝梅川-3-9	1.68	1.56	21.84	54.02	2.54	4.58	0.96	0.33	12.51	0.00	100.01	土器片	Ⅱb-1	ウサクマイC式	沈線・磨消縄文
祝梅川-4-0	1.01	0.00	25.56	53.26	1.63	0.77	1.65	0.73	15.16	0.23	100.00	土器片	Ⅱb-3	総調式	口縁・沈線+刷み
祝梅川-4-1	1.40	0.00	23.86	55.65	2.13	0.27	0.77	0.61	14.52	0.37	99.98	土器片	Ⅱc-1	堂林式	口縁・沈線+刷み
祝梅川-4-2	1.35	0.00	22.80	61.09	2.13	1.23	0.74	0.51	9.99	0.16	99.99	土器片	Ⅱc-1	堂林式	口縁・沈線+刷み
祝梅川-4-3	1.43	0.00	24.53	59.49	1.77	1.05	1.51	0.41	9.24	0.57	100.00	土器片	Ⅱc-1	堂林式	口縁・沈線+刷み
祝梅川-4-4	1.29	0.00	37.93	44.96	1.62	0.43	0.84	0.52	11.73	0.68	100.00	土器片	Ⅱb-3	凹胴土器下層d式	
祝梅川-4-5	1.47	0.00	32.03	51.75	1.06	1.11	1.00	0.87	10.59	0.00	100.00	土器片	Ⅱb-3	凹胴土器下層d式	
祝梅川-4-6	0.72	0.00	39.10	46.80	0.83	0.14	0.83	0.66	10.48	0.43	99.99	土器片	Ⅱb-3	北朝式	
祝梅川-4-7	0.99	0.00	36.59	50.34	0.80	0.51	0.80	0.00	9.98	0.00	100.01	土器片	Ⅱb-3	北朝式	
祝梅川-4-8	1.96	0.00	26.74	58.67	1.14	1.69	1.61	0.31	7.73	0.16	100.01	土器片	Ⅱb-3	北朝式	突起部か
祝梅川-4-9	0.27	0.00	15.68	75.35	2.13	0.31	0.62	0.22	4.35	0.06	99.99	土器片	Ⅱa-2	タコフコ式	土器調子の土器と同じ
祝梅川-5-0	1.71	0.00	27.29	56.36	1.46	2.17	0.93	0.98	8.77	0.32	99.99	土器片	Ⅱa-2	タコフコ式	土器調子の土器と同じ
祝梅川-5-1	0.90	0.00	27.69	56.37	1.62	1.24	1.29	0.27	8.34	0.27	99.99	土器片	Ⅱa-2	タコフコ式	内面縄文
祝梅川-5-2	0.55	1.66	19.76	59.93	2.01	1.20	1.26	0.63	13.01	0.00	100.01	土器片	Ⅱb-1	ウサクマイC式	口刷縄文
祝梅川-5-3	1.25	0.00	28.55	55.33	1.82	0.51	1.22	0.76	10.15	0.41	100.00	土器片	Ⅱb-1	ウサクマイC式	口刷縄文
祝梅川-5-4	1.43	0.00	18.51	59.40	2.35	0.69	1.46	0.78	15.36	0.00	99.98	土器片	Ⅱb-1	ウサクマイC式	口刷縄文
祝梅川-5-5	1.59	0.00	21.16	58.19	1.88	0.75	1.37	0.37	14.69	0.00	100.00	土器片	Ⅱb-1	ウサクマイC式	口刷縄文
祝梅川-5-6	0.71	0.40	11.74	78.44	0.97	0.65	0.84	0.51	5.65	0.09	100.00	土器片	Ⅱb-3	総調式	刷み
祝梅川-5-7	0.99	0.00	24.64	59.31	2.16	0.93	1.00	0.81	9.88	0.26	100.00	土器片	Ⅱb-3	総調式	刷み
祝梅川-5-8	1.29	0.00	25.20	58.36	1.76	0.79	1.36	0.76	12.50	0.00	100.02	土器片	Ⅱb-3	総調式	刷み
祝梅川-5-9	0.88	0.00	25.95	60.61	1.77	1.57	1.16	0.22	7.77	0.09	100.00	土器片	Ⅱb-3	総調式	刷み
祝梅川-6-0	1.52	0.00	26.32	59.49	1.97	0.39	0.98	0.45	8.87	0.00	99.99	土器片	Ⅱc-1	堂林式	突起部
祝梅川-6-1	1.57	0.13	23.60	60.04	1.93	1.82	1.14	0.23	9.53	0.00	99.99	土器片	Ⅱc-1	堂林式	突起部
祝梅川-6-2	1.08	0.00	27.11	59.09	1.94	0.91	1.11	0.54	8.21	0.03	100.02	土器片	Ⅱc-1	堂林式	

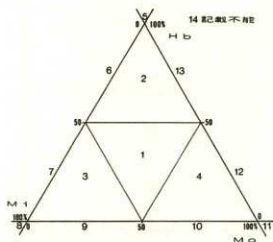
表VI-2-8 組成分類表(1)

Fe	Qt	Si	試料 No	タイプ 分類	遺物分類		
					試料	分類	型式
① タイプI・Qt1・Fe ₂ O ₃ :3							
3	1	1	祝梅川-2	I	粘土塊		
② タイプI・Qt2・Fe ₂ O ₃ :2							
2	2	1	祝梅川-10	I	粘土塊		
③ タイプII・Qt2・Fe ₂ O ₃ :1							
1	2	2	祝梅川-5	F	盤状粘土破片		
1	2	2	祝梅川-11	I	盤状粘土破片		
④ タイプII・Qt3・Fe ₂ O ₃ :2							
2	3	2	祝梅川-33	G	土器片	II b-3	円筒土器下層d式
2	3	2	祝梅川-45	I	土器片	II b-3	円筒土器下層d式
⑤ タイプII・Qt4・Fe ₂ O ₃ :1							
1	4	2	祝梅川-47	B	土器片	III b-3	北筒式
⑥ タイプII・Qt4・Fe ₂ O ₃ :2							
2	4	2	祝梅川-44	I	土器片	II b-3	円筒土器下層d式
⑦ タイプII・Qt7・Fe ₂ O ₃ :1							
1	7	2	祝梅川-46	J	土器片	III b-3	北筒式
⑧ タイプIII・Qt2・Fe ₂ O ₃ :1							
1	2	3	祝梅川-1	B	粘土塊		
1	2	3	祝梅川-4	F	盤状粘土破片		
1	2	3	祝梅川-7	F	盤状粘土破片		
1	2	3	祝梅川-8	H	盤状粘土破片		
⑨ タイプIII・Qt2・Fe ₂ O ₃ :2							
2	2	3	祝梅川-3	F	盤状粘土破片		
2	2	3	祝梅川-6	F	盤状粘土破片		
⑩ タイプIII・Qt3・Fe ₂ O ₃ :1							
1	3	3	祝梅川-12	I	盤状粘土破片		
1	3	3	祝梅川-14	I	盤状粘土破片		
1	3	3	祝梅川-22	F	土器片	II b-2	大麻V式
1	3	3	祝梅川-28	I	土器片	II b-2	大麻V式
1	3	3	祝梅川-30	B	土器片	II b-3	円筒土器下層d式
1	3	3	祝梅川-32	A	土器片	II b-3	円筒土器下層d式
1	3	3	祝梅川-34	E	土器片	II b-3	円筒土器下層d式
1	3	3	祝梅川-38	F	土器片	IV a-2	タブコブ式
1	3	3	祝梅川-50	H	土器片	IV a-2	タブコブ式
1	3	3	祝梅川-51	I	土器片	IV a-2	タブコブ式
1	3	3	祝梅川-53	I	土器片	IV b-1	ウサクマイC式
1	3	3	祝梅川-61	I	土器片	IV c-1	堂林式
1	3	3	祝梅川-62	I	土器片	IV c-1	堂林式
⑪ タイプIII・Qt3・Fe ₂ O ₃ :2							
2	3	3	祝梅川-18	I	粘土塊		
2	3	3	祝梅川-21	I	土器片	II b-2	大麻V式
2	3	3	祝梅川-37	B	土器片	III b-3	北筒式

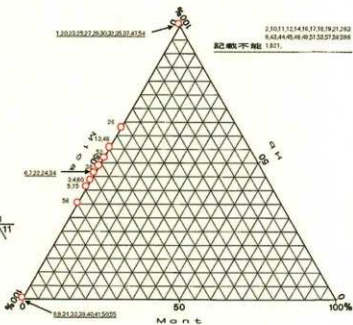
表VI-2-9 組成分類表(2)

Fe	Qt	Si	試料 No	タイプ 分類	遺物分類		
					試料	分類	型式
⑬ タイプⅢ・Qt4・Fe ₂ O ₃ :1							
1	4	3	祝梅川-13	D	盤状粘土破片		
1	4	3	祝梅川-29	B	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
1	4	3	祝梅川-35	A	土器片	Ⅱb-3	円筒土器下層d式
1	4	3	祝梅川-36	I	土器片	Ⅲb-3	北筒式
1	4	3	祝梅川-42	H	土器片	Ⅳc-1	堂林式
1	4	3	祝梅川-43	I	土器片	Ⅳc-1	堂林式
1	4	3	祝梅川-48	C	土器片	Ⅲb-3	北筒式
1	4	3	祝梅川-59	I	土器片	Ⅳb-3	純酒式
⑭ タイプⅢ・Qt4・Fe ₂ O ₃ :2							
2	4	3	祝梅川-9	H	盤状粘土破片		
2	4	3	祝梅川-39	H	土器片	Ⅳa-2	タブコブ式
2	4	3	祝梅川-40	H	土器片	Ⅳb-1	ウサクマイC式
2	4	3	祝梅川-41	G	土器片	Ⅳb-3	純酒式
⑮ タイプⅢ・Qt5・Fe ₂ O ₃ :1							
1	5	3	祝梅川-19	I	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
1	5	3	祝梅川-24	F	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
1	5	3	祝梅川-57	J	土器片	Ⅳb-3	純酒式
1	5	3	祝梅川-60	F	土器片	Ⅳc-1	堂林式
⑯ タイプⅢ・Qt5・Fe ₂ O ₃ :2							
2	5	3	祝梅川-54	B	土器片	Ⅳb-1	ウサクマイC式
2	5	3	祝梅川-55	H	土器片	Ⅳb-1	ウサクマイC式
2	5	3	祝梅川-58	I	土器片	Ⅳb-3	純酒式
⑰ タイプⅢ・Qt5・Fe ₂ O ₃ :3							
3	5	3	祝梅川-15	F	盤状粘土破片		
⑱ タイプⅢ・Qt6・Fe ₂ O ₃ :1							
1	6	3	祝梅川-23	B	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
⑲ タイプⅢ・Qt6・Fe ₂ O ₃ :2							
2	6	3	祝梅川-52	C	土器片	Ⅳb-1	ウサクマイC式
⑳ タイプⅢ・Qt7・Fe ₂ O ₃ :2							
2	7	3	祝梅川-20	B	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
㉑ タイプⅣ・Qt4・Fe ₂ O ₃ :1							
1	4	4	祝梅川-26	D	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
㉒ タイプⅣ・Qt5・Fe ₂ O ₃ :1							
1	5	4	祝梅川-27	B	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
1	5	4	祝梅川-31	H	土器片	Ⅱb-3	円筒土器下層d式
㉓ タイプⅣ・Qt6・Fe ₂ O ₃ :1							
1	6	4	祝梅川-25	B	土器片	Ⅱb-2	大麻V式
㉔ タイプⅤ・Qt3・Fe ₂ O ₃ :1							
1	3	5	祝梅川-49	I	土器片	Ⅳa-2	タブコブ式
㉕ タイプⅤ・Qt5・Fe ₂ O ₃ :1							
1	5	5	祝梅川-56	E	土器片	Ⅳb-3	純酒式
㉖ タイプⅥ・Qt1・Fe ₂ O ₃ :4							
4	1	6	祝梅川-16	I	粘土塊		
4	1	6	祝梅川-17	I	粘土塊		

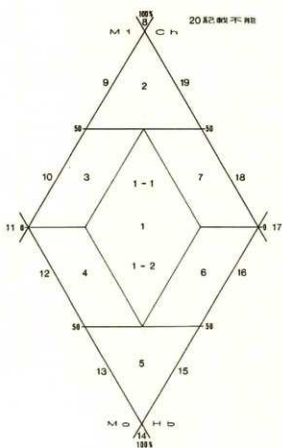
図VI-2-3 三角ダイアグラム
位置分類図



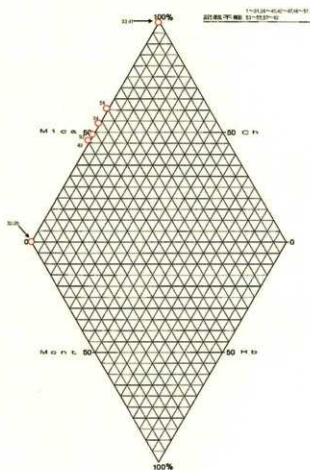
図VI-2-5 Mo-Mi-Hb
三角ダイアグラム



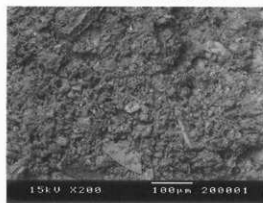
図VI-2-4 菱形ダイアグラム
位置分類図



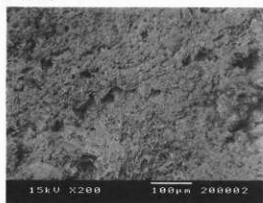
図VI-2-6 Mo-Ch, Mi-Hb
菱形ダイアグラム



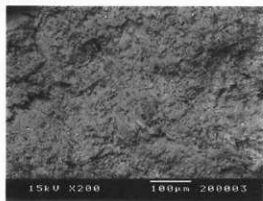
図版VI-2-1 電子顕微鏡写真(1)



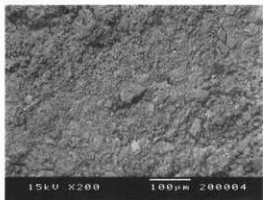
試料 No. 1



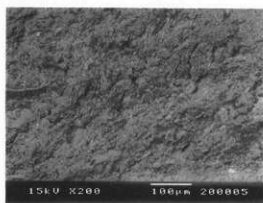
試料 No. 2



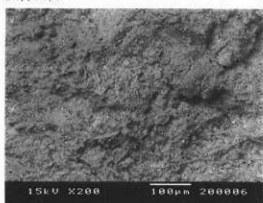
試料 No. 3



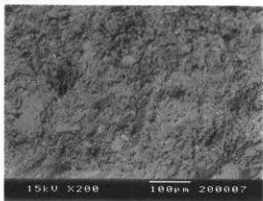
試料 No. 4



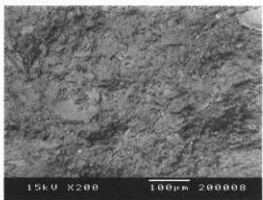
試料 No. 5



試料 No. 6

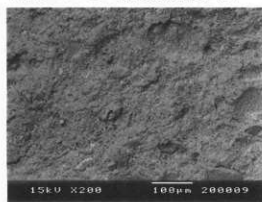


試料 No. 7

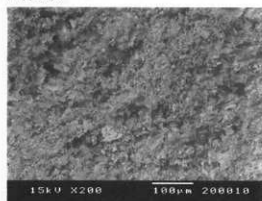


試料 No. 8

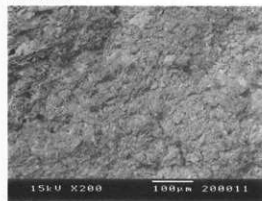
图版VI-2-2 电子显微镜写真(2)



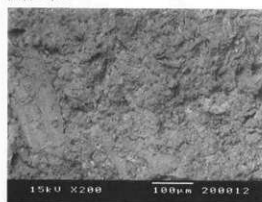
試料 No. 9



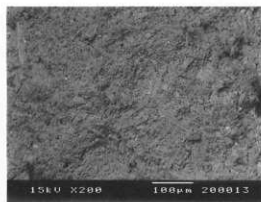
試料 No. 10



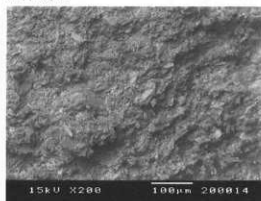
試料 No. 11



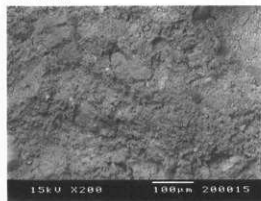
試料 No. 12



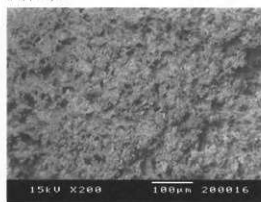
試料 No. 13



試料 No. 14

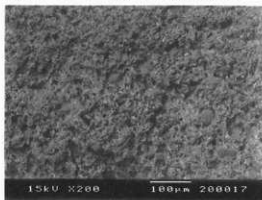


試料 No. 15

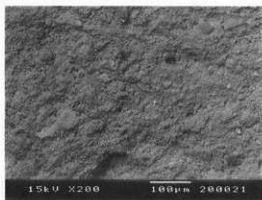


試料 No. 16

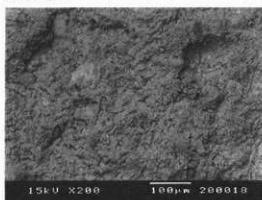
図版VI-2-3 電子顕微鏡写真(3)



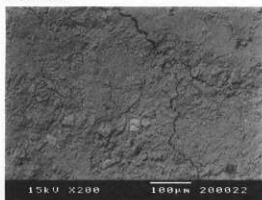
試料 No. 17



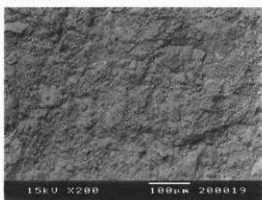
試料 No. 21



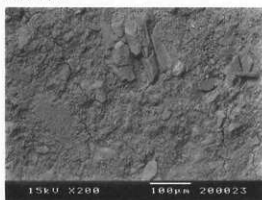
試料 No. 18



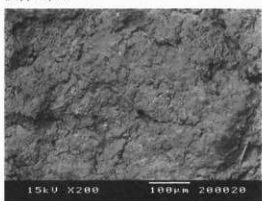
試料 No. 22



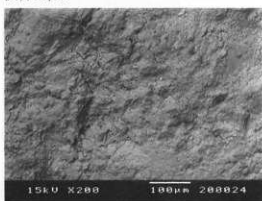
試料 No. 19



試料 No. 23

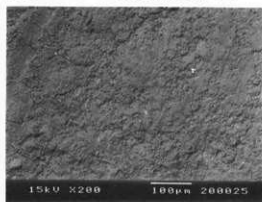


試料 No. 20

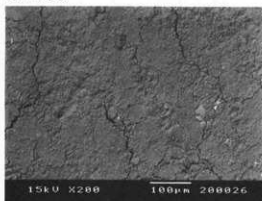


試料 No. 24

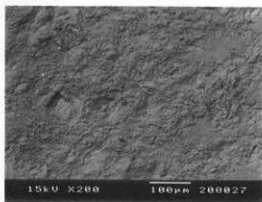
図版VI-2-4 電子顕微鏡写真(4)



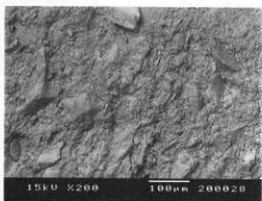
試料 No. 25



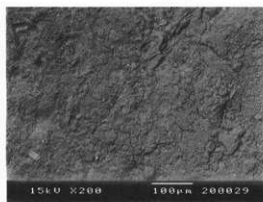
試料 No. 26



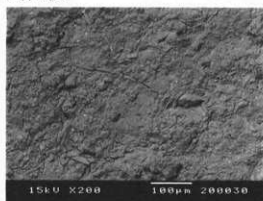
試料 No. 27



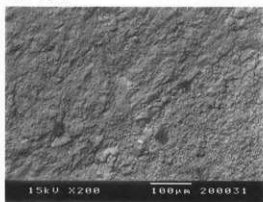
試料 No. 28



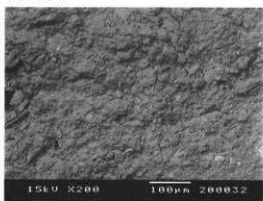
試料 No. 29



試料 No. 30

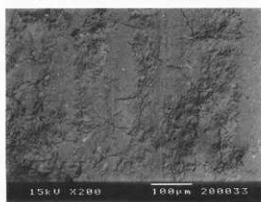


試料 No. 31

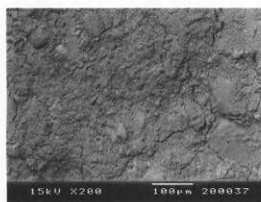


試料 No. 32

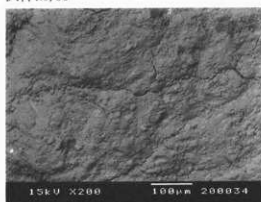
図版VI-2-5 電子顕微鏡写真(5)



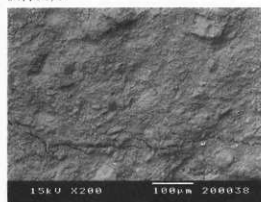
試料 No. 33



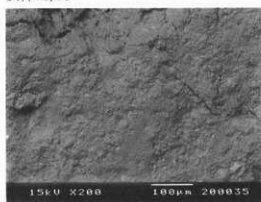
試料 No. 37



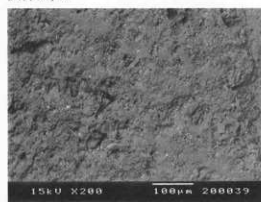
試料 No. 34



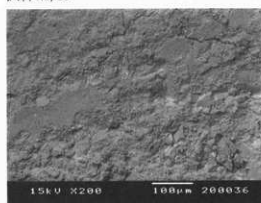
試料 No. 38



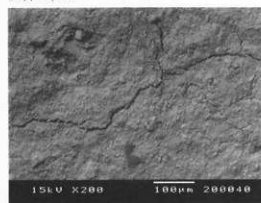
試料 No. 35



試料 No. 39

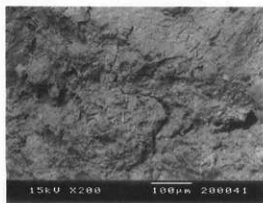


試料 No. 36

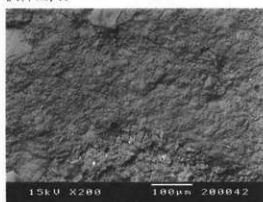


試料 No. 40

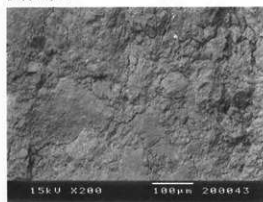
图版VI-2-6 电子显微镜写真(6)



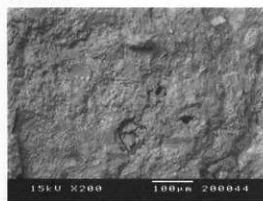
試料 No. 41



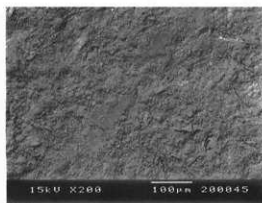
試料 No. 42



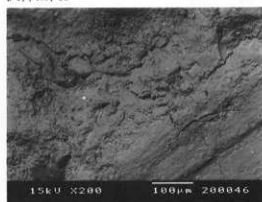
試料 No. 43



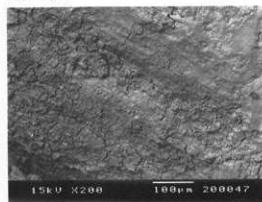
試料 No. 44



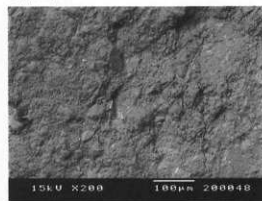
試料 No. 45



試料 No. 46

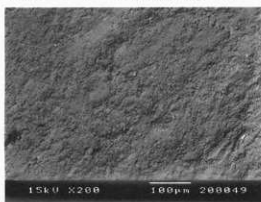


試料 No. 47

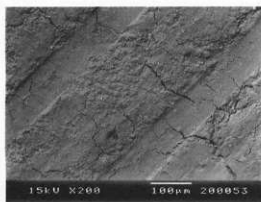


試料 No. 48

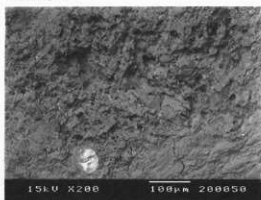
図版VI-2-7 電子顕微鏡写真(7)



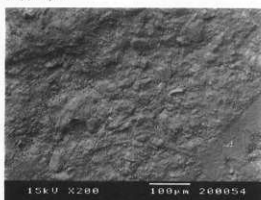
試料 No. 49



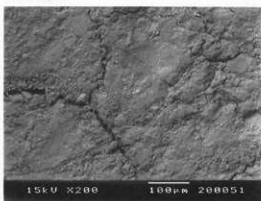
試料 No. 53



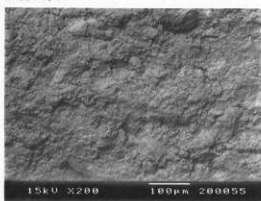
試料 No. 50



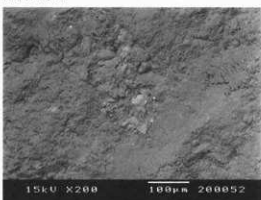
試料 No. 54



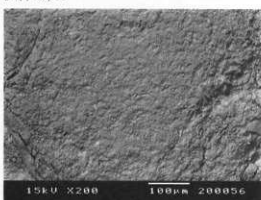
試料 No. 51



試料 No. 55

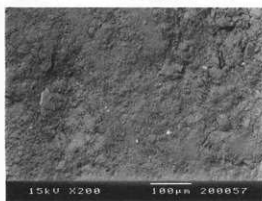


試料 No. 52

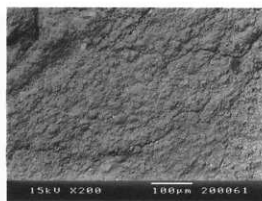


試料 No. 56

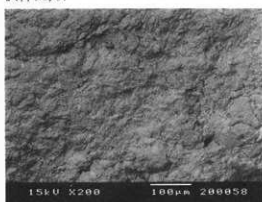
図版VI-2-8 電子顕微鏡写真(8)



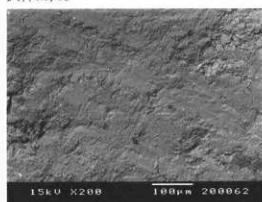
試料 No. 57



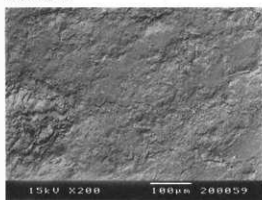
試料 No. 61



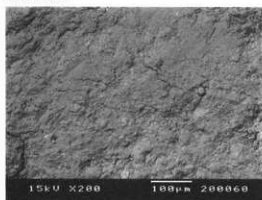
試料 No. 58



試料 No. 62



試料 No. 59



試料 No. 60

引用・参考文献

- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』2004年版 日本色研事業株式会社
- 長見義三 1976 『ちとせ地名散歩』北海道新聞社
- 北海道教育委員会 1977 『美沢川流域の遺跡群1』
- 北海道火山灰命名委員会 1982 『北海道の火山灰』北海道火山灰命名委員会
- 千歳市史編さん委員会 1983 『増補 千歳市史』千歳市
- 野村崇 1985 『北海道縄文時代終末期の研究』みやま書房
- 千歳市教育委員会 1986 『梅川3遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XII
- 千歳市教育委員会 1991 『祝梅川山田遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XVI
- 日本ペトロロジー学会 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』博友社
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』北埋調報116
- 榎原正文 2002 『データベース・アイヌ語地名3』北海道出版企画センター
- 千歳市教育委員会 2002 『梅川4遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XXVII
- 千歳市教育委員会 2003 『祝梅川遺跡・祝梅川矢島遺跡・梅川4遺跡における考古学的調査』
千歳市文化財調査報告書XXIX
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市 オルイカ1遺跡』北埋調報188
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市 オルイカ2遺跡』北埋調報189
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2007 『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』北埋調報238
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市 梅川4遺跡(1)』北埋調報253
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 『むかわ町 穂別D遺跡』北埋調報259
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2009 『千歳市 梅川4遺跡(2)』北埋調報269

報告書抄録

ふりがな	ちとせし しゅくばいがわおのいせき(1)・うめかわいせき(1)							
書名	千歳市 祝梅川小野遺跡(1)・梅川1遺跡(1)							
副書名	道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	なし							
シリーズ名	財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第285集							
編著者名	鈴木信・菊池悠人・影浦寛・芝田直人・阿部明義・山中文雄・酒井秀治							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野橋685-1 TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行年月日	平成24(西暦2012)年3月26日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
祝梅川小野遺跡	千歳市祝梅 485-2 ほか	01224	A-03-48	M20杭		20070507 ~20071031	7,630㎡	道路敷設に伴う記録保存
				42度49分 57.75689秒	141度41分 27.39113秒	20080507 ~20081031		
梅川1遺跡	千歳市祝梅 498-3	A-03-56	S72杭		20080507 ~20081031	893㎡		
			42度50分 05.77447秒	141度41分 31.15295秒				
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
祝梅川小野遺跡	遺物 包含地	旧石器時代 縄文時代 前期・中期 後期・晩期		住居跡17軒、土坑72基、 Tピット21基、小ピット39基、 焼土15か所、剥片集中1か所、 集石6基		土器 土製品 (再生土製円盤・盤状粘土塊) 石器等 石製品 (オロンガネ状石製品・ 棍棒形石器・玉類など)		
梅川1遺跡	遺物 包含地	縄文時代 晩期中葉		焼土9か所		土器 石器等		
要約		<p>平成19・20年度の2か年の調査報告である。今報告書はIV層以下の報告となる。両遺跡は、千歳市街地から東へ約3km、千歳川の支流である梅川の左岸、標高7~15mに立地する。</p> <p>祝梅川小野遺跡からは、主に縄文時代前期~晩期の遺構・遺物が検出されている。遺構は、住居跡17軒、土坑72基などが確認された。遺物は、土器73,294点、石器等110,227点の合計183,521点が出土している。土製品では再生土製円盤・盤状粘土塊、石製品ではオロンガネ状石製品や棍棒形石器などが出土している。</p> <p>梅川1遺跡からは、主に縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が検出されている。遺構は、焼土9か所が確認された。遺物は、土器2,154点、石器等4,237点の合計6,391点が出土している。</p>						

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登録番号、経緯度は世界測地系による。

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第285集

千歳市 祝梅川小野遺跡(1)・梅川1遺跡(1)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成24(2012)年3月26日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[E-mail] mail@domaibun.or.jp
[URL] http://www.domaibun.or.jp

印刷 柏楊印刷株式会社
〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号
TEL (011)789-2377 FAX (011)789-2376
[E-mail] info@hakuyo-print.jp
[URL] http://hakuyo-print.jp/
